やまなみ

第２号



岳人あびこ

やまなみ

第 2 号



我孫子　：　手賀沼

「やまなみ」 第2号 目 次

『やまなみ』第2号に寄せる想い　　大串 秀雄

平成11年（1999年）

NO.	山　　名	山　域	期　日	執 筆 者	ページ
83	鐘撞堂山(新年山行)	奥武蔵	1月10日	高橋 寿江	2
84	南大菩薩小金沢連峰	奥秩父	1月15-16日	北川 勝彦	4
85	高山	日光	1月24日	松村 雅子	6
86	房総ロングハイキング	房総	1月30-31日	柴田 節子	8
87	大岱山	甲州	2月7日	大串 恵子	9
88	日和田山～物見山	奥武蔵	2月14日	日下 芳十	11
89	官ノ倉山	奥武蔵	2月21日	中村美智子	12
90	難台山～吾国山(卒業山行)	茨城	3月7日	吉岡てる子	13
91	鍋割山	丹沢	3月20日	増田喜久子	14
92	八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	3月20-21日	大串 秀雄	16
93	高水三山	奥多摩	3月28日	高橋 英雄	19
94	茶臼岳	栃木	4月10-11日	小黒 和枝	20
95	大鹿山(新人歓迎山行)	中央沿線	4月18日	大畠清江、原 妙子	22
96	笹子雁ヶ腹摺山(歓迎山行)	中央沿線	4月18日	斎藤 清一	24
97	天城連山	伊豆	4月24-25日	高橋 芳恵	26
98	ハマイバ丸(山菜取り山行)	丹波	4月29日	榊原 文子	28
99	朝日連峰(ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｨｰｸ合宿)	東北	5月1-4日	川下 敬史	29
100	川乗山	奥多摩	5月2日	山西 澄子	39
101	大峰山～大台ケ原山	台高山脈	5月1-3日	細野 省二	40
102	久慈男体山	奥久慈	5月9日	大桃 和子	43
103	丹沢三ッ峰	丹沢	5月15-16日	飯合しげ子	45
104	鳴虫山	日光	5月22日	中村美智子	46
105	岩山(リーダー研修)	新鹿沼	5月30日	安田みづほ	47
106	両神山(公開登山)	奥秩父	6月5-6日	(まとめ)会報部	49
107	高畑山、倉岳山(新人研修)	中央沿線	6月13日	飯沼トミ子	55
108	本社ヶ丸、鶴ヶ鳥屋山(研修)	中央沿線	6月13日	由布 仁子	56
109	湯の丸山、四阿山	上州	6月19-20日	佐藤きみよ	58
110	会津駒ヶ岳	会津	6月26-27日	原田 和昭	60
111	夜叉神峠・高谷山	南アルプス	7月4日	庄司 洋子	62
112	朝日岳・白毛門	谷川連峰	7月24-25日	飯高 基晴	63
113	庚申山、皇海山	両毛国境	7月24-25日	武内 勇二	64
114	火打山、妙高山	頚城	7月31日-8月1日	長木加代子	66
115	烏帽子岳～穂高岳縦走	北アルプス	8月6-12日	細野 清子	68
116	蕎麦粒山	奥多摩	8月8日	清家三保子	70
117	剱岳、立山縦走	北アルプス	8月12-14日	日下芳十、斎藤清一、大串恵子	72
118	白峰三山	南アルプス	8月20-22日	武内 勇二	77
119	燕岳～槍ヶ岳	北アルプス	8月26-29日	中村 隆泰	80
120	葛葉川本谷	丹沢	9月5日	中村美智子	84

「やまなみ」 第2号 目 次

NO.	山　　名	山　域	期　日	執 筆 者	ページ
121	荒川三山・赤石岳	南アルプス	9月12-15日	斎藤　清一	86
122	茅ヶ岳	中央沿線	9月19日	蜂谷由美子	91
123	金時山～明神ヶ岳	箱根	9月26日	原田　君子	93
124	白神岳・藤里駒ヶ岳	東北	10月9-11日	外崎　蓮	101
125	鳳凰三山	南アルプス	10月16-17日	柴田　節子	105
126	秋山郷～鳥甲山	上越	10月23-24日	細野　省二	107
127	筑波山(ふれあいハイク)	常磐	10月24日	(まとめ)斎藤清一	110
128	杓子山、鹿留山	富士	11月3日	松本　豊	113
129	丹沢主脈縦走(新人研修)	丹沢	11月13-14日	原田　和昭	115
130	武甲山	奥武蔵	11月21日	品田千恵子	118
131	乾徳山	奥秩父	11月23日	松村　雅子	120
132	秩父御岳山	奥武蔵	11月28日	安田みづほ	121
133	百蔵山(忘年山行)	中央沿線	12月5日	高橋　正	122
134	本仁田山	奥多摩	12月12日	日下　芳十	125
135	上州三峰山	西上州	12月19日	安田みづほ	126
136	甲武信岳～金峰山(クリスマス山行)	奥秩父	12月23-25日	柴　　勇	128
	平成12年 (2000年)				
137	水の塔山、黒斑山	上信国境	1月8-9日	村松　敏彦	130
138	安達太良山	福島	1月15-16日	大串　秀雄	131
139	小楢山	奥秩父	1月16日	渡辺　冨美	134
140	大洞山～大沢山	中央沿線	1月23日	中村八重子	135
141	房総ロングハイク	房総	1月29-30日	(まとめ)斎藤清一	137
142	幕山	湯河原	2月6日	原田　君子	140
143	晃石山(テルイシ)	東武日光沿線	2月11日	山本紫津子	141
144	七里川～元清澄山	房総	2月19-20日	柴　　勇	142
	自然保護			細野　省二	94
	詩　故郷の水へのメッセージ			詩人　大岡　信	95
	谷津		10月3日	会報部	96
	岳人祭	五本松公園	7月10-11日	実行委員会	97
	講演会「ブナの山旅」	坪田和人氏	10月2日	会報部	100
	海外トレッキング	ネパール	12月28日～1月5日	外崎　蓮、細野清子	144
	県連登山学校		5～12月	安田みづほ	145
	歴代会長紹介			編集部(細野省二)	148
	資　　料	山行一覧表		編集部(中村隆泰)	150
		山行統計		編集部(中村隆泰)	154
		活動の記録		編集部(中村隆泰)	156
		月刊会報誌「やまたん」内容		編集部(中村隆泰)	159
	編集後記			細野　省二	

表紙の作者：竹原政行氏　柏市在住の水彩画家

『やまなみ』２号に寄せる想い



２０００年１１月～２００１年（平成１３年２月）

岳人　あびこ　会長　　大串　秀雄

『やまなみ』誌は、私たち会員自身のために、私たちの目線で綴った思い出の記。その山その時の感動がそのまま伝わってくる。いわば身内の山行記である。自分自身が参加していない山行でさえも，歓喜に沸く登頂の瞬間や、急登で汗びっしょりの仲間の顔が、自然に瞼に浮かんでくる。まるで声まで聞えてくるかのような錯覚を覚えるのは、私一人だけだろうか。

たぶん、外部の人達が読んでも何の感動もない，当事者以外には本当の事がわからない内容が多く収録されているだろう。しかし，広く一般の読者を対象とした、いわゆる旅行記や山行記録では絶対に味わう事のできない、本物の感動が随所にちりばめられている。

何故、山に行くのか、そこに山があるからと言った人がいた。自然とのふれあい、山仲間との語らい、健康やﾀﾞｲｴｯﾄ…その山によって山行の目的は異なる。私は、これらのほかに、「思い出を作るため」を全山行共通の目的としている。

『やまなみ』は私自身の思い出がいつぱいに詰まっている貴重な財産。文集の形で発刊されるので大切に保管し、末永く愛読したいと思う。まだまだ早いかも知れないが、いずれ冥土の土産話に持って行きたいとも思っている。

いよいよ『やまなみ』第2号が発刊される。創刊号の感激がふたたび味わえる。早く味わいたい。早く味わせてほしい。

会員一人一人のご協力で全山行の記録が収録でき、心から喜びを感じる。
素晴らしい編集にご傾注いただいた、ご担当の方々には心から感謝申し上げたい。



平 成 11 年 1 月 ～ 平 成 11 年 2 月

<８３>

“新年山行”

鐘撞堂山

（330m）

高橋　寿江

初春の羅漢様とかんぽの湯、鍋を囲んだ、ひだまり山行

去年、大雪の為中止になった鐘撞堂山への新年山行は、暖かでおだやかな天候に恵まれ、まずは八坂神社にお参りし、こざっぱりと剪定された庭木の静かな住宅地をぬけ、溜池の大正池までのんびりと歩く。春の到来まで、息をひそめる静かな木々と、足もとでカサコソとにぎやかだった落葉も、しっとりとやさしく靴底をつつむ中を、ゆっくり登る。

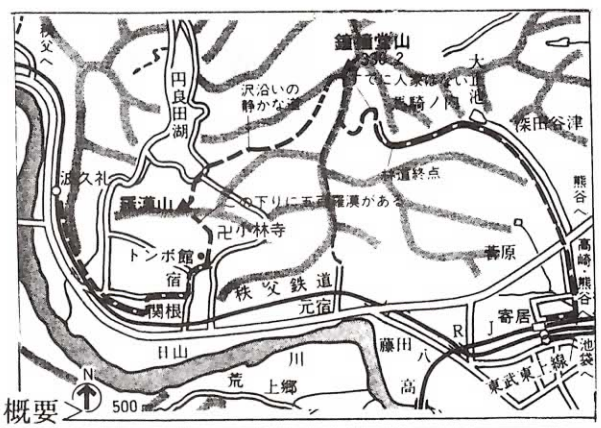
途中ヤブこぎの体験も楽しかった。枝葉の助けをかりて、足もとを定めて一歩一歩登る。短時間だったがよい勉強になった。鐘撞堂山には、わずかな急登で山頂だ。東屋で「ほうとう」「きりたんぽ」「五色餅」で新年会。温かい鍋で身体が暖まり、お餅で力がつく頃になると、山頂は登山者でにぎやかになった。

日光、上越、寄居の市街地、をぐるりと見渡せる展望と、にぎやかなひとときを過ごした山頂をあとに羅漢山をめざす。しのが切り倒され槍のようにとがったやぶ道、足もとや頭上の、倒木やつるを、またいだり、くぐったりと悪路の下りがしばらく続くが、緊張感があり大変の中にも、なかなか面白く朝のヤブこぎが思い出された。

まもなく、沢ぞいから道も良くなり、円良田湖に出た。桜の老木と、ボートに乗った釣り人が静かな湖上で身動きひとつせず、湖面と一体になり、じっと釣り糸をたれている。急登の階段をわずかに登り、羅漢山から、少林寺の境内まで、羅漢様の一体一体のユーモラスな姿や、考え込む姿、おだやかな顔、悩む顔等々、私達に何かを語りかけている様子を右に左に見ながら、静かな少林寺の境内をぬけて、春を待ちわびる日だまりの梅の花一輪咲く梅林の中を「かんぽの湯」に向った。広いかんぽの展望風呂につかり、手足をのばした壮快感、シアワセを感じる一瞬だ。帰りの車中では皆の合作の「俳句」遊びで新年にふさわしい「歌会」で締めくくられた。

｛特選俳句集｝

＊　ごまあんこ　かんぽのお湯で　ダイエット
＊　初春の　ラーメン食べて　山の上
＊　冬の朝　カタクリの花　幸あれと
＊　ハイキング　笑顔で手をふる　梅の花
＊　初笑い　おにぎり食べて　春の日に
＊　雪景色　ネコと一緒に　鼻ちょうちん
＊　羅漢様　オムツかわかし　おさわがせ



＜概要＞

山名	鐘撞堂山	山行形式	日帰り
期日	平成11年 1月 9日(土) 快晴		
山域	北武蔵山稜	地図	奥武蔵・秩父
目的	新年を頂上で、鍋を囲み健康を喜び合う	交通機関	JR線 東武東上線
歩行時間	3時間30分	費用	3、000円
日程コース	9日	我孫子6:09～池袋7:10 ～寄居8:26/50～ 大正池9:30～鐘撞堂山10:15/11:50～ 円良田湖12:35～羅漢山入口12:45～五百羅漢 12:55～少林寺13:30/13:35～かんぽの湯 14:10/15:30～波久礼駅15:45/15:52～ 池袋17:14	

新年句会　山行



初笑い　おにぎり食べて　春の日に
ごまあんこ　かんぽのお湯で　ダイエット



ハイキング　笑顔で手を振る　梅の花
羅漢様　オムツかわかし　お騒がせ

〈８４〉

大菩薩嶺

（2056m）

北川勝久

素晴らしい眺め！
冠雪の富士山

１日目

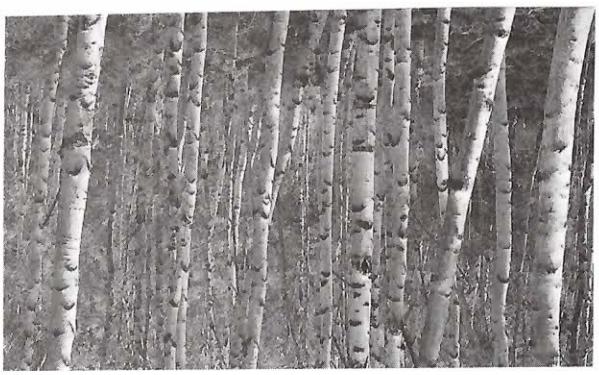
4:53我孫子発の常磐線に乗り、中央線と乗り継いで塩山へ。塩山からタクシーで登山口へ。軽い準備運動を各自して登山を開始。登山口からは、雪がなく、ほこりが舞う道を歩いて行く。穏やかな傾斜を登って行くと、所々、アイスバーンが有り、各自慎重に通過して行く。空は次第に悪くなって来て、細かい雪が舞い始める。森林の中を歩き続け（途中、休憩有り）ようやく、丸川峠、丸川荘に到着。ここで昼食をとる。各自持参の食事プラス小黒さんのケーキを頂く。絶品。まさかこんな山の中でケーケが食べられるとは！丸川荘ではコーヒー（モカ）をいれてもらい、各自のカップでひき立てのコーヒーを飲む。味が際立ってうまく感じられ大変Ｇｏｏｄ！（持参のカップだと５０円引きなのである。）昼食を終えて、大菩薩峠へ向けて出発。小屋の前で写真をパチリ。樹林帯の中を引き続き歩いて行く。それほど厳しい登りではなく、適度な感じで心地よい。が、雪が舞い続けているので登山道にも少しづつでは有るが雪が積もって来ている。そうこうしてるうちに介山荘が見えて来た。途中、大菩薩嶺で写真をパチリ。そこでは小鳥がよって来て、エサを待っている状態。エサを手のひらにのせると手元からエサを取っていく。大分、人に馴れている小鳥たちである。そして介山荘に到着。一休みしてから、男性陣による夕食（豚汁）を準備し始める。柴さん持参による肉、野菜、みそ等を沸かした湯にぶち込み、味付けをして終了。これが大変うまく、味付けもＧｏｏｄであり、女性陣が持ち寄ったおかずと酒で晩ごはん。大変おいしいのであった。酒と食事で満足していたころに、宿からの差し入れで宿泊者には甲州ワインか地酒のふる舞いである。介山荘のサービスもなかなか良い。宿では既に布団の準備をしてくれており、後は寝るだけ。山談義の後で9:00には、布団に入って消灯となる。

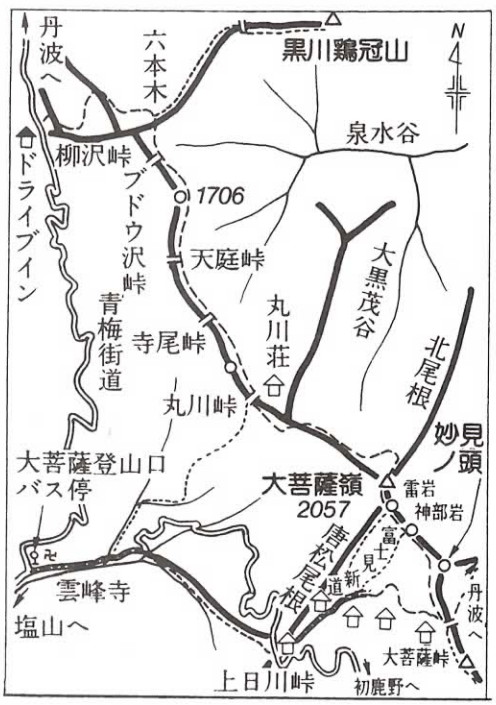
２日目

4:30起床。女性陣はすでに食事の準備を始めており、男性陣は食事を待つ。もち入りの汁であり、今日もパワー全開で行けそうである。朝ごはんをおいしく頂き、後片付け、登山の支度をして6:00すぎに出発。まだ日は昇っていないが南アルプスが雪化粧をし姿ではっきりと見える。風は強いが素晴らしい天気になりそうである。出発前に写真をパチリと撮って登山開始。まだ体が馴れていない登りを続けて行くと、展望の開けた所に出る。ここで富士山を見るとやはりでかい。素晴らしい形であり天気も最高。富士山の大きさは別格であると感じる。休憩を取りながら、相変わらず樹林帯の中を歩いて行く。風は大分強いが昼ごろにはおさまり快適に昼食をとる。天気も最高。富士山も最高。いよいよ下山である。ぐんぐんと登山道を下っていって林道に出る。林道からは１時間程歩いて、温泉に到着。ゆっくりと温泉につかって、最高の気分である。風呂から上がって、サッパリとしたところでタクシーに迎えに来てもらい甲斐大和駅まで。駅前の食堂で反省会？ビールとソバ！いい気持ちになったところで、電車に乗り込み帰路に着く。今回の登山は他の登山者

とほとんど出会うこともなく静かな山を味わえるものであった。また皆さんと共にする食事、酒が大変おいしく、素晴らしい山行であった。どうもありがとうございました。

山名	大菩薩嶺	山行形式	山小屋泊まり
期日	平成１１年1月１５(土)～１６(日)		
山域	奥秩父	地図	大菩薩峠、笹子
目的	雪山縦走、南アルプスの展望		
交通機関	ＪＲ，タクシー		
日程コース	1/15	我孫子4:53~新松戸5:15~立川6:43~塩山8:13(タクシー)8:25~柳沢峠8:55…六本木9:50…天庭峠10:30…寺尾峠10:52…丸川峠11:15/12:15（昼食）…大菩薩嶺14:00…雷岩14:20 …大菩薩峠14:50…介山荘14:55	
	1/16	介山荘6:30…石丸峠6:15…小金沢山8:40…奥牛の雁ガ腹摺山9:40… 黒岳10:55（昼食）…湯ノ沢峠12:55…６本杉13:00…やまとふれあいやすらぎセンター14:00~甲斐大和駅16:36~我孫子駅19:35	





NO. ８５

高　山

（1667.5m）

松村雅子

０度の世界 - - 来て良かった

東武日光駅から８時３０分の湯元行きのバスに乗る。何度となく来た日光だが、冬のいろは坂、中禅寺湖は初めてだ。日曜日だというのに、ひっそりと静まり返っている。竜頭の滝上で降り、衣類の調整、ロングスッパツの装着、準備体操をして、いざ出発。朝から曇り空で太陽は望めないが風がないのが幸いである。程無くして、雪の中、新人５名は、リーダーの方々の細やかな指導の下、アイゼンの付け方、フラットな歩行、ストック２点確保を教わり、その場で練習した後、いよいよ雪山へ。初めて付ける６本爪アイゼンとストック使いに慣れないせいか、足元ばかりに気を取られておぼつかない歩き方だ。周りの景色もあまり目に入らない。それでも歩くうちに目の前にカラマツやモミの樹林帯が広がってきた。葉っぱがすっかり落ちて、小枝の輪郭までがはっきり見える木立、その間から小雪がクルクルとまるで舞っているかのように降っている。なんて静かな光景だろう。シャクナゲの茂る尾根を過ぎると、あちこちに鹿の糞が落ちている。こんな冬の中、何を食べているのだろうか。そんなことを考えながら歩いていると、中禅寺湖が足下に姿を表した。上から眺める湖は、曇り空もあってか、寒々としていて凍てついて見える。最後の登りに、雪はますます深くなり積雪は３０ｃｍ以上もあるかと思われる中、斜面につま先をおもいっきり蹴り込み、一歩ずつ進む。雪と格闘しながら、遂に１２時に高山到着。頂上の展望はよくないが、広々としている。喜びもつかの間、ものすごい寒さに襲われる。リーダーの急いで服を着ろという声に急いで着込む。それでもまだ寒い。温かい豚汁のご馳走も手がかじかんで思うように箸が使えない。１３時で気温０℃の世界、初めての体験だ。

下りは踵を踏み込んで、雪面にステップを切りながら進む。左側は深い急斜面でトレースを踏み外して落ちれば一気に谷底へ吸い込まれそうで緊張が走る。無名峠を過ぎて平坦な道になるころには、ホッとして足元も軽くなる。周りは一面の白銀の世界。白樺の原生林が続く中、目の前の景色に感動しきり、ああ、きてよかった。

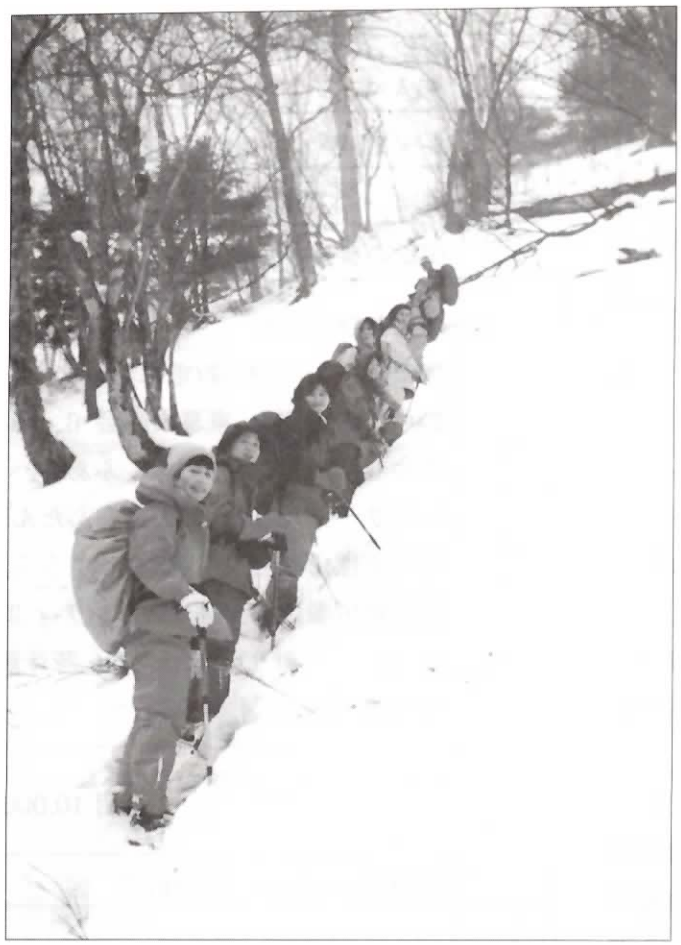
男体山を前方に望み、柳沢林道を経て、赤沼茶屋でゴールとなった。日光にくればやはり温泉ということで、中禅寺温泉で一風呂浴びて心も体もぽっかぽっか。みんなで食事をしながら反省会をして、帰路についた。

私たち新人５名にとって、忘れられない雪山訓練となりました。ご指導いただいたリーダーの方々に深く感謝いたします。

山名	高山(A)	山行形式	日帰り
期日	平成11年1月24日(日)　曇り		
山域	奥日光	地図	男体山
目的	三期生の雪山訓練	交通機関	東武日光線
日程コース	我孫子－北千住－(東武日光線快速)－ 5:30　6:31 東武日光駅＝(バス)＝竜頭の滝上…高山… 8:30　9:20/9:40　12:00/13:25 無名の峠…柳沢林道…赤沼茶屋＝(バス)＝ 14:40　15:34 中禅寺温泉＝(バス)＝東武日光駅－ 17:40　18:40 北千住－我孫子着 20:52　21:13		

雪山訓練（日光）

三期生がんばる





やっと急登を抜けた

笑顔がもどる



＜８６＞

第 15 回

県連　房総ロングハイキング

柴　田　節　子

房総の豊かな自然の中へ

歩いた歩いた 9 時間 30 分！

1 月末にしては暖かく穏やかな日和になり、総勢 114 名(子供を含む)が 9 班編成で歩く。前夜オリエンテーションがあり、県連の役員さんの活躍振りを感謝するとともに、その存在を身近かに感じた。

距離約２１km 中、車道、林道(と言っても殆んどｱｽﾌｧﾙﾄ)が多い。４山あり。初めの山は高鶴山(いきなりの急登)。夏みかんが実り、白梅２本は満開、やっぱり暖かなのかなあ。アオキが密生しており薄暗く、ヤブ漕ぎ、倒木ありでアスレチック風、高くはないけれどすごく楽しく歩けた。

第２の山、愛宕山は山頂近くを巻きながら通過。第３の山、伊予ヶ岳は山頂が岩場で切り立ち、鉄柵はあるが真下をわざと覗けば足がすくむほどだった(鎖が３ヶ所、足場は非常に良くなかった)。

最後の山、富山までの間に水仙がいっぱい。沿道には紅梅が一輪・二輪。富山への傾斜のあるアスファルト林道、きつかったなあ。けれど「里見八犬伝」の舞台としても有名かつ双耳峰を持ち、立派な展望台からは 360° の眺めだった。登山口にあるクスノキもすごい。

昼食に 30 分を要した他は歩いた歩いた 9 時間 30 分！　他の山岳会の人々とふれ合った一日だった。再会を約束して……

山名	房総ロングハイク(A+)		山行形式	ログハウス前泊
期日	平成 11 年 1 月 30 日～31 日(日)　晴			
山域	房総	地形図		
目的	房総の豊かな自然の中へ			
参加者	岳人あびこ２名 柴田(バス)、中村隆(電車) 松戸山の会 28、東葛山の会 6、ちば山の会 6、こまくさ HC３、ふあくハイキングサークル 12、山の会らんたん 14、茂原道標山の会 16、山を歩こう会 2、船橋勤労者山の会 4、シャンティ 3、一般 18、　計 114 人（含む、豚汁調理、救護班）			
歩行時間	10 時間(昼食、休憩を含む)		費用 10,000 円	
	距離約２１km、45,000 歩			
日程コース 1日目	松戸 12:00 集合－鎌ヶ谷－幕張本郷－千葉市役所－市原－内浦県民の森 19:00 着夕食、開会/オリエンテーション、ログハウス泊(11 棟各６名＋α)			
日程コース 2日目	集合 6:15/6:30-バス内で朝食-上神社 7:00 発…**高鶴山** 8:05…西 8:40/9:15…**愛宕山** 11:00…嶺岡苑 11:15/12:05(昼食)…白石峠 12:55…天神社 13:40…**伊予ヶ岳** 14:30…吉井 15:25…**富山** 16:30…富山中学 17:10 着/18:00－千葉-鎌ヶ谷-松戸			



<87>

大 笹(ヌタ) 山

（1180m）

大串恵子



イノシシ狩りの山



大月からタクシーに乗り、岩殿山と百蔵山の間を抜け、登山口の薬師堂へ。

リーダーから、登山道がはっきりしないところもあるので地図をよく見ること、などのお話の後、出発しました。

登り始めて間もなくすると直ぐ急登が待っていました。急坂の中途には古い小屋があり、中を覗くと何頭かのイノシシが入っていました。なぜこんな山中でイノシシが飼われているのか不思議でしたが、後で直ぐにわかりました。ここはイノシシ狩りの山でした。イノシシ小屋の近くで、５～６匹のサルが私たちを出迎えてくれました。

雑木林の中、足元はカサカサと落ち葉の音。急坂の所では落ち葉で足がとられそうになる感じでした。

今日は登山日和の穏やかなお天気で、木々の間からはきれいな青空、そして、落葉した小枝の間には奥秩父の山々が望め、冬ならではの山景色でした。アイゼンを持ってきたものの、雪は斜面の一部に僅かに残っているだけ。アイゼンはまったく必要ありませんでした。

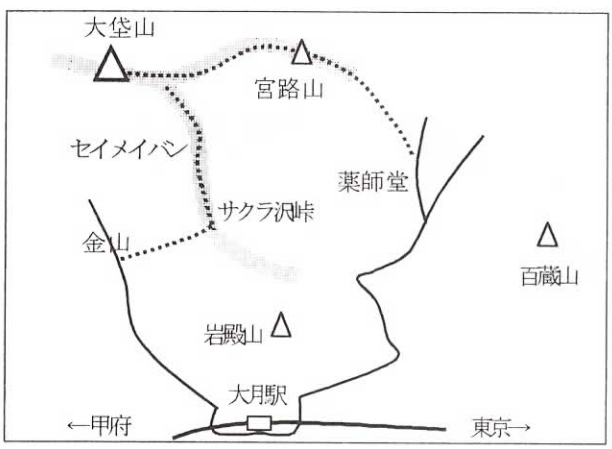
宮路山～棚沢の頭の間で何回か、イノシシ狩りのハンターに出会いました。話によると、今５～６頭の狩猟犬がイノシシを追いつめているとのこと。時折、遠くからパーンという爆音が聞こえてきました。しばらく行くと、道端に、ハンターが射止めた大きなイノシシがロープに結わかれて倒れていました。



ところで、ハンターがいる山には目立つ色の服を着ていた方が安心とか。ちなみに私自身は赤色の服でしたが…。

メンバーの１人（誰かしら？？）は、なんと毛足の長いイノシシ色の帽子を被っているではありませんか。…クワバラクワバラ…。

登山口から大笹山山頂までは、はっきりしないところあり、急坂あり、藪こぎありで、いつもとは違う登山道でした。

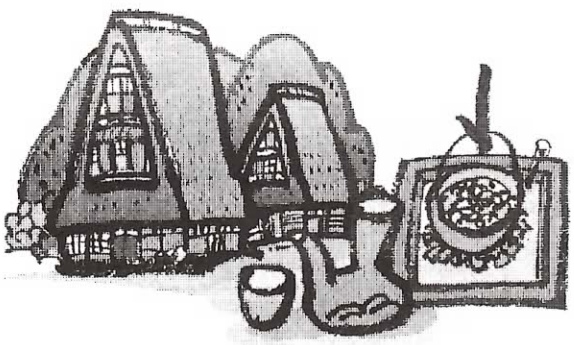


山名	大笹山		山行形式	日帰り	
月日	平成１１年２月７日（日）				
山域	奥秩父	地図	大月	交通機関	中央本線
目的	浅雪を踏んでひだまりの尾根を歩く				
日程コース	大月駅 8:30→(タクシー)→薬師堂 8:45→ 宮路山 10:40/10:55→展望峰(昼食) 11:30/12:15 →大笹山 12:35→セイメイバン 13:20→ サクラ沢峠 14:10→金山 14:25→西奥山公民館 15:00→(タクシー)→大月駅				
状況	１．薬師堂～大笹山間の登山道は、一部、不明確の箇所あり。暖冬のためか雪はなし。 イノシシ狩りの季節には、服装の色に注意（赤色が好ましい…と）。				

地元の人しか通らないのか、標識などはまったくなし。また、あちらこちらバラのトゲでチクチク…、ツーンと長く伸びている細木にはボツボツとしたトゲがいっぱい。これはタラの芽でしたが、残念ながら２月の上旬ではまだどの木にも芽は出ていませんでした。

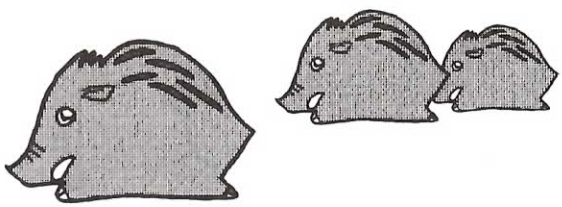


そろそろお腹もすき、一寸した広場の展望峰で昼食。特別参加の武内さんが、持参のコンロでおいしいお汁粉をみんなにご馳走してくれました。
食事後、しばらく登ると大垈山の山頂に着きました。
山頂は静かな落葉樹林の中にありました。見晴しは今一歩でしたが、木々の間には、冬の日差しに輝く奥秩父の山々が一面に広がっていました。
大垈山山頂からの下りは標識もあり、登山道もはっきりとしてきました。



下り途中のセイメイバンの頂上から、待望の富士山が大きく見え始めました。真冬にもかかわらず暖かかったせいで、少し春霞がかかっているようでした。
サクラ沢峠からは、時間的に岩殿山への縦走をあきらめて、尾根道を右へ下ることになりました。そこからは意外に早く下山口の金山温泉に到着。
一風呂ということで、温泉宿を数軒あたりましたが、どこも休業中。いずれも、宿のご主人が、明日から禁猟となるイノシシハンティングに出掛けているため、お留守とのことでした。
今までの山行は、しっかりと登山道の有る山でしたが、今回は落ち着いた地味な山で、薮こぎもあり、またイノシシ狩りのおまけ付など、いつもと違う山行でした。冬の低山の楽しさを十分に味わうことができました。ベテランリーダーでなければ知らない山、地図やガイドブックでもはっきりしない山を教えていただきました。本当にありがとうございました。





＜８８＞

日和田山。物見山

（３０５ｍ）　（３７５ｍ）

日下　芳十

「高麗ノ郷」背後の鎌北湖を目指して

今日は快晴。でも高麗川駅を下り立つたが非常に寒い朝だ。日和田山登山口までは高句麗からの渡来人がまとまつて移住した高麗ノ郷である。高麗神社で各自神様に安全祈願をする。境内には二本の奨軍標が立つ、それぞれ天下大将軍、地下女奨軍と刻まれ、上部には極色彩に塗られた恐ろしい形相の顔が彫刻されている、これは古代朝鮮からこの地に移り住んだ高麗人が悪魔退治、災危防除、家内安全の守護神として信仰していたとのことである。続いて聖天院でも安全登山を再度祈願する。春になれば桜が特に美しい所とか。

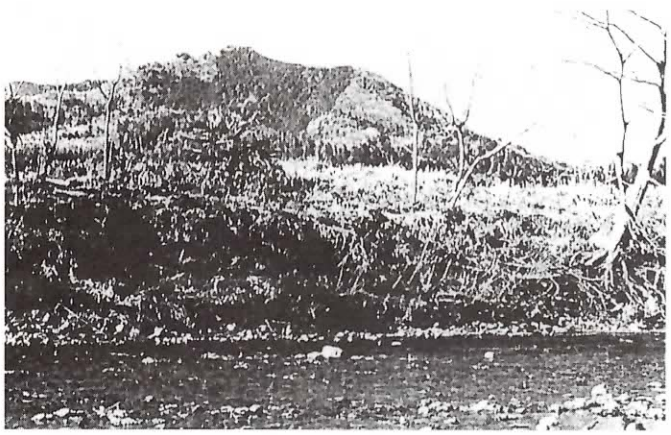
登り始めると、滑りややすくて歩きにくい。スリップしないようしばらく注意深く歩いていくと、金刀比羅神社すぎるとガレた箇所もあるが、足ががりが安定し登りやすくなりジグザグの登行で効率よく高度を稼ぐ。

日和田山山頂には宝篋印塔が立つ小広場に到着、天気が良いので展望がよく都心のビル、富士山等がはっきりと見え、眼下には巾着田が広がって見え低山ながら眺望はすばらしかった。

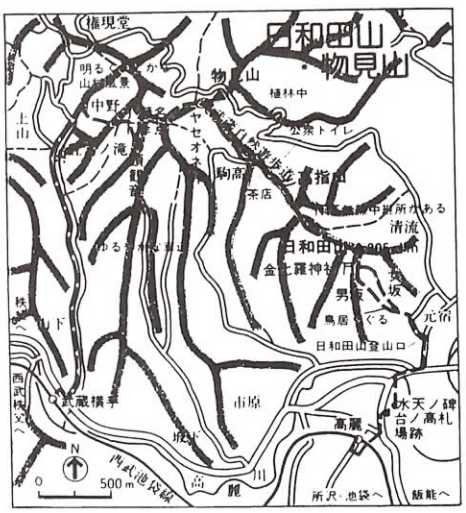
物見山、北向地蔵から鎌北湖にと足を延ばした。湖畔のユースホステルで一湯浴びながら、さしたる急登もなくのんびり歩けた。また、のどかな山上集落、歴史を伝える旧跡など風物があり、低いながらすばらしい展望や自然も楽しめた一日であつた。

＜概要＞

山名	日和田山、物見山	山行形式	日帰
期日	平成１１年　２月１４日　晴天		
山域	奥武蔵	地図	川越、飯能、原市場
目的	日だまりのんびりハイク		
歩行時間　４時３０分		費用	２、６００
コース	我孫子――高麗川７：５０――日和田山９：４０――物見山１０：４０―鎌北湖１２：１０―毛呂駅１４：５２		



巾着田から見た日和田山



＜８９＞

官ノ倉山

（３４４m）

中 村 美 智 子

のんびりワンデイハイク

竹沢駅からの静かな里道には、３日前に降った雪が日陰に少し残っていて、くぼ地には水溜りが出来ていた。竹沢という名のごとく、竹林がいたるところにあり、強い風が竹をゆらし音をかなでていた。

天王沼は小さな灌漑用水池だが、ほとりにはあずま屋があり桜の老木が枝を広げていた。桜の頃にはさぞ見事だろうと思った。

官ノ倉山頂は狭く、残念ながら木立に囲まれて展望もないが、尾根を１０分ほど進んだ石尊山は石の小祠がまつられた小広場で、低山ながら眺めも良く、小川町や関東平野の 360 度のパノラマを楽しんだ。お昼はゆっくりで、温かい甘酒がおいしかった。

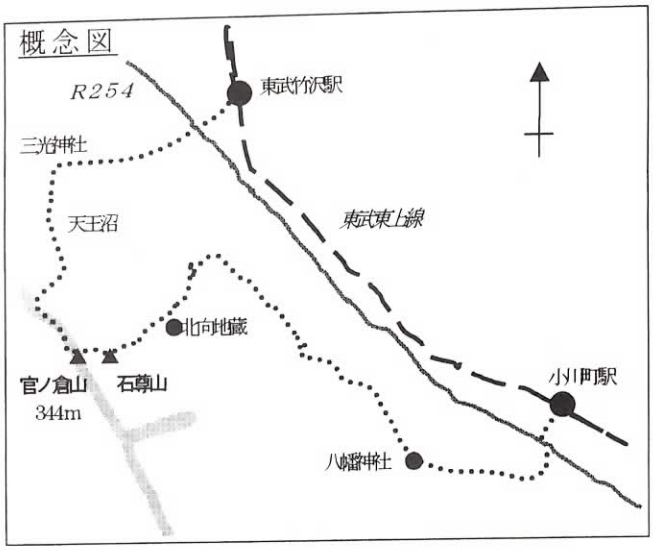
石尊山からの下りでは露岩の斜面がちょっとスリルがあった。

長い石段を登って、北向不動に手を合わせ、林道をたんたんと下り里に出る。小川街の古い街並みのお菓子屋さんの横の涌き水がとてもおいしかった。酒蔵もあったのでお酒の試飲をしたい人もいたのでは…と思いながら小川駅に着く。

時間が早かったので、埼玉伝統工芸会館まで足をのばす。いろいろな工芸品があったが、紙すきの実演にはすっかり見とれてしまった。

風が強く寒い日曜日だったが、陽だまりの福寿草が目を楽しませてくれた。２期生だけの楽しいのんびり山行でした。

概念図



概　要

山名	官ノ倉山	山行形式	日帰り
期日	平成 11 年 2 月 21 日（日）　快晴		
山域	外秩父	地形図	安戸、小川
目的	陽だまり山行	費用	約 3,000 円
ﾘｰﾀﾞｰ	日下	参加者数	10 名
コース	東武池袋駅 7:30＝東武竹沢 8:54／9:05～三光神社 9:30～天王沼 9:35／9:40～官ノ倉峠 10:00～官ノ倉山 10:10／10:20～石尊山 10:30／11:30～北向不動 11:55～八幡神社 12:45～小川町駅 13:10～埼玉伝統工芸会館見学 13:30／14:00～小川町駅＝池袋 17:10		



＜９０＞

難台山～吾国山

５５３ｍ　５１８ｍ

吉岡てる子

卒業山行

岩間駅からタクシーで登山口へ。小雨まじりの天気は寒い。登山道に入るとすぐ右側に団子石がある。駒場分岐を過ぎて難台山への登りに入る。獅子ケ鼻から少し入った所の屏風岩で小休止。あんぱんがうまかった！！

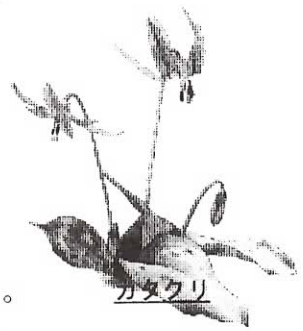
難台山山頂で

記念写真を撮る。難台山を下り切って道祖神峠に着き、洗心館の前を過ぎると吾国山への登りに入る。かなり傾斜が急でしんどかった。両側はサクラの大樹で、４月はきれいだろうな…と思いつつ、４ケ月ぶりの山はきつかった！！



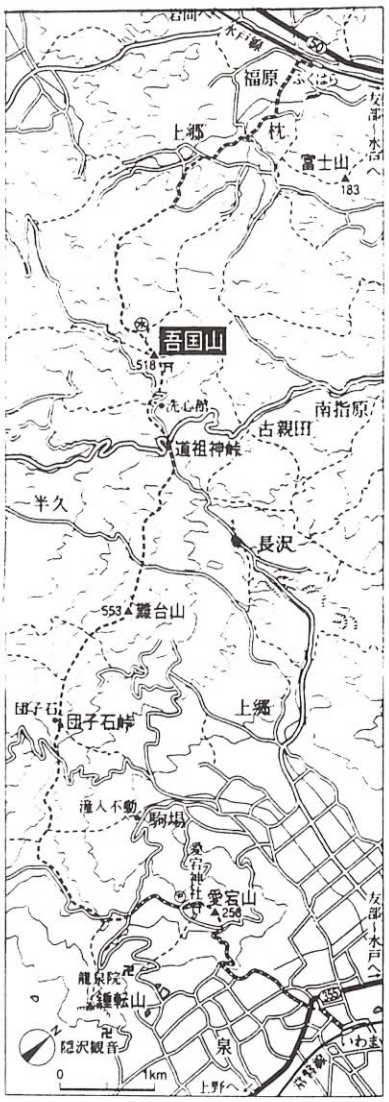
吾国山の山頂での昼食メニューはすき焼き、ぞうすい、お汁粉など・・・。初めての３期生だけの食事の仕たくは楽しく、おいしく、又思ったよりスピーディーに出来た（つもり？？）３期生新人研修担当の外崎さん、２期生の原田さんはハラハラしてたかも？

山頂近くはカタクリの群生地、花はまだでしたが、満開の頃又来たいですね。



カタクリ

福原への下りは水田のあぜ道に春がチラホラ・・・。のどかな集落を通って帰路へ。新人卒業山行終了・・・。



山　名	難台山～吾国山（A）	形式	日帰り
期　日	平成１１年３月７日(日)		
山　域	岩間	地形図	加波山
目　的	３期生新人卒業山行	費用	２千
参加者	１３人	交通機関	電車
日程コース	我孫子駅 5:41—岩間駅 6:39/6:55～団子石峠 7:15/7:20～難台山 8:15～道祖神峠 9:00～吾国山 9:45/11:20～福原駅 12:40/13:20—友部駅 13:39/13:44—我孫子 14:58 ＜歩行時間：約４時間＞		

《９１》

丹沢　鍋　割　山

（１２７３ｍ）

増田　喜久子

大倉の登山口でタクシーを降りる。小雨。みんなでしっかりと雨支度。今回は私は傘をさして登ってみることにする。

リーダーの三浦会長を先頭に出発。養豚場の豚ちゃんたちの強烈な臭いと鳴き声に送られて林道を歩き始める。杉林の切れ間に木藤やまんさくの花がゆれ、足もとには、すみれが咲いている。雑木も枝先の芽をやわらかく開き始めている。春を喜びながら、まずは順調なすべり出し。しかし、この林道が思いのほか長く、参った参った。ゆるゆるとした登りで、いくつもの谷と岬をめぐって続く。『早く山に登りたいヨー』と呟きつつ１時間半も歩いたところで、３本の流れを渡って、やっと登り口にたどり着く。これがいきなりの急登。５０分ほどで標高８２６ｍの後沢乗越。稜線に出る。晴れていたらさぞかし見晴らしがよかろうもを、いまはただあたり一面乳白色の霧ばかり。足もと左は垂直かと思われるほどの切り立った崖。覗いて見ても霧におおわれていて深さも見えず怖さもほどほど.それにしても、こんな急斜面にもよくぞ木々が育つものと感心しながら歩を進める。

雨がみぞれになる。かなり急な登りが続いているがリーダーがゆっくり安定した調子で歩いて下さるので、だれも息が切れることもなく落ちついて登っていかれる。標高千メートルを超えた高所に淡いピンクのすみれが咲いているのに驚いたり、道端の掘りあとを見て、猪の仕業かナと推測したり、余裕の会話。

やがて、みぞれは雪にかわる。頂上は近いのではないかと期待するが、なにしろ見通しがきかないので予測ができない。登っていく先が明るく見えると、きっと頂上だ！と勇んで行くのだが、たどり着いてみるとそれはちょっとした肩で、まだ先にぼんやり薄墨色の山影が見えている。あれこそ頂上だ、とまた元気を出して進む。何度かそれを繰り返した末に頂上の鍋割山荘に着いたときは、雪はかなり激しく降っていて、山荘のトイレにまで振り込んでいた。オー寒！

山荘のご主人は、気は優しくて力持ち。控え目ながらあたたかく迎えて下さる。名物の鍋焼きうどん、おでん、甘酒は、味よし、盛りよし、リーズナブルでおすすめ。デーンと据えられていたコモかぶりの樽酒もおいしそうだったが、ガマンする。

山荘で昼食をとっている間に雪がどんどん積もっていく。降り頻る雪の中で記念写真を撮る。

下山は安全第一で、予定を変更して往路を戻ることにする。この下りは早かった。一気に二俣の登り口まで下り切ってしまう。高度を下げていくと、雪はやや小降りになり、次第にみぞれになったかに見えたが、思い出したように雪に戻り、林道に出てからも吹雪のように雪が吹き降ろしてくる。すっかり雪に名残りを惜しまれて・・・・・・・

帰りの林道は、どしゃ降りに近い雨の中、往きにも増して長くナガーク思われた。白馬の王子様でも、魔法のジュータンを持った大男でも、ヒミツのアッコちゃんでも、誰でもいいから助けてくれないものか・・・・・・と願いつつひたすら歩くこと１時間半。大倉バス停にたどり着いたときはびしょ濡れ。でも足も気分も元気元気。これで温泉で一浴となれば極楽ゴクラクなのだが、無いので、せめて反省会を充実させることにする。

渋沢駅前の煉瓦亭。洋風居酒屋の看板なのに日本酒の銘酒も揃っている。久保田、出羽桜吟醸と、各自好みにより、また下戸さん向きのメニューも豊富でこもごも反省を深めた。



悪天候にもかかわらず楽しい山行だったというのが参加者全員の感想。きつい登りに無

理せず標準ペースを保ったので、疲労感、焦燥感なしに過ごせたこと、歩きながらの雑談で、リーダーから山の技術や経験談など諸々聞きつつ終始なごやかな雰囲気で山行ができたこと、富士山や南アルプスの眺望は無かったが、草木の芽吹きや水の流れに春の胎動を感じることができたこと、山小屋の良さなどなどがその理由だったと思う。



山名‥‥鍋割山　　山行形式‥‥日帰り
期日‥‥１９９９年３月２０日（土）
山域‥‥丹沢　　地図‥‥大山，秦野
目的‥‥富士及び南アルプスの展望
費用‥‥約３０００円
参加者‥‥Ｌ三浦，柴田，小黒，松村，増田
歩行時間‥‥６時間
コース‥‥我孫子駅5;33＝新宿7;01＝渋沢駅8;25(ﾀｸｼｰ)表丹沢県民の森標識前8;40…後沢乗越11;10…鍋割山･鍋割山荘12;25/13;35…乗越14;20…二俣分岐15;10…大倉バス停16;28/16;38…渋沢駅16;53/17;47発新宿行
ルート状況‥‥タクシー利用の場合、大倉を経由せずに直接二俣へ行くことも出来る。　　林道から登山道へ入るとすぐに水場あり。鍋割山荘用のペットボトルが多数置いてあり余力の有る人は山荘まで担いで登るそうです。



<92>

八ヶ岳（赤岳）

（2899m）

大串 秀雄

雪よ岩よ…赤岳よ

梅雨明け１０日の熱帯夜が続く。初刊された「やまなみ」誌が素晴らしい。読み始めたら止まらない。その山、その時の感動がそのまま伝わってくる。

小生もこれに刺激され、一時書き留めてあったやまなみの原稿に手を入れることにする。早いものであれから４ヶ月、たった４ヶ月前は、まだまだ真っ白な雪の世界だった。



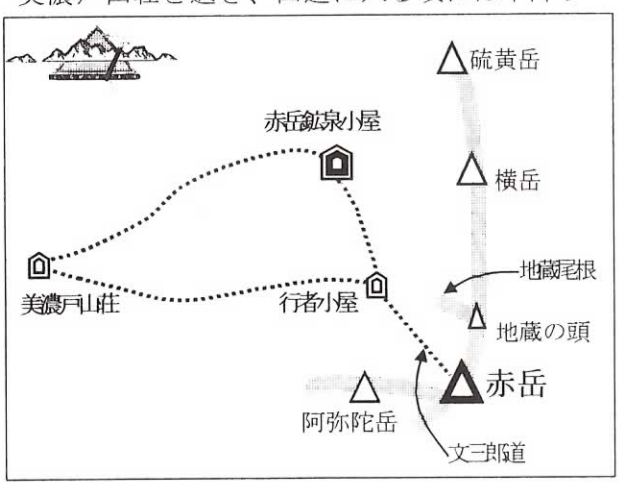
その日は雪が降っていた。桜の便りがあちこちから聞かれるようになっていたが、八ヶ岳の麓は、春は名のみの未だ雪の季節だった。美濃戸口ではちらちら舞うほどだった雪も、美濃戸山荘を過ぎ、山道に入る頃には本降りに変わっていた。雪の中を今日の宿、赤岳鉱泉小屋に向け出発。寒さは然程ではない。薄手の長袖シャツ１枚に雨具を着ただけで充分だった。初めて降雪中の歩行を経験。しばらくは道幅が広く、積雪も僅かであったので、雨中歩行よりむしろ楽な感じだった。

途中の沢で一息を入れた。リーダーから多少遅れ気味のようだが、調子は如何ですかと声をかけられた。特に遅れた意識はなく、可もなし不可もなしのまずまずの体調だったので、休憩後は、縦列の間を空けないよう気を付けることにした。

沢を何回か渡り返し、針葉樹林帯に入った。春の軟らかな残雪の上に新雪が積もり、本当に歩きにくい。行き交う下山者の中には、既にアイゼンを装着している者もいた。粉雪が舞う林の中は、音も色もない、静寂な世界。周りを見渡しても、白い樹木とその灰色の影のほかには何もない、落ち着いた空間のみ。幾度となく深呼吸をして、雪山の新鮮な空気を十分に味わった。

宿が間近かになってきた頃から、風が強くなってきた。降りしきる雪の向こうに黒く赤岳鉱泉小屋が見えてきた。ホッとした。と同時に、もう少しの間、静かな雪道の感触を楽しんでいたい気持ちでもあった。

リーダーの指示で、一旦、荷物を小屋に置いた後、直ちに雪山訓練を始めることとなった。



山名	八ヶ岳（赤岳）	山行形式	山小屋泊
月日	平成１１年３月２０日～２１日		
山域	八ヶ岳	地図	八ヶ岳西部
目的	雪山訓練山行	交通機関	中央本線
日程コース 20日	我孫子5:30→新宿(特急あずさ)7:00→茅野9:08→美濃戸口9:50→美濃戸山荘10:50→赤岳鉱泉13:25		
日程コース 21日	赤岳鉱泉6:50→中山乗越7:25→行者小屋7:35→赤岳9:55/10:07→行者小屋11:15/11:40→美濃戸山荘 13:15→美濃戸口 14:25→茅野 15:10→我孫子20:00		
状況	１季節は春であっても、八ヶ岳では悪天候により厳冬期に急変することを、体験した。 ２雪の状況のほか、特有の強風にも注意が必要。		

アイゼンを急いで付け、ピッケルを持って小屋の外に集合した。しかし、小屋に到着してから僅か１０分ほどしか経っていないにも拘わらず、外はブリザード。猛烈な風と粉雪で、視界が効かないほどに急変していた。冬山の凄さを改めて思い知った。しばらく小屋の中で待機していたが、風雪が収まりそうもないので、訓練中止を余儀なくされた。

赤岳鉱泉小屋は、鉱泉の名が付いているものの、入浴できるのは夏～秋のみとか。しかし、建物の中は送風機付きの大型ストーブで全館暖房され、濡れたものもすぐに乾いてしまうほど快適だった。早速、炬燵に当りながら雪見酒、外の地吹雪を肴に一気に盛り上がった。山談義は楽しい。心から笑える。夕食の知らせが来るまで数時間続いたが、あっという間のひとときだった。

また、ここの食事は実に旨い。手の込んだ洋食主体のメニューに全員大満足。聞くところによると、ヨーロッパスタイルの山小屋経営を目指しているとのこと。食事や、暖房施設など世俗のホテルと比べても遜色のないほどに充実していた。

それにしても、外の天候が気にかかる。依然として大荒れ。二重窓の間にも雪が入り込んでいた。明日はどうだろうか。この冷え込みで残雪が凍てつき、その上に新雪が積もった状態では、素人考えでも雪崩れの危険が大きいことくらい予想できた。我々の後に小屋に到着した人の話では、小屋から下の山道は、新雪でトレースが消されて見えなくなっているほど、とのことだった。

広い部屋で布団も十分あり、よく眠れた。なかには１３時間も熟睡した人がいたようだ。

冬

目が覚め、窓から外の様子を窺った。雪は降っていないようだ。まずは一安心。窓ガラスに雪が吹き付けられていてよく見えないので、早速外に出てみた。雪・風とも収まり、上空も青空は見えないものの明るかった。何よりもびっくりしたのは、雪を戴いた八ヶ岳の岩峰が、小屋のすぐ上にあったことだ。それにしても夜半までは降り続いていたのであろうか。１メートル近い積雪で、雪道の状態や雪崩に一抹の不安を感じたのも事実だった。

朝食時に、リーダーよりコース変更の説明があった。当初予定の地蔵尾根は急斜面のため雪崩の巣、したがって、文三郎道コースに変更し赤岳を目指すとのこと。いつもながら、流石の好判断に感服。

予定より若干遅れて出発。いよいよかと心に疼くものを感じたのは小生だけであろうか。

雪は深かった。行者小屋までは平坦な道だったため、昨日の訓練が中止となったアイゼンとピッケルワークを、特に意識しながら歩いた。行者小屋で靴紐やアイゼンの装着を再点検。登り始めると直ぐ急登が待っていた。新雪の中に、膝まで入ってしまうことも度々。足を踏み出しても、足に引っ掛かりがなく元の位置近くまでずり落ちてしまうほど。幾度となくその繰り返しが続いた。

空が一段と明るさを増した。晴れ渡る青空ではないものの、薄曇りから漏れる春の日差しは、周囲の雪山を眩しいくらいに照らし出していた。ゴーグルをつけることにした。

真っ正面の赤岳岩峰が大きくなってきた。右方には真っ白な阿弥陀岳が、左方には地蔵の頭から横岳が…。今、白き八ヶ岳の真っ只中にいることを実感した。

急勾配で長い階段状の岩道に出た。アイゼンを効かし、ピッケルで手前上方や山側に支点を立て、三点を確保。滑落には特に注意して登る。氷雪の岩道に食込むアイゼンの音が、全員よく揃い、程よいリズムに感じた。

主稜線に近づくにつれ、積雪が極端に少なくなってきた。八ヶ岳特有の強風で雪は吹き飛

ばされてしまうからだ。阿弥陀岳からの縦走路と交叉し、赤岳山頂へ向かう途中の岩陰で、風を避けながら一本立てた。目出し帽やオーバー手袋を着用し、防寒防風への備えも万全。いよいよ赤岳山頂への急登に差掛かった。風が一段と激しく吹き荒んできた。頂上直下の急な岩場では、下山パーティ７～８人の行く過ぎるのを、風上に顔を向けたまま体を岩に固定した姿勢で、待たされた。飛んでくる細かい氷雪を避けることができないため、ピチピチと顔面に当り、痛いほどだった。

小屋を出発して３時間、９時５５分、遂に赤岳山頂に到達した。リーダーと感激の握手。感謝の気持ちが自然にこもる。

去年の雪山初体験の天狗・硫黄岳、昨秋の記念山行の横岳・阿弥陀岳…、八ヶ岳全山が岩肌に雪化粧をして、「岳人あびこ御一行様」を歓迎してくれた。南アルプスや奥秩父の山々は、広大な八ヶ岳山麓の向こうに大きく広がっていた。遠く北アルプスや中央アルプスも白く輝いていた。

雪よ岩よ…究極の山岳美が、これでもかこれでもかと豪快に迫ってくる。白き神の座の気高き壮観に圧倒され、思わず寒さを忘れてしまう。感動で声が上ずる。身震いが止まらないのは、厳寒のせいだけではなさそうだ。

達成感いっぱいの笑顔が、凍てつく岩峰の雛壇に勢揃いし、直ちに記念撮影。



風が強く、気温も相当に低かった(零下１５℃以下か)ため長居は禁物。後ろ髪を引かれる思いで、山頂を後にした。

猛烈な風のため阿弥陀岳を断念し、登ってきたルートをそのまま戻ることになった。

稜線から少し下ると、今までの強風が嘘のよう。風が無いと温かく感じる。近くで、登攀中の若者であろうか、明るく澄んだ掛け声が聞こえた。氷壁を登る小さな姿を見つけ、思わず、事故なきことを祈る。

急下降の箇所では、アイゼンの効きを確かめ、滑落に注意しながら、慎重に下山。

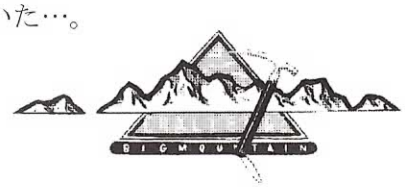
雪深い下山道での行き交いには、意外と難儀。上り優先のため横に避けても、足場が固定しないので長く立っていることが難しく、すぐにずり落ちてしまうほどだった。

それでも下りは快調。滑落の危険のない個所では、雪との戯れを楽しむ余裕もでてきた。

行者小屋に到着する直前から、再び雪が舞い始めた。振り返ると、既に稜線はガスに覆われていた。僅か１時間前には、白く輝いていた赤岳や阿弥陀岳の姿も霧の中だった。

行者小屋で軽食を摂り、美濃戸口への帰途についた。針葉樹林帯の山道は、残雪の上に昨夜の新雪が積り、雪上歩行に大苦戦。往路以上に良い経験となった。美濃戸山荘まではアイゼンが必要なほど新雪が積もっていた。

春の彼岸とはいえ、八ヶ岳山麓には、静かに雪が舞っていた…。



満ち足りたものが未だに心に残る。

あれからたったの４ヶ月。早くも夏山のシーズンを迎える。

小生にとって今年は５０歳台最後の夏。思い切って北アルプス・南アルプス山行を予定している。途中の車窓や山頂から、赤銅色の岩肌に日焼けした八ヶ岳に再会できる日を、今から楽しみにしている。

＜９３＞

高水三山縦走

高水山――岩茸石山――惣岳山

高橋英雄

『奥多摩入門最適の縦走コース』

多摩の丘陵がやがて高まって、奥多摩の山々として形となっていく。

その入り口にあたるのが御岳山、高水三山である。御岳山は観光化しているが、高水三山は山登りで親しまれている。高水三山とは高水山、岩茸石山、惣岳山の三山を総称したものである。

三山共、１０００m以下で日帰りコースの山登りとして絶好のコースである。

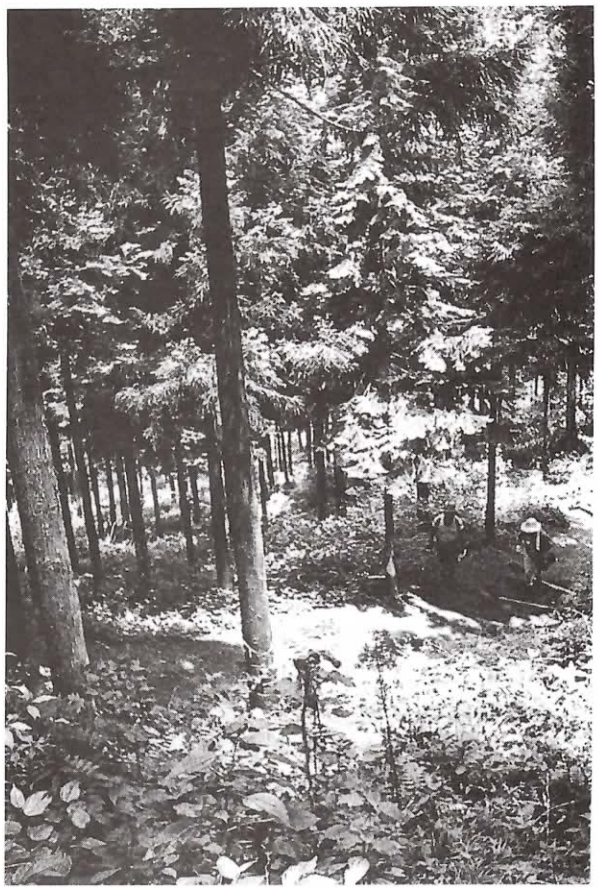
今日の朝は空気がひんやりとして肌寒い気がしたが、歩き始めて暫くすると段々と熱くなって来た。登山口まで登り坂があり、全員汗をかき衣服の調整をしてから登り始める。杉林をしばらく歩いてやがて、高水山に着く。

前日の雨で登り道は滑りやすく各自安全歩行を心がける。

やがて、岩茸石山に着く、急な下り坂を下り又登りその様なことを何回か繰り返している内に惣岳山である。惣岳山頂に青謂神社がまつられていた。杉に囲まれた山頂で展望はないが、立派な青謂神社の社前だけに、厳かな雰囲気にあふれている。

縦走のフィナーレを飾る山頂なので、ゆっくりと休んでから下山に向かう。

途中、真名井神社の水場があり、ひたすら下って慈恩寺前の踏切を渡り、直ぐ右の細い道を下れば御嶽駅である。駅近くで反省会、変化に富んだ山々で楽しい一日だった。





青渭神社が鎮座する惣岳山



＜９４＞

茶　臼　岳

（１９１５ｍ）

小黒　和枝

茶臼だけ，温泉だけ

怪しい空模様の朝，大宮駅より新幹線に乗り込み合流する。柴リーダーはじめみなさんＭＡＸの２階におそろいでホッとする。私はいつも途中乗車なのでパーティーに出会うまでは不安に駆られ緊張しているが，これでもう安心。ひと眠りしようかと思う間も無く那須塩原駅に到着。アタフタと東北本線に乗り換え黒磯駅へ，またすぐにバスに乗り替える。

バスの窓から山々が曇り空を背にして見えてきた。「あ，茶臼岳！」「朝日岳だ！」どちらも雪を冠ったピラミッドようだ。ア～スハノボロウヨ　アノイタダキニ～

茶臼岳ロープウェイ山麓駅に着き，一同装備を整える。私もカモシカのバーゲンで買ったピッケルを出してみたものの，どうやって持つのかもわからず村松さんにうかがう。「ヒモハ？」「ヒモって？」「他の人をみてごらん」なるほど他の人のピッケルは長い紐がつながっている。「アレ‥‥」「ロープは持ってるか？」「ハイ」ロープで臨時の支持紐を作って戴き，冬山新入生の私は健脚揃いのメンバーの中，ひとりおぼつかない一歩を踏み出す。

峰の茶屋までは疎らな木々の間をおだやかな登りが続いた後，一木一草も無いガレ場に出ると向かい風が強くなる。峰の茶屋（避難小屋）は冬場は入り口を閉めて窓から出入りするようになっていた。ここに荷物を置き茶臼岳に向かう。ゴロゴロした石の上に積雪が１０センチ程度なので歩きやすい。曇り空なので見晴らしはあまり良くないが，頂上から明日登る予定の山々を眺めて期待を語り合う。同じ道を下って峰の茶屋で昼食。

あこがれの三斗小屋までの道の長かったこと。途中，“延命水”と書いてある湧き水を飲み一同命を延ばす。命が延びた途端に誰かが足を滑らせ雪の中へ。このあたりの積雪は道を外れると５０センチ位あった。気をとりなおして大黒屋へひとすじの道を行く。

小屋の人達（全員が男性）にとても親切に迎えられ，くつろいだ後温泉に入る。評判の大黒屋の夕食も気になるが，私達は自炊のスキヤキで大いに盛り上がる。リーダー部長の脱酒宣言あり，湯上がり会長のフトモモのお披露目ありと小屋の中の夜は楽しく過ぎて行きましたが，外は大荒れ。季節外れの台風の襲来。コースは真っ直ぐにこの地方へ。寝床へ入ってからも夜通し風雨が木々や屋根を揺るがせる音が聞こえていた。

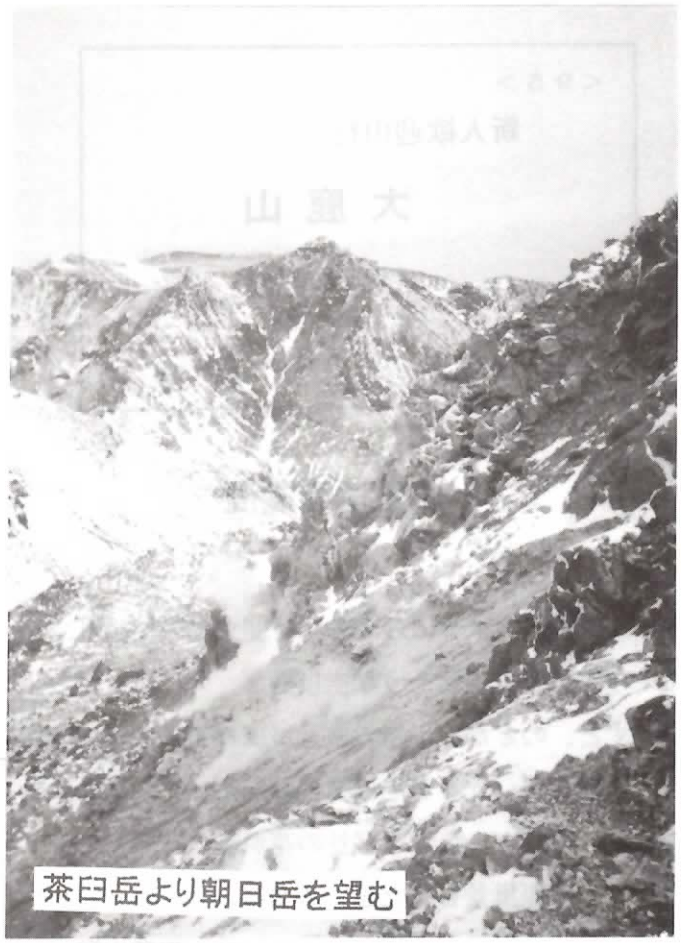
朝になっても天気は相変わらずなので，予定していた三本槍，朝日岳を諦め昨日のコース引き返す。雨のため積雪は大分減っている。峰の茶屋付近の超強風に逆らい足下の水を跳ね返しながら柴Ｌが翔ぶように進むうしろを必死でついて行く。ロープウェー山麓駅に着いてホッとしたのに雨の中大丸温泉まで数キロの舗装道路をあるくことになった。

濡れねずみになって温泉にたどり着き，女将さんの親切にあまえてコートや靴をストーブで乾かしてもらっている間，ゆっくりと温泉につかり，こころゆくまで全員反省をしました。

山　名	茶臼岳
山　域	那須連峰（栃木県）
形　式	小屋一泊（自炊）
期　日	1999年４月１０日＆１１日
コース	我孫子駅5;10-上野駅6;27（新幹線）那須塩原7;36/7;41-黒磯7;46/8;35(バス) ロープウェー山麓駅9;50/10;10‥‥峰の茶屋11;20/11;30‥‥茶臼岳‥‥峰の茶屋12;20/12;50‥‥延命水14;10/14;20‥‥大黒屋15;10/翌日7;10‥‥峰の茶屋8;50‥‥ロープウェー山麓駅10;00/10;10‥‥大丸温泉10;50/12;50 〃

ルート概念図




茶臼岳より朝日岳を望む


茶臼岳山頂


峰の茶屋前

＜９５＞

新人歓迎山行

大 鹿 山

（１２３６m）

大 畠 清 江

山里は春爛漫

満開のサクラに迎えられ甲斐大和駅に降り立つ。今にも降り出しそうな空模様だ。一歩足を踏み出すと、のどかな山里の風景が広がっていた。まさに春爛漫。サクラをはじめスモモ、アンズ、レンギョウなど、色とりどりの花が咲き競っている。日本の原風景を見た思いがする。

心うきうき歩き出すが、おニューの登山靴は、まだまだ足になじまず、自分の足ではないようだ。それにペースが早い。ついて行くのがやっとだ。

はあはあ、ふうふうの急登のなかに、カラマツの芽吹きを見つける。造花と見間違いするほどの可憐な新緑だ。雨にけぶって何ともかわいい。

そう広くない山頂で昼食、周囲の山を眺める余裕もなく、おにぎりを頬張る。

２０分ほどで下山になる。下りはいきなりの急降下だ。ストックの代わりに拾った棒切れを捨てるよう指示を受ける。滑らないよう、慎重に下山する。

１時間１５分ほどで景徳院に到着する。境内の見事な桜が雨にしっとりと濡れている。これが重々しく落ち着いた山門に映えて、何ともよい風情だ。心が和む。

全員で入るには、ちょっと小さめのあずま屋のなかで、新人歓迎会が始まる。先輩心尽くしのカレーうどんが、冷えた体に暖かく、おいしかった。

駅へ向かう途中、民家の庭先を通してもらって下山する。庭先が登山道になっているなんて、やはり田舎はいいなと思う。おうようで・・・。

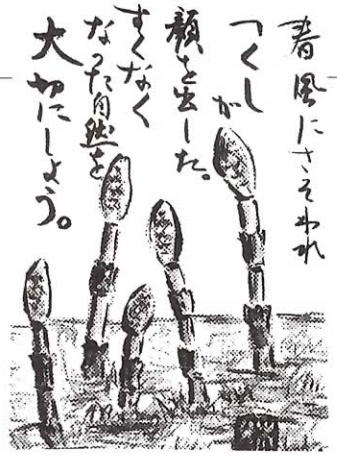
この山行中、リーダー、サブリーダーをはじめ先輩の皆さまから、たくさんの指導をいただいてありがとうございました。

入会して初めての山行ということで、不安やら、心配やら、いろんな思いを抱いて参加しましたが、暖かい、和やかな雰囲気に安心し、楽しい山行になりました。

これからも出きるだけ参加し、山に親しんでいきたいと思っています。

どうぞよろしくお願いします。

山　名	大鹿山 (中央沿線)	山行形式	日帰り
期　日	平成 11 年 4 月 18 日（日）		
山　域	中央沿線	地形図	笹子
目　的	新人歓迎山行	交通機関	中央線他
参加数	24 名	リーダー	CL 細野省 L 清家
日程コース	A コース 我孫子＝甲斐大和 8:35/8:40→景徳院(ﾄｲﾚ)9:10/9:20→大鹿山 10:55/11:20（昼食）→大鹿峠 11:55→景徳院 12:35/14:30（歓迎会）→甲斐大和駅 15:00/15:26→我孫子駅 18:30		





景徳院の桜
武田家滅亡の地←





大鹿山
山頂附近の尾根にて

＜９６＞

新人歓迎山行

笹子雁ヶ腹摺山

1357m

斎藤　清一

４月の中旬なのだが、天候は不順本日も空は曇りがち、新人歓迎山行であるので雨が落ちてこないこと望みながら集合する。

36 名の大部隊、電車の中は登山部員もハイキング部員も新入会員も一緒、仲間入りした会員さんの名前と顔を覚えなければとあちらこちらで話に花が咲いている。

我々B 班の登山部員“12 名”は一駅前の JR 笹子駅で下車し、再び歓迎会の場所で落ち合うことにする。

笹子駅から登山口までの間にﾎﾟﾂﾘ、ﾎﾟﾂﾘと落ち始じめた。今日は本格的に雨が降るのを覚悟しなければならない。

足取りも軽く登り始める。“雁ヶ腹摺山”の名を持つ山が、この地域に三つある。　①牛奥ノ雁ヶ腹摺山、②笹子雁ヶ腹摺山　③雁ヶ腹摺山（旧五百円札の裏面の富士山の絵はこの山の頂きから。。）　いずれも雁の飛ぶコースに当たるので名づけられたものだと先輩に教えられながら前進する。

頂上（1,357m）は未だ曇天模様、11 時前だが昼食にしようと、リーダー部長からアドバイスがでる。

A 班のハイキング部員と新入会員の部隊はどの辺を登っているのかと、うわさをしながらくつろぐ。

下見に来たときは、大鹿山の三本松の処あたりが、笹子雁ヶ腹摺山の頂上あたりから見えると話し合った。時間から推測してみると今頃三本松あたりだが？。。。

さあー　休憩も済んだことだし雨が本格的に降ってこないうちに下山だ。ガイドブックには明記されていないが、近道をえらぶ。以前に歩いた人がいたのであろう。笹薮が踏まれている。どんどんと山を下る。

眼下に川が見えてきたあの川沿いに景徳院があるはずだ。本日の新入会員の歓迎会の場所だ。心なしかメンバーの足が軽くなったような気がする。林道出会い付近から雨が落ち始める。本格的に降り始める。ずぶ濡れになりながら A 班の待つ景徳院に到着する。

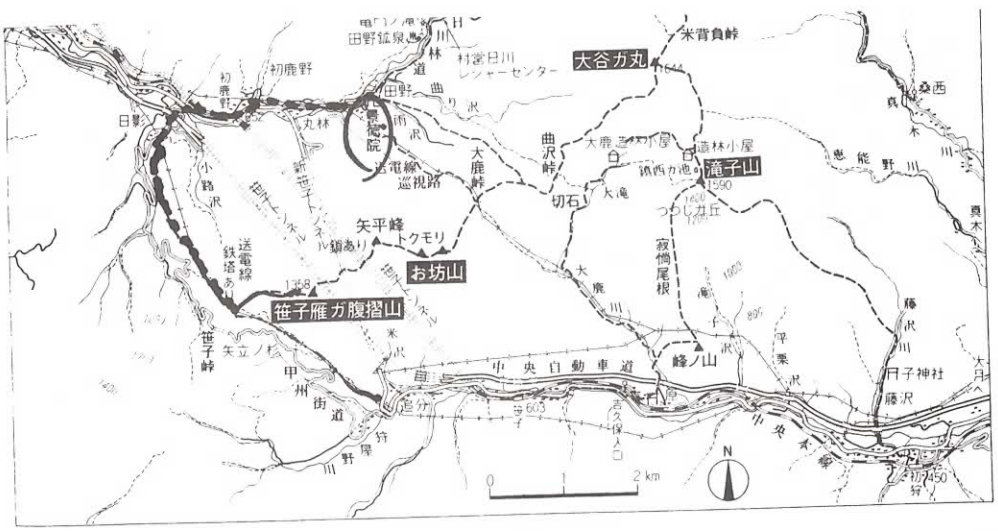
約 40 分程の遅れの到着であるが、A 班は歓迎会の準備をしていた。あずまやの下でのにぎやかな歓迎の会が行われる。濡れた体も酒とカレーうどんで暖をとる。

我が“岳人あびこ”のメンバーも増加してますます繁栄することが約束されたような気分になる。未来に繁栄を！

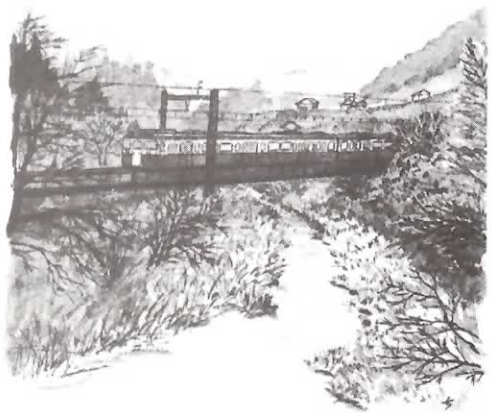
山　名	笹子雁ヶ腹摺山(中央沿線)	山行形式	日帰り
期　日	平成 11 年 4 月 18 日（日）曇り後雨		
山　域	中央沿線	地形図	笹子
目　的	新人歓迎山行	交通機関	JR,バス
ﾘｰﾀﾞｰ	斎藤	参加数	１２名
日程コース	B コース 我孫子 5:33＝笹子駅 8:30／8:35…登山道入口 9:12…笹子雁ヶ腹摺山山頂 10:45(昼食)11:15…林道出会 12:05…景徳院 13:15　A コースと合流（歓迎会）14:25…甲斐大和駅 15:00/15:26＝我孫子駅 18:30		




笹子雁ガ腹摺山


大谷ガ丸
米背負峠
滝子山
お坊山
笹子雁ガ腹摺山
笹子峠
甲州街道
中央自動車道
大鹿峠
曲沢峠
切石
矢平峰
トクモリ
峰ノ山
0
1
2 km
N

笹子雁ケ腹摺山



NO．９７

天城山縦走

万二郎岳(1300m) 万三郎岳(1405.6m)

高橋　芳恵

天城連山の最高峰を歩く

よくぞがんばった雨の７時間
ほめてあげたい自分を感じた縦走路

４月２４日

天気予報の大雨の確率に「はずれることもあるさー」と勢い込んだ当日はやはり雨。車中細野リーダーより計画についての相談あり。予定通りの山行を実施する確認をした。東京駅より新幹線利用で熱海駅下車、伊東線乗り換えではマラソンランナーの宮坂さんに全員の希望を託したが、わずかに及ばず次の電車に。ゴルフ場登山口までのタクシーの運転手さんが親切にあちこち説明してくれている間も降りしきる雨はやむようすなし。

登山口からの第一歩はいきなり増水した渓流を渡渉する。これほどの雨の中を登ることは初めての経験。木の根に気をつけながら１時間ほど登ると，万二郎岳についた。アセビの木に覆われ展望はないがアセビの盛りはどんなにかすばらしいだろうと想像した。万三郎岳に向かう辺りよりシャクナゲの木が目立ち，その群生の見事さを聞き、次の機会は５月末と心に決めた。アセビのトンネルで有名な馬の背で昼食。降りしきる雨に早々に出発。ヒメシャラの美しい幹が明るさをかもだし雨中を歩く我々に元気を与えてくれる。ブナの林を登り切ると万三郎岳に至った。休息も早々に切り上げ縦走路をひたすら黙々と歩き続ける。広大なブナ林の連続、その中に白とピンクの濃淡にかすむまめ桜が現れたときは、靴の中まで水だらけで疲れ切った気持ちがよみがえっていくのを感じた。山行前半、咲き終わってしっまっていたアセビの花が八丁池周辺ではきれいに残っており堪能した。

さらに天城峠まで２時間弱のくだり、松本清張の「天城越え」のストーリーを思い出しながら歩いていると足を滑らせた。疲労と集中力のなさを痛感する頃、やっと旧天城トンネルバス停に到着した。雨はすっかり上がっていたが全員濡れ鼠状態。７時間の行程を無事こなした達成感はひとしおだった。

今夜の宿の「いわたや」はアットホームな民宿でずぶむれの１５人の靴や衣類のかんそうをはじめ洗濯までお願いし心地よいお風呂と心まで温まる獅子鍋で迎えてくれた。感謝。

４月２５日

昨日とは打って変わって晴天。朝食後、近くの浄蓮の滝まで散歩。

その後バスで修善寺まで行き城山登山口より城山　葛城山へ．伊豆に来るたび、狩野川の向こうにそびえ、しかも岩登りまでやっているあの山は何という山かと気になっていた。今日はこの山に登れるとはラッキー！　しかも葛城山の頂上はツツジの最高の見頃。気温の上昇で富士山はのぞめなかったものの、山頂よりの駿河湾の眺めと、昨日歩き続けた天城連山の眺望を楽しんだ。

大仁でおいしい昼食を済ませたあと、さらに三島にある柿田川湧水へ。富士の高峰に降った雪が十数年を経てこの柿田川に湧き水になって潤し

ているとか、自然を守る市民のみなさんの熱意を強く感じることができた。

わずか二日間の山旅でしたが、心に残る充実した内容の二日間でした。リーダーの細心の計画と心配りに感謝！



岩峰の葛城山は展望抜群です

山名　天城山縦走

山行形式　合同定例

期日　平成10年4月24日−25日

天気　24日　雨　25日　晴れ

山域　伊豆

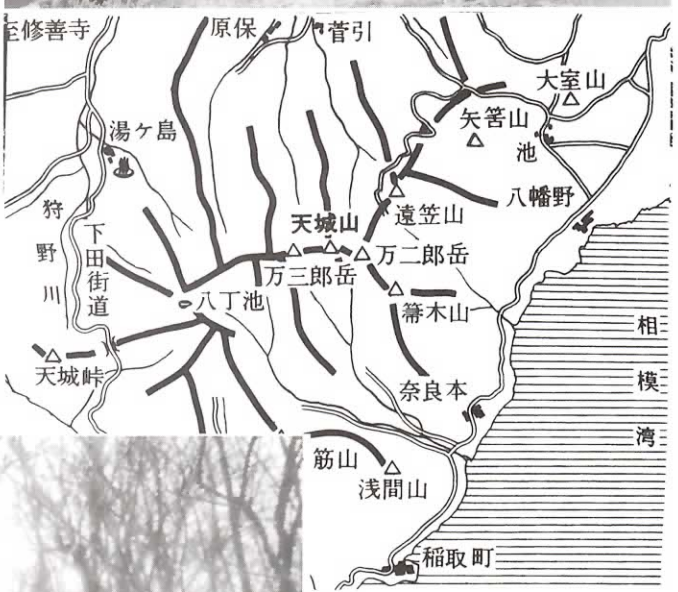
目的　伊豆連山の最高峰を縦走する

ﾘｰﾀﾞｰ　細野清子

日程コース

24日　東京6:38ー伊豆高原ゴルフ場9:10/30ー万次郎岳 10:30ー万三郎岳 12:00ー片瀬峠 13:30ー八丁の池 14:30ー天城峠 16:10ー旧天城トンネル16:30ー民宿いわたや17:30

25日　浄蓮の滝ー城山登山口10:20ー頂上11:25ー葛城山12:10ー昼食13:00/14:30ー大仁駅15:00ー柿田川湧水群 15:30ー三島駅 こだま18:18ー我孫子20:05





雨にもめげず、女性は強い

〈９８〉

ハマイバ丸

（１７５２ｍ）

榊原文子

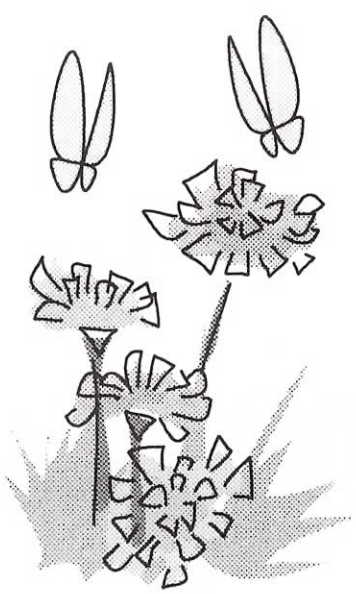
山菜採り山行

山　名	ハマイバ丸	山行形式	日帰り
期　日	平成１１年４月２９日		
山　域	中央線沿線	地図	丹波、都留
目　的	山菜採り、テンプラ		
参加数	８名	リーダー	柴
日程コース	4/29	我孫子駅4:50（集合）/4:53（出発） ～立川6:26/6/43～大月7:39/7:50～ 真木沢テニスコート…山菜採り… 昼食…真木沢テニスコート～大月～ 我孫子駅19:00　ホリデーパス利用	

朝から雨がポツリポツリと降っている。ずっと木曜日だけは晴天が続いていたのにこの日に限って雨模様とは…。

今日はいつもの山行とは違い主目的が山菜採りなので不安と期待が入り交じる。立川駅で講師の有賀さんと合流して大月駅よりタクシーで真木沢テニスコートまで行く。とても良い道だ。運転手さんが、つい最近峠まで通じ、雁ヶ腹摺り山へも近くなったと話してくれた。テニスコートよりいよいよ山に入り山菜採りが始まった。先ずアザミの新しい葉、フキノトウが少し花を点けたもの。やぶれ傘等収穫するが、お目当てのタラノ芽はなかなか見つからない。皆で広がって、探すが見当たらない。雨も本降りになり雨具をつける。有賀さんが別の沢へ行って探すと云い、一人薮の中に消える。私達は道に迷うとこわいので顔の見える範囲でそれぞれ探す。気温もどんどん下がっているようでとても寒い。道なき道の中、突然ヤブの中雨具が破れないかと心配。

しばらくして有賀さんがタラの芽をたくさんつんで現れた。沢の水できれいに洗い、テンプラの準備にとりかかる。幸屋根だけトタンのかかった場所を見つけ、食事の用意。リーダーのザックから次々と道具が出てくる。四角いバット、菜箸、天カス取り等。コッヘルに油を入れ、タラの芽から揚げる。揚げたてを口に入れる。“うまい”熱々のウドンとテンプラ。今まで食べた中で一番おいしいと思う。リーダー、有賀さん、仲間達、本当にありがとう。涙が出るほどおいしい！帰りは大月駅までの途中にある真木温泉で体をしんまで温めて又々幸せを感じた１日でした。来年もぜひ参加したい。



〈９９〉

朝日連峰

川下　敬史

平成１１年雪山合宿

朝日鉱泉～鳥原小屋 ⛺(泊)～鳥原山▲
～小朝日岳▲～大朝日小屋 ⛺～大朝日岳▲
～中岳▲～西朝日岳分岐～竜門山▲
～竜門小屋 ⛺(泊)～熊糞(ユーフン)山▲
～清太岩山▲～日暮沢小屋 ⛺～根子

計画から実行へ

それは酒の席から始まった。

「来年の５月は５連休ですねぇ～」、「う～ん大きな縦走やろう」、「朝日あたりがいいねぇ～」、「それじゃ決まり、朝日連峰で雪山合宿だ」と去年の秋に吾妻小舎で飲みながら話が始まった。　残雪期の大縦走を夢見ながら、それぞれに計画を練っていく、９９年１月号の”やまなみ”の“今年登りたい山”に残雪の朝日連峰と書いてあったのが柴さんと私の２人、残雪のと…。

大朝日岳と竜門山は外せない、小朝日岳か祝瓶山か？　以東岳か天狗角力取山か？　朝日連峰は広い、東北の懐の大きな山域だ。

当初は朝日鉱泉から大鳥池への縦走案であったが、大鳥口からの車道歩きは、勘弁ということで天狗角力取山を経て大井沢に下山することになった（実際には、天候の悪化によりコース変更し日暮沢へ下ることになる）解放小屋の選定や積雪状況など情報の収集や事前打ち合わせを何度か行う。　これも楽しい。

計画の立案がやはり登山の楽しみの半分だ！

山行計画書を渡されて、ただリーダーについていくレベルの山ではない、岳人あびこに入会して今までで一番充実した山行が始まる…、嬉しくて仕方ない。!(^^)!

アプローチ

山形新幹線＝左沢＝朝日鉱泉

集合場所は、我孫子駅や上野駅の新幹線ホームではなく、つばさ号の車内である、ゴールデンウィークに上野駅から自由席に座れる訳がないので、我孫子からの先発組が東京駅から乗車して座席の確保をしてくれている。　清家さんと私は、いつもの成田線一番電車（我孫子発５：３０）に乗って上野駅からの乗車で合流となった次第だ。

今回の参加者は、会長、リーダー部長…と蒼々たるメンバー５名に昨年度途中入会の若者２名の７名だ！　技量の劣る分は、体力でカバーしなければついていけない、雪山縦走よりもこのメンバーについて行けるのかが不安だ、なのにサブリーダーに指名されるとは、本当かよ…その上“やまなみ”付きとは困った…。　(-_-;)

上野から山形までは新幹線で一気に移動する那須連山、安達太良連峰、吾妻連峰と車窓からの眺めも楽しい、吾妻小富士の種まき兎も見える、車内販売でリーダーが峠の力持ちを購入、後で登山中のいいおやつになった。

飯豊連峰、反対側に蔵王連峰が見えると山形に到着、左沢（アテラサワ）線に乗り換える、車内で共同装備の分配、荷造りをしながら、配給のバナナを食べる。　私には、コッヘル、コンロ等が渡される、このメンバーではどう考えても北川さんと私が、装備と言う名の荷駄隊のはずなのに、これだけでいいのか？　と思う

が、経験豊かな先輩方に向かってもっと持ちましょうか？　などと生意気な事を言える立場ではない、先輩の優しさにからくりがあったことには、夕食時まで気が付かなかった。

段々朝日連峰に近づいて行く、終点の左沢駅からは予約のしてあった２台のタクシーで朝日鉱泉へ向かう、「あなた達が、今年最初の登山客だよ」と運転手さんが言っていた。　だからタクシー会社でも、今年の道路状況は把握していないので、行けるところまでと言うことになった。

朝日鉱泉の少し手前の橋で降ろされた、そこには車が５、６台駐車してあったが、どれも山菜取りや沢釣りの人達のようだ、俺達とは匂いが違う、ふっふっ。

メインルートを稜線へ

朝日鉱泉から雪に囲まれた鳥原小屋へ

朝日鉱泉の先の吊り橋をわたって、朝日連峰縦走のメインルートを登り始める、まだ春になっていない登山道は、日差しが暖かくて晩秋の道より気持ちがいい、高度を上げるにつれて雪が少しずつ現れてくるまでではあったが。

除々に雪の量が増えてくる、地形的に夏道が解るうちは問題がない、タクシーの運転手さんの言っていたとおり我々が最初の入山者だったのか？　雪の上に足跡がないないのだ、どちらにしても５連休の最初の入山者であることは間違いない。

何度か道を見失う、残雪から藪の入り口が解らなくなる、林の中の雪は方向どころか道すら掴めない。　さすがに歴戦の強者達だ、さっと散って声を掛け合いながら道を探す、沢へ降りるときもさっとロープがでる、そしてさっと回収される、リーダーの号令でキビキビと動く集団はかっこいいと思う。　外の人から見れば、私もその一員なのだが、こんな山の中で見ている人などいない、鳥原山から朝日鉱泉へ下りる２人組とすれ違ったのが、この日の最初で最後だった。

金山沢は雪が所々抜けている、厚そうな所を探し無事に渡る。　後はひたすら鳥原小屋までの登りとなる、山毛欅林を抜け尾根が広くなると雪はシャーベットになって歩きづらい。

左手に鳥原小屋が見えると緊張がほぐれたのか、隊列が崩れた２時間４０分の夏時間に対し５時間弱掛かっているのだ、ビールがない解放小屋でも、つい急いでしまうのかもしれない。

鳥原小屋にて

美味しかったすき焼き、お肉は何処に？

鳥原小屋の周辺は４、５ｍの雪があったが、小屋の中は快適だ。　小屋に到着すると同時に、我が会きっての精鋭水汲隊が出発する、水場が近くてよかった　(^o^)　しかし、雪の中の沢水、こんなに冷たい水があるのかと言うぐらい本当に冷たい　(>_<)　２人共３往復、“助さん、格さんもういいでしょう”と言われた頃には、辺りが薄暗くなっていた。

今日の宿泊者は他に２組、古寺口からの登りだそうだ、１階で清家さん、峯子さん、安田さんが調理している、手際がいい、今日も美味しいものが食べられる　(^o^)　荷駄隊でも水汲隊でもやるぞ！　と言うぐらい食坦の人達にはお世話になっている。　メニューはすき焼き、「お肉出して～」、「はっ？」、「持ってきたでしょ」、「えっ？」、「コッヘルの中に」、「え～、ほんとですか？」確かにコッヘルの中にお肉が１ｋｇ入っている、「重くなかった？」、「本当に気が付かなっかたのか？」恐るべし岳人あびこ。　(-_-;)

さらにその横では、当然の事のように■■■■■■■■■■ってる（書けませんが、皆さん解りますよね）、私もウィスキーを供出する、酒は先に出して、先に飲んでもらい、自分の荷物を軽くする、後輩のささやかな抵抗である。



東の空に大きな赤い月が出ている、寒河江の街の灯が見える、もしかしたら携帯電話がつながるかも？　とりあえず家に電話する。　内容は無い、１日目は稜線の小屋までの登りだけ、無事という連絡も変だ。　小屋の横の建物が何だかわからない、小屋の近くに朝日岳神社があるはずなので食事前に探したが見つからなかった、鳥居は小屋の反対側にある、まさかこの建物が朝日岳神社？　おそるおそる扉を開けてみると社があった、積雪十数メートルの山の上だもの厳重になるのも頷ける。　山行の安全を祈願して、扉を閉める。

１階で食事をして、就寝は２階に移るということになった、全て片づけなくてもスペースはたくさんある、みんなが２階へ上がる、かえって１階の方が空いている、私は１人そのままシュラフを敷いて寝る、２階へ上がれないほど酒を飲んだ訳ではない、１階の方が涼しいからだ。

主峰大朝日岳へ

鳥原小屋～小朝日岳～大朝日小屋～大朝日岳

４：３０起床、朝食のうどんを食べ、気合いを入れて出発だ！　折角他の登山者がいるのだ、記念撮影をお願いしよう、昨日の夕食時にお姉さま方３人を招待していた地元の山岳会の人達だ、喜んで写してくれるだろう。

お礼を言って、さぁ今度こそ出発だ！

朝は雪が絞まっていて気持ちがいい、３０分程で鳥原山に立つ、ここからの小朝日岳、大朝日岳の眺めが素晴らしい、暫し休憩。

小朝日岳を正面に見ながら快適な雪稜をたどる、鳥原小屋で同宿した人達が後続で登ってくるのが見える。　稜線の北側は雪が崩れ落ちている、リーダーのルートファインディングを納得しながら歩く、今回の山行は学ぶことが多い、参加した甲斐がある。　段々傾斜が増してくる、これを登り切れば小朝日岳だ！

向こう側の景色が見たくてピッチが上がる。

小朝日岳の頂上にも残雪がある、天気も気分も上々、主稜線上の大朝日岳、中岳、西朝日岳、竜門山、寒江山、以東岳の全容が望める。　素晴らしい展望だ。(^_^)/~

熊越まで急降すると雪と大きな石の混在する歩きづらい夏道を歩く、朝日連峰はこのようなルートや、どの登山口でも稜線まで雪のない狭い道が続くことから山スキーで登ることのできない東北唯一の名山なのかもしれない。

左側の谷には、４年前お気に入りだった帽子が身代わりとなって飛んでいってしまっている懐かしい、「おぉ～い」と叫びたいが、いくら大事にしていたとはいえ帽子が答えるはずがない

ので叫ぶのをやめた。(._.)

熊越を過ぎ急斜面を登る、右も左も谷に落ちる、中央を登らなければならない、銀玉水も雪の下で見えない、緩やかになったところで再び大朝日小屋が顔を出す、今度は近い、この辺りから登山者が多い、以前ゴールデンウィークに大朝日小屋に泊まったときは他に１組いただけでそれ以外、登山口から下山口までのルート上でも人に会わなかったのに、百名山ブームで登れる時期ではないのだから本当に人が増えたのだなと思う。

大朝日小屋に１０：３０到着、デポし、主峰大朝日岳（１８７０m）を目指す。

３６０度の大パノラマ

気持ちは来年？の飯豊連峰へ。

１０：５０登頂、頂上は３６０度の大パノラマ、鳥海山、月山、栗駒山、蔵王山、吾妻連峰、飯豊連峰と東北の名峰が連なる。　飯豊がでかい、大きな白い壁が立ちはだかる、しかもこちらから望むと飯豊の北面であるから凄い雪山に見える、大朝日の北に延びる主稜線は、南面なので雪が少ない、そんなことは誰もお構いなしで、朝日と飯豊を比較する。



もうすでに「来年は飯豊だね」「向こうの方が雪が多いのかな？」「来年も５連休だしね」と次の雪山合宿の話がでている、「皆さん、まだ２日目の途中だよ、行程も３割も歩いていないよ」とは誰も言い出さないほど、飯豊が凄く魅力的だ、来年は飯豊に行きたい！　(^o^)

写真を撮るときになって、デポしたザックの中に会の旗を忘れたことの気づく、月山をバックに１枚撮って大朝日小屋へ戻る。

大朝日小屋で昼食を摂り、露出した草の上で一眠り、これが気持ちいいんだ本当に。(^_^)

主稜線を北へ

大朝日小屋～西朝日岳分岐～竜門山～竜門小屋

出発の号令とともに中岳を目指す、金玉水も雪の下、東面は（小朝日岳からの北面に続く）雪崩の後が数カ所見える、足下の緩やかな広い雪原は午後の日差しでシャーベットになっている。　滑りながらも中岳に登る、竜門小屋から来た登山者から竜門小屋には、小屋番が入っているとの情報を得る、「解放じゃなくて有人小屋か？」「１人いくらだっけ？」「小屋番がいるほど宿泊者が多いのか？」と思惑がはしる。

「ビールは担いで来てましたか？」村松リーダーの一撃必殺の質問が飛ぶ！　たった一言で全員の気持ちが一つになる、さすがは岳人あびこ５８人のリーダー部長だ、我々には到底まねできない。　「急げビールが待ってるぞ」と号令がかかり、西朝日岳の分岐を目指す。(尾根の分岐のこと、分岐するコースはない)

北側に張り出した雪庇は所々崩れていて、雪の厚さに、人間程度の生き物ではとてもかなわないと感じる。　ここは遊歩道ではないのだ、気を引き締めて歩こう！　西朝日岳は、地図や書籍により分岐の地点を指すものと、南西約３００m先のピークを指すものがある。　折角だから３００m先の西朝日岳にも登りたかったが、夏でもコースがないのだ、安全かどうか解らない…。　結論は、“ビールが待っている”竜門小屋に急ぐだ。　竜門山へは快適な歩きができた、頂上には数人が休憩している、日暮沢口から登ってきたらしい、清太岩山廻りの登山者にここで初めて会う。



竜門小屋にて

小屋番がいるとビールがある！

竜門小屋の前で乾杯している６人から、「おぉ～い、はやくしろ～」「ビールなくなっちゃうぞ～」と言われ、駆けるように竜門山から小屋へ下る。　天候の悪化が懸念されたので、竜門山の頂上付近で携帯電話の電波チェックをしていて、遅れをとってしまったのだ。　電波状況も芳しくなかった、翌日のユーフン山まで下界との連絡がとれなっかた。　私が到着したことで、再度乾杯する「２本目からは自腹だぞ」とのこと、缶ビールを冷やしている桶の横に“ビールゆずり☑　８００円”　ビールは何故美味しいのか？　日本酒やウィスキーを冷やしても、山ではビールにかなわない、そんなことよりもう１本！　(*^_^*)

朝日連峰の山小屋は全て、食料、寝具持ち込みである、小屋番も夏期のみの常駐だ

(今回はいたが) ビールがお金で買えるなんてありがたい。　下界では当たり前のことが、非日常の中の日常は新鮮だ、今は雪山を楽しまなければいけないのに！

草の上に横になり、優雅なひとときを過ごす、見渡せばみんな寝ている。　狐穴小屋に向かって歩き出す人がいる、思わず時計を見て時刻を確認する、明るいうちに着くのかな？　人の心配をする余裕がある。“昔（つい最近まで？）は、先に進むことばかり考えていたな、時間があれば一つ先の小屋を目指すのが当たり前だったな”と振り返る、今では山の上でもビール飲んで昼寝するようなおじさんになってしまったのか？　誰の影響だろう？

小屋は混んでいるなと感じてしまう、た

った２０人位（定員３０人）しかいないのに、東北のオフシーズンの避難小屋や無人小屋ではいつもワンフロアまたは最低でも１区画貸し切りになるのが当たり前だからである。　（北アの山小屋のように１畳に４人などという、雲の上でも朝の常磐線に乗っているような小屋とは、雲泥の差だ！　私はこちらの方が断然好きだ、でも単独行のときは寂しすぎる！）

そろそろ我が隊も夕食の支度をしなきゃと起きあがる、空はうっすらと赤みがかっている、相模山、大上戸山へ続く稜線が綺麗だ。

夕食の支度が始まる、水の手配にはしる、当然水場は雪の下である、変幻自在の岳人あびこ青年部は、雪堀隊を編成し北面の残雪に、きれいな雪を求めて繰り出す。

青年部員をもっと増やそう！　岳人あびこの将来のためにである、決して我々の負担を軽くしようなどと邪な考えからではない…、多分。

茄子カレーを食べながら、天気予報に聞き入る、明日３日より天気が崩れるとのこと、４日からだと思っていたのに、困った。(-_-;)

エスケープルートへの英断

天狗角力取山を諦め日暮沢へ下山。

「明日は、日暮沢へ下るしかないか…」「明日は何とかなっても明後日は無理だし…」結論が良い方向ではないことだけは確かだ。　小屋の外が真っ暗になっても、鶴岡も村上も寒河江の灯も見えない、空には星もない、これではとやっと諦めがつく。

先輩達の登山談義を聞きながら酒がすすむ、いつの間にかシュラフの中にいた、明日の天気を気にしながら寝入ってしまう。

目覚めると、窓の外は真っ白だ。　トイレにむかうが、小屋からトイレまでもガスで霞んでいる。

鮭雑炊を食べながら、エスケープルートに付いての説明を受ける、雪も雨も風も充分経験しているメンバーでもやはり緊張がはしる、これが雪山縦走のスケールの大きさなのか。

万全を期し、日暮沢を目刺し出発したのは８時前（少し遅い？）である。

竜門山への標高差１００ｍの登りが朝一番の仕事である、体慣らしにちょうど良い。　本当は、ちょっぴり残念である。

竜門山山頂で携帯電話をかける、山麓の民宿と下山口からのタクシーを手配するために、しかし結果は昨日と同じでつながらない。　こんな山の中で文明の利器に頼ろうとは虫が良すぎる！　本当はそう思うが、今日の宿を確保しなければ、この先の山行の予定が立たない。

次のピークのユーフン山で大井沢の民宿と日暮沢からのタクシーが確保され安堵する。

ユーフン山は地図でも“カタカナでユーフン山と書いてある、漢字で熊糞山とは書いていない”くまくそ山と読まれるのはやはりまずいのか？　熊の糞は太くて大きい、単独行でこんなものを見たら足が竦んでしまうだろう、周辺に落ちていないか捜してみたが見つからない、安心、安心。(^-^)

今日は５月３日、日暮沢から清太岩山廻りの登山者が多い、今日、明日には天気が崩れると言うのに、大朝日岳を目指す人達としては、随分登り始めが遅いなと思った。　このときはまだ、日暮沢から先の事態について知る由もなかった。

雪山訓練

尻制動は歩くより速い？

ユーフン山を緩やかに下りきると、清太岩山への急登に挑むためアイゼンを装着する。

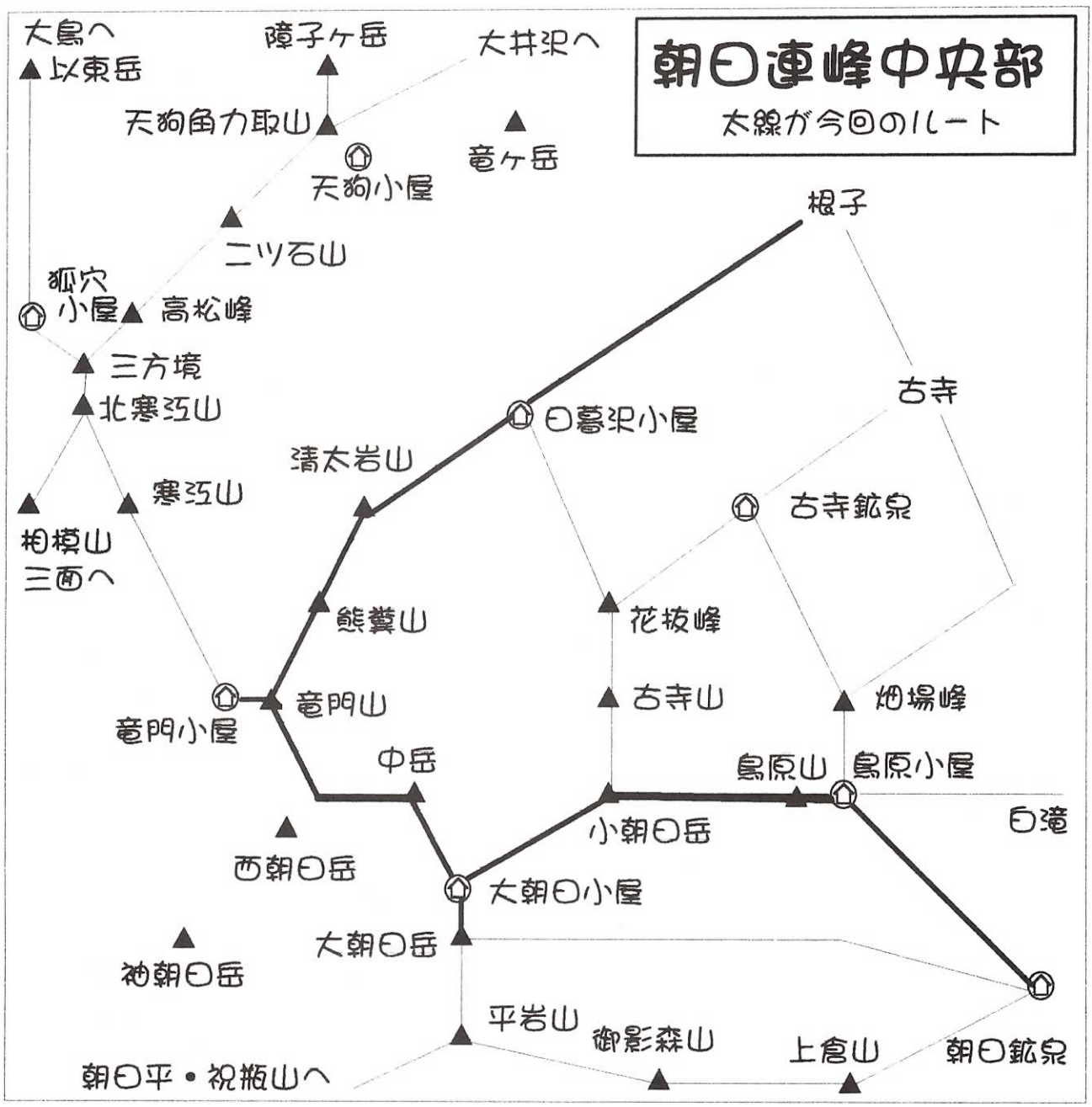
清太岩山の山頂は、朝日連峰のパノラマが広がる、右手に花抜峰、古寺山、小朝日岳、大朝日岳の尾根が続き、左手には天狗角力取山、二ツ石山、高松峰、寒江山の尾根が続く、いずれも数ｋｍの近さの山である、今の天気（曇り）でも充分見渡せる、晴れていれば正面に見える

はずの月山だけが見えない３０ｋｍは無理か。

清太岩山が最後のピークだと思うと何だか寂しい気がする。　しかし、体は絶好調である、何と言っても後２日分の体力を温存していたのだから、北斜面の雪原でグリセード、尻制動を始める。　柔らかくなった雪の上を歩くよりも速いし、楽だし、雪山訓練の実践だし、いつの間にかみんなで滑落停止の訓練になっている「もっと引きつけて！」「体の回転が遅い！」「そんなんじゃ止まらないぞ！」「うまい、うまい、それでいい」村松リーダー部長の檄が飛ぶ、おかげでピッケルワークも大分さまになってきた。　自信がついたかと言えばついた、しかもこの後、一番後ろを歩いていた私は、２度程足を滑らせたが、何事も無かったかのように振る舞っていた。（１度は、気付かれたが）

完璧だ！　(^_^)v　（練習の直後だったからである）　訓練は、大切だ！　つくづく思う。

もし直前に練習をしていなかったら、大怪我をしていたかもしれない、これを未然に防ぐことが出来たのである。



日暮沢小屋から林道歩き

労山は凄い、タクシーは来ない。

まだ、日暮沢から大朝日岳（今日中には、竜門小屋より先は無理だろう）を目指し登ってくるパーティー何組かとすれ違う。　彼らは遅い…、アプローチも、天気による対処も…。

花抜峰からすぐ下の根子川へのルートが見えると、我々のルートもぐんぐんと高度を落とす、“登りは、いやだろうな”と思いながら下る。

下りきったら、３００m位先に日暮沢小屋がある、綺麗な立派な小屋が建っている、以前はかなり見窄らしかったのに、山小屋に予算がつくのは、有り難い、本当に有り難い。

１２：１０到着、予約のタクシーが来るまで昼食をつくる。

地元の山岳会の２人組と話をする、千葉から来たと伝えると、「労山の方７名ですね」と帰ってくる、我々が朝日に入ることをこの人達は、知っていたのだ。

勤労者山岳連盟がこんなに凄い組織だとは、初めて知った。　今まで無事ゆえの無知なのか？　どこかの国と同じかもしれない？

山形の組織は、朝日、飯豊を始め大きな山域を抱え体制が整っているのだろうか、情報の共有だけでも親しみがわく。　この人達は、万が一不測の事態が起きたときに出動していただけたのか、僅かな会話から感謝する立場になっている。

我々も房総で事故が起きたら出動するのかな？　よその県から房総の山に登に来るのかな？　大事故なんて有り得るのかな？　無いとは言い切れなくても、東北や中部地方は言うに及ばず、埼玉の秩父、東京の奥多摩、神奈川の丹沢と比べてもやはり見劣りしてしまう。

千葉の登山者は、他県の人達の世話になる一方なのか？　申し訳ないと言うより寂しい思いだ。

ラーメンを食べ終わってだいぶ時間が経つのに、タクシーは未だに来ない。　約束の時間をだいぶ過ぎているのに、谷間である為、携帯電話は発信できない。

先程の２人組より「根子から日暮沢までは、車は通行できないよ」と聞かされ一同唖然。「だってタクシー予約してあるよ！」いい加減なタクシー会社だ！（１日目に使ったタクシー会社とはちがう、あそこはタオルをくれたぞ）

自然に対しての文句は無いが、いい加減な人間には腹が立つ！

西■町役場も同じである、事前に日暮沢までの通行可との照会をしてある。　参加人数によっては日暮沢口とバカ平口に車を置いて、日暮沢～小朝日岳～大朝日岳～竜門山～寒江山～天狗角力取山～バカ平のルートを考えていたのだ。

これでやっと、天気が悪いのに遅い登りをしている人達の行動が解った。　道路が使えないのだ、小屋の周りに車が１台も無い、何故もっと早く気付かなっかのだろう。　前日に登ろうとした人も、前夜に車で小屋まで来て朝から登ろうとした人も、通行止めで大幅に狂ってしまったのだろう。　“帰りで良かった、余裕があって良かった”と思う、天気のせいで必要以上に余裕があったものの、“これが登り始めだったらどうだろう？”　完全なる意気消沈の危険な山行になっていたかもしれない。

幸い、下りの林道である、気を取り直し（だらだら？）歩く、水芭蕉が綺麗である、蕗の薹が旨そうである。　林道は疲れが一気に出ると同時に緊張もほぐれる、道いっぱいに広がり話しながら進む、話題は花ばかり、足は付いていけるが、話には付いていけない。

いずれ水没する工事中のダムの内側を歩く、梯子を登ってダムを越える。

段々風景が冬から春に変わる。(^_^)

根子の集落が見えてくる頃、路面が見えてくる、いろいろなナンバーの車が十数台駐車してある、今までにすれ違った人達の車だ、日暮沢まで行くつもりだったろうに、ご苦労様。

民宿“さくお”はよいところ

バンジージャンプは、やりたくない。

根子に着くとまず電話を捜す、民宿に迎えを依頼する、酒屋を捜す気力は無い、一度おろしたザックがとても重い、さっきまで背負っていたのが嘘のようである。

迎えのワゴン車が到着する直前に、雨が降り出す、「よかった、よかった、間に合った」遙か遠くになった朝日連峰は黒い雲に覆われて上の方が見えない。

ワゴン車に揺られ数分で“民宿さくお”に着く、取り敢えず下山の連絡を入れる、「１日早いんじゃない」「いつ帰ってくるの？」今日は初めての結婚記念日であった、すっかり忘れていた。（今朝までは覚えていた、本当だってば！）

今年度から登山部は、グレードＢ以上の山行を２回以上参加しなければならないというとてもありがたい決まりが出来た、追い風だ、事前の工作もバッチリであった。(^o^)

問題は、明日からの事後処理だ、洗濯物も多い…。(-_-;)

何事もなかったかのように、いつもの反省することの無い反省会を早く開催したい先輩達に急かされ、風呂に入る。

２階の部屋で一旦乾杯し、１階の食堂で夕食を食べる、山菜を中心とした美味しい料理だ。

夕食後再び宴会となる、ビール、お銚子ともに十数本を７人で飲む、しかも翌朝の会計時“こんなに安いの？”と驚く、また来たくなる。

突然、村松さんが「俺は高いところが大好だ、バンジージャンプがしたい」と言う、確かこの近くにあったなと思い、若女将に訊ねる、「隣の朝日村にあります、結構面白いですよ」とのこと、「今度また来よう、バンジーやろう！」と言うが誰も同意するわけがない（明日も雨で良かった）今度と言っても他にも登りたい山はたくさんあるのだ。　“でも、以東岳と天狗角力取山には近いうちに登るぞ、けれどもバンジーは絶対やだ！”

雨が強くなる、酔いが回る、清家さんのザックからいろいろな物が出てくる、“まだ入っているの？”“今度は何？”と最近は驚かなくなったが、あんなに詰められるのが不思議でしょうがない、１度あのドラエモンのポケットの中を見てみたい。　私のザックは、部屋が広いのを良いことに、東南アジアの市場のように広げたままだ、片付けなければと思いながらも、“反省会の途中だ、これを反省しよう”で済ませてしまった、これでは、通勤電車の様に布団１枚に３、４人押し込めるとても人気のある山小屋などには、泊まるどころか、近づく資格すら私には無いようだ。

反省会はまだまだつづく

飲んでるだけ？　でも勉強になる。

５月４日は、朝から雨が強い。

予定通りであれば、“今頃、天狗小屋からバカ平に向かっているはずだなぁ…”残念。

昨日の雨程度であれば、強行できただろうが、今日の雨では大変だろうな、停滞しても予備日の明日は当てにならないし、昨日下山して大正解だった。　リーダーの判断一つで安全、快適にも、苦難、遭難になるか、良いリーダーについてきた、本当に勉強になりました。

月山湖を９：５０の特急バスに乗るために、民宿の旦那にバス停まで送ってもらう。

雨は降り続く、傘を差すのが面倒なので、ドライブインの店先で雨宿りをする、この油断が大失敗であった、直前にバス停に並んだ人達は、座ることが出来たのだ、我々は山形駅までの７０分間も通路に立ったまま過ごすことになる。

バスに乗る前、柴さん、村松さんが「や～や～」「お～お～」と向こうから歩いてくる男の人を迎入れる、まるで十数年来の友人に出会ったようだ、（本当にそうだった）この方が１０月の講演会の坪田さんであった。

つばさ号を１本見逃し、次のつばさ号に確実に座る、８人で一番後ろの席を陣取る。(後ろの席と壁の間、回転した前の席とその前の席の間にザックを置くスペースがたくさんできる)

また反省会だ、ビールもつまみもたくさんある、“ぶなの山旅”という本を坪田さんが出版されたとのことで、登山談義に花が咲く、東北の山の話ばかりだったので私も参加できた、北アや花の話であれば、チンプンカンプンだったろうにと思いながら我孫子まで続く。　その後もいつもの蕎麦屋へ、“なぜ話が尽きないのであろうか？　雉打ち以外は４日間もずっと一緒にいたのに”と思いながらも同じ趣味の先輩達は本当にありがたい。

今回の山行は、天候の悪化で予定のルートを縦走できず残念でしたが、リーダーはじめ、皆さんのおかげで楽しい山行ができ、また、それ以上に良い勉強になりました、ありがとうございました。

今度は、以東を目指そう！

山　名	朝日連峰
主　峰	大朝日岳　１８７０ｍ
形　式	縦走、解放小屋利用
期　間	平成１１年　５月　１日～　４日
山　域	東北（山形・新潟県境） 磐梯朝日国立公園
地形図	1:50000　朝日岳 大鳥池 1:25000　羽前葉山 朝日岳 大井沢
目　的	雪山合宿
参加者	Ｌ村松、柴、清家、村松峯、 安田、北川、SL 川下
費　用	約 38,000 円 (交通費、民宿、他ビール代等含む)
行　程	(実施ルート)
１日	つばさ 111 号　左沢線　タクシー 新新幹集合→山　形→左　沢 6:22　8:59/9:23　10:10 途中昼食 ＝朝日鉱泉～鳥原小屋（泊） 11:40　16:40
２日	鳥原小屋～鳥 原 山～小朝日岳 6:10　6:40　8:50 ～大朝日小屋～大朝日岳 10:30　10:50 昼食 ～大朝日小屋～西朝日岳分岐 11:00/12:05　14:00 ～竜 門 山～竜門小屋（泊） 15:10　15:20
３日	竜門小屋～竜 門 山～熊 糞 山 7:40　8:00　9:00 昼食 ～清太岩山～日暮沢小屋 10:00　12:10/13:30 送迎　民宿“さくお” ～根　子＝大 井 沢(泊) 15:15　16:00
４日	送迎　特急バス　つばさ 130 号 大 井 沢＝月 山 湖＝山　形 9:30　9:50　11:00/12:40 →上　野→我 孫 子 15:15　16:00
計　画	(予定ルート)
１日	行程に同じ
２日	行程に同じ
３日	竜門小屋～寒 江 山～三 方 境～天狗角力取山～天狗小屋（泊）
４日	天狗小屋～焼　峰～バ カ 平～大 井 沢＝月 山 湖＝山　形→上　野→我 孫 子
５日	予備日
備　考	(コース状況)
①	残雪量は、例年より多かったもよう。　今年は、日暮沢から根子まで道路が不通だった。
②	鳥原小屋、竜門小屋ともに快適に宿泊できた。　トイレもきれいだ。　どの小屋も寝具、食料持参のこと。(通年)
③	大朝日小屋もよい、日暮沢小屋は新築できれい過ぎ！　月山の山スキーヤーの無料宿泊所？
④	展望等は、文中を参照してください。

＜１００＞

川苔山

奥多摩を代表する人気の山

山西澄子

（山の由来）

川苔谷でカワノリが採れるのでその名前がある。地形図は古くから川乗山としていたが、近年、川苔山に転記された。

常緑樹の力強さが新緑の初初しさを引き立たせ、つつじ、草花が色を添えるそんな沢沿いの山道を丸太橋で何度か沢を渡ると百尋の滝に辿り着く、ここから渓谷と別れて山頂まで少し辛い登りが続く、山頂ではおいしい豚汁（ごちそうさまでした）。下山は約２時間、登りより辛かった。うす暗い樹林帯、明るい新緑・・・と、風景、山道共に変化に富んだ楽しいコースで紅葉の頃又是非登ってみたい山でした。

実施日 平成１１年５月２日（日）

高尾山頂の茶屋で、お面白い詩が書いてあったので転写してみた。

長寿の心得

人生は、６０歳から

一、七十歳で、お迎えの来た時は、
　只今　留守だと云え

一、八十歳で、お迎えの来た時は、
　まだ　早いと云え

一、九十歳で、お迎えの来た時は、
　そう　急がずともよいと云え

一、百　歳で、お迎えの来た時は、
　ボツボツ　行くと云え

気は ながく　心は 丸るく

腹を たてず　口をつつしめば

命　　ながらえる

合　掌　HT



＜１０１＞

大　峰　山

（八経ケ岳　1915m）

大台ケ原山

（日出ケ岳　1695m）

細野省二

古い歴史の山道をたどり
近畿の最高峰をめざす！

第１日

～　登山記録最古の山へ　～

行者還ﾄﾝﾈﾙ西口には自家用車で乗りつけた車が２０台ほど川沿いに並んでいる。ﾄﾝﾈﾙの入口からいきなり急登高度差４００m登る。奥駆道と呼ばれる山上ケ岳からの縦走路に着き一息を入れる。周りを見るとサツキ，車ユリがずいぶん多い。登るにつけ石仏や石碑が苔むした山道に多くなってきた。今から 1345 年も前に開山した役ノ小角の歩んだ道を登っているのか！

小雨も降り出して足元も歩きにくい、聖宝ノ宿跡から雨も本格的になる。日本一多雨の山と覚悟はしていたが…。樹林帯の胸突き八丁といわれる急坂を黙々とのぼる。もうすぐ！もう少しと気力をふるいながらやっとﾃﾝﾄ場が見えた。弥山小屋から２００mほど離れたﾃﾝﾄ場は広く快適。この日の先着のﾃﾝﾄは９張、青空も見えてきた。色とりどりの干すシャツの色が並ぶ。テン場独特ののんびりとした光景がナントも言えない！。樹林のそばに幕営適地を見つけ２張り設営。横になりのんびり過ごす。すぐ近くの弥山神社に参り，ついでに改装なった弥山小屋を偵察，室内は清潔で食事も美味そうだ。５月のゴールデンウイークのためか宿泊者は７０人ほどでほぼ満員。

この山脈は→北は吉野から仏生ケ岳、釈迦ケ岳、涅槃岳そして最後は熊野本宮まで紀伊半島を１００ｋｍ、１２００m以上の山が約 50 座という大山脈らしい雄大さが続いている。昭文社の地図によるとコースタイム約４７時間。まさにここは近畿の長大な尾根であると言えよう。

この日のﾃﾝﾄ食は大阪の友人が差し入れてくれたジャンボにぎり飯と、Ｍｒウイスキーちゃんが座を和やかにした。

第２日

～岩を駆ける修験者のルートに～

朝５時、カメラだけ持ち大峰山脈最高峰の八経ケ岳に向かう。途中オオヤマレンゲの群落がある。トウヒ、シラベの原生林のなか、鹿の害から保護する金網に囲まれた登り降りが続くルートを 40 分ほどで登る。南西にそびえる黒木に覆われた見晴らしの良い露岩の山頂に着いた。この山は 100 名山のため弥山小屋に泊まった人達の記念写真で混み合った。

今日の計画は和佐又ﾋｭｯﾃまで。⇒10 時間は覚悟する長丁場である。その到着点が快適なﾃﾝﾄ場になるはずだ。どんな山が待ち構えているか期待をこめてザックを担ぐ。

コースは石休場宿跡までは第 1 日目のルートを戻る。そこからゆるやかな尾根を元気に写真を撮りながら下る。縦走路の途中朽ちた避難小屋を見る。その先の鞍部に位置する行者還小屋は古い昔の小屋だ。外では２０人ほどの登山者が日陰に休んでいた。小屋はﾎｰｽを遠くから引きこんでいて飲料水には苦労しているようだ。

先ほどからヘリが飛んでいる。3 日前に入渓した男性が行方不明で見かけた人は…とアナウンスしている。私達も気を引締める。その先の七曜岳で偶然にも奈良の若い５人のパーテイが捜索に疲れて腰を下ろしていた。私達に『心当たりがないか、どの沢に入ったかも判らないのでと…。』と情報を求めていた。

気持ちを引締め、先を急ぐ。しばらく歩くと若い学生の遭難碑を横に見る。いよいよ国見岳の登

りにかかる。ここから長いクサリやハシゴが多くなり、さながら岩登りの様相だ。極めつけは水太覗きと大普賢岳である。大きな岩の登り下りの連続に声をかけあう。高巻には落石の危険がつきもの。近くには笙ノ窟の奇岩や大絶壁が迫ってきた。まもなく径（みち）は明瞭になりホッとする。写真を撮る事も忘れていた。緩やかな山すそをめがけて下ること2時間半、やっと和佐又ヒュッテが見えてきた。下りきった平原は5月の連休でレジャーに来ている人々のﾃﾝﾄや、バーベキューの匂いで充満。この別世界と12時間歩き通した我々の疲労感をどう表現しようか。

「よう歩いたやんか！達成感は２００％とちやうか！」…。３日間とも終始、車でサポートしてくれた大阪のナベさんの一言で決まりました。

嬉しい事に和佐又ヒユッテは泊まり客以外にも食堂を開放中。ここで注文料理に舌づつみ、久しぶりの満腹で幸せ感いつぱい。
この夜の幕営は会話も途絶え、すぐに就寝。

3日目

～眼下に海を望む…大台が原山～

朝９時大台ケ原駐車場はほぼ満車でバスは３台ほどだ。自家用車族が続々集まる。

今日は最高峰の日出ｶﾞ岳に向かう。登山道入口はバス停からすぐだった。標識に導かれ枯れた巨木の続く道を４０分ほどで、大台ケ原の最高峰日出ｶﾞ岳に着く。登山客より観光客でにぎわう。頂上の展望台から熊野灘の入り江が見えた。山行３日目のため、たかが海が近い事だけで感動する。大峰連山も眺望するが薄雲にさえぎられ残念な事に八経ケ岳が同定できない。

枯れた木立やイトササが正木ケ原を引き立てる。野生鹿が多く、危険！の看板が多い。しばらく進み尾鷲辻の道標に出会う。三重県に近い事を知る。やや下った深い自然林は多雨の気候の影響で湿気が多い。コース途中の大蛇ぐらの展望台は巨岩の大絶壁で足がすくむ。恐るおそる先へ進むが恐くて半分ほどで引き返した。

大台ケ原一周コースは大峰山脈に比べ物足りなさを感じた。やはりこの先をくだり大杉谷を加えてこその大台ケ原山であろう。

文献によると深田さんは大台ケ原に２度訪れ「水清く豊かで、渓谷の美しさは日本で屈指と」絶賛した。…それは大杉谷の数々の滝やツリ橋を長時間歩いたからこそ…。

私もいつの日か三重県側から登路をとり，山と渓谷の魅力を発見したいと思っている。

大阪から参加の佐々木さんよ、

『おおきにありがとうさん』。

＜概要＞

山名	大峰山脈　（八経ケ岳） 大台ケ原山（日出ガ岳）	２泊 ３日
期日	平成１１年５月１日～3日 ゴールデンウィーク	
山域	台高山脈（紀伊半島）	
目的	①、遠い近畿の山脈、 ②、修験者の山 ②、全行程　テント泊	
参加数	：細野省、細野清、外崎、佐々木 ４名　他に１名サポート隊	
地図	昭文社（ｴﾘｱﾏｯﾌﾟ） ／大峰山脈、大台ケ原	
日程	①東京600新大阪→吉野～ﾄﾝﾈﾙ西口…聖宝ノ宿跡…弥山17,30（幕営）。 ②弥山　5,00⇔八経ケ岳…行者還小屋…大普賢…和佐又18時（幕営。） ③和佐又～大台荘前P…日出ｶﾞ岳 正木ｶﾞ原…大蛇ぐら…駐車場　12.40 吉野駅13,20解散	



弥山から行者修験の普賢岳を望む



近畿日本鉄道　特別急行券　1010-8310-1

吉野神宮 → 近鉄奈良（17：33着）

5月 3日 16:07発 阿部野橋ゆき 2号車 18番

のりかえ橿原神宮 16:55発 京都ゆき 2号車 24番

のりかえ西大寺 17:28発 奈良ゆき 2号車 24番

99-05-03 15:55:39吉野神334　870円

テント泊の

1．テント設営料金は
(水は１人に付き２[illegible]ま

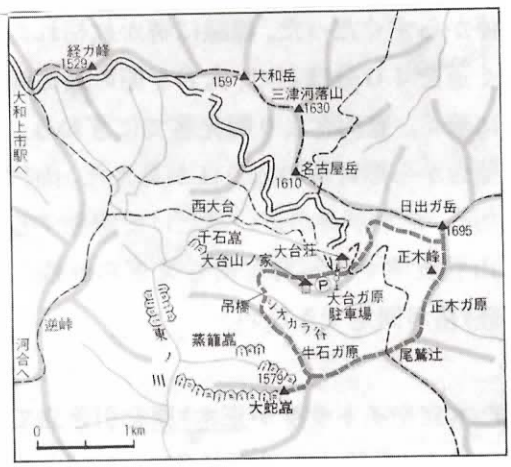
1．山小屋施設の
(利用に付いては夜・朝
ペーパは便器に捨てな[illegible]で箱に入れて下さい)
洗面所・[illegible]使用は有料です。

1．テント設営は草木を傷めない事たき火等は厳禁

1．テント撤収は午前８時までにして下さい
ゴミ・残飯等は必ず持ち帰り下さい。

1．夜 食料又は残飯等テントの外に出しておかない事(動物が荒らします)

以上　他の人の迷惑にならぬ用 自然を壊さぬ用お願い致します。



弥山小屋　管理者

＜１０２＞

久慈男体山

（６５４m）

大桃和子

緑のシャワーを全身に浴びて

岳人あびこに入会して、２年２ヶ月余り経ちました。山行きも回数を重ねてきて、ますます魅力が深まってまいりました。どうやら体力と筋力も少しづつついてきて、心地よい達成感を味わうことが出来るようになったこの頃です。

今回は憧れの山の一つ、奥久慈の男体山に挑戦しました。この山は断崖絶壁のある荒々しい山、また四季を通して変化があり楽しめる山とのことです。五月晴れに恵まれて、最高の山行きの日和となりました。

バスで袋田の滝に向かう窓から見える山々が、萌黄色に染まって春を先取りしていました。

登り始めは袋田の滝のすぐ横から入り、険しい階段が1,146段もありちょっと驚きましたが、脱落することもなく一気に上ることができてホッとし胸を撫で下ろしました。

月居山での月居城跡の石碑と大イチョウが印象的でした。その一角には西行法師の句碑があり、しばし昔を偲ぶロマンチックさに浸りました。

西行法師の句

花紅葉　よこたてにして　山姫の

　　錦織り出す　袋田の滝

いにしえの　幼なき日々に　春を想う

月居山を経て男体山までは、７～８回のアップダウンの道が続き、岩場と鎖場があり、足腰の鍛錬になり、最高の充実感と心地良さを味わいました。

太陽がサンサンと降り注ぐ中、山の美味しい空気を吸って、緑のトンネルが続いて、緑のシャワーを全身に浴びての尾根歩き、また展望台からの遠い山並の眺めも素晴らしく、目にしっかり焼きつけて来ました。

風薫る五月、新緑の奥久慈の男体山はとても静かで心安まる、思い出に残る山行きとなりました。

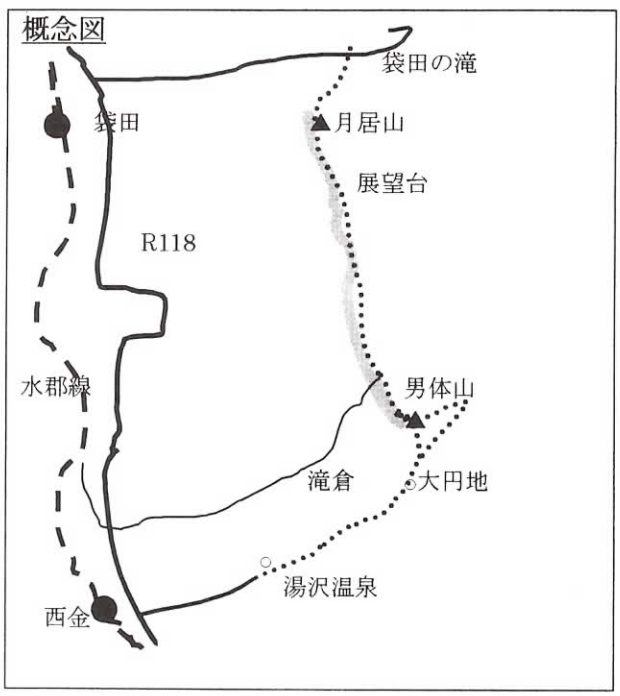
下山しての温泉は、疲れた体をやさしく癒してくれました。

今回は沢山の山野草が咲き誇っていて感激しました。

出会った花

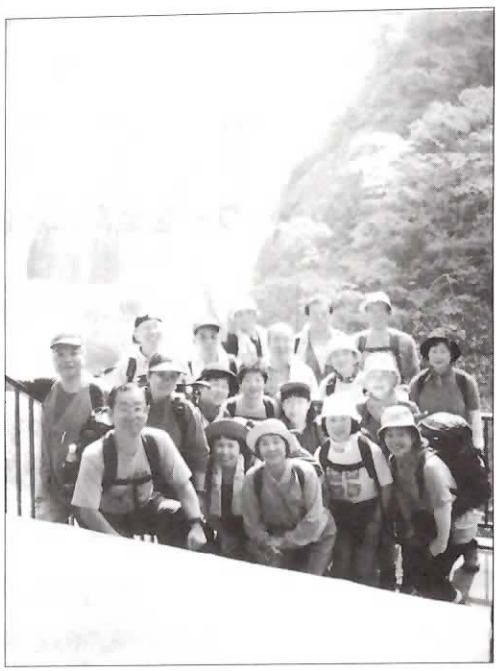
山フジ、山ボウシ、ウツギ、ホウチャクソウ、ヤブレガサ、モミジガサ、ホタルブクロ、ホトトギス、山ツツジ、マムシグサ、スズラン、イカリソウ、ギボウシ、チゴユリ、姫リンドウ、二輪草。

概念図



概　要

山名	久慈男体山	山行形式	日帰り(A＋)
期日	平成１１年５月９日（日）　天気：晴		
山域	奥久慈	地形図	袋田、大中宿 (1/25000)
目的	奥久慈の名山の静かな尾根歩き、新緑の中を。	費用	4,000 円（貸切バス、飲み物、入浴料）
ﾘｰﾀﾞｰ	中村隆泰	参加数	１９名
日程コース　9日	布佐－我孫子 6:00－谷和原 IC－〈常磐道〉－那珂 IC7:20－(R118)－袋田の滝 8:10／8:25…月居山 9:30…第２展望台…男体山 13:35…大円地 15:10…湯沢温泉－西金－(R118)－那珂 IC－谷和原 IC－我孫子 19:30－布佐 歩行時間：5 時間 40 分		



袋田の滝にて→



↑月居山にて



あの山に登りました。
男体山を背景に

メモ	頂上まであと一息というところで一人歩けなくなり、男性二人がサポート、別ルートで下山。一時はあきらめていた温泉もリーダーのはからいで入浴が叶い、汗を洗い流すことが出来た。 リーダーは皆を温泉に下ろし、そのままバスで西金駅まで直行、しかしタクシーは営業終了。嫌がる袋田のタクシーを無理に呼んで、故障者を滝倉まで迎えに行く。（バスは入れない） 歩けなくなった人はもちろん一番辛かったと思うが、サポートした二人は頂上も踏めず、リーダーともども、楽しみにしていた温泉にも入れず、バスの運転手さんにも予定より大幅に遅れ、待ち合わせ場所を間違えたのではと心配させたりした。(S)

＜１０３＞

丹沢三ツ峰

飯合しげ子

春本番の丹沢

バス停につくと長蛇の列、臨時バスが出ると言うのでしばらく待つ。



さすが春本番！

１時間余りのバスの中、蒸し暑くつらかったです。

丹沢三ツ峰は丹沢山を起点に北東方向の宮ガ瀬に向かってのびている山稜をいう。縦走は多少ハードですが、林相は美しい。晩春から初夏にかけてシロヤシオ、ミツバツツジなどが山稜を彩ります。



５月、まさに新緑に覆われた山は香りが違う。心が和みます。道々で咲いている花を楽しみながら登りました。丁度見頃のマメ桜、チョー可愛。途中クリーンハイクの方に会いました。

シロヤシオはまだかと気にしながら塔の岳へ。塔の岳は、丹沢屈指の大パノラマを楽しむことができるというが？、霧で全然。雲行きが悪くなって来たので、今夜の宿に急ぐ。アレ――、掘っ建て小屋（ごめんなさい）のようなみやま山荘。布団はふかふかだが、雨漏れがひどく、私の布団と洋服はビショビショ。トタン屋根に響く雨音、むし暑く寝ぐるしい夜でした。

２日目。出発時間になると雨も上がり、シカが見送ってくれました。太礼の頭のあたりでやっと会えたシロヤシオ、２分３分咲といったところだがきれいだ。首が痛くなる程みんなで見上げていました。

高畑山を過ぎた所でほぼ全員ヒルに取りつかれた。頭の中はパニック、もうだめ。バスの中でも大騒ぎ。温泉に入っても気が休まらない。もう二度と行きたくない。

家に帰ってから原因不明のしっしんで病院に行くはめになってしまいました。残念なことにヒルの為にシロヤシオが頭から消えてしまった。



山　名		丹沢三ツ峰	形　式	山小屋泊
期　日		平成１１年５月１５日(土)～１６日(日) 天気：１５日(曇り)、１６日（曇り、小雨）		
山　域		丹沢	地形図	秦野、
目　的		縦走、新緑とシロヤシオ		
費　用		約１０,０００円（交通、宿泊、入浴など）		
参加者		清家(Ｌ)、細野省(ＳＬ)、柴田(記録)、高橋寿(会計)、榊原(ＳＬ)、中村隆、原田君、長木(写真)、増田、小黒、中野、安田、佐藤(会計)、松村、飯合(やまなみ)、石田、由布 以上１７名		
日程コース	１日目	我孫子(5:00)―新宿(6:46)―小田急秦野(7:47/8:18)バス―ヤビツ峠(9:00/9:15)―富士見橋(9:35/9:45)---二ノ塔(10:50/11:00)---三ノ塔(11:15)---烏尾山(11:40/12:15)---新大日(13:30)---塔ノ岳(14:10/14:30)---丹沢山みやま山荘(15:35) ＝歩行時間６：３５（休憩・昼食含む）		
	２日目	みやま山荘(7:00)---太礼の頭(7:45)---円山木ノ頭(8:10)---本間ノ頭(9:00)---金冷し(10:40)---高畑山(11:08/11:35 昼食)---下山口(12:50/12:57)バス―別所温泉(13:20/14:35 入浴)バス(14:48)―本厚木駅(15:24)―代々木上原(16:25)―我孫子(17:35) ＝歩行時間５：５０（休憩・昼食含む）		

＜１０４＞

鳴 虫 山

（1104m）

中村美智子

新緑のシャワーをあびて

鳴虫山の由来は、この山に雲がかかると雨が降り出すことが多いので、泣き虫山と呼ばれ、転訛して現在の鳴虫山になったと言われる。

日光市街地の南にあり、東武日光駅から15分程で登山口に着く。杉や檜林の中をどんどん登ると１時間で神ノ主山に着く。山頂からは展望が開け、日光市街、男体山と日光連山が見渡せた。

神主山から先の尾根道は北側の雑木林の新緑がさわやかで、目を楽しませてくれた。南側は杉や檜の植林で展望はなし。小さなピークがいくつもあって、何度もアップダウンを繰り返す。木の根が表面に出た尾根で、骨・ほねの階段を楽しんで登った。ヤシオツツジは過ぎてはいたが、オレンジ色の山ツツジが所々に咲いていて、疲れをいやしてくれた。

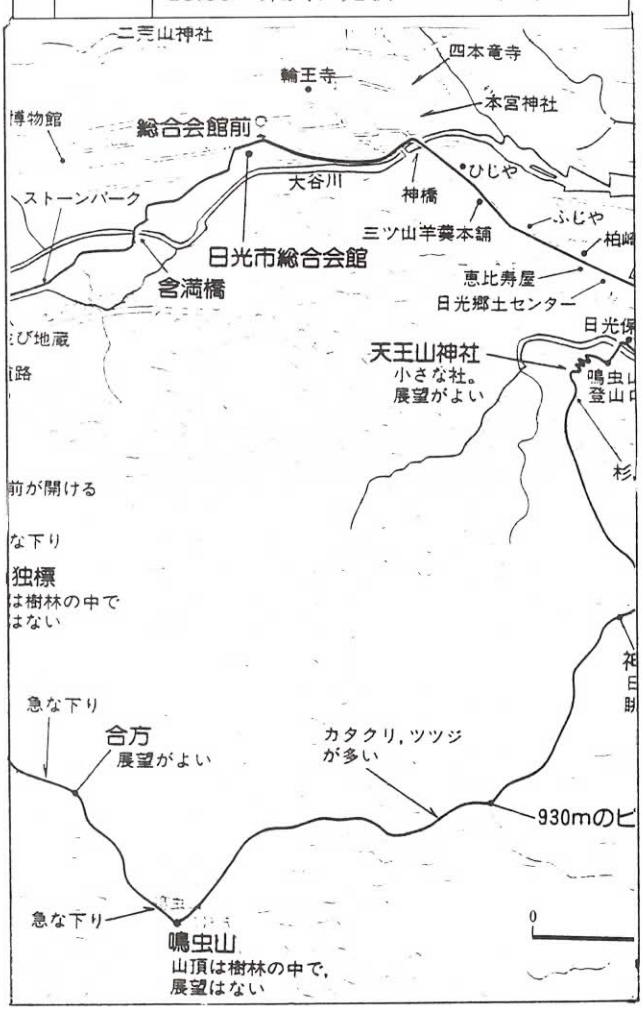
鳴虫山の頂上は雑木林の中の小さな広場でゆっくり昼食を味わった。山頂の木々の間から日光連山を望むことが出来た。

合方へは急降下で、緑のシャワーをあびながら足元に気をつけて下りる。合方からも又急な下りで、階段が所々くずれ、歩きづらい木道もあり、用心しながら下りた。

発電所を通り右に折れると、日光八景のひとつに数えられる含満ヶ淵に着く。淵を見たり、数えるたびに数が違うと言う別名化け地蔵を何度も数えたりして楽しんだ。国道まで歩き、さらに駅まで、119号線をひたすら歩いた。いつも見る神橋はかけかえの最中でした。

五月晴れの一日。原田君子さんの初リーダー、新緑を全身に浴びた、さわやかな山行でした。ありがとうございました。

山　名	鳴虫山(A)		山行形式	日帰り
期　日	平成11年5月22日（土）　快晴			
山　域	日光	地形図	日光	
目　的	新緑とヤシオツツジ			
交通機関	東武日光線			
参加数	9名	リーダー	原田(君)	
歩行時間	4時間20分	交通費	約4,000円	
日程コース	22日	我孫子 5:30(成田線、常磐線)＝東武北千住 6:31＝東武日光駅 8:24／8:40～神主山 9:45／9:50～鳴虫山 11:05／11:55～独標 21:40～含満ヶ淵 13:25／13:35～東武日光駅 14:25＝我孫子		



＜１０５＞

岩　　山（鹿 沼）

安田 みづほ

リ ― ダ ― 研修 に参加して

新鹿沼駅に着くまで村松Lにロープの結び方エイトノットなどを教わる。駅より歩いて行ける岩山なんてどこに?15分位で神社がありその森の奥に岩山はあった。まず、神社の境内で村松Lより登山の楽しさ、厳しさ、仲間作り、パーテイのあり方、リーダーの役割、天気について、地図の読み方、休憩の取り方、道に迷った時の対処など登山の基礎知識の講義あり。(リーダーって大変だなあ~~)
休憩のあといよいよ実技です。ロープワークの勉強をひととおり教わったがまだよくわかっていない。クライミングダウン?トップロープ? ビレー? (むずかしい岩の用語)
清家さんがするすると登って行く。(先祖はおサルさん?)(すごいね~) しりごみしていたが、順番がきた。足場を探して右へ左へ、登れば今度は下りがこわい!身体をもっと傾けて!ビレーを信じて、大丈夫だから、足元をしっかり見て!下から声が飛ぶ。こわごわ降りるものだからとうとう身体を振られてしまってスリ傷を作った。(岩登りでは人に命を預けると言う事で信頼できる仲間作りが大切。) 昼食のあと、場所をかえてもっと垂直に近い壁に挑戦!
ハーネスなるものをつけてヘルメットを被り三点確保を頭に入れて登り、三点確保で(クライミングダウンという)降りる。(この時は何がなんだかわからないままだったが、あとで登山学校で岩を体験してこの訓練が役にたっていたのです。)
しかし村松Lのロープさばき、ビレーといい若かりし日のリーダーの姿を想像した。
リーダーの言葉をかりて「リーダーの最大の努めはパーテイが出発から下山まで安全に遂行できるかです。また、リーダーの最も大切な役割は危険を予測し、回避する事です。」
一度や二度ではなかなか覚えられないことなので何度もこうゆう機会を作ってもらい繰り返し身体で覚えることが必要だと思います。緊張の中、心地よい疲れが残った今回の岩登りリーダー研修は有意義な一日を例のごとく反省会で締めくくった。

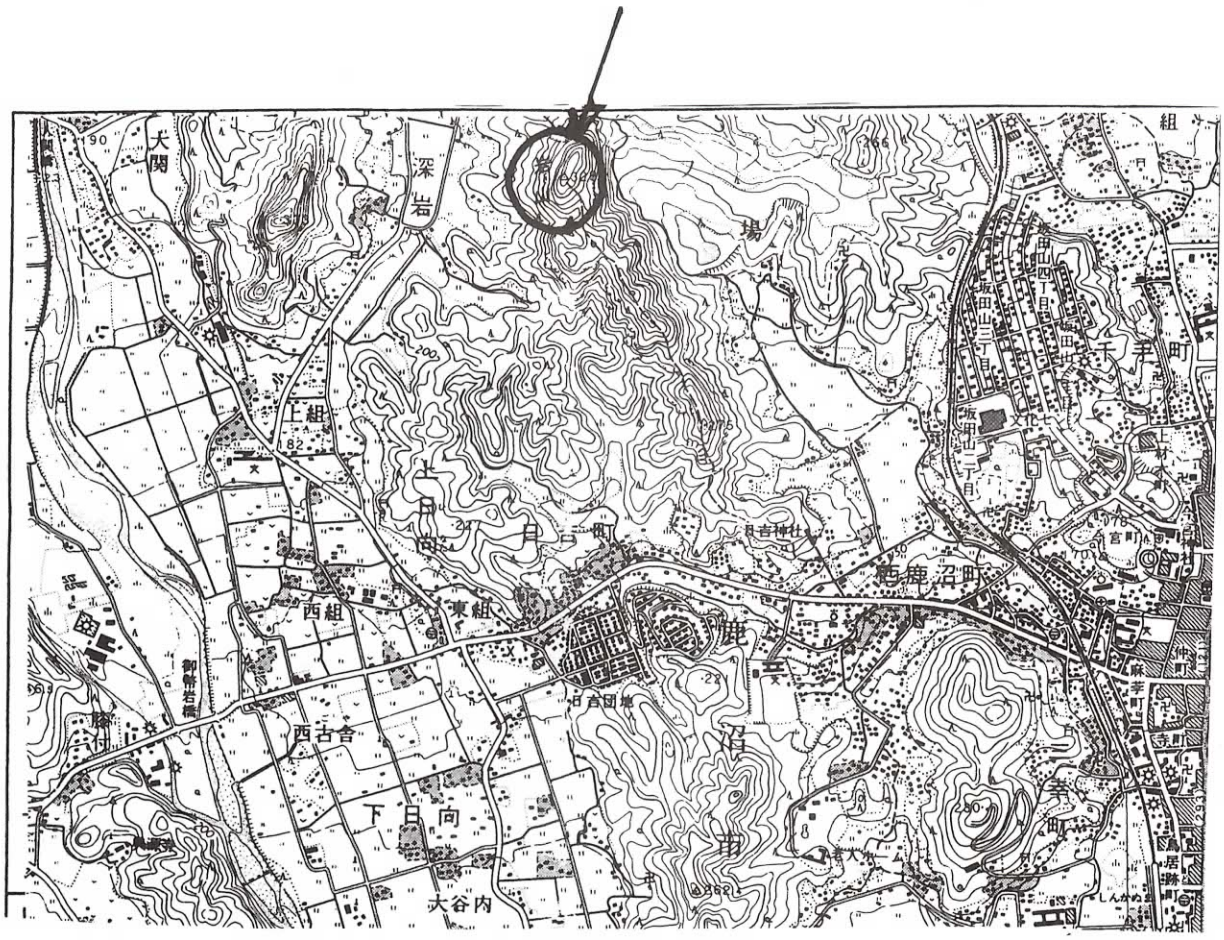
［ 山行日 H11年5月30日（日）］

＜韋駄天＞→清家




できた！
ブーリン結び


木をまたげればベター
足を踏ん張る
かならずセルフビレーをとること！
軍手ヌはクライミングシトンと！
素手でのビレーはあかん
セカンドは肩がらみ.


犬関
深岩
上組
西組
東組
西古舎
下日向
大谷内
御幣岩橋
日吉団地
日吉神社
鹿沼町
鹿沼
千手町
坂田山四丁目
坂田山三丁目
坂田山二丁目
麻苧町
寺町
鳥居跡町
しんかわ

＜１０６＞

公開登山　**両　神　山**（秩父）

１７２４m



「参加させていただいて誠にありがとうございました。天候にも恵まれ、いい思い出が出来ました」

「山って不思議。登ってしまうと、きつかったことなんてすぐに忘れてしまうんですね。おいしい空気と素晴らしい景色のお陰かな…。ごはんもとても美味しくて、たっぷり眠れて、温泉にも入れて…あ～本当によかったな～！　また行きたいな～！」

「皆さんの助けでやっと登りました。でも、すばらしい山に登れてとてもうれしく思っています」

期　日：平成１１年６月５日（土）～６日（日）　　両日とも晴
目　的：市民交流、新緑、ヤマツツジ
山行形式：山小屋＆テント（１泊２日）
班編成：CL 村松敏彦　　下線は公開参加者
A 班：CL 村松(敏)、SL 齋藤、宮坂(記録)、大串(恵)(救急)、小川(洋)(ｶﾒﾗ)、原田(君)、飯高、小川(珠)、高橋(裕)、小沢、高橋潔　11 名
B 班：L 清家、SL 大串(秀)、柴田(記録)、菊地(ｶﾒﾗ)、中村(隆)、高橋(芳)、武内、大高、荒栖、加井　10 名
C 班：L 柴、SL 高橋(英)、三浦(ｶﾒﾗ)、中村(美)(救急)、原田(和)、山西、小川(総)、山田、山根、中野、高山、高木　12 名
参加者総数　３３名(会員 20 名、一般 13 名)　(小屋泊 22 名、テント泊 11 名)

コース：(詳細は各班参照)

1日目：我孫子北口貸切バス・ワゴン車5：40－関越道－小鹿野－納宮8：45…日向大谷…会所…清滝小屋(泊)

2日目：清滝小屋…**両神山**…一位ガタワ…白井差…白井差口－両神温泉薬師の湯12：10／14：00－関越道－我孫子駅北口17：20着

費　用：山小屋　約15,000円、　テント　約11,500円

〔A班〕

歩　程：1日目：納宮9：05…1050m(折返し)11：45…分岐点13：05…日向大谷…清滝小屋16：10

2日目：清滝小屋6：20…両神神社7:20…**両神山**7:55…両神神社8:30…一位ガタワ9:45…昇竜の滝10:50…下山口10：55

歩行時間：1日目　7：05、　2日目　4：35（休憩、昼食を含む）



メ　モ：①指導標が分かりにくかったので、確認もせずに歩いてしまいました。結構険しいコースと思いながら、1050mで昼食中にコースが間違っているのが分かり、分岐点まで戻ることになりました。

慎重に分岐点まで下り、清滝小屋を目指してもう一度トライです。途中で、心配して柴さんと高橋さんが迎えに来てくださり、とても嬉しく忘れていた笑顔が戻りました。ジグザグの登りは結構きつかったのですが、おいしい水で一息入れようやく到着です。先着の皆さんが拍手で迎えて下さり疲れも吹きとんでしまいました。

人任せにしないで一人ひとりが指導標の確認をしなければと反省しています。

②朝の4時ごろでしょうか、小鳥のさえずりで目が覚め、清々しい朝です。両神神社にザックを置き、身軽での登頂は楽でした。緑の中につつじが咲いていたり滝があったりで、下界を忘れて満喫できました。(宮坂)

〔B 班〕

歩　程：１日目：納宮 9：05…日向大谷 11：15…会所 12：08…八海山 13：30…弘法の井戸 14：05…清滝小屋 14：20

２日目：清滝小屋 6：22…両神神社 7：25／32…**両神山** 8：00…両神神社 8：40／9：00…のぞき岩 9：05…一位ガタワ 9：55…御手洗場 10：15／30…昇竜の滝 11：00…下山口 11：06

歩行時間：１日目　５：１５、　　２日目　４：３５（休憩、昼食を含む）



メ　モ：　快晴に恵まれ、その目的や志を達成したことは、偏に会長始めリーダーの情熱の賜物と深謝いたします。急登の連続とはいえ、我が班は高山植物特別講師を得たように花々を中心に、いつしか皆会員という雰囲気となり、蒸し暑さもあっていい汗を流し、いつもよりずっとたくさんの水を補給しながら登りつめた。清滝小屋で待っていたのはブヨの大群、どちらが招かざる客だったのでしょう。今も刺された後に痒ゆみが残る。

２日目早朝は鳥たちのすさまじい囀りに目が覚め、ゆっくりとテントの中で楽しんだ。後に両神山は野鳥の宝庫であることを知る。（ブッポウソウの声を直かに聞きたかったが…）

流石と思われる山々は、黒く重なり合い、谷も深く複雑な山容を呈していた。標高１５００m 位までは広葉樹林の美しさにひかれ、渓谷美もすばらしく、アップダウン、鎖場、のぞき岩も迫力満点、実に歩き甲斐のあるいい山でした。　　（柴田）

メ　モ：・快晴に恵まれ、その目的や志を達成したことは、偏に会長始めリーダーの情熱の賜物と深謝いたします。急登の連続とはいえ、我が班は高山植物特別講師を得たように花々を中心に、いつしか皆会員という雰囲気となり、蒸し暑さもあっていい汗を流し、いつもよりずっとたくさんの水を補給しながら登りつめた。清滝小屋で待っていたのはブヨの大群、どちらが招かざる客だったのでしょう。今も刺された後に痒ゆみが残る。

・２日目早朝は鳥たちのすさまじい囀りに目が覚め、ゆっくりとテントの中で楽しんだ。後に両神山は野鳥の宝庫であることを知る。(ブッポウソウの声を直かに聞きたかったが…)

流石と思われる山々は、黒く重なり合い、谷も深く複雑な山容を呈していた。標高１５００m 位までは広葉樹林の美しさにひかれ、渓谷美もすばらしく、アップダウン、鎖場、のぞき岩も迫力満点、実に歩き甲斐のあるいい山でした。　（by 柴田）

〔C 班〕

歩　程：１日目：納宮 9：03…楢尾沢峠 10：25・10：28…日向大谷 10：57／11：02…キワダ沢付近 11：35(昼食 25 分)12：00…清滝小屋 13：43

２日目：清滝小屋 6：27…両神神社 7:30／35…**両神山** 8:10／25…両神神社 8:50／9:05…のぞき岩…御手洗場 10:20／30…白井差小屋…白井差口 11：40

歩行時間：１日目　３：５０、　２日目　４：１０（休憩、昼食を除く）



メ　モ：(1)天候は晴れ。全員若さあふれる行動でスピードは健脚登山並で歩く。楢尾沢峠への急登でようやくスローダウン。それ以降は順調そのもの。

(2)昼食はキワタ沢付近で、新緑の屋根の下、流れの岸辺の石に座り、小鳥の鳴き声の中で、昼食場所としては自然が与えてくれた最高のステージ。手作りの「おにぎり」がとてもおいしかった。

(3)午後は順調に 1 時 43 分清滝小屋に到着。他の班が到着しないので心配。L と SL が応援隊として小屋を出発する。仲間を助けに行く山男のすばらしい行動に拍手。

(4)第二日目も快晴。先発の A・B 班を見送り、最後にスタート。元気者の C 班は急勝でも全員快調。午前 8 時 10 分に両神山山頂に登頂。空は真青、眼下にはまばゆいほどの緑、眼前に広がる絶景。最高の気分を満喫する。

(5)万全の態勢で下山開始。途中「のぞき岩」で下界を見るが最先端まで危なくて行けない。多くの「鎖場」も心配することなく全員元気に白井差口に到着。

公開登山に参加して

アイウエオ順（敬称略）

参加者（班）	公開登山に参加された感想又はご意見（原文のまま）	今後も参加したい
荒柄一枝（B班）	みなさんとても親切で楽しく登山が出来ました。次の公開登山にも、ぜひ参加させて頂きたいと思います。	はい
小川聡子（C班）	今回は参加させて頂き、どうも有難うございました。大変お世話になりました。 日帰りで、ハイキングには時々行きますが、山小屋に泊まっての登山は初めて。とても楽しみにしていました。 ベテランの方々が傍らについて下さっていたので、気分的にもとても楽で!!安心して登ることができました。 それにしても、山って不思議。登ってしまうと、きつかったことなんてすぐに忘れてしまうんですね。おいしい空気と素晴らしい景色のお陰かな…。ごはんもとても美味しくて、たっぷり眠れて、温泉にも入れて…あ～！本当によかったな～!!また行きたいな～！て思いました。本当にありがとうございました!! 「岳人あびこ」、いいサークルですね!! 皆さん、とっても楽しそうで、私も一緒に楽しませて頂きました!!	はい
小川珠江（A班）	山に登りたいという思いだけで自分の体力（日頃トレーニングしてない為）を考えずに参加してしまい、一日目はバテてしまい、皆さんの助けでやっと登りました。本当にご迷惑をお掛けしました。でも、すばらしい新緑の両神山へ登れたこと、とてもうれしく思っています。 リーダーや他の会員の方に、歩き方、休み方などアドバイスを受け、とても有意義な二日間を過ごさせていただき、ありがとうございました。 これから、少し毎日運動しようと思います。又、機会がありましたらよろしくお願いします。	少し体力をつけてから… はい
小沢寿子（A班）	足手まといにならないようにと気をつけ乍ら登りましたが、皆々様の御指導と御協力のお蔭で楽しく登らせて頂きましてありがとうございました！又、機会がありましたら参加させて下さい。	はい
大高典子（B班）	お天気に恵まれ久しぶりに皆様と一緒に楽しい山行が出来ました。 遅いグループがあり心配しましたが、無事下山できて良かった。 又、公開登山がありましたら参加したいと思います。 岳人あびこの方には大変お世話になりありがとうございました。	はい
参加者（班）	公開登山に参加された感想又はご意見（原文のまま）	今後も参加したい

加井俊吉 （B班）	この山行きに参加させていただき誠に有りがとうございました。皆さんもほんとうに親切で楽しい２日間を過ごさせていただきました。 リーダー・サブリーダーを始め会員さんには指導も適切で、それに天候にも恵まれ良い思い出になりました。 次の参加を楽しみにしています。是非の企画をお待ちしております。ほんとうにありがとうございました。	はい
高木克吉 （C班）	すごく楽しかったです。そして親切にしていただきありがとうございました。 確かに体力的に余裕がありましたが、丁度良かったのかもしれません。無理をしなかったという意味で今後も参加する機会があれば、是非テントに泊まり、技術的なこと等を習得したいです。	はい
高橋　潔 （A班）	計画・実施と色々ごくろうさまでした。この地区の山へははじめてなのでいい経験となりました。	はい
高橋裕子 （A班）	好天と素適な同行者・指導者に恵まれとても楽しい山行でした。秩父の山には行ったことがなかったのですが、高さの割に変化に富んだ山で、ロープや鎖場の体験が出来て面白かったです。野鳥の多さにも驚きました。予習しておけばよかったと思います。 テントの方たちが大きくて重い荷物を背負っておられたのには感心しました。楽はしたい、朝の野鳥の声も聞きたい、ウ～ン体をきたえるしかないのかな…。 ・やせ尾根を やせがまんして「いい気持」！ ・夏のうららの両神山 のぼり下りの山人が 鎖の雫も花と散る 眺めを何にたとうべき ユキグサ、クワガタソウ、ウワバミソウ、ラショウモンカズラ、カイジンドウ、マイヅルソウ、ツバメオモト、ギンランなど、きれいでした	はい
高山和彦 （C班）	とても面白い山だったと思います。鎖のある部分など単調ではなかったところが気に入りました。公開参加ということで皆様に気をつかって頂いて本当にありがとうございます。 ただ単に山に登るというのではなく、教育になる部分があれば更なるステップアップにつながると思います。	ときどき… はい
中野　彰 （C班）	日程的に余裕があったので楽しめました。のぞき岩からの展望が最も印象に残っています。ではまた。マツキヨ！	はい
山田弘子 （C班）	はじめて参加させていただきました。皆様あたたかい人達でとても良かったです。 高い山は無理かもわかりませんが、ハイキングなら参加させていただきたいと思っております。よろしくお願いします。	はい
山根憲吾 （C班）	朝早かったのが結構つらかったです。歩行時間がもう少し長い方が良かった。	はい

＜１０７＞　高畑山～倉岳山

「岳人」に入会させて頂いて初めての新人研修山行です。　**飯沼　トミ子**

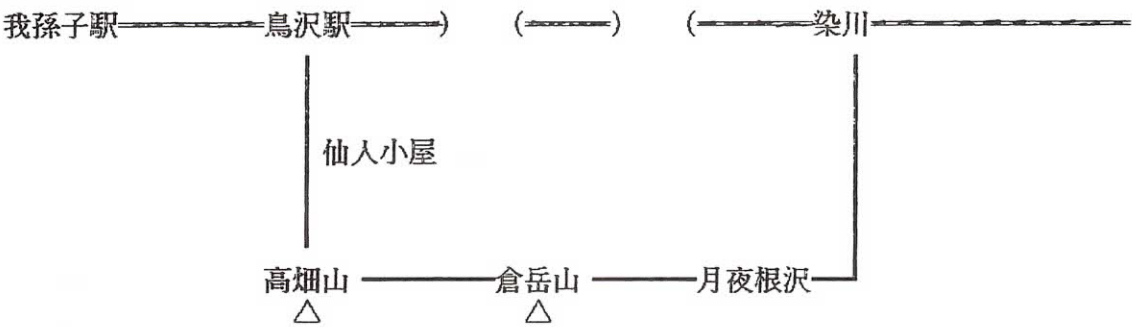
我孫子駅０５時３０分集合、鳥沢０８時０７分着。駅前でリーダーより地図の見方と登山開始への詳細なアドバイスを受けてスタート。自分の身体は未だ覚めておらず、登山への心拍もままらない。タクシーを使用せず小篠貯水池まで序走、北側には安定した扇山が眺められました。いよいよ美しい緑の屋根の下を昔ながらの自然道を登り始めました。

仙人小屋跡を過ぎ、ひのき林を急登、爽やかな追い風に助けられ無事に高畑山に登頂。「秀麗富嶽十二景九番山頂」と云われる所で昼食。食後、倉岳山へと出発し、あっという間に山頂に着いた。

３０分程の休憩後、一路急降下開始。足元に注意をしながら月夜泯沢に沿って下山。途中、急傾斜で大きな岩が重なる中に樹齢何百年（？）の栃の木が数本見られた。この自然環境の厳しい中での生き抜きは、さぞ大変だろうな、、、。これからも汚染され行く自然界で生き抜いて欲しいものだ。

久し振りの山行に参加して登った、と云う実感をかみしめた（体力の減退を若干感じならも）。この週辺には単独登山をしても安全で景色の素晴らしい山々が結構ある様に見受けられました。

私事ですが、山をこよなく愛する親友を亡くした後の久し振りの山行きを通して、山を愛する気持ちが実感をもって心に迫るものを感じました。その友が愛した中央線沿線の山々に出来るだけ登山できる様に、これから充分な体力を作る事だ、心に誓った次第です。諸先輩の皆様、宜しくご指導下さい。一歩一歩前進のみ、牛歩の様ではありますが、年令に負けず自分の体力が続く限り頑張って行きたいと思います。



ハイキング定例山行

山　名	高畑山　～　倉岳山	山行形式	日帰り
期　日	平成１１年６月１３日（日）　晴れ		
山　域	中央線沿線	地　図	陣馬　　高尾
目　的	前道志の２山と峠をつなぐ好コースを歩く	交通機関	ＪＲ中央線
リーダー	清　家	参加人数	１３名
歩行時間	４時間５６分	交通費	２，０４０円（一人当たり）
コース	我孫子駅 05:33═新松戸═西国分寺═高尾═鳥沢駅 鳥沢駅 08:25分～小篠 08:55/09:00～仙人跡 10:20/10:30～ 高畑山11:05 昼食 11:45～倉岳山 12:43（休憩32分） 13:15 ～立野峠 13:45/13:50～立野 15:00～　染川駅 15:20 15:35 ═西国分寺═══新松戸═══我孫子駅18:20		

＜１０８＞

本社ヶ丸 ～ 鶴ヶ鳥屋山

（１６３０m）　（１３７４m）

由布　仁子

四期生／新人研修 No.3

6月も中旬、「新人研修」と銘打たれた以上は参加せねばなるまい…と雨の長時間歩行を覚悟した私でしたが、当日は“晴れ！”。 ああどうしよう、久しぶりの鍛錬山行、先輩方について歩けるだろうか、天気のせいにもできないし、登山部には入ったもののトレーニングなんてやってないし、ああどうしよう～。

不安いっぱいで歩き出した私でしたが、このホンジャガマルというひょうきんな名前の山は、林の中を蝉の声が響く緑豊かな山でした。新人の参加は二人。初めての山でもあり緊張で口数も少なく、気心の知れた先輩同士のくだけた会話を聞きながらモクモクと登ります。

清八峠までけっこうな急登です。汗がじっとりとザックの背に感じられる頃、前をゆく細野リーダーから休憩のお許しが出ます。実にいいタイミング。ペースも速すぎず、でも余裕のあるほどではなくて、私の太ももは久しぶりに脂肪が燃焼している感じです。

少しの休憩でも、ちょっとお腹にたまる食べ物をすばやく出してパクついている先輩は、さすが山慣れているという印象を受けました。実は、私もお腹がすくととたんにパワーが無くなり、時と場所、天候も選ばず、何か食べなくては足が上がらなくなると言う根性無しなのです。口いっぱいに含んだチョコボールを噛みながら、その先輩に親近感を覚えた私でした。

本社ヶ丸から鶴ヶ鳥屋山までの稜線歩きは、小さなピークをいくつも登り降りするダイエットコースです。入山する人の数が少ないのか、足下は柔らかな土と少し湿った枯れ葉のジュータンでした。頭上には緑のトンネルがあり、帽子を脱いで心地よい風を感じながらの２時間半でした。

なぜか皆カメラを忘れたので、地元の登山者にお願いして記念写真を撮ってもらい、送っていただくことになりました。山の一期一会、出会う人に親しみを覚えるのも山の良さです。

ツルガトヤサンというこの山からは、地図を読みながら支尾根を一気に下ります。途中の林道が一休み地点で、ルート確認の目安になります。

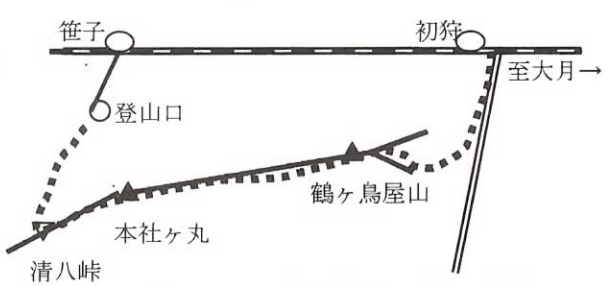
実際には、かなりはっきりした踏み後があり、林道からの登山道入り口も道標がありました。踏み跡は薄くなりますが、まもなく丸田沢堰堤が、ほぼ真下に見えてきます。

『細野リーダーは下りが早い！。きっと体重が軽くて重心が低いせいだ。それとも足の回転が速いのか。いや私の登山靴は底がすり減っているから危なくて…』等々、つまりは自分の足の筋力不足だと分かってはいるのですが…文句と言い訳は、後れをとる悔しさです。速くて長い一時間半でした。

丸田沢堰堤から初狩駅まで40分余り。途中、赤や黄色の野いちごを摘み、田舎道をしっかり陽に照らされて、疲れた足を振り子のように出して歩きました。のどが渇いて、頭はすでに駅前のビールを思い描いています。

『キーンと冷えた缶を持ってプシュッとプルを引く。ゴクッ ゴクゴック～ン！うまいっ！！これがあるから山はやめられないネッ』

思い描いたとおり、全員、快い疲れと満足感と、一体感に酔いました。



山　名	本社ヶ丸～鶴ヶ鳥屋山		
山行形式	日帰り		
期　日	平成11年6月13日	天　候	晴れ
山　域	中央沿線		
目　的	夏山の体力つくり 新人教育⇒地図読み		
リーダー	細野省二	参加者数	9名
歩行時間	6時間05分		
コース　我孫子5:33⇒大月8:30TX⇒登山口8:55→清八峠10:43/11:00→本社ヶ丸11:20→鶴ヶ鳥屋山13:38/14:00→林道15:10→丸田5:30→初狩駅16:05			





頂上で出会った山梨の登山者に写真をお願いした後日、この写真が郵送されました。出会った若者の暖かさが、いまでも心にのこります。



小道をうずめ尽くした、マイズルソウ

＜１０９＞

湯の丸山・四阿山

（2101m　2354m）

佐藤きみよ

レンゲつつじの群落と

カラマツの新緑

長野より、しなの鉄道で小諸へそしてタクシーで地蔵峠まで着いた時は、今にも降りだしそうな空もようでした。準備体操をし、ぼつぼつ降りだした霧雨の中を出発する。

間もなくするとレンゲつつじの花に出会う。あざやかな花の色に感嘆の声。

つつじ平から烏帽子岳にかけては高山植物が豊富で、足取りも軽く皆が楽しそうに散策する。岩陵帯の烏帽子岳はガスの中にあって残念・広場で昼食をとる。

来た道を途中まで引き返し、湯の丸山への登り口は急登でゴロゴロした石の上をよじ登る、烏帽子岳が比較的に楽に感じた分、けっこうきつく感じられる。

湯の丸山頂は、ここもガスの中で何も見えないので写真を撮って角間峠へと下る。ここまで来ると先が見えて気持ちが楽になる。

角間峠からはシラカバ・カラマツ・レンゲつつじ・シダの茂る道をワラビを取り、タラの芽を摘み、寄り道をしながら牧場を下り、民宿“わたらせ”へとむかう。

摘んだタラの芽は民宿で天婦羅にあげて頂き皆さんでご馳走になる。民宿では岳人だけのパーティだったので、ゆっくりと出来た。食事はめずらしい川魚のヤマメのさしみが出てきたり、山菜の豊富に使われたご馳走に大満足・・・・。

今日一日はなんとか先輩方について消化する事が出来たが、明日は山が無くてもいいと内心思いながら床に着く。

翌朝、民宿の車で鳥居峠まで送っていただいた。峠のゲートから真直ぐ林道を行くとカラマツ林となり、的岩の分岐へでる。花道寺まわりで的岩山をへて四阿山へ向う。

登り口で朝食を取って出発、みずなら林を延々と歩く、結構きつく余裕はない、それでも所々にいわかがみの花畑。マイズル草や御前たちばなの咲き誇った花が苦しい気持ちを癒してくれる。

頂上は石が多く、お天気があまり良くないので展望は今ひとつである。だが足元に目を転ずればこれほど楽しませてくれた山は始めてである。ぬかるんだ坂道を笹をかきわけながら一気に下り、根子岳へと向う。

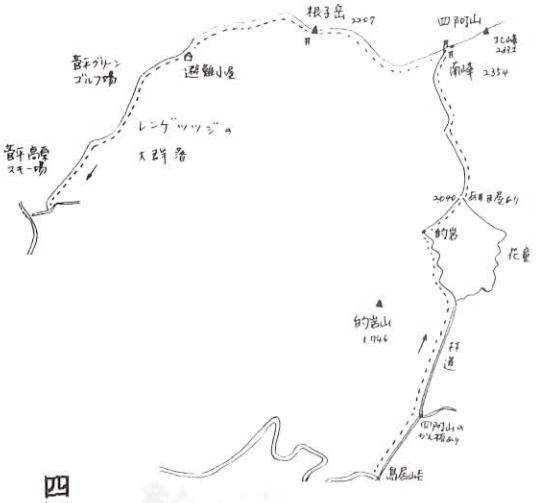
途中、笹の原で傘をさしての昼食、腹一杯を感じエネルギーを一気に爆発させて根子岳山頂をめざして頑張る。

頂上に着くと、みんな祠に手を合わせて無事に下山することをお願いする。菅平スキーコースにそって川床のような道を延々と下る。山全体が燃えるようなレンゲつつじ・・・のフィナーレに興奮し、牧場とゴルフ場の間を下ってスキー場から菅平のバス停へ。

レンゲつつじには雨がよく似合う、大満足の山行でした。

山　名		湯の丸山・四阿山	山行形式	民宿一泊
期　日		平成 11 年 6 月 19 日～20 日		
山　域		軽井沢	地図	上田
目　的		レンゲつつじの群落とカラマツの新緑		
コース	第一日目	我孫子 5;33＝上野長野新幹線あさま 6;32＝軽井沢 7;33＝しなの鉄道 7;39＝小諸 8;03－(タクシー)―地蔵峠 8;40～烏帽子岳 11;00～湯の丸山南峰 13;50 北峰 14;10～角間峠 14;50～鹿沢民宿わたらせ 16;30 分着。　泊り		
	第二日目	民宿 5;10～鳥居峠 5;30～分岐 6;45～朝食 7;00～的岩 8;10～2040 m ピーク 9;20～四阿山南峰 10;40～根子岳 12;45～避難小屋 14;05～菅平高原バス停 15;45－上田(長野新幹線)17;55－上野－我孫子 20;30 着。		





レンゲツツジが満開

ひと巡り、高みへ

四阿山は根子岳を含めてその美しさを見せる。



＜110＞

会津駒ヶ岳

（２１３２ｍ）

原田　和昭

気象条件と山行計画

山行第一日目は曇り、明日は雨の予報が出ていた。東武浅草駅７時発の快速電車で会津高原駅に向かう。車中でリーダーから明日は雨の降る確率が高いので本日午後の行動を変更し、沼山峠から尾瀬沼へのハイキングが提案され、急遽行動予定の変更が決まる。

沼山峠から大江湿原に出ると、マイヅルソウ、ワタスゲ、イワカガミ等の多くの可愛い草花が湿原一帯に咲いており、楽しい散策をすることが出来た。

尾瀬沼ビジターセンター前で約４０分間の休憩後、沼山峠を経由し檜枝岐村に帰り、農村歌舞伎の舞台、袖萩とお君の像、六地蔵等の歴史文化施設をゆっくり見学し、会津駒ヶ岳登山口の正面にある民宿「すぎの屋」に到着する。

民宿は新築２階建のきれいな宿で、夕食は素朴な山菜と川魚料理、自家製の手打ち蕎麦に舌鼓みを打ちながら楽しい一夜を過ごした。

翌朝は夜半から降り出した強い雨音で午前４時に起床、雨があまりに強いので行動開始時間をづらし、状況を見る。民宿の窓から登山口を見ていると、何人かの登山者が山に入っている。５時過ぎに頂上まで行けなくても、行けるところまで行くことを条件に民宿を出発し、雨天の中での登山が始まる。

国道を渡り林道に入る滝沢橋登山口から約３０分で木の階段に着く、頂上まで５．３ｋｍの標識を確認して階段を登る。道は滑りやすくジグザグな急登の連続、周囲の樹木はブナなどの広葉樹林に覆われ、雲は低く暗い急傾斜の道を全員黙々と登る。

時々、雲のきれ目で山全体が明るくなる時があるが長続きはしない、小休止をしながら約２時間で中間点にあたる水場に到着。休憩中にリーダーから登山続行について意見をもとめられたが、全員雨天での続行意志表示があり、厳しい自然条件の山行になるので、あらためて注意を喚起し出発する。

高度１７００ｍ位になると登山道付近には多くの雪が残り、気温も急に下がり手や顔は一段と寒く、山全体はガスに覆われ眺望は全くきかない。お花畑に出ると急に風は強く、木道は滑りやすく周りは残雪が一段と多くなる。こんな気象条件の中でもギンリョウソウ、ガマツミ、ショウジョウバカマ、サクラソウの小さな花を見ることが出来た。

駒の小屋で小休止と軽食を取り、荷物を残して駒ヶ岳山頂に向って出発する。強風と向きあいながら大雪渓を横断し目的地の山頂に立つ。頂上付近はガスで覆われ見通しは最悪であったが、厳しい自然条件を考えると山頂まで登ことが出来た喜びで満足する。

下山準備を整えると予定ルートを変更し、登って来た道を引返す、道は荒れたままで、残雪や大きな水たまり、水が滝のように流れる道、ジグザクな道を急降下、大変危険な道を確実に一歩一歩と下山する。登山口入口の木製階段に到着した時は、カッパも靴も上はねで真黒くなり下山の厳しさを一層痛感する。

林道に出ると緊張していた気持が一気にゆるみ、安堵の気持と往復１３ｋｍを踏破出来た満足感で、全員の顔が笑顔に変身する。朝からの気象条件と山の条件、踏破した時間等を考慮すると登山グレードとしてＢプラスになるのではないかと考える。全員が元気で下山出来たことに深謝する。

檜枝岐温泉駒の湯で汗と雨で濡れた身体をサッパリと洗い流して、再度、晴天時に駒ヶ岳に挑戦することを決めて帰路につく。

期日：平成１１年６月26日～６月２７日

目的1）お花畑と池塘の山上をハイキング

2）尾瀬の山々、日光連山の展望

天気：第一日目　はれ、第二日目　雨

リーダー：大串秀、　参加者　１４名

交通機関：電車とバス

ルート：第一日目　我孫子 5:30＝北千住＝浅草＝会津高原駅 10:21／10:45＝沼山峠バス停発 12:40～尾瀬沼ビジターセンター 13:50/14:15～沼山峠バス停 15:20＝桧枝岐民宿着 17:35。　歩行時間　3時間45分

第二日目　民宿発 5:30～水場 7:25／7:55～駒ノ小屋 9:10／9:30～会津駒ケ岳山頂 9:55～駒ノ小屋 10:10／10:20～水場 11:25／11:35～登山口着 13:05＝会津高原駅 16:20／16:58＝北千住 19：51＝我孫子着 20:30

歩行時間　6時間40分



平均年齢00歳　　高年

雨に、バンザイ



＜１１１＞

夜叉神峠・高谷山

庄司　洋子

白峰三山は眺められるかな

梅雨の末期の時期で、あちこちの地域で集中豪雨の被害がでているので、家人は大丈夫かとプレシャーをかける。

中央線は空いており一ボックスを独り占めして、ひと眠りしたころ列車は大月あたりで青空が顔を見せ、山並みがくっきり見えた。ラッキー・・・

大月で列車は切り離し作業があり前６両が甲府行き、後は河口湖行きである。甲府駅からタクシーに乗り50分ほどで夜叉神峠登山口に着く。

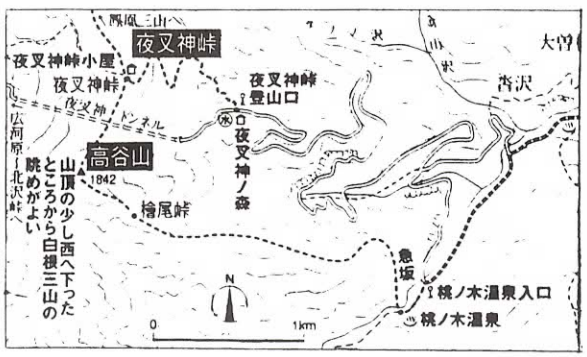
10時登り始めるが、しばらくはカラマツのなかを展望もない単調な道が続きそれほど急というほどの登りもなく一時間程で夜叉神峠（1700メートル）に着いた。峠から右にひと登りすると夜叉神峠小屋のたつ展望台の台地にでる。

そこから望む南アルプスの山波の眺めは圧巻であるそうであるが、今日はあいにくと濃いガスにつつまれている。が、昼食中、つかの間であったが、時々強い風にガスが流れ、北岳、間の岳の姿が眼前に見えた。感激　！

昼食を済ませて高谷山へ向かった。この山は人の訪れの少ない山のようで、くまざさをかきわけ、落ち葉を踏みしめ、さしたる急坂もなく高谷山（1842メートル）の山頂に立った。頂上は以外と狭く、雑木で展望はあまりきかない。

高谷山からの下山路は人の訪れの少ないルートで道らしい道がなく急勾配で、しばらく足元の悪い下りがつづく。やがて尾根はヤセてきて、ルートの案内表示がないのでリーダーは常に道の確認をしながら急坂をくだってゆくので大変。尾根を外れ急坂を下っていくとやがて、山腹に通じている林道にでる。林道のすぐ下が桃ノ木温泉。

一件宿、桃栄館の湯でゆっくり山行の汗を流して、ビールとソバ（残念ながら期待していたほどではなかった）で乾杯し帰路に着いた。



山　名	夜叉神峠・高谷山　（A）		山行形式	日帰り	
期　日	平成11年 7月 4日（日）　曇り				
山　域	南アルプス北部	地図	夜叉神峠 1/25000		
目　的	・白峰三山の展望・夏山トレーニング		交通機関	中央線	
日程	我孫子 ＝ 新松戸 ＝ 西国分寺 ＝ 立川 ＝ 甲府 ＝タクシー 5:12　6:44　8:44　9:00 ＝ 夜叉神峠登山口 9:50 出発 … 夜叉神峠（昼食）… 高谷山 … 桃ノ木温泉（タクシー） 10:00　11:00/11:40　12:15/12:20　14:35/16:15 … 甲府駅 ＝ 立川 ＝ 西国分寺 ＝ 新松戸 ＝ 我孫子着 17:00/17:32　20:55				
コース					

＜１１２＞

朝日岳・白毛門（谷川連峰）

(1,945m)　(1,720m)

リーダー：外崎　グレード：B+

日　　時：平成 11 年 7 月 24 日(土)～25 日(日)

山行形式：避難小屋泊り

目　　的：一の倉岩壁の展望と高山植物

地 形 図：茂倉岳・水上(１／25,000)

行動時間：１日目 5：50、２日目 10：00

交 通 費：約 12,500 円（新幹線、ｼﾞｬﾝﾎﾞﾀｸｼｰ、バスなど)

参 加 者：(L) 外崎、(SL) 大串秀、大串恵(会計)、斉藤、高橋英、飯高　(6 人)

コ ー ス：

１日目　我孫子駅 5：30＝上野 6：04／6：16（上越新幹線あさひ 301）≡越後湯沢 7：26／7：40―（タクシー）―林道終点 8：00／8：20～蓬峠 11：35／12：05（昼食）～七ツ小屋山 13：10／13：20～清水峠避難小屋 14：10 着　泊

２日目　清水峠避難小屋 5:10～ｼﾞｬﾝｸｼｮﾝﾋﾟｰｸ 7：15／7：30～朝日岳 7：50／8：15～笠ヶ岳 9：55／10：10～白毛門 11：05／11：25～松ノ木沢ノ頭～土合橋 15：10―（タクシー）―水上 17：50―（バス）―上毛高原駅 18：40＝上野 19：50／20：03＝我孫子 20：35 着

感　　想：

・蓬峠に通じる林道終点の登山口に、「熊出没」の看板あり。声を出し、笛を吹いて歩いた。蓬峠までは水場がたくさんある。

・蓬峠に着くとガスがたちこめてきた。シンと静まり返ったヒュッテでビールを調達し、清水峠へ。アルペン的な大源太山もガスの中。

・この夜、清水峠の避難小屋に 10 名程が宿泊。小屋の周りには、テント３張とツェルト２張が張られた。このうちの１張のツェルトに意気込んで休んだＨ・Ｔさんは、風でツェルトがはためいて眠れないと言って、夜中小屋にもぐり込んできた。

・翌朝は晴天となり、ジャンクションピークまで一気に登る。展望が開け、渡る風が心地よい。

・朝日岳周辺は池塘が点在する雲上の世界。朝日岳、笠ヶ岳からの眺望は見飽きることがない。ことに、緑の平原、清水峠に建つ２つの小屋は、懐かしき峠の我が家のようだ。

・山頂の狭い白毛門に立つと、正面にマチガ沢、一ノ倉沢、幽ノ沢の岩壁と雪渓がドンと迫ってくる。

・白毛門からは 1,000ｍをひたすら下降する。炎天下の上、足がくたくた。転落しないよう注意する。それにしても長い下りだった。

・土合橋まであと一息？の所で、雷と俄雨に見舞われる。逃げ場のない松林の大木の根元を下りながら、雨宿りはしたいし、でも木の根元は危ないというし…出発前のにわか学習が空回りし、ドッと汗をかく。

飯高　基晴



＜１１３＞

庚申山・皇海山

(1892m)　(2144m)

武　内　勇　二

1日目　我孫子～銀山平～庚申山荘へ

昨日(7/23)、関東甲信越の梅雨明け発表があった。愈々夏山シーズンの到来である。この山行も当初は1ヶ月前に予定されていたが雨のため中止、天候の具合を見て再計画されたものである。

7時過ぎ我孫子を出発、東武特急、渡良瀬渓谷鉄道と乗り継いで11:00通洞駅着、タクシーで銀山平に向う。銀山平から林道を行き、天狗の投げ石といわれる石のごろごろした斜面を横に見て約1時間で登山口である一の鳥居に到着。木立の中を清流が流れ一息ついた。

登山道は沢に沿った緩やかな登りから始まる。沢をわたる涼風が心地よい。約30分程で鏡石という大きな岩の所に出た。道に迷った猟師が猿に、助けてくれたら娘をやろうと約束したが為に起きた悲劇の場所とのことだ。庚申というだけに、話にも猿が登場する。更に登ってゆくと、夫婦蛙や仁王門と名づけられた岩石を通り、猿田彦神社跡を過ぎると程なく庚申山荘に着く。山荘は庚申山の岩壁を背にした大きな建物で100人以上は宿泊可能だが、食事、売店等のサービスはないので、山荘に着いてビールで乾杯というむきには麓から担ぎ上げるしかない。

計画ではこれからお山巡りの予定だったが、崩落で通行止めの為、天下の見晴しという展望地に向う。突き出た尾根の岩の上にあり、小法師岳や袈裟丸山の峰々が一望できる。山また山で、随分山深く入っていると実感できた。

山荘に戻って簡単に夕食の支度。親子連れの鹿が寄ってきてもの欲しそうに眺めていたが、何も貰えないのでやがて諦めて去っていった。「情けはシカの為ならず」である。

2日目前半　庚申山荘～庚申山～鋸山～皇海山へ

翌朝、3時50分起床。まだ暗い。4時20分軽い準備体操等の後出発。岩壁の下をへつりながらぐんぐんと登ってゆく。この道は関東ふれあいの道にも指定されているが、足元を固めた人でないと歩くのは難かしい。途中、大胎内とよばれる巨岩の前に出た。案内板に、南総里見八犬伝で犬飼見八の活躍の場面で庚申山の巨岩・奇岩が引用されていると書いてあった。犬飼見八が妖怪を弓で射、亡霊となった赤岩一角と出会ったあたりであろうか。自分が小説の舞台にいるような気になる。

樹林の中を更に高度をかせぐと、山荘から約1時間半程で庚申山の頂上に着く。頂上近くの展望台から、皇海山が姿を見せ、日光白根山、男体山、女峰山等の日光連山が指呼のうちに数えられた。空はあくまでも青く、所々に白雲が浮かんでいる。もし先月、雨の中で山行を強行していたらこの眺望は得られなかっただろう。何か得した気分だ。

庚申山より鋸山への道は、小さなピークを幾つか越えて行かねばならないが、樹林帯の中に道はしっかりとついており不安はない。最後のピークである薬師岳を越えたあたりから鋸山への登りが本日の一番厳しいところで、まずは7-8mの岩壁を下り、岩盤のトラバース、梯子、そして急斜面の直登と息つく暇もないが、木の根とロープを頼りに一気に登る。正に一

庚申山は信仰の山である

ガイドブックによれば、1200年前、日光開山の勝道上人により、庚申神「猿田彦神社」が建立されたとある。

さらに、広辞苑をひも解くと、庚申とは干支の一つで「かのえさる」とあり、更に庚申会(庚申待とも言う)とは、「庚申の夜、神道では猿田彦を祀って寝ないで徹夜する習俗。その夜眠ると人身中にいる三尸（注）が罪を上帝に告げるとも、命を縮めるともいう。」とある。

（注）さんし。道教で人の腹の中に棲んでいるといわれる三匹の虫。隠している過失をも知り、庚申の夜に人の睡眠中に天に昇り、その罪悪を告げるという。

皇海山は庚申山の奥の院として修験道にも利用されてきた。山容が笄(こうがい)（注）に似ているので「こうがいさん」と名づけられ、当てられた皇海という字が「すかい」と呼ばれるようになったとのことである。

（注）髪をかきあげるのに用いる具。箸に似て本を平たく末を細く、銀、象牙等でつくる。

直線にルートがついており、軟弱者は寄せ付けないぞといった趣であるが、距離は短くあっという間に山頂にとびでた。

鋸山は 1998m、小さなコブを挟んで間近に皇海山(2143m)が望まれる。ここからみる皇海山は木々にこんもりとつつまれやさしい姿をしていた。

鋸山からはまたまた急斜面の下りから始まる。帰路、またこの斜面を登りかえさねばならないかと思うとうんざりする。小石の斜面なので落石に注意しながら一人ずつ間隔をあけて降りるようリーダーの注意があった。やがて、斜面は緩やかになり小さなコブを過ぎると、利根村へ下るルートとの分岐にでた。不動沢のコルで、ここからは愈々皇海山への登りである。鋸山と比べれば緩やかだがやはり道は真っ直ぐ上に伸びている。

2 日目後半　皇海山～六林班峠～庚申山荘～銀山平

皇海山の山頂付近はオオシラビソの木々に囲まれ展望はあまり利かない。達成感はあるが、何となくもの足りない。やはり、山は展望がある方が登った時の感激度は高い。

登頂記念の写真を撮った後、早々に下山開始。鋸山を登り返した後の六林班峠への下りは熊笹が深く、時には倒木に道を阻まれ歩きにくい。やがて六林班峠に到着。ペットボトルの水が大分少なくなってきた。しばらく下ったところの沢に期待しながら喉をしめらす。山で水がないのは何とも心細い。

六林班峠を10分程下ったところで期待通り水場に出た。沢の水は冷たくおいしい。心ゆくまで飲んだ。道は何本かの沢を横切りながら、殆ど水平に山裾を巻いてゆく。3時過ぎ庚申山荘に到着。デポした荷物を再パッキングして銀山平に向う。

突然、雷鳴を聞いた。雨のことなど、全く気にしていなかっただけに驚いた。降り出す前に「かじか荘」に着きたかったがあと少しで猛烈な雷雨となった。5時過ぎに濡れ鼠となって「かじか荘」に到着。朝の4時過ぎより夕方5時までの13時間の山歩き、休み休みとはいえ、お疲れさんでした。

あとがき

皇海山は深田久弥の百名山の一つだが、利根村からの往復だけだと手軽ではあるが面白みが少ないのではないか。今回の昔からの庚申山からのルートは変化に富んで面白かった。残念だったのはお山巡りが出来なかったこと。次回の楽しみにとっておこう。

山名	庚申山・皇海山	山行形式	無人小屋泊
日時	平成 11 年 7 月 24 日（土）～25 日（日）		
山域	足尾山地	地図	足尾・袈裟丸山・中禅寺湖・皇海山
目的	昔のルートを大切に	交通機関	JR・東武・渡良瀬渓谷鉄道・ﾀｸｼｰ
参加数	5 名	ﾘｰﾀﾞｰ	細野省二
歩行時間	1 日目　2　時間 2 日目 13 時間	費用	10,000 円
日程・コース	(1 日目)　7:12 我孫子－北千住－相老－11:00 通洞－(ﾀｸｼｰ)－11:25 銀山平－12:50 一の鳥居－ 14:10 庚申山荘 (2 日目)　4:20 庚申山荘－5:40 庚申山－8:35 鋸山－10:15 皇海山－11:50 鋸山－13:00 六林班峠－15:15 庚申山荘－17:10 銀山平－(ﾀｸｼｰ)－通洞－相老－北千住－22:30 我孫子		

写真





＜114＞

火打山・妙高山

(2,462m)　(2,446m)

長木　加代子

「夏の暑さにもめげず
火打・妙高へ再び」

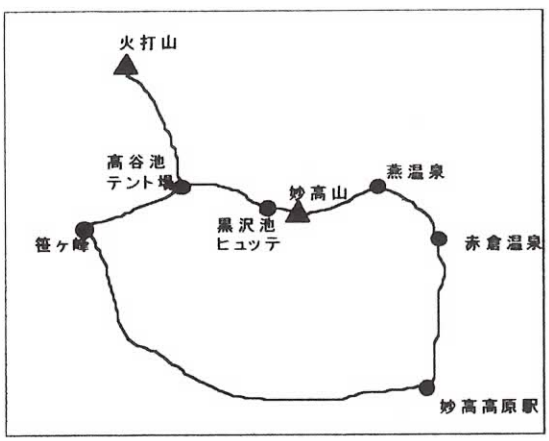
地塘と花、夢の庭園へ、又行くことにした。紅葉の彩やかさが目に焼きついて離れない。夏は……確かめたくて再び。

新幹線あさま５０１号で長野へ、乗り継いで妙高高原駅、タクシーで笹ヶ峰、時間の経過と共に気温がグングン上り、１２曲りのキツーイ登りにハーハー、フーフー。雄大な白馬大雪渓を眺めながら一息。「涼しいだろうなぁ」一人呟く。まさしく暑さとの戦い。ようやく高谷池のテント場へ。先行はゆっくり身体を休めていたが、私達B班は１０分程で、さぁー火打ちへ。数人はテント場に残り、途中下山も２、３人、私もその一人。中腹で軽い登山病？無理をせず、妙高・花・色とりどりのテント場をゆっくり見廻し下山。

元気組はスイスイと頂上へ。多分Vサインでパチリと満面笑みを浮かべて収まったことでしょう。地塘は白い花が多く、イワガミもさほど目立たず、目を見張る程の華やかさとは思えませんでした。

小黒さんと二人、黒沢池ヒュッテ泊りの手続きのため先行、少々心細い。熊が出なくて幸い、蚊に刺されたが良しとしよう。テント組は悠々、小屋泊りは７０名の定員に２００名でひしめき、その有様は想像におまかせするとして、かくして２日目妙高山へ。

ラッシュと急登のためタイムオーバーで山頂へ。３６０度の大展望。これだからやめられない！！女性的な火打山、岩塊の多い男性的な妙高山、つきぬ眺めを振り切って下山。妙高直下は高度感有り、クサリ場、ガレ場。注意を払い地獄谷の荒々しくゴロゴロした沢沿いを下り、光明の滝を見上げ、そこかしこに咲く花に慰められ、硫黄の臭いにワクワク（温泉に入れる）、源泉近くの冷たい水に喉を潤し、火照った足を沢の水で冷やしたり、各自思い思い温泉へ急ぐ。しかし残念無念…、入浴時間が足りない！横目で温泉宿を見ながら、せめてアイスクリームだけでもと涼を取り、バス・電車・バスと乗り継いで帰途に。



山　名	火打山・妙高山	形式	ﾃﾝﾄ＆小屋
期　間	平成１１年７月31日～8月１日		
山　域	妙高・戸隠	地形図	湯川内、妙高山、赤倉
目　的	地塘・花畑・温泉		
参加数	18名	ﾘｰﾀﾞｰ	柴
日程ｺｰｽ １日目	我孫子＝＝上野＝＝＝＝長野＝＝ 5:30　6:10 発:32　8:04 発 12 妙高高原－(ﾀｸｼｰ)－笹ヶ峰------- 8:48 発 9:00　9:45 発 10:00 富士見平------高谷池------ 13:00　13:50(A) 14:10(B)発 14:20 火打山---高谷池(ﾃﾝﾄ)---黒沢池ﾋｭｯﾃ 16:00　17:20　18:35		
２日目	高谷池ﾃﾝﾄ場---黒沢池ﾋｭｯﾃ--- 3:30 発:5:35　5:55 発 6:05 妙高山----------天狗平---- 8:40(A)9:00(B)　発 9:15 燕温泉－(ﾊﾞｽ)――関山駅　＝ 13:35 発 55　14:20 発 33 長野―(高速バス)―池袋＝我孫子 15:24 発 15:30　21:30　22:40		
ﾙｰﾄ状況	笹ヶ峰から黒沢 緩やかな登り 12曲富士見平 急登 火打山直下 少々きつい登り 黒沢池から妙高 急登 直下、注意を要する。		





高谷池を望む



＜１１５＞

烏帽子岳～穂高岳縦走

細野省二

～ブナ立尾根の苦しみ、快晴の北アの縦走、ともに満足～

リーダー：細野省　グレード：C+

日　　時：平成11年8月6日(金)夜～12日(木)
目　　的：北アルプス縦走その1
　　（烏帽子～槍～前穂高）
山　　域：北アルプス裏銀座、穂高連峰
形　　式：夜行列車利用、山小屋5泊、縦走
地 形 図：鹿島槍、黒部湖、槍ヶ岳、穂高
費　　用：宿5泊41千、交通費35千、食費等24千、　計100千
装　　備：ツエルト、ガス2、ほか
参 加 者：(L) 細野（省）、清子　佐々木

コース：

7日　七倉ダム…ブナ立尾根…烏帽子小屋…烏帽子岳…烏帽子小屋

8日　烏帽子小屋…野口五郎岳…水晶岳…ワリモ沢…三俣山荘

9日　山荘…双六…西鎌尾根…千丈沢乗越…槍ヶ岳…大喰岳…槍岳山荘

10日　山荘…槍沢…横尾…本谷橋…涸沢ヒュッテ

11日　ヒュッテ…北穂南稜…北穂高岳…第3尾根ドーム…ツルム…涸沢槍…白出のコル…奥穂高…吊尾根…前穂…岳沢ヒュッテ…上高地

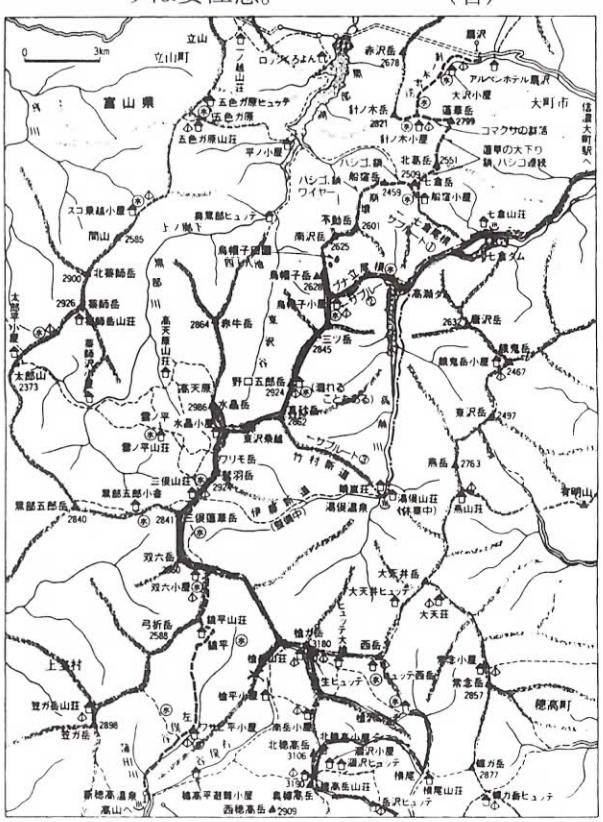
12日　上高地⇒松本⇒

歩行時間：合計　ネット　36時間20分
7日　8時間、　8日　9時間10分、　9日　8時間10分
10日　7時間30分、11日　11時間30分

① 縦走コース一番の難所、北穂～涸沢槍は濃霧と小雨ですべり注意。ドーム、ツルム等の大岩壁が突然、墨絵のように目の前に現れる。急な斜面のザレ場、ボルト、長い鎖、そして最低コルから高みへの連続は体力を使う。雨が高度感を感じさせなかったのは幸いか。

② 前半4日間は快晴。烏帽子岳付近の花々は種類多く、コマクサの楽園。

③ 前穂紀美子平で滑落遭難事故に遭遇、男性滑岩でスリップ足骨折顔面裂傷でヘリにて救出。疲労が溜まった下りは要注意。　（省）





烏帽子岳は端正でピラミダルな姿、
頂上まで幾つもの大岩を越えて



鷲羽岳のはるかに笠ケ岳を望む。
快適な縦走路から



厳しい読売新道がある。
北ア最奥の山、　残雪の黒　岳（水晶岳）

＜１１６＞

真夏の蕎麦粒山

(1,472.9m)

清家　三保子

この山は奥多摩北部の芋ノ木ドッケから棒ノ折山へと続く都県境の稜線上の一峰であり、遠くからも分かる三角形の美しい山容が特徴である。その三角形が「そばの実」の形だそうだ。

くそ暑い最中の8月8日に奥多摩とは。おまけにジャンケン負け抜き戦で見事十四番中の一番になってしまった。もう破れかぶれ、こうなったら思い切り汗ををかいて、すっきりするのも良い暑気払いになるかも知れない。頭に□印が付いている面々しかいないのか、電車もバスも座れた。

登山口には9:15分、人家の間の急登から始まる。しばらくは手入れのされた杉や桧の植林地帯を登る。滝入ノ峰を過ぎる頃にはブナやミズナラの大木の混じる自然林となる。緑濃い木々の間から明るい強い光がこぼれては来るものの、風もあり思いのほか涼しい。登山道が殆ど木陰と言うのも嬉しい。尾根を渡る風には、順番に立ち止まりながら「気持ちいいー。」と深呼吸する。

11:50分に一杯水避難小屋に着く。ここまで来ればある程度は安心である。十四名中、ハイキング部員が六名もいる。素晴らしい。実は私はこの土用の奥多摩、３時間近く登りに登る蕎麦粒山、熱射病に倒れる人も出るのではないかと、習ったばかりの救急法のテキストをザックにしのばせて来たが全く必要なかった。みんな、元気いっぱいだ。

ここで昼食休憩ということで、２名が一杯水を汲みに走る。小屋は20人位泊まれそうだ。明るいし、ベンチもあるし、人気があるのと言うのも頷ける。それにしても水汲みが遅いと思っていると「水はチョロ　チョロで大変だった」という。苦労の味も加わり、格別美味しく頂く。以前12月末だったが、一杯水はすっかり涸れていた。私たちはテント泊でリーダーに炊事用の水も持つよう言われて難はなかった。実際困っている人達もいた。本や地図に水印があっても、その年の天候具合や季節によって涸れる場所の有る事も知っておかねばならない。

一杯水から１時間ほどはのんびりした道を歩き、仙元峠・間もなく蕎麦粒山頂への登り口に出る。笹の間の細かいくっきりした道はかなり急だ。遠くから奇麗に見える三角形のとんがりの部分を歩いている実感がする。

13:30分、山頂。奥多摩の山々や武甲山方面を眺めながらゆっくりする。下山は再び一杯水を目指すが登路と変えて巻き道を取る。川乗山への道に背を向けひたすら歩くがかなり長い。一杯水には14:50分着。リーダーは蕎麦粒山と呼ぶとき、「そばつゆ山」と言っていた。下山しておいしい、冷たいおそばが食べたいのかな？　私もそう思う。

初めはこの暑い最中、奥多摩の山は暑くてたまらんだろうから、家でゴロゴロしてた方がいいんでないのと思っていたのに、何と何と気持ちの良い汗、快い風、緑濃い木陰の歩き、本当に良かった。8月山行が無いからと計画して下さった。そばつゆのﾘｰﾀﾞｰにたくさんの感謝でした。

山　名	蕎麦粒山（A+）		山行形式：日帰り
期　日	平成11年8月8日（日）　晴れ		
山　域	奥多摩	地図	武蔵日原
目　的	夏の奥多摩秘峰		
費　用	約3,100円　（ﾎﾘﾃﾞｨｰﾊﾟｽ利用）		
日　程	我孫子5:33～新松戸5:51～西国分寺6:55～立川7:00/7:08～奥多摩8:22/8:35（ﾊﾞｽ）～東日原9:00⇒登山口9:15⇒一杯水避難小屋11:50/12:35（昼食）⇒仙元峠13:20⇒蕎麦粒山13:33⇒仙元峠14:00⇒一杯水避難小屋14:50⇒下山口16:30～東日原17:15（ﾊﾞｽ）～奥多摩～立川19:13/19:15～我孫子20:53		
ﾒ　ﾓ	★夏山対策（日射病、紫外線） ★充分な飲料水を用意 ★一杯水は涸れる事もあるので注意		



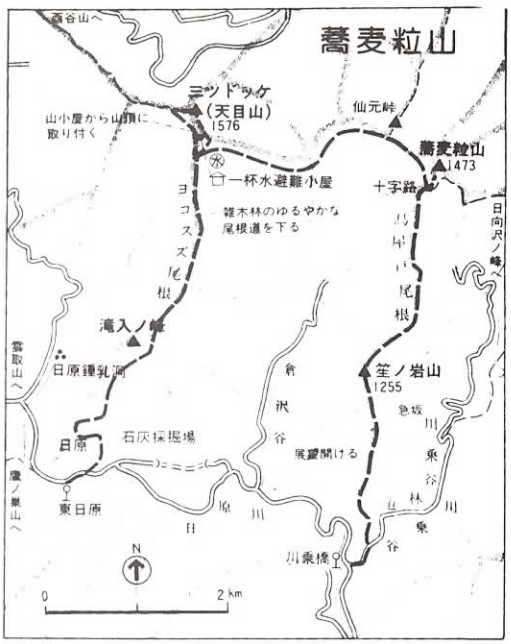
露岩に腰を下ろして休みたい蕎麦粒山頂上



長沢背稜縦走には欠かせない一杯水避難小屋



三ツドッケ山頂付近では秩父らしさも味わえる



＜１１７の１＞

夏期大型山行

剱　岳～立　山

（2998m）　（3015m）

日下　芳十
齋藤　清一
大串　恵子

夢の北アルプス

剱岳に立つ

北アルプスの山に行くのは夢の夢であった。６月号〈やまたん〉の剱岳・立山の山行計画を目にして私にも行けるのか、６５歳の記念に思い切って挑戦してみようかと、自分の実力を省みずに思い切ってリーダーに申し込んだところ快く受け入れていただいた。

出発の前日まで、剱岳山頂までの峻険な岩場の連続、カニのタテバイ、ヨコバイ、立山連峰の縦走等、第一級の困難なコースを想像すると不安がつのる毎日で、参加の皆さんに迷惑をかけるのではないか、参加を中止しようかと思う日々であった。

１日目（８月１１日―８月１２日　雨）

西新宿バスターミナルから夜行バスに乗車、２３：００一路室堂に向け出発、早朝６：５５小雨降る室堂バスターミナルに到着した。

ターミナル内は入ろとりどりの河童を着た登山者、観光客でごった返していた。朝食後服装を整え出発。ターミナル前広場の一角にある立山トンネルの湧水を引いた延命水の前を通って、幅広い遊歩道をミクリガ池に向かう。周囲はお花畑で、イワカガミ、タテヤマリンドウ、タテヤマアザミなどが可憐な花をつけて、訪れる人の目を楽しませていた。濃霧のためミクリガ池南畔の展望地での立山連峰の稜線は望めなかった。雷鳥平までは石畳の道を行く。池西岸に下る部分はやや傾斜が急になるので滑らないよう注意しながら下りる。あちらこちらに残雪を見ると北アルプスに来たという実感がわいて来た。

雷鳥平キャンプ場を過ぎると急な斜面、岩屑が散乱し登りにくい。尾根から離れてジグザグに一気に高度が上がっていく。別山乗越剣御前小屋前で昼食をとる。天気がよければ剱岳の山容が視野いっぱいに広がる気持ちのよい鞍部だが、濃霧のため何も見ることが出来なかった。別山乗越を越して雪渓を渡っていると、突然アコジョに出会いかわいさに足を止めた。

剱沢小屋では若者たちのテキパキとした対応と、珍しいお変わり自由のご飯が印象的だった。小屋のご主人佐伯さんに明日の天気をたずねると晴天になる天気予報とのこと。

明日のためサブザックに最小限必要なものを詰め、シャワーを浴び早めに就寝した。

（記　日下）

２日目（8 月 13 日　晴）

剱沢小屋に宿泊した日下、中村、齋藤の三人は午前 3 時 40 分には既に全員目覚めていた。小屋の主人（佐伯友邦さん）もドアを開けて表に出てきてくれた。本日は昼頃迄にここに戻るようにしなさいとのアドバイスをもらう。昨日から色々と友邦さんと話をしたが、小生のとりとめのない話にも乗ってくれて妙にウマが合っていた。まだ暗い中なのに長年の体験からの判断の様だ。今は満天の星空であるが、正午には雨が落ちてくるよ！との事。

テント組の 6 名が 4:00 に小屋の前に到着、リーダーの柴さんより人数の確認と諸注意がある。『いよいよ二年越しの剱岳』、本日は天も味方をしてくれている。正午までは快晴とのこと全員心して行こう。

4:20 分全員武者震いのなか小屋を後にする。剱山荘までは昨日と同じ行程、雪渓を踏みしめへ

ッドライトに照らされたあちらこちらの残雪を見つめながら慎重に渡り、歩を進める。暖まった体に冷気が通り過ぎる。剣山荘につく頃から空が白んできた。剱山荘泊まりの人達が急な岩道をもう登り始めている。その前方を見つめながら我ら9名が続く、腹が空いてきた。グーグー言わせながら一服剱のピークに到着する。目の前にそそり立つ岩山の前剱（2,813m）に、オウ-、ウオゥーと感嘆の声が此処、彼処と沸き上がる。

ダイナミックな前剱を眼前にして柴リーダーの計らいで朝食をとることにする。ひと登りをしての朝食はことのほか美味しく感じられる。しかし、8月とはいえ午前5:30分の一服剱（2,618M）は寒い！　前剱。そして剱岳へ。。の武者震いかな？　目前の前剱（2,813m）を眺めながらおにぎりをゆっくり咀嚼する。充分腹ごしらえが出来たぞ！サァー前進開始だ！慎重にいったん下って武蔵谷のコルを越す。あちこちが岩だらけ、岩礫が積み重なった細長いコルを緩く上り詰める。浮き石や岩が多くなってきた。落石に気を使いながらの眼前の大岩を過ごす。二分した道を前剱へと向かったが、2,813m の前剱頂上は細長い。やせた岩稜を下るがクサリ場は慎重に！二番目のクサリ場は岩越え、これもメンバー全員快調である。（春からの二回による岩山訓練を先輩にご指導頂いた。）訓練の賜であると感じる。感謝！感謝！

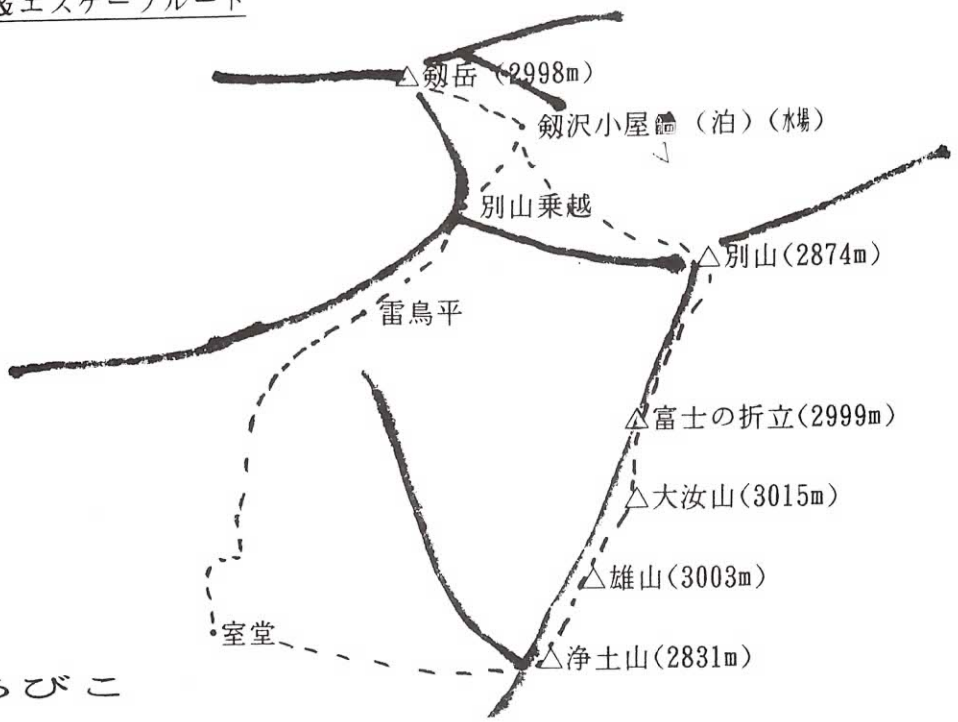
平蔵谷の岩稜を越す頃から先方の登山者達の足並みが遅くなり始めた。我々のメンバーのペースは変わらず。他の人達を抜いて行く。。。我々の後方から一生懸命に付いてくる女子大生とおぼしき二人ずれ、必死の顔つき。。平蔵のコルあたりから前に進まず前方の登山者がカニのタテバイに取り付いてる姿が目に映り始める。前方の登山者の登頂ルートを目で追いかける事約三十分程、我らのメンバーは緊張感も漂っていたが駄洒落も出るほど余裕も有りと感じた。我々がカニのタテバイに取り付き始める順が廻ってきたとき、柴リーダーよりの差し入れのレモンを各自絞り飲み終わっていた。レモンがエネルギー化して全身にみなぎり始める。メンバーそれぞれの思いで登り切る！　あとはもうすぐだ。

念願の剱岳（2,998m）登頂時の感激はひとしおだ。興奮を引きずりながらそれぞれ記念写真を取る。360度の大展望を満喫し快晴のうちに下山に取りかかるが、カニのヨコバイを通過するまではと無駄口をたたく者一人として出ず。カニのヨコバイは岩にへばりつきながらの横歩き、一歩目の着地が目に見えず！普段の経験が役に立つ、カニのヨコバイは下り道専用であり鎖と梯子を次から次と連続しておりる。登りとの分岐までは慎重に！慎重に！メンバーの面々の顔に充実感が漂う！登りと同じコースを下降だ。山小屋の屋根の色が視野に入り始める。。。感激の思いをそれぞれ語り合いながら。。足取りの軽く下降を続ける。途中の剣山荘でのラーメンが実にうまい、一滴の汁も残さずすすり飲む。塩分補給だ！今夜の小屋めざして、サー出発だ！雲行きが怪しくなってきた。一雨が来る前までに小屋へ到着しょうと踏ん張る。風と小雨のなか小屋の前で祝杯を上げる。まだ緊張感があるのか小屋組とテント組にそうそうに別れる。

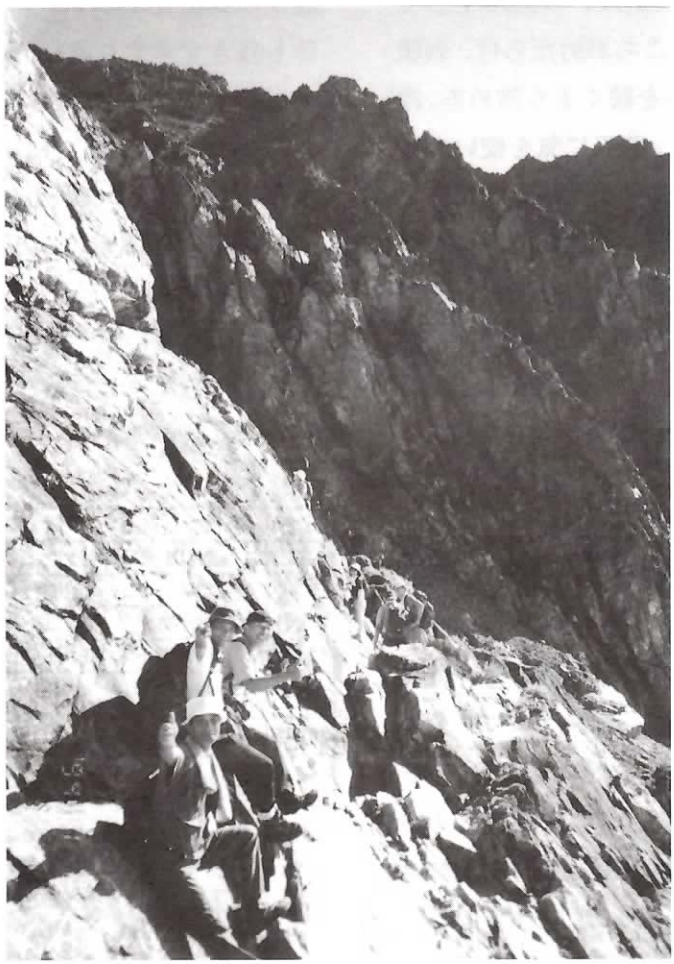
雨が降り始める。2時からのシャワーを日下さんと中村さんと共に浴びる。夕食までの間、本日の登頂に談が弾む。　（齋藤清一）

山名	剣岳～立山	山行形式	テント／山小屋
月日	平成１１年８月１２日～１４日（土）		
山域	北アルプス	地図	立山・剣岳
目的	高山植物・三大雪渓・岩場・3000m級の縦走		
参加	L:柴、テント6名、小屋3名　計9名		
歩行	1日目4：40、2日目8：40、3日目6：35		
費用	小屋組46,000円、テント組33,000円		
日程コース	1日目　8／11我孫子駅 20:44＝西新宿バスターミナル23:00発―（夜行バス）　8／12室堂6:55…室堂バスターミナル 8:00…雷鳥平 8:35/8:40…別山乗越 10:55/11:05…剱沢小屋 12:40 着(泊) 2日目　剱沢小屋 4:20…剱山荘 4:55/5:00…一服剱 5:25(朝食)…前剱 6:30/6:35…カニノタテバイ 7:43…剱岳 8:33/9:15…前剱 10:45/11:00…剱山荘 12:00(昼食)…剱沢小屋 13:00 着(泊)		

ルート概念図＆エスケープルート



岳人 あびこ



山で頑張りたいと心に誓いながら山頂を後にした。天候が悪く、大パノラマが一望できず残念だったが、お祓いを受けられて大満足。
一ノ越へと下山にかかると、雄山を登ってくる大勢の登山者とすれ違うため、何回も足を止められてしまう。足元はゴロゴロした浮石だらけで、落石をしないように慎重にジグザグを切りながらの下山。その途中、少し離れた所に雷鳥がチラリとお目見え。やっとお出ましかと思ったら直ぐかくれてしまった。残念、残念…。
今までと違って一ノ越は、人、人、人でごったがえし、びっくりした。休憩した後、浄土山に向かう。途中、雨と強風にあおられ、この状態が続くとしたら自分自身の体力の方が心配になった。リーダーの判断で、安全を期し、一ノ越に戻り室堂へ下山することに変更となった。残念だったがありがたかった。
一ノ越から下は、家族連れやカップルなど旅行者風の人達が多く、風雨の中を寒そうに登っていた。中には雨具をつけてない人もいて、風邪をひかないかと心配した。
楽しみにしていた「みくりが池温泉」は、午前中にもかかわらず人でいっぱい。食事もできなかった。午後には行列になる程に、混み合うとのこと。
室堂ターミナルは、悪天候のためか、早めに帰途につく観光客で大混雑。
もうお昼時、そろそろお腹が空いてきた。富山名物のすし弁当を買おうとすると、リーダーが値引きしている売店を見つけてくれた。
立山トンネルをトロリーバスで大観峰へ向かう。さきほど登ってきた雄山と一ノ越の真下をモグラのバスで通り抜ける。雨の大観峰で昼食。食べでがあってすご～く満腹。
ロープウェイに乗り継ぐ間、案内係の若いお兄さんが、実に楽しくお笑いをかねて、剣立山連峰とアルペンルートの写真集をすすめていた。ついついつられて１冊買ってしまった。



ロープウェイからは、曇り空とガスの中に、後立山連峰が少し顔を出していた。黒部湖では雨は上がっていたが、高い山にはガスがかかり、見えるのは周囲の山々ばかり。記念写真をとった後、トロリーバスで扇沢へ。雨の中をバスで大町へ向かった。大町駅に着くと、大雨で中央本線は不通とのこと。
…この時は、丹沢の玄倉川キャンプ場で起こった大惨事を知るよしもなかった。
やむなく、バスで長野駅に出て、新幹線で家路についた。



１年越しの待ちに待った剣岳（去年は悪天候のため中止）。写真やガイドブックでしか見ることができなかった剣岳。やっと登頂できた時は、感動で胸がいっぱいになりました。こんなにも素晴らしく、大きく立派な山々に心をうたれ、十分に満足できました。そして無事下山できたことは何よりもリーダーのおかげと思っております。ありがとうございました。



３日目

雨の立山縦走

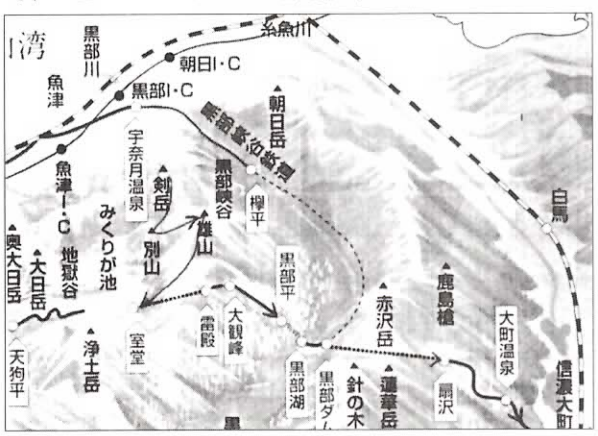


いよいよ最終日。前日のカニの横ばいとたてばいを無事に終え、朝の目覚めがとても気持ち良かった。テントの中から空をのぞくと星がキラリ、今日もお天気間違いなしと思い胸が高鳴る。早朝（４時）暗やみの中でヘッドランプを頼りにテントを撤収し、小屋泊組と合流して出発。足元をライトで照らし、登山道を見極めながら慎重に先へと進む。

振り返ると、テント村の灯火の向こうに、剣岳が薄明かりの中で黒くそびえたっていた。

別山までの急登は結構きつい。途中から急に風とガスで周りが見えなくなってきた。やっと頂上に到着したが強風と濃霧。天候の予測は大外れ。迫力ある岩稜の剣岳、直下の剣沢はまったく見えず残念だった。

山頂の祠のかげで風を避けながら朝食をとり、雨具を着て出発。ガスの中、真砂岳、富士の折立をいつのまにか通過。楽しみにしていた、



稜線からの剣岳、後立山の展望はまったくダメだった。道端のお花も寒そう。雨とガスで体が冷え切ってしまい、大汝休憩所が見えてくると、早くなかに入って暖まりたい思いで急ぎ足となった。休憩所にはストーブが入っていてメガネがくもるほど。皆で食べたお汁粉が、温かくとても美味しかった。



休憩所を出ると直ぐに大汝山山頂。ここは岩塔で立山連峰の最高峰。簡単に登れた。

お汁粉で温まった体がだんだん冷えてくる。雄山にやっと到着。山頂に辿り着くたび、又ひとつの山を越えることができたという満足感とともに、ホッとした気分となる。社務所前の階段を登り山頂の雄山神社の社殿へ立ち寄り、無事ここまで登れたことの有難さと、又これからもよろしくとお願いしながら手を合わせた。社務所に戻り、他の登山者と私たち一同で宮司のお祓いを受け、お神酒をいただいた。

思いがけず、３０１５ｍの高山でのお祓いを受けることができた。

山名	剣岳～立山	山行形式	テント／山小屋
月日	＜３日目＞　平成１１年８月１４日（土）		
山域	北アルプス	地図	立山・剣岳
目的	高山植物・三大雪渓・岩場・3000m級の縦走		
日程コース	剣沢小屋 4:15→分岐 5:20→別山 5:30/6:00(朝食)→真砂岳 6:45→富士ノ折立 7:27→大汝山 8:15→雄山 8:38→一ノ越山荘 9:32/9:45→浄土山へ(強風、登山不可のため途中引返す)→室堂 10:50(入浴)→室堂バスターミナル 12:05/12:15⇒扇沢駅 14:40⇒信濃大町 15:10/16:15(大雨のため信越本線不通、臨時バスで長野へ)⇒長野駅 17:30/18:28(新幹線)⇒上野 20:05/20:13⇒我孫子 20:48		

＜１１８＞

白峰三山
（北岳・間の岳・農鳥岳）

武内勇二

広河原～大樺沢～二股～北岳肩の小屋

１日目（８月２０日）

5:00 広河原を出発、北岳肩の小屋まで標高差1,500m の厳しい登りの始まりだ。程なくして白峰お池への分岐を分け、崩壊地を落石に気をつけながら大樺沢の左岸を登ってゆく。２つ目の大きな崩壊地を右岸に迂回、再び左岸に渡りかえしてしばらく行くと二股の分岐近くに出た。広河原から約２時間半、ここまでは順調だが、山から霧が降りてくるのがやや気に懸かる。

朝食休憩の後、二股を出発。八本歯のコルへのルートと別れ、見通しのよい草原の急斜面をジグザグに登ってゆく。北岳の岩壁が眼前に広がり、これから登る山への期待に胸が膨らむ。更に高度を稼ぐと霧の中に入り、ついに小雨が顔を打つようになった。雨具を着ける程ではないが、念のためザックカバーで防御した。前夜の睡眠不足が体に応え、喘ぎながらの登りが続く。

10:25 小太郎尾根への分岐に出た。目的地の肩の小屋まで、あと３０分の地点だ。小太郎尾根の二重山稜の向こうに、甲斐駒、仙丈が堂々と聳え、鳳凰三山の稜線もくっきりと眼前広がっている。雨はあがり、雄大な景色を楽しみながらのティー・ブレイク、のんびりとコーヒーの香りを味わった。

11:35 北岳肩の小屋着。まだ早いせいかそれ程泊まり客は多くない。お盆を過ぎれば登山者はやや少なくなるとのことで、ワンブロック定員４人のところを３人で使ってよいとのこと、有難いことに今晩はゆっくりと休めそうである。

外に出て、ビールで乾杯。これまでの疲れも吹っ飛び、山や岳人あびこの仲間の話に花が咲いた。いい気分となったところで昼寝、睡眠不足を一気に解消し明日に備えた。

肩の小屋～北岳～間の岳～農鳥小屋

２日目（８月２１日）

4:30 起床。日の出を前にして空は白んでいる。雲は多少多めながら見通しはよく、甲斐駒、仙丈は言うにおよばず、北アの槍・穂高が遠望出来た。富士も雲の中から顔を出しているが、頂上付近にレンズ雲が懸かっているのが気になる。天気が下り坂の兆候とのことである。

6:00 肩の小屋を出発。小屋が 3,000m地点にあるので北岳の頂上迄は約 192mの登りだ。石のごろごろした急な登りであるが、よく踏まれており歩きにくいことはない。時間とともに西側の谷にガスが巻くようになり、次第に濃くなってきた。

6:45 北岳山頂（3,192m）に到着。やったやったと全員が握手。日本で二番目の標高だけに展望は素晴らしい。朝には見えなかった八ヶ岳も雲の上に顔を出し、中白根の峰越しに間の岳へのルートもはっきりとみえた。西の谷にはガスが巻き、虹の輪の中に自分の影が映るブロッケン現象が楽しめた。しばしの展望を楽しんだ後、吊り尾根の分岐にむかって下山開始。吊り尾根分岐から北岳山荘へのルートは、尾根道をゆくルートと一旦八本歯のコルに向って下降し、コルの手前で横に巻いて山荘に向う２通りあるが、本日は時間もたっぷりあるので、お花畑が楽しめる後者のルートをとった。

吊り尾根から八本歯への下り、そして八本歯から大きな岩をトラバースするに至るまでのお花畑はまさに素晴らしい。外崎、佐藤、吉岡さんは、これは○○，あれはＸＸとまことに賑やかだ。似たようなものが多いにかかわらず、よく見分けがつくものだと感心する。花の名はなかなか憶えられないが、過酷な気象に耐えて夏になるときまっ

て花を咲かせる頑張りに感動を覚える。なんでも今年は例年より１週間程遅いとのこと、８月も下旬になろうとしているのに十分楽しめた。ラッキーという他ない。

八本歯は岩のぎざぎざで、６本ははっきりと認識出来たが、あと２本は定かではなかった。その向うの大きな岩壁が、有名な北岳バットレスであろう。

9:10 北岳山荘着。ここでお湯を沸かし温かいコーヒーや、軽食を楽しんだ。雨は落ちてはいないが、雲が空いっぱいに広がり、先が危ぶまれる。

10:15 山荘出発、約３０分の登りで中白根頂上に到着。中白根から間の岳に向う途中、山域全体にガスがかかり、雨も降り出して見通しが悪くなった。小さな岩峰がいくつも続き、間の岳頂上と思ったらその先にはまだ高いピークが霞んでいるといったことを繰り返しながら、約１時間３０分かけて間の岳に到着。本日三つ目の 3,000m 峰である。頂上は広く、踏み跡があちこちについて見通しが悪い時は注意を要する箇所だ。農鳥への道標に従い下山開始。斎藤さんの事前調査によれば、ここから農鳥小屋への間に雷鳥がよくみられるとのこと。霧と小雨の天気で、雷鳥に会える条件は整っている。這松とガレ場の境目当りに目を配りながら下ってゆくと、ついに４羽の雷鳥が小石の上をひょこひょこと歩いているのに出会った。人を恐れる風もなく悠然と草の実をついばんでいる。夏のこととて、羽はこげ茶色でお世辞にもきれいな色とはいえないものの、ずんぐりむっくりとした体のよちよち歩きが愛らしい。

突然、霧が晴れ、前方に本日の目的地である農鳥小屋がみえた。３０分もあれば着く距離である。もう一息だと思ったところでお腹が空いた。雨も上がったことでもあり、昼食休憩をとることにした。小屋の弁当に添えたトマトが美味しい。また、雷鳥が姿をみせた。

14:00 農鳥小屋に到着。早速、ビールで乾杯、小屋からのコーヒーの差し入れもあった。ワイワイやっているうちに、外はまた小雨となった。小屋は、それ程混んでおらず、今夜も熟睡出来そうだ。

農鳥小屋～農鳥岳～大門沢～奈良田温泉

３日目（８月２２日）

4:00 起床。小屋の配慮で 4:30 に朝食を出してくれた。やはり、弁当よりは暖かい味噌汁がよい。小屋のおじさんが、久しぶりに天気がいいので早起きしちゃったと元気のよい声で話している。今日は期待が持てそうだ。

4:50 小屋を出発、西農鳥岳に向う。東の空が明るく、富士もその優美な姿を浮かべている。まもなく日の出だが、本日の長丁場を考えると一刻の無駄も許されないので、ご来光は登りのルートから拝むこととした。

石ころ混じりの稜線をジグザグに登ってゆく。風がつよく、まだ体が温まらないので半袖のシャツではやや寒い。岩陰に入るとほっとする。しばらく行くとガスが巻いてきた。全体としては晴れているのに西農鳥岳近辺だけ霧がかかっているようだ。霧を通して太陽が登ってくるのがみえた。

5:40 西農鳥岳着、写真を撮っただけで早々に出発。小さな岩峰群の西側を巻くようにして行き、草付のやわらかい斜面を登ると農鳥岳の頂上だ。西側の谷は相変わらず霧で埋め尽くされているが、東側はよく晴れている。富士が正面に大きく聳え立ち、その前に山々が十重二十重に折り重なっている。頂上付近を顔とし、裾野を髪、前衛の山の重なりを衣に見立てれば、十二単をまとった平安時代の美女を想起させ、その比類のない優美さは見る者に感動を与える。やはり富士は日本一の山だ。

ここでしばしの休憩をとりレモンの蜂蜜漬けでリフレッシュした後、下りにかかる。河原の中の石ころの道を行く。相変わらず富士が悠然とした姿をみせている。

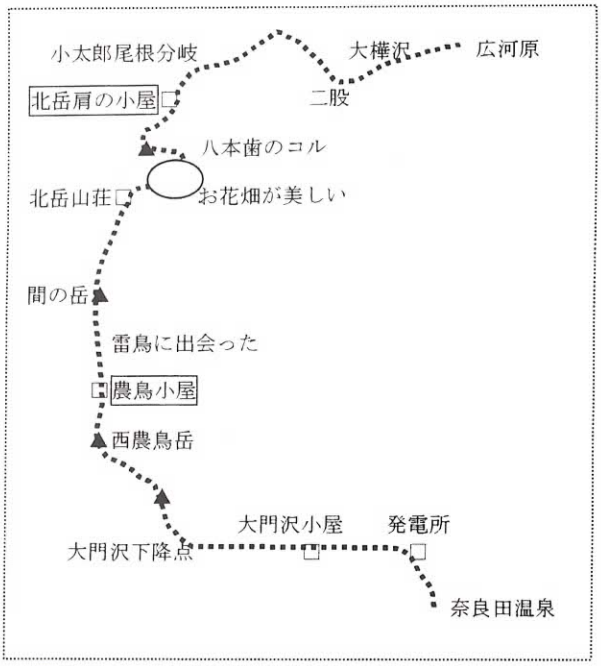
約３０分で大門沢の下降点に到着。道標の近く

に鐘がある。遭難事故を悼んで建てられた記念碑でもある。

ここから愈々急な下りが始まる。這松帯の急斜面なので、あっという間に稜線が遠のく。これで山ともお別れかと思うと何となく寂しい。「山よさよなら、ご機嫌よろしゅう。また来る時にも笑っておくれ」。

下り始めて約１時間３０分程で大きな沢に出た。ここから沢に沿って右岸を下ること約１時間で大門沢の小屋に到着。昼食休憩の後、更に沢に沿って下ること約３時間で発電所着、長かった下りもここまで来れば、終わりに近い。ここから奈良田温泉まで約３０分の林道歩きだ。

14:00 奈良田温泉着。白根館の風呂に入り、楽しかった山旅に終わりを告げた。



山名	白峰三山	山行形式	山小屋
期間	平成１１年8月２０日～２２日		
山域	南ア	地形図 1/50000	韮崎・市野瀬・大河原・鰍沢
目的	日本第２の高峰・北岳とお花畑		
参加者	5名	リーダー	外崎
日程・コース	(前夜) 我孫子21:50 ＝新宿23:50＝甲府2:08 (1日目) 広河原5:00～ 二股7:15/45～ 小太郎尾根分岐10:25/00 ～北岳肩の小屋11:35 (2日目) 北岳肩の小屋 6:006:45/～北岳7:10 ～北岳山荘9:10/10:15 ～中白峰10:50/00～間の岳12:25/30 ～農鳥小屋14:00 (3日目) 農鳥小屋4:50～西農鳥岳5:40～農鳥岳6:35/6:55 ～大門沢下降点 7:30～大門沢小屋10:15/45 ～発電所 13:35～奈良田温泉14:00/15:00ー甲府16:30/16:46 ＝我孫子20:00頃		

終りに

私にとっては初めての南アルプスでした。中でも今回の白峰三山は、南アの中でも比較的奥深いところにあるので、これまで登山口に辿り着くまでの煩わしさが先に立ち何となく敬遠してきた山でした。単独登山を続けていたら、一生登る機会が無かったかもしれません。北岳の荒々しい岩壁と対照的な美しいお花畑、愛嬌のある雷鳥、そして楽しい山仲間、岳人あびこに入会させていただいて本当によかったと思います。



北岳山頂
８／２１
６:４５

＜１１９＞

燕岳～槍ヶ岳

（２７６２m）（３１８０m）

北ア表銀座から
槍の穂先を目指す

【1日目】（８／２６）

どんより曇った空模様は“晴れがましい山旅はそんなに甘くないぞ”といっているようで、車窓に流れる景色も不安と期待の中でほとんどうつろである。やがて時折窓打つ雨も穂高駅に着く頃は晴れ間も見えるいいコンディションに出来あがった。

今日の行程は歩行５時間、累積標高差 1350m。1 日の標高差では経験のない高さである。アルプス三大急登とか三大バカ登りとかいわれる「合戦尾根」である。何ともいかめしい名前ではないか。

その名の通りまさに登りとの戦いであった。のっけからジグザグの急登であるが、程よい間隔に「ベンチ」と称する休憩点があり、それを追っているうちにどんどん高度を稼いだ。尾根の途中にある合戦小屋に近づく頃、「西瓜があるらしい」とうわさが流れた。まさかと思ったが、行って見ると確かに大きな西瓜が水槽に冷してあった。８人、八つ切りをほおばって生き返る。筋肉痛予防に持っていた塩が思わぬところで役に立った。

合戦小屋を過ぎると比較的緩やかな尾根歩きとなる。今日泊る小屋も遠くないという気分も手伝って足取りも軽くなる。燕山荘に着くと登山客でごった返していた。部屋は個室が確保できてうれしい。

そうこうしているうちに４時を回り、食事まで一時間ないという。燕岳往復５５分かかる。明日の天気もどうなるかわからない。今日のうちに登ろうと衆議一決、ひょっとしたら食事に遅れるかもしれないと言い置いて燕岳頂上目指して急ぐ。荷物の重みから解放された身軽さもあって早い早い。あの急登の疲れはどこへ? 奇妙な形をした花崗岩帯を縫うようにして山頂に着く。はるかに槍ヶ岳を望む。気持ちの高ぶりを禁じえない。感激に浸る暇もなく引き返す。山荘着４時５０分、夕食まで１０分も余す早い到着となった。途中のコマクサ曰く、「折角咲いているのにもっとよく見ていってよォ。」

初日の戦いは終った。夕食は美味しかったが中身は記憶にない。食後はビデオを見てくつろぐ。その頃大串リーダーは明日の天気のことで悩んでいたかもしれないのに。熱帯性低気圧の影響を受け明日は風雨らしい。

【２日目】（８／２７）

２日目の朝は予報通り雨と風であった。雨具で身を固め完全装備で出発を待った。リーダーからみんなに話があった。山小屋の話によると、今日は雨、風ともに強く、特に「切通岩」の付近は風が強く、かなり危険だとのこと。協議の結果、取り敢えず出発し状況が悪ければ引き返す。そして本日の行程は余裕があるのでゆっくり慎重に行動することをみんなで確認して出発した。

いわゆる≪表銀座コース≫である。槍ヶ岳に手招きをされながら気分のいい尾根歩きのはずであるが、周囲は何も見えない。雨の中、足元に気を付けながら黙々と歩く。途中若いパーティーに出会った。

「向こうはどうでした?」

「厳しかった。」

やっぱりそうか。だめかも…。でもあのパーテ

ィーも通ってきたんだから行けるかも…。

岩場にさしかかったところで学生のパーティーと出会った。狭いところで道を譲り合いながら時間をかけて通過した。一人の学生は大きなザックを背負って苦しそうだった。誰も助けようとしない。これも訓練なのだろうと思いながら見送った。霧雨で周りは何も見えない。

岩場を過ぎて間もなくして道標に出会う。大天井岳への分岐である。ということはさっきの岩場が切通岩だったのだ。知らぬ間に通過していたのだった。風もそれほど強くなく、大変な岩場ではあったが無事通過できてラッキーだった。難関突破だ。やがて大天井ヒュッテで大休止。

ようやく雨も上がり周囲の山も顔を出し始めた。時折目の前に岩稜が現れるとあれを登るぞと冗談を言いながらアップダウンを繰り返す。長い行程の末、本日泊るヒュッテ西岳に着くと無事の到着に乾杯した。そのあと皆さんは近くの西岳に向かったが、乾杯のビールが心地よく、山へ向かう元気はもう出なかった。

東側の正面に常念岳が見える。夕映えに歓声を上げ記念写真を撮った。誰とはなしに来年は常念に登ろうと言い出す。”その美しい形をもって、芸術家気質の人々を惹きつける”と深田久弥はいう。

【３日目】（８/２８）

朝起きて常念岳を見ると均整のとれた姿がはっきりと見えた。今日はいいぞと喜んだが、反対の西の方、これから行く東鎌尾根を見ると乳濁の中。東鎌尾根は鎖や梯子の多い難コースだから慎重に行動するようリーダーより注意あり。

小屋から少し下るとすぐに鎖、梯子の悪場、もったいないほどどんどん下る。また登る楽しみが増えるじゃないかと冗談を言いながら、やっとのことで水俣乗越につく。

いよいよ東鎌尾根の登りだ。やがて稜線に出ると右手に雲の切れ間に昨日歩いた表銀座の尾根が見えた。前方に見えるはずの槍ヶ岳は残念ながら霧の中。途中、昨年の夏の異常気象による大雨と群発地震によって崩壊した登山道があちこちで修理中であった。関係者の努力に感謝。

霧に向かって歩くうち、やがて本格的に雨となった。槍岳山荘に着くと岩峰登りを躊躇している人でごった返していた。われわれも小屋で腹ごしらえをしながら小降りになるのを待った。諦めて帰る人も多かったようだ。その間、山小屋関係者からの助言や、登頂者の現場情報（風の状況ほか）など情報収集に努め、全員で十分に協議したうえで危険はあるが慎重に行けばよいと判断し、予定どおり頂上目指すことにした。

岩は濡れて危険性はあったが、手がかり足がかりはしっかりしている。お互い声を掛け合いながら一歩一歩慎重に登った。まわりが見えないだけ手足に神経を集中できた。いつもなら列をなして渋滞するところであろうが、前後には誰もいない。頂上に着いたとき意外や誰もおらず貸切状態だった。風雨を足で踏ん張りながら記念写真を撮る。まわりは真っ白。

下りも細心の注意を払って下りる。

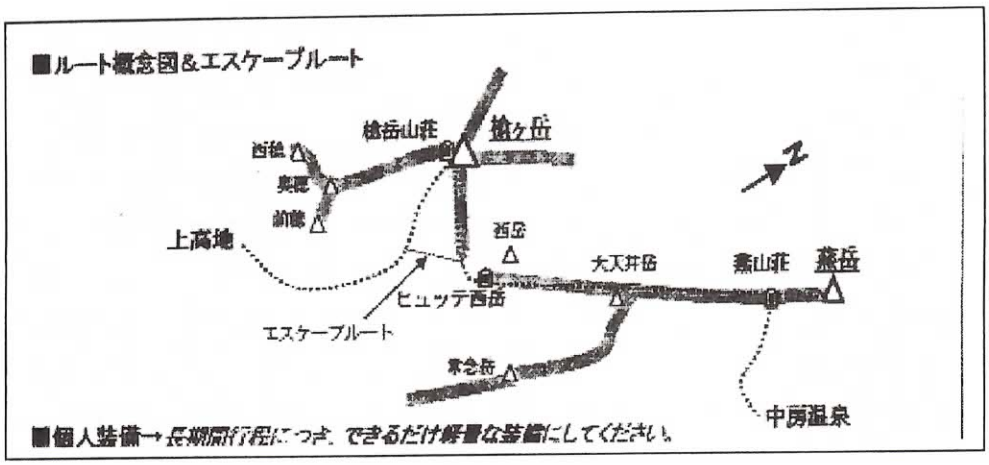
この日は槍岳山荘泊の予定であったが、翌日の行程を考慮し槍沢ロッヂ泊に変更。長い岩道の槍沢を下る。途中晴れ間も見え、雄大な槍沢カールの景色を堪能した。

【４日目】（８/２９）

不思議である。あれだけ長い行程を歩いてきたにもかかわらず、疲れを感じず気分爽快である。山の気をたくさん頂いたからかなあ。

最終日、横尾山荘近くの槍見台で、青空にそびえ立つ待望の槍ヶ岳に会えた（写真）。更に、上高地では穂高連峰の岩頂を仰ぎ見ることもでき、一同、槍・穂高の晴れ姿に大感激。再会の夢がふくらむ。

（中村　隆泰）



〔概要〕

山名	燕岳～槍ヶ岳(B)		山行形式	山小屋３泊
期日	平成 11 年 8 月 26 日～8 月 29 日　晴雨晴			
山域	北ｱﾙﾌﾟｽ	地形図	槍ヶ岳、穂高岳、上高地	
目的	北ア表銀座コースから槍ヶ岳を登る			
参加数	8 名	ﾘｰﾀﾞｰ	大串秀雄	
歩行時間	1 日目：5:40、2 日目：6:00、3 日目：9:00、4 日目：5:30		費用	50,000 円
日程コース	26日曇後晴	我孫子 5:30＝新宿駅 7:00(特急あずさ)松本駅 9:38/9:46(大糸線)穂高駅 10:12/10:20(ﾀｸｼｰ)中房温泉 11:00/11:10～第一ﾍﾞﾝﾁ 11:43～第二ﾍﾞﾝﾁ 12:13/12:35（昼食）～第三ﾍﾞﾝﾁ 13:10/13:15～富士見ﾍﾞﾝﾁ 13:47/14:00～合戦小屋 14:25/14:45（西瓜）～燕山荘 15:35/16:05～燕岳 16:30～燕山荘 16:50(泊)　4:10(正味)【4:55】			
	27日雨	燕山荘 6:35～大下りの頭 7:20～切通し岩 8:40～大天井ﾋｭｯﾃ 9:30/11:00（昼食）～ﾋｭｯﾃ西岳 13:15/14:18～西岳 14:28/14:35～ﾋｭｯﾃ西岳 14:45(泊)　5:37(正味)【5:40】			
	28日雨	ﾋｭｯﾃ西岳 6:10～水俣乗越 7:15～ﾋｭｯﾃ大槍 9:20/9:30～槍岳山荘 10:25/11:50（昼食）～槍ヶ岳 12:20/12:30～槍岳山荘 12:50/13:00～殺生ﾋｭｯﾃ分岐 13:25～槍沢ﾛｯｼﾞ 16:00(泊)（槍岳山荘泊予定を槍沢ﾛｯｼﾞ泊に変更）　7:55(正味)【7:10】			
	29日晴	槍沢ﾛｯｼﾞ 6:25～槍見河原 7:05～横尾 8:10/8:20～槍見台 8:50/9:10～横尾 9:20/9:30～徳沢 10:20～上高地 12:55/14:00(昼食)－(ﾀｸｼｰ)－平湯(入浴)14:40/16:25(京王帝都高速ﾊﾞｽ)新宿 22:35－我孫子(23:45 着)　5:50(正味)【4:50＋0:40】 【　】内はｺｰｽﾀｲﾑ（ｱﾙﾍﾟﾝｶﾞｲﾄﾞ）			

あとがき

1999 年は登山暦 3 年目の私にとっては出来すぎの年であった。まだ雲取山も登ったことのない《山歩き》レベルの人がこともあろうに 3000m 級の夏の大型山行を二つもやったからである。「剱・立山」（8／11～14 日、小屋 2 泊）とこの「燕岳～槍ヶ岳」である。

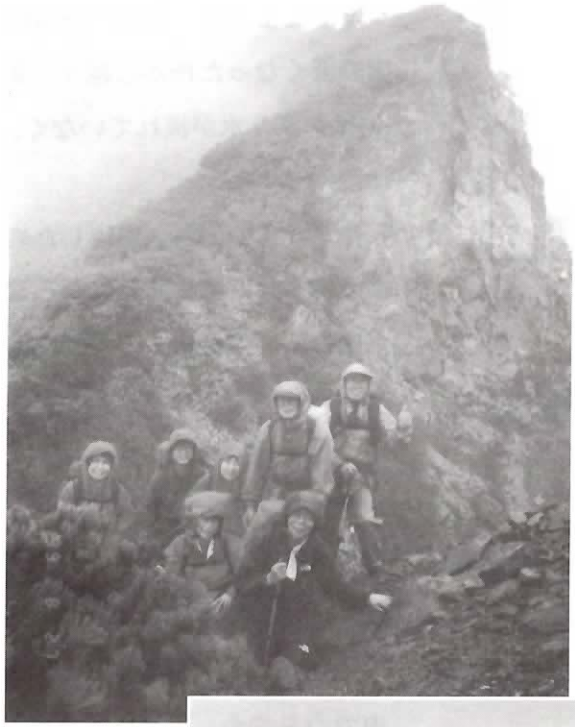
当然ながら行く前は不安でいっぱいだった。〈岳人あびこ〉に入って個人山行を含めて数十回山へ行っているが、ほとんどが関東周辺の低山である。奥秩父の山はまだ登っていない。その実力から見て北アの山は大きすぎる。申し込んだものの、今の体力と技術ではちょっと無理ではないかともう一人の自分が牽制する。

遅ればせながら早朝歩行トレーニングを開始した。毎日 1 時間半から 2 時間、利根川の土手や手賀沼へとコースを変えながら歩いた。だんだんと体が軽くなるのが感じられる。

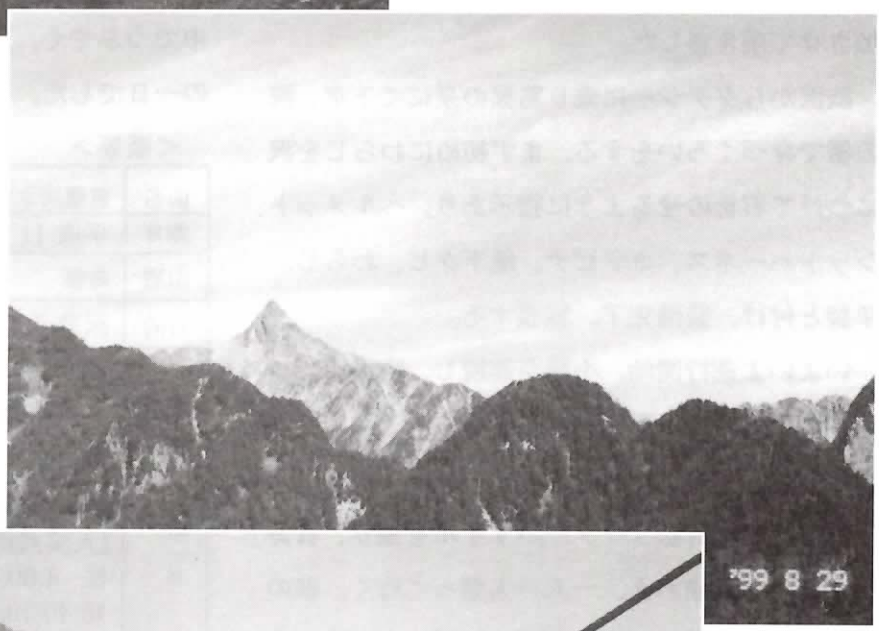
8 月中旬、剱・立山に登った。天下の名峰だけあって楽には登らせてくれない。山小屋泊の身軽さも手伝って、なんとか迷惑をかけずについて行けた。一つの大きなハードルを越えた。

これほど緊張して臨んだ山であったが、登ってしまえば辛かったことなど忘れてしまい、心地よい達成感と誇りだけが残り、つい自慢顔に話してしまう。しかし、これは自分一人の力で達成したのではない。多くの人の協力と好条件に恵まれたことを忘れてはいけない。

多謝、多謝。



２日目（２７日）
ようやく雨も上がり周囲の山も顔を出し始めた。時折目の前に岩稜が現れる。



４日目（２９日）
横尾・槍見台から槍ヶ岳
霧雨の中で踏んだあの穂先の頂上。やっと雄姿を見ることが出来た。



４日目(２９日)
長旅を終えて…
上高地にて

＜１２０＞

葛葉川本谷
(丹沢)

中村美智子

沢登り、源頭まで

９月の暑つーい一日、沢水を浴びながらの沢の遡行は爽快そのもので、沢登りのとりこになりました。

新茅ノ沢の予定が、人数やグレードの点で葛葉川に変更。葛葉川は小滝のいずれも直登できる明るく気持ちのいい沢で、私は２度目で楽しんで参加させて頂きました。

渋沢からタクシーに乗り葛葉の泉にて下車、沢の横で身づくろいをする。まず初めにわらじを沢につけて石をのせるように指示あり。ヘルメット、シットハーネス、カラビナ、地下タビ、わらじ、手袋と付け、装備完了。緊張する。

いよいよ遡行開始。小滝が連続し、快適に一つ一つ越えていく。濡れた岩に対する地下タビとわらじの感触がなんとも言えない。

７mの滝、村松リーダーがザイルを張り、自分のカラビナに結わえ、一人一人登って行く。前の人の足の置き場を確認、緊張の一瞬、シャワークライミングを経験、登りきった喜びは大きい。

林道の少し下のゴーロで昼食となる。沢登り定番のソーメンは大串恵子さん用意の薬味たっぷりで、おまけにてんぷらという豪華版でした。

林道にかかる橋をくぐり、さらに連続する小滝を登っていく。赤い岩から水の湧くところ、木の枝が垂れ下がっているところ、大きな岩の間を登るところなどがあり、だんだん沢も狭くなる。

やがて富士形の滝(２段8m)が現れ、正面か、右側の低くなった所から越す。最後の大滝(３段 10m)はあまり水が流れていなく、右側から快適に登れた。

やがて水が涸れ、崩落した岩屑に足を取られぬように、落石に注意しながら登ると大きくガレ場が開ける。左側にふみ後があり、道幅は狭く、かなりの急登であえぎながらゆっくり登ると、三ノ塔の尾根道に出た。

杉林、林道を通り、神奈川県の山岳センターで着替え、大倉バス停へ。渋沢駅前でリーダーご推薦のすてきな店でビールで乾杯。

〝来年も沢登りがありますように〟ひとり心の中でつぶやく。天気に恵まれ、さわやかな沢登りの一日でした。

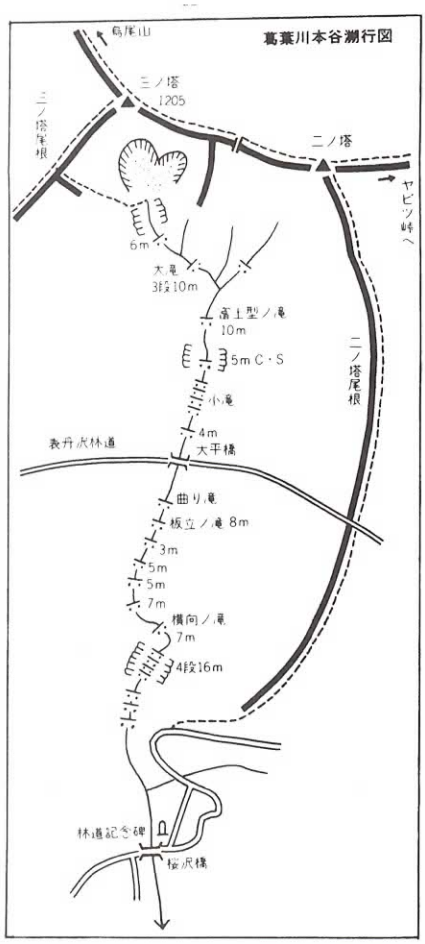
＜概要＞

山名	葛葉川本谷（B）	山行形式	日帰り
期日	平成 11 年 9 月 5 日(日)　晴		
山域	箱根	地図	箱根 1/25000
目的	沢登り	交通機関	
歩行時間	７時間（含む、休憩、昼食）	費用	3,800 円
参加	10 名	リーダー：村松（敏）	
日程コース	我孫子 5:30＝新宿 6:30/6:46＝渋沢 8:04/8:20(ﾀｸｼｰ)(菩提原、桜沢橋)本谷出合(入渓点)9:00/9:20…葛葉川本谷…三ノ塔尾根 4:00/14:10 … 山岳ｽﾎﾟｰﾂｾﾝﾀｰ 15:40/16:00(着替え)…戸川ﾊﾞｽ停 16:15－渋沢駅 16:30/17:30＝我孫子 20:30		



本谷（くずはがわほんだに）沢登り初めての人に最適な沢

２１もの小滝が連続する



沢に入ると小滝が連続する。ほどなく四段の滝が現われたのち、沢が左折する所で横向ノ滝に出会う。文字通り横を向いている滝であるが、この直登では板立ノ滝に次いで滑落事故が多い。右側に巻き道がついているので無理はしないこと。　なおも小滝が続き、板立ノ滝となる。横向ノ滝より悪い。

林道の太平橋をくぐり、小滝を越えて行くと富士型ノ滝が現われる。富士山に似ているこの滝は、ホールドが豊富でどこからでも登れる。初心者は右がわの低くなった所から越すとよい。

三段１０mの大滝は、水があまり流れていないので、フリクションをきかせて登る。つめは左の小屋根側に逃げて、ガレの左側を登る。

この附近は落石が極めて多いので注意が必要です。　（以上　コース状況、L　）



＜１２１＞

荒川三山・赤石岳
(3120m)

斎　藤　清　一

平成11年9月12日（日）通常山行より早く我孫子5:13分発で東京に向かう。メンバー5名それぞれ今年の夏山をこなしてきての大串秀雄（L）の憧れの荒川三山・赤石岳への企画である。

静岡駅からの畑薙ロッジまで3時間10分の道のり、途中二ヶ所で休憩、農家の人達の朝市の露店でお茶をすすりながら山々を眺める。遠くへ来たもんだと感嘆する。山又山を越えて畑薙ロッジに11:37分に到着する。

新幹線とバスに揺られ既に腹が空いて早速うどんとおにぎりを食べリムジンバスが来るまで一寝入りしょうかと話し合っていたら東海フォレストのリムヂンバスの臨時便が13:00分に出るとのことで大慌て、三々五々散歩していた乗客達が呼び集められるる。

畑薙ダムを経由して眼下に川を見ながらの山奥へと走る。南アルプスの雄大さが実感できる。運転手はダム工事が終わってそのまま居着いてしまったとのことでした。一時間の行程の間運転手と話し合いを重ねてコミュニケーション作りが出来たことが結果的に幸運を招きました。椹島ロッジに14:00時に到着する。四方山で囲まれた広場に事務所、受付、宿泊棟などが数軒で構成されていた。

6畳の部屋に大串（秀）さんと齋藤、隣室に柴田さん、大串（恵）さん、由布さんの3人　桧の湯に浸かり早めの夕食９月の連休とはいえ天気予報は雨模様を知らせていたためか食堂にて夕食を取ったのは10人～13人程度睡眠を充分に取るために第一日目は早めに床につく。

2日目（9月13日）

目覚めは良し6:00時の朝食は一番乗り昨日の運転手厨房の中にいて朝食の用意の手伝いをしている。我々5人の他に知り合いが来ているような気分になり大きな声で挨拶を交わし合う。本日はいつ頃まで晴れが持ちこたえられるかなと思いながら椹島ﾛｯｼﾞを出発する。事務所を通過し桧林の中の急坂を登り切ると昨日ﾘﾑｼﾞﾝﾊﾞｽで通り過ぎた椹島入り口の車道にでた。

滝見橋のたもとから鉄の梯子階段を下って、奥西河内に架かっている吊り橋を渡る。なだらかな樹林帯の斜面を登る。明治時代にﾌﾞﾅの木や針葉樹林等を切り倒し馬をつかつて川側に運び出したと案内板に記載されている。平行して林道が出来ていたが我々は林道には目もくれず日光が差し込んでこない薄暗い樹林帯のなかを進む。見晴らしの良い場所の小石川下に8:30分に到着する。目の前に荒川三山と赤石岳がﾄﾞｰﾝと迫る。未ださめやらぬ感激を胸に記念写真を取る。

地図上では清水平には水飲み場があると記載されている、もうすーぐ水ですよ！と繰り返して歌っているとｱｯｺｯﾁからわき出している場所に出る。ここが清水平らしいと言いながらそれぞれが水を飲み美味しい、うまいと感嘆の声を上げる。

余り登山者は此処を通過しないようである。林道を通過するのであろう。

昼飯を取っているとき雨が降り始める山小屋はもうすぐだ黙々と登るが雨の止む気配がなし雨水がたまって出来たのであろうか駒鳥池を見過ごして通過すると池らしぞ！との声で全員足を止める。雨はますます激しく降り注ぎ始める。

足取りも軽く千枚小屋に到着したのは駒鳥池から約40分後の12:40分であった。此の小屋は出来て数年しか経っていないのではないかと思われるほど奇麗なまま維持されている。花の百名山のﾋﾞﾃﾞｵに此の小屋も写っているがまるで雨の中の小屋はﾋﾞﾃﾞｵを見ている錯覚にとらわれた。

小屋で手続きしていると管理人の顔に変化があつた。由布さんを見ている。由布さんは顔を上げず靴の紐を解いている。そのうち小屋の案内と部屋を案内された。由布さんはﾄｲﾚを探し始めた。管理人の奥さんらしい人が我々の部屋に挨拶にやってきた。由布さんとすれ違い。各人雨具を干したりｻﾞｯｸの整理等で全員顔を合わせたのは14:00 時頃。

由布さんから穂高で小屋のアルバイトの時の仲間との話がある。我らﾒﾝﾊﾞｰは管理人に親近感が芽生へ雑談を交わす時間が増える。16:00時ころ甲高い子供のこえが響きわたり二階の我々の部屋に上がってくる。なーんと椹島ﾛｯｼﾞの運転手さんが子供さんと孫を連れて泊まりに来たとの事登山道と平行して林道が小屋近くまで来ているとの事で車で来たようです。

夕食までの時間にぎやかな雑談で和む。一階の食堂にての夕食が始まる。我々5人のﾒﾝﾊﾞｰの他2名の写真の趣味の人々と運転手さん一家の家族。管理人ご夫妻からのワインの差し入れ。由布さん、と管理人ご夫妻に感謝！

20:00時頃雨が上がる。二階からの富士山が見えたら晴れ！を期待しつつ 就寝。

3日目（9月14日）

昨日の雨の中の千枚小屋までのﾙｰﾄはﾒﾝﾊﾞｰ全員初めてでありそれぞれが、ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸや地形図等でそれなりの研究はしてきたが、南ｱﾙﾌﾟｽの此のﾙｰﾄは精神的に多少の不安があった。快い疲れと緊張からかぐっすり充分睡眠がとれたような気がした。

2:00時頃ﾄｲﾚに行くが清潔で水洗完備である。ﾄｲﾚから歩いて小屋の二階に上がる階段から富士山の方向を見ると星空の中に黒く富士山の姿が見えた。本日は晴天だ？胸を弾ませて床に入る。

4:00時全員起床　心なしか全員晴れ晴れとした顔の目覚めだ。ｶﾞﾗｽ越からの黒い富士山の姿をみんな眺めている。朝食を取る頃は空が明るくなり雲の懸かり具合で天候を予測できると管理人が一緒にﾜｲﾝを飲みながら昨夜話していたのを思い出した。

朝食を食べていると空が白じんできた富士山の肩に雲がたなびいている午後から曇り雨になるぞ！きつけていけな！と管理人のｱﾄﾞﾊﾞｲｽがある。奥さんからｺｰﾋｰが差し入れられる。高山でｺﾋｰｶｯﾌﾟにはいったｺｰﾋｰなんて最高　感謝、感謝。今日は3,000M峰を5山も目指す10:00～11:00時間の行程だ。武者震いがでる！

小屋に別れと管理人にどこかで再会を告げたとき『半ぱでない激しい起伏とながｰい道を、ﾅﾒ

ﾝﾅｮ～、それが南の良さだからな、まっ！きつけてな！』との激励ﾒﾝﾊﾞｰ全員　ｳｵｰ、ｳｵｰ、ｳｵｰ。返事の代わりに奇声を上げる！

5:35分ｽﾀｰﾄ　小屋周りや付近はお花畑その中を登る。女性ﾒﾝﾊﾞｰより最高！の連発。ﾊｲﾏﾂ帯を進みながら千枚岳に登り着く。此処から悪沢岳（東岳）の展望に疲れも忘れる。瓦礫の斜面をくだり急斜面のお花畑のなかのﾄﾗﾊﾞｰｽで登ると広い稜線の砂礫の斜面を登ったところが丸山だ。（此処から3,000mの山々が連なる。）

眼下にｶｰﾙが見えた。すごい！雄大だ。さらに尾根の岩石帯を登り着くと南ｱ南部の最高峰(3,141M)悪沢岳、全員一気に登ったのでｾﾞｰｾﾞｰ！人っ子一人いない。360度何処でも眺められる。5人のﾋﾟｯﾁは揃う中岳をを越えて荒川小屋へ10:10分着30分間の昼食。。ﾗｰﾒﾝ食べたい、ﾋﾞｰﾙ飲みたい。。など２人の男性下戸も叫ぶ。

ｻｧｰ腹ごしらえも出来た赤石岳へ向かうぞ！ﾀﾞｹｶﾝﾊﾞの林の中で女性の一団とすれちがう。名古屋の人達で明石小屋から来たと言う。ﾀﾞｹｶﾝﾊﾞの林を抜けるとｶﾞﾚｷの大斜面が続くはるか彼方の視界に入る所に鞍部があるあそこまでﾄﾗﾊﾞｽだ。此処は大聖寺平。遭難碑が立てられていた。確かに大雨が有ると水の逃げ場が無くたまってしまうところだ。

昨日と今朝食を共にしたｶﾒﾗﾏﾝが我々に追いついてきた。『早いですね！今日は天候が良くないので撮影は明日にしますよ！あとを追ってきたのですが、やっと落ち着きましたよ！』と言う。ﾒﾝﾊﾞｰ五人で記念写真を取ってくれるとのことで依頼する。抜きつ抜かれつそのたびに写真を撮ってもらいながら進む。

瓦礫斜面はﾀﾞﾏｼ平から小明石岳までジグザグに登って行く。今朝登った千枚岳が見えてきた又目を移すと荒川三山がﾄﾞｰﾝとそびえている感がする。しかしｶｽﾐかﾓﾔかｼﾞｯｸﾘとは見えない。繰り返して登り下りする内に小明石岳に着く。小休憩後富士見平分岐まで急ぐがとうとう雨が降り出すｻﾞｯｸを置いて空身で赤石岳に向かう雨と霧に変わる黙々と赤石岳を目指す秀雄さんの憧れの山の一つだが、雨で残念だが此の足で足跡を残すことも想い出になると考えながら前進する。

ｶﾞｽっている為前方がハッキリと見えない前方の下の方に風が一吹きしたので70M～90Mの眼下に避難小屋が見えた。10分の休憩を取る。避難小屋を覗きに秀雄さんと二人で頂上からおりてみる。管理人は本日はおりました。秀雄さんはﾄｲﾚを借りる。頂上で花摘みをおえた女性達が我々に向かって声をかけているが聞こえない

霧が出てきて避難小屋も見えないらしい？こちらからの声も聞こえないらしい。急いで登ってみるとｶﾒﾗﾏﾝが追いついてきて小屋はどの方向かと問われたので声をかけたとのこと。霧が晴れた合間に避難小屋が見えるのでと指際して此処で別れる。

雨が降り止まずますます強くなってきそうだ。今13:35分あと2時間30分程16:00 時迄は明石小屋に到着しようと語り合い赤石岳を後にする。550Mの高度を下りおりる。富士見平分岐からはるか下の方に赤い屋根が見える。

あれが小屋だ。小さな沢を行ったり来たりと三ｹ所渡りﾀﾞｹｶﾝﾊﾞの斜面をどんどん高度を下る。小

さく登ったり小さく下ったりして 15:55分到着。吹き抜けの小屋の二階に今夜の寝場所だもう登山者は来ないだろう。広くゆったりとしたｽﾍﾟｰｽを確保する。此の小屋も奇麗です。ﾄｲﾚも奇麗。一階のｽﾍﾟｰｽはどこかの旅行会社のﾂｱｰの登山者らしく20～25名程が布団に入りながらしゃべりまくっている。

食事時間に横浜のご夫婦と歓談をしながらこの夏の山行を思い浮かべる。情報では明日も雨模様との事。明石小屋まで雨の合間をぬって無事に来た。明日は下りだから降りることに集中する事で済む。しかし旅行ﾂｱｰの説明を聞いていると雨だとどうするか明日決めると説明をしていた。会員は登りたくもあり登りたくも無しの複雑な顔の面々でした。

柴田さん、由布さん、恵子さん、今夜はｱﾙｺｰﾙを遠慮したのか首を振らない。2人の下戸男が勧めてもなー　ﾖｳｰｼ　少々のｱﾙｺｰﾙは飲まなければと決意する。何時から始めるかは（内緒）　ｻｰﾈﾝﾈしょう！

4日目（9月14日）

本日も4時に目覚めるどしゃ降り状態　小屋の外に出てみる空は暗くむしろ黒い！一日雨とむしろ気持ちが決まって雨具の用意をする。

5:00時の朝食下山は我々5人のﾒﾝﾊﾞｰ他の人達は登るようです。旅行業者ﾘｰﾀﾞｰは大変だ。雨が降っても何が起きるか解らない。予定時間通り5:50分に出発とﾘｰﾀﾞｰは決意する。椹島まで3時間30分の行程だ雨の下りだから滑るぞー。気を付けていこう。ｼﾗﾋﾞｿﾉ樹林帯をしたすら下る。針葉樹林帯から広葉樹林帯と変わる。

高度をどんどん下げる。高度計でただいま○○度あと○○mだから椹島は近いとみんなに知らせ激励をする。雨はますます降り続く足下は明るくならない。2時間30分程経過した頃女性達からただいまの地点の高度はと聞かれる。200M程さばを読んでいたが、ばれたらしい。ごめんごめんと秀雄さんと高度計を合わしたことを知らせただ今高度○○mと声を張り上げるが柴田、由布、恵子さんそのたびに。ほーんーとー。

雨の降りしきる中椹島登山口に9:15分に到着。ﾊﾞﾝｻﾞｲｰ。ﾊﾞﾝｻﾞｲｰ。ﾊﾞﾝｻﾞｲｰ。ずぶぬれの体を温めるべく風呂に入って身を整えようと手続きのため事務所に行くと、先客の千枚岳小屋から下りてきた夫婦がなにやら交渉している。

事務所の職員の話だと静岡県から豪雨警戒警報が出て5CM以上の雨が降った場合は警報が出て車両通行禁止との事で昨日の雨で土砂崩れも有り得るとの事でﾘﾑｼﾞﾝﾊﾞｽはｽﾄｯﾌﾟとの事。ｻｱｰ大変だ。。大串さん下山報告と現況を柴さん宅に連絡をする。事務所の中に年輩の運転手さんを見つけた！我々を見つめている目と目があった！体を温めてさっぱりしようと我々と夫婦の方を伴って宿泊所の風呂に行く。

畑薙ﾛｯｼﾞから静岡駅行きのﾊﾞｽも停止しているとの説明が風呂受付人からある。男湯3人それぞれの思惑があり黙り込んだまま湯に浸かる。此処での一泊は無理なんとかﾊﾞｽを出して貰うべく彼のヒトに懇願することにする。雨具の乾き具合を見に行きｶﾞﾗｽ越しに外を眺めていると、風呂の受付にいた管理人が駆け足で事務所から戻って来るのが見えた。いつの間にか私も走り出していた。

ﾘﾑｼﾞﾝﾊﾞｽを井川駅まで出すとの事よかった。良かった。と管理人と思わず握手をする。風呂場に走り秀雄さんに連絡する。

ﾘﾑｼﾞﾝﾊﾞｽの乗り場に行くと10分程前に下りてきた名古屋の女性の一団がいた。計12名ﾊﾞｽに乗り込む。10時45分出発　大井川鉄道の終着駅井川駅までとの事畑薙第一ﾀﾞﾑで名古屋の女性達を降ろし井川駅へと走る。崖崩れ川の増水細い山道をくねくねとﾘﾑｼﾞﾝは走る。運転手との会話が弾み1時間30分の行程は早く過ぎた感がした。井川駅に売店でｶｯﾌﾟﾇｰﾄﾞﾙを女性がお湯をいれて用意している間　私は駅員の女性にスタンプ入りの井川駅の古い切符とｶﾞｲﾄﾞのﾘｰﾌﾚｯﾄを貰う。

小さなﾄﾛｯｺ風の電車床は油で磨き上げられ。電灯は薄暗い。子供の頃を思い出す。南ｱﾙﾌﾟｽの山間を大井川沿いに電車は走る。ﾇｰﾄﾞﾙをすすりながら景色を眺める。約3時間の金谷駅までの旅　静岡から新幹線で東京までと　走馬燈のように時が過ぎ去って大型夏の山行でした。



山名	荒川三山・赤石岳　(C)		山行形式　小屋
期日	平成11年9月12日(日)～15日(祝) ３泊４日		
山域	南ｱﾙﾌﾟｽ	地図	
目的	初秋の南ｱﾙﾌﾟｽ主峰を縦走		
費用	約45,000円（新幹線使用）		
ﾘｰﾀﾞｰ	大串秀雄	参加者	５名
日程	1日目　我孫子5:13～東京6:17～静岡7:38/8:20（静鉄ﾊﾞｽ）～畑薙ﾛｯｼﾞ11:37/13:00(東海ﾌｫﾚｽﾄﾘﾑｼﾞﾝﾊﾞｽ　臨時便）～椹島ﾛｯｼﾞ14:00 2日目　椹島ﾛｯｼﾞ6:40～滝見橋～小石下8:30/8:38～清水平9:35/9:40～蕨段10:20～見晴し岩10:45～駒鳥ﾉ池12:05千枚小屋12:40 3日目　千枚小屋5:35～二軒小屋分岐6:00～千枚岳6:15/6:20～丸山7:05/7:10～東岳（悪沢岳）7:40/7:55中岳（魚舞河内岳）9:07～荒川小屋10:10/10:40～大聖寺平11:10/11:35～小明石岳　12:35/12:40～富士見平分岐13:48～明石小屋15:55 4日目　明石小屋5:50～椹島登山口9:15～椹島ﾛｯｼﾞ10:45～（東海ﾌｫﾚｽﾄﾘﾑｼﾞﾝﾊﾞｽ）～井川駅12:15/12:25(大井川鉄道）～千頭14:1 14:27（大井川鉄道）金谷駅15:25/15:48～(東海道線）静岡16:15/16:40（新幹線こだま）東京～我孫子19:20着		



＜ 122＞

茅 ケ 岳

（ 深田久弥氏を忍ぶ ）

蜂谷　由美子

富士山をはじめ 360° の眺望

茅ケ岳は山梨県には数少ない火山の独立峰である。そしてこの山が「日本百名山」の著者、深田久弥氏の終焉の地である。

バスは参加者22名をのせて我孫子を定時に出発。雲が厚く、八王子付近からポツポツと雨になったが登山口に着くころには止んでいた。

登山前に記念公園に立ちより、氏の直筆 “百の頂に百の喜びあり”と書かれた石碑を読み山の仲間がそれぞれの山に思いを馳せる。

一行はＡ・Ｂ二班に分かれ登る。Ａ班の女性リーダーＳさんはやさしい笑顔のおだやかな人で、いつもは ２０数キロのリュックを背負って百名山を飛び歩くのだがなぜか今日は静かで不思議。

途中雨になる。全員雨具を着け足もとを見ながら歩く。それでも道の両脇には小さな花が咲き登山の疲れをとる。女岩で小休止。岩の間を落ちる冷たい清水を手に受け飲み干す。尾根上までの急登では、木の根や草をたよりに腰ほどの段差を登る。頂上には11時に着いた。

周りは雲に覆われて何も見えない。あそこが八ヶ岳、こっちがアルプス と見えない山を心で見る。昼食が終わって集合写真を撮り終えた時「富士山だ」という声に振り向けば雲が四角の窓の形に切れて墨絵のような「黒富士」がその姿をみせた。歓声とカメラのシャッター音のなか、富士は２０秒ほどでまた雲の中に消えた。

このあと北隣の金ケ岳に登り小休止。このあたりまでくるとトリガブトの花が色を変えて濃い青紫になってくる。「なでしこ」のピンク、「野菊」の白、「きりん草」の黄色と小さい花が一行を出迎えた。

くだりは急降下、そして長い。雨上がりの後のすべりやすい下り坂で膝がガクガクしてくる。「うわぁ」という声とともにSリーダーが飛び上がった。目の前を1.5メートルほどの太いへびが横切っていく。思いもかけずリーダーの可愛らしい声に、一同疲れも忘れ爆笑した。

帰路、バスの中から見えた夕日の「赤富士」と山頂で見た「黒富士」は、ひさびさの山の快い疲れとバスのゆれの中、まるで夢のようだった。

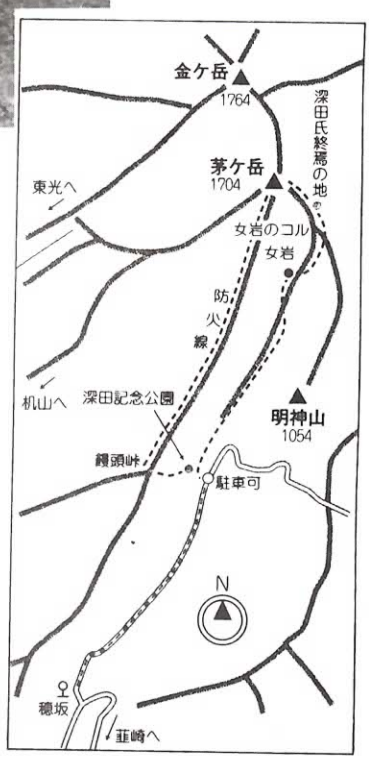
＜概要＞

山名	茅ケ岳		山行形式	日帰り
期日	平成11年 9月 19日(日)			
山域	中央沿線	地図	茅ケ岳・老神子 1/25000	
目的	定例山行		交通機関	電車、バス
歩行時間	5時間00分		費用	4，500円
日程コース	19日	我孫子 AM5:33 －バス－登山口 AM8:30 深田記念公園 AM8:40…茅ケ岳 AM11:00…金ケ岳 PM0:50… －バス－我孫子駅		









深田

『　百の頂に百の喜びあり　』

2等三角点の山頂から

展望に定評あり



＜123＞

金時山・明神ヶ岳

（1212m）　（1169m）

原　田　君　子

初秋の箱根の山々を眺める

25 人参加で登山口まで貸し切りバスで行く。今回は乙女峠入口からの登山。乙女峠から乙女茶屋までの道は、夏の集中豪雨のためか、荒れていて歩きにくい。乙女茶屋の前で一休み。

ここから富士山が見えるはずだけど今日は雲に隠れて見えない。雲のきれることを祈りながら出発。茶屋から１時間、金時山頂上を目指していっきに登る。時々雲間からのぞく富士山はデッカイ、さすが日本一。

金時山頂上は 360 度の展望がみごと。今日の富士山は雲がかかって見え隠れ。頂上には二軒の茶屋があり、アイスクリームもおいてあるのにはびっくり。山頂にトイレがあるのは、女性にはありがたい。ここでは思い思いのポーズでまさかりをかついでカメラにおさまる。私もかわいい(?)金時娘になりきってカメラに向かって、ハイ、ポーズ。

山頂から矢倉沢峠に向けて下るが、登山道はけっこう急勾配で谷に滑り落ちそうで緊張する。矢倉沢峠うぐいす茶屋の前の広場で昼食、ベンチが少なく日陰のない芝生に直接腰をおろしての食事は、皿に入れたあめ玉のようでなんとなく落ち着かない。火打石岳までの尾根道はハコネダケが深く繁り展望のまったくない道を登下降する。ほんとうに熊でも出てきそうな感じ。火打石岳を過ぎると展望のよいやせ尾根にでる。尾根道わきには尾花、りんどう、われもこう、おみなえし、マツムシ草、トリカブト、などいろんな種類の花が見られる。

電波塔が見えてきたら明神ケ岳頂上はもうすぐ。明神ヶ岳頂上ではゆっくり休憩をして下りにそなえる。これから宮城野に向かって下山。急坂で段差も大きくて短い足をせいいっぱい伸ばして転ばないように注意しながら下山。まわりを見る余裕などない。もっとも、明神ヶ岳から宮城野へは展望は全くきかない登山道。足元を見てただただ下る。林道に出たら一安心、ホッとして案内板を見落としてしまったらしい。すてきな別荘を見ながら少し回り道。

宮城野ではゆっくり温泉にはいりバスで家路に。

楽しい一日でした。

＜概要＞

山名	金時山、明星ケ岳（A）		山行形式	日帰り
期日	平成 11 年 9 月 26 日（日）			
山域	箱根	地図	箱根 1/25000	
目的	初秋の箱根の山々を眺める		交通機関	貸切バス
歩行時間	6 時間 25 分		費用	約 5,000 円
参加	25 名		リーダー：斎藤	
日程コース	26日	我孫子駅北口バス発 5:30－乙女峠入り口 7:40／8:10 乙女茶屋 8:40／8:50…金時山 9:55／10:25…矢倉沢峠 11:10／11:40…明神ケ岳 14:00／14:20…宮城野橋 16:05 勘太郎の湯バス発 17:20—我孫子 22:00 着		



環境にやさしいこと、それは私たちの「あたりまえ」です。

自然保護

日本を変える一人になる。

八月の第一日曜日は
高山植物等保護の日です

- 高山植物等の保護に努めましょう。
- ライチョウの保護に努めましょう。
- ゴミや空き缶は持ち帰りましょう。
- 犬・その他のペットは連れ込まないで下さい。
- キャンプ指定地以外でのキャンプはしないで下さい。



Join us!

— シゼンホゴする100万人 —

故郷の水へのメッセージ

詩人　大岡　信

地表面の約七割は水でできている
人間の体の七割は水でできている
私たちの最も深い感情も思想も
水が感じ　水が考えているにちがいない

水が地下から噴きあがるこの泉は
地球の子である生きものにとって
母なる大地の母乳の湧くたつ
懐かしい最初の吸い口

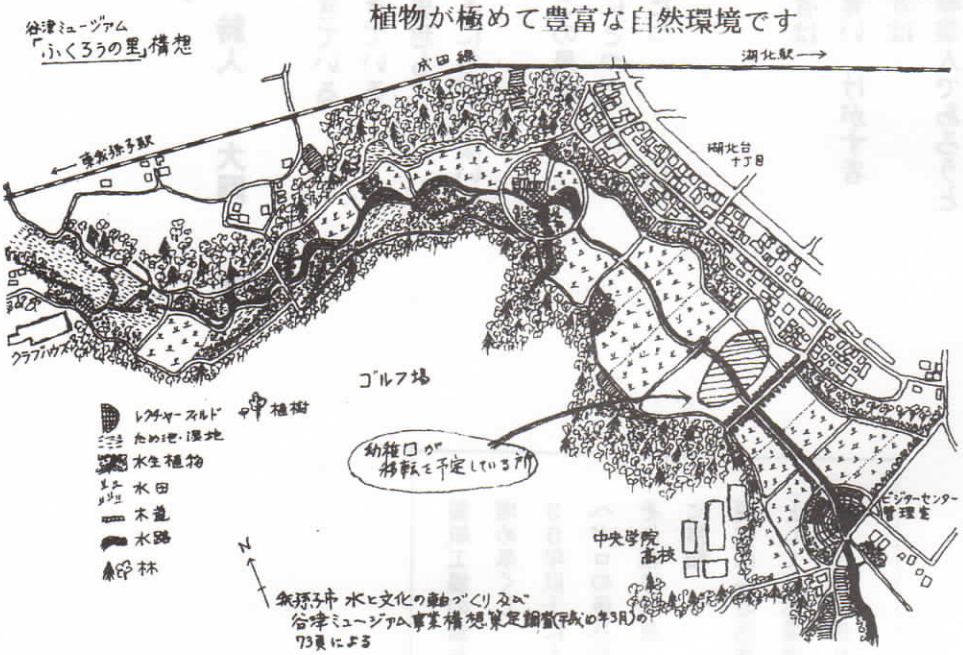
水をけがす者　水を奪う者は
生きものの遥かな場所を奪い　けがす者
水をけがす者　水を奪う者は
いかなるよき隣人　よき職業人であろうと
地表にも　人間の内側にも
前もって砂漠の死を呼びこむ者だ

地元三島出身の大岡信氏より
柿田川みどりのトラストに寄せられたメッセージです

製紙工場の垂れ流しによるヘドロが湧水の柿田川を
埋め尽くし
３０年以上にも及ぶ市民９人による無償で連日のゴミ
ヘドロの汲み出しが世論を動かした。
その輪は行政、住民、町中にひろがり製紙工場はつい
に移転
現在は『財団法人柿田川みどりの『トラスト』
として自然環境を市民みずから守る運動の先駆者とし
て住民の、誇りとなっている。

わたし(たち)も地球のことを考えています。

この谷津はまだ昔の原風景を残す市内最大の谷津で、野鳥をはじめ各種動植物が極めて豊富な自然環境です

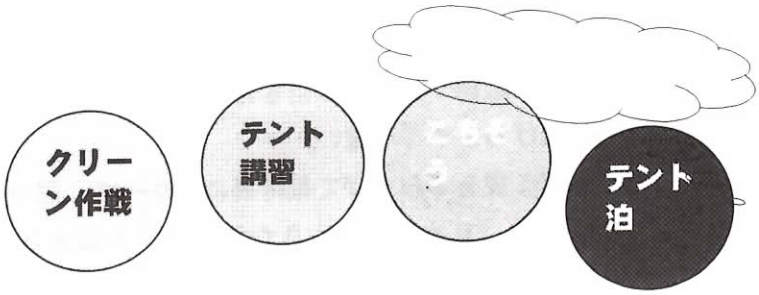


草を刈り、湿地に池を掘る「岳人あびこ」のパワーだ。23人が集り作業した

岡発戸、都部の谷津を愛する会と



水田を再現し、魚や昆虫が住み、鳥が来れるようにした。今は絶滅に近い「タニシ」が見つかった。しかし、この写真の奥の方には住宅が迫っている。生活水の垂れ流しが…。



第３回　岳人祭　雨にもめげず

日時：平成 11 年　7 月 10 日

場所：五本松公園キャンプ場（我孫子市岡発戸）

第１部	１５：３０	クリーン作戦（五本松公園内をゴミ拾い）／食料買出し（食担）	
第２部	１６：３０	テント講習／料理	
第３部	１７：００	夕食及び懇親会	この頃雨降り出す
第４部		テント泊	そして大雨　　大水？

① クリーン作戦……定例集会後 15:30 より。きれいな公園でもゴミは結構あるもんだ。
② テント講習……きちんと講習した班とそうでない班では、後で差が出た。（要反省）
③ 懇親会……17:00 より 20:00 まで各班趣向を凝らした料理（バーベキュー、そば、豚汁、エスニック風サラダ等）で宴会。　テント泊メンバーは 22:00 過ぎまで雨の中で歓談？

・夕食（宴会）参加者　３７名　テント宿泊者　１２名　……　ちょっと少なかった。
・雨が降ってきたので、ブルーシートの下での宴会になった。　……　これも残念。
・　最後ですが、食担の方、お疲れさまでした。食料・酒類の差し入れ、テントや資材を提供していただいた方、ありがとうございました。

岳人祭実行委員一同

◎テント講習・宿泊

無事に過ごせたテント、朝浸水していたテント、寝る前から水没していたテント、雨の中張り直したテントと色々ありました。　テント講習は不充分でした。　あの程度の雨は、雨の内に入らないのでは？と言うぐらい山中では風雪に耐えなければならないのに！　キャンプ場だからとか早くお酒が飲みたいとか、甘え手抜きがあったようで、基本を疎かにして悲惨な結果をまねいてしまい非常に残念でした。

◎クリーン作戦

五本松キャンプ場での定例会のあと、隣接の五本松公園がクリーン作戦の会場である。折から降り始めた雨はその後もしとしと降り続けた。公園内は見回したところほとんど「ゴミ」は落ちていない。大木に囲まれた公園の中は雨の休日のためかシンと静まりかえっている。空気がひんやりと心地よい。２、３人に分かれてゴミ袋を持って歩き回る。「我孫子にもこんなに自然を感じられるところがあったのね」と誰かがつぶやいた。

少し遠くを見ると、ビニールのかけらが目に付いた。「あんな草むらの中は雨に濡れている

し気持ち悪いな～」と思っていると、岳人あびこの仲間たちはずんずん入っていく。一緒になって拾うと、雑誌やお弁当の空き箱など、驚くほどいっぱい捨ててある。拾い終わってゴミ袋を持ち上げるとすごく重い。

それぞれゴミ袋をぶら下げて集荷場に向かった。思ったより大量のゴミがあった。中でも封をしたままの「日本酒」の大きな紙パックと添えられたような「おつまみ」にはびっくり！！！（もちろん、ゴミとして処分）。そのうち袋を一杯にした会員たちが三々五々と集まってきた。

隠れて捨てられていた沢山のゴミを見て驚く。思ったより大量のゴミがあった。今回のクリーン作戦「自分達の町から」と濡れるのもかまわず、草むらの中を歩き回った岳人あびこの会員たちに暖かいものを感じた。最後は参加者全員で、ゴミ袋の山を前にして証拠写真を撮った。（北川、榊原、蜂谷）

◎岳人祭――テント泊に参加して

雨の中での語らいも終わり、１２～１３名のテント組を残し多くの仲間は家路へ……。

初めてのテント体験をする私は、テント講習会で張ったテントに女性４人とすべりこむ。自動車の音がときおり聞えるが、 酒の力を借りてすぐ眠りにつくことができた…… 夜中、幾度となく大雨の音で目を覚ますが、テントの中は暑くもなく寒くもなく快適である。

６時頃起床して外を見ると、田んぼの中にテントがあるような状態でした。小雨の中、昨夜の片付けとテント洗いを、経験豊富な先輩の指示で無事終わることができました。よい経験を得ることができました。濡れたテントをもち帰り、乾かし、保管してくださる皆さん、ありがとうございます。 ※朝ご飯を用意してくださった先輩、ごちそうさまでした。

中村八重子

◎一夏の体験　ウヒヒヒ……

体力に自信のない私には、テントを担いで食料を持っての山行は全然考えられません。しかし、テント泊は静かで広くて快適快適♪♪♪という声をよく聞く。一度はというわけで、百聞は一体験？に如かず、ちょっとだけ泊まってみたい気になり、岳人祭テント泊に毛布だけ持って参加しました。

雨降りでやや後悔したものの、小鳥の声で目がさめるまでぐっすり眠れました。

中は広々、マットで背中も痛さ知らず、雨音もさして気にならず、寝苦しいこともなく想像以上に快適でした。

雨にぬれたテントの撤収は大変でしたが、テキパキと終わり、清子さん差し入れのおにぎりと、トン汁、メロン等々で楽しい朝食をすませる頃雨も本降り。

こうして、しりごみしていたテント泊にもいつかチャレンジしてみたい気持ちがチョットだけ芽生えたことは確かな一夏の貴重な体験は終わりました。

皆さんも、来年はぜひ泊まってみませんか。 高橋寿江

五本松公園でのゴミ収集
短時間に『 こんなに集りました！ 』





谷地を愛する会と合同で草刈、

湿地《谷地の》復活を！





ブナの山旅
講演会成功

1999年10月2日

参加者69名

坪田和人さんを迎えての我が会初めての公開講演会は、会員４３名、一般２６名計６９名の参加者となり、最後まで熱心に聞き入り、成功裏に終わりました。

最初に彼自身が撮影し、編集した【カヤノ平と奥裾花】のビデオの上映が有り、ブナの美しさを堪能した。

講演の内容は**ブナ林の魅力**

ブナの美しさをその葉、樹肌、林相とそれぞれについて説明し、その美しさは四季では表現しきれず、十季に渡っている。私達がブナ林に入ったときのその良さの味わい方を教えてくれた。

①環境を乱さない。私達は森への侵入者で有り、多人数でワイワイガヤガヤはダメ
②植物という生き物を尊重しよう。
③五感の全てで浸るように接する。
触、聴、鼻、眼、味、心（樹に向かって気を送る、無心になって気を受ける。）
④山里の文化に触れる。

縄文文化はブナ帯文化であり、仏教を通じて現在まで生き続けている。科学万能ではなく植物（生物）との共生こそがこれからの私達の生き方である。この自然観に深く共鳴した。

講演会のために多くの会員の協力が有り成功することができました。この講演を快く引き受けてくださいました坪田さんと、運営に協力して頂いた多くの会員の方々に心からお礼申し上げます。



７０名（会員以外25名）の出席者は熱のこもった話を聞き入る。最後には多くの質問があった。



ブナの妖精の
ささやきに
心をときめかせ
和人

著書に書かれたサイン

〈124〉

白　神　岳　（1,232m）

藤里駒ヶ岳　（1,158m）

外崎　蓮

前夜発1日目　　（10／8～9）

新宿駅から外に出、高速バス乗り場へ14人がゾロゾロ移動するのはたやすいことではない。勤め帰りの人混みにのまれて、ふっと顔をあげたときには仲間の姿がなく、遭難しかけた人たちもそろって、秋田行きの夜行バスの席に落ち着いたときには皆喉がカラカラ。バスは高速自動車道を走りながら、どこぞのインターで止まったりして乗客を寝かせてくれた。白々と夜が明けて、6時頃秋田駅へ到着。今度は奥羽本線で東能代まで行き、隣のホームで待っている五能線に乗り換える。海岸線に沿ったこの線路は、日本海に沈む美しい夕日が見られることで最近有名になってきた。陸奥黒崎駅から登山口までは歩けば1時間もかかるため、明日宿泊予定の旅館の車に来てもらい乗せてもらう。

登山口にはすでに大勢の登山者がいて、今晩は山頂の避難小屋もテント場も混みそうである。世界遺産に指定されてからは入山者が多くなり、道はよりいっそう踏み固められている。10月だというのに林の中はまだ新緑のように葉っぱが瑞々しい。登山口付近にはブナに混じって楢やヒバの木もあるが、登るにつれてブナの木がめだってくる。若木の樹肌はとても美しい。年輪を重ねたブナの木は黒い苔を生やして貫禄をみせている。

十二湖分岐から笹藪をかき分けていくと、目の前に立派な小屋があらわれた。最近トイレが建ったのだ。そのため、その奥の避難小屋が貧弱に見える。すでに満員のため小屋前の空き地をさがして、4人用2張と6人用のテントを張る。白神岳の山頂は小屋から笹藪をかきわけて海よりに行った高台。眼下には日本海が広がっていて、夕日が静かに海に沈んでいく。

夕食後4人用テントへ14人が小さくなって入り込み談笑する。特別話題があるわけでもないのにどの顔もにこやか。外は冷え込んできた。この夜この小屋のまわりには、10張りのテントと三角点のある場所に3張りのツェルトが張られた。風あたりのよい山頂のツェルト組は寒くはないのだろうか。



2日目　　（10／10）

テントの寝心地は快適だった。

朝食後、山頂直下の水場へ行ってみる。深くえぐられた道を下りていくと、左手岩場からそれほど勢いはないが水が流れ落ちている。今朝は山頂付近の黄葉が進んだようだ。海も空も渾然一体となって解け合い、どこが境目なのか分からない。遠くには岩
木山、鳥海山が見える。

今日は十二湖へ下る。笹原と灌木の中をしばらく行くと、丈の低い枝の曲がったブナ林になる。稜線上で風が強いためだ。小さな上り下りのあと大峰岳の登りをフーフーいって登り詰めると、山頂は平凡なピークでうっかり通り過ぎてしまいそうだ。

崩山付近に来ると大木のブナが目立ってくる。彼らは威風堂々と空に向かって枝を伸ばしている。ブナ一色の原生林だ。大崩の崩壊地まで来ると左手が開けて眼下に十二湖が見える。どんどん下るほどにブナはさらに大木となり、大地にどっかと立っている。ブナ林をぬけて十二湖に出ると、ここは観光地だ。大町桂月の句碑の前から青池へ行ってみる。ガイドブックにのっているとおり群青色をした謎めいた池だ。深いところでは9mもあるとか。水の中を横から覗くと黒い小さな魚が泳いでいた。

この後ビジターセンターへ下って、今晩宿泊

する旅館のマイクロバスを待つ。この旅館は、前を国道が走り、すぐ裏手は五能線が通り、その先は海で、陸奥黒崎の駅から北に3つ目の陸奥岩崎駅に近いところにあった。
お茶を飲んで一休みした後5人で海岸に出てみる。近くに港があって毎日たくさんの船が行き来するという。昨日も今日も船の姿はなく海は静か。砂浜で石を拾ったり、波打ち際で遊んで帰ろうとしたとき、海岸線に面した稜線上に小屋の建つ白神岳を見つけた。白神岳は海からよく見える。

旅館にもどってお風呂に入っていると、すぐ裏手を電車が通っていく。日は傾き、日本海に夕日が沈むさまに心を寄せる人などありはせず、空腹をがまんしていよいよ夕食だ。さすがは海の町。エビ、カニ、さざえがドーンとお膳を飾った。

今晩は大部屋で休むことになった。明日はサブザックで登るのでその準備をしていると、Sさんはワイン色の紐の細いおしゃれなリュックを出して、これでいいかしらと真面目な顔で聞いてくる。さらにYさんは、若者がよく肩につり下げる紐付きのブルーのビニール袋を出し、これはど～お？と、こちらも真顔。皆は呆気にとられて大爆笑。明日リーダーは彼女らの姿に気がつくだろうか。笑いくたびれて床につく。



3日目　　（10／11）

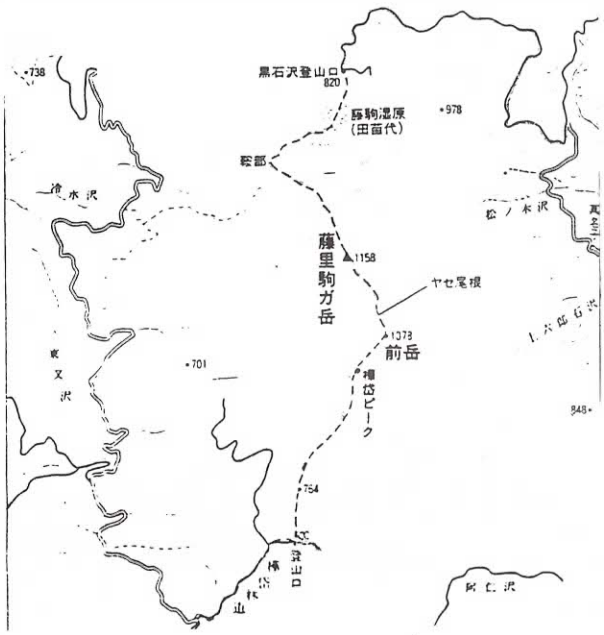
本日は白神山地の藤里駒ヶ岳に登る。
早起きして陸奥黒崎駅に行き、五能線に乗って東能代へ引き返す。電車の中から泊まった旅館の風呂場が見え、男風呂の人影がガラスごしに見えた。これも五能線の名物かも。今日も海は静か。さらに奥羽線で3つ目の二ツ井駅に下車。リーダーが予約してくれたマイクロバスで登山口へ向かう。途中から凸凹道となり白神山地に入る。右手は渓谷。この黒石林道は材木を運び出すために作られた。今はかなり荒れている。黒石沢登山口から小さな沢を渡って行くと藤駒湿原に出る。湿原の灌木や草が色ずいて、それはみごとだ。湿原の木道からはこれから登る藤里駒ヶ岳の頂上付近が見える。湿原を越すとあとは登りだけ。えぐられた登山道の大きな石に足をかけ、笹や木につかまったりして一気に登ってしまう。山頂に着くと雨が降り出す。狭い山頂には方位盤が置かれ、晴れていればとても見晴らしが良さそうだ。宿のおにぎりを食べるとすぐ出発。

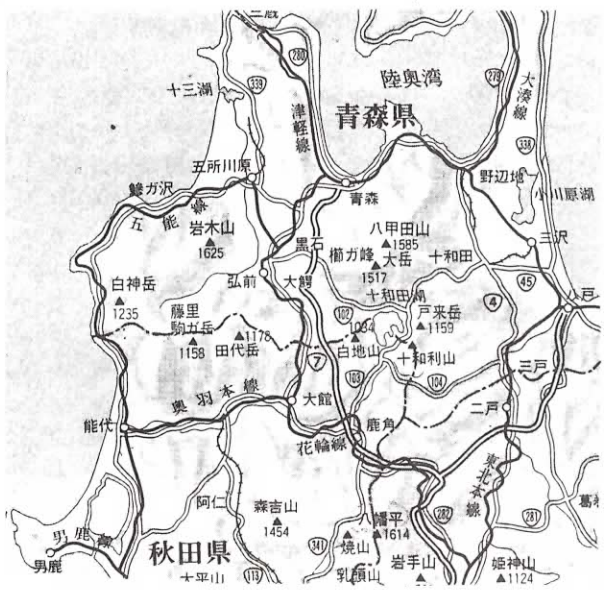
ブナ平まで来ると、これまで見てきたうちで最も太いブナの木に出会う。三人が手をつないで木を抱いた太さ。これこそブナ林の王者たる風格をしている。しかし王者はそっちにもあっちにも。若者だって負けてはいない。未来の王者をめざして、そのしなやかな体にエネルギーを漲らせ、天空に大きく枝を伸ばした様は、まさに生の躍動感に溢れている感じだ。この山は、おまけの山として計画されたようであるが、白神岳より濃密なブナの森を味わうことができた。

薄暗いブナの森から樺岱登山口に出て林道を下って行く。道の両側には色づいた山ぶどうの葉がとても目立つ。その葉かげにあつい視線を送りながら一緒に歩いていたKさんが山ぶどうを見つけ、いきなり藪の中へ突進。その早いこと。ストックを使って蔓を引っ張り、黒い実をもぐ。すかさず私は道端の大きなふきの葉を器にして受け取る。雨などちっとも苦にならない旧い少女たち。連係プレーの良さといったら。ぶどうの実は甘酸っぱく、種がゴロゴロ。野山で食べた小さい頃の懐かしい味がした。

バスで二ツ井駅に戻り、近くでラーメンを食べる。二ツ井登山クラブの副をやっているという店の主人は無口な上、丼もコップも寄せ集め。でもラーメンは美味しかった。特急はすでに混んでいて、秋田まで立つ。秋田で、こまち24号を待つ間、駅ビルに駆け上がりおみやげを買う。一本遅らせたかいあって、車両の隅にまとまって座ることができたが、混雑してきて車内販売が来ず、のどはカラカラ、お腹はグーグー。我孫子に22：30着。もうくたくた。





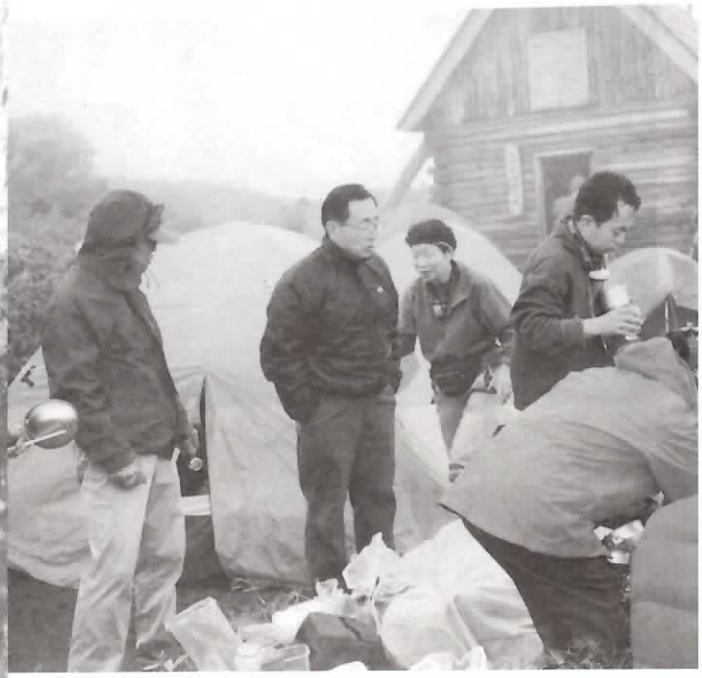


世界遺産

山名	白神岳・藤里駒ヶ岳		山行形式	ﾃﾝﾄ・民宿
期日	平成11年10月8日～10月11日			
山域	白神山地	地図	白神岳・十二湖ほか	
ﾘｰﾀﾞｰ	村松敏彦	参加者	14名	
目的	世界遺産の名峰を訪ねる			
日程コース	8	我孫子発20：32―新宿駅前夜行ﾊﾞｽ22：10～		
	9	秋田6：05／6：24―陸奥黒崎着9：12～登山口9：30／9：45～白神岳14：10着		
	10	白神岳山頂発6：35～萌山10：55～十二湖ﾋﾞｼﾞﾀｰｾﾝﾀｰ13：40／14：15～民宿着15：30		
	11	陸奥黒崎6：08―二ツ井駅着7：53／8：00(ﾊﾞｽ)～黒石沢登山口9：20／9：30～藤里駒ヶ岳10：50／11：10～樽岱登山口着12：40～二ツ井駅14:15／15：21―秋田16：20／17：31―盛岡―上野―我孫子着22：30		
状況	白神岳山頂に水場あり、飲める。			

世界遺産　白神山地





念願の山で　　ニッコリ笑顔
《さすがアー!　…》ぶなの大樹さよ



＜１２５＞
鳳凰三山
（薬師岳、観音岳、地蔵岳）
２８４０m

柴田　節子

重厚な山容を満喫

乗車中は仮眠を取らねばと誰しもが考えたに違いない。この企画は徹夜で、薬師小屋まで登る予定であった。新宿から夜行列車に乗ったのだからいつのまにか眠ってしまう。『まもなく甲府よ』と起こされるまで白河夜船。後に，この短時間の熟睡が元気の源になった。

雨模様が気になり不安の中、駅前から予約済のタクシーに乗った。ご多分に漏れず、運転手は話しかけてくるが、皆んな、仮眠状態であった。

『ゆっくり行ってください』とのお願いもむなしく。結構早く走る。

雨は本降り，夜叉神の森前の暗い休憩舎の前で、雨具を付け，急な山道に入った。峠までの道はよく整備されて１４個のヘッドランプに映し出されたカッパ姿だけが動いた。足元に気をくばりながら、大木の松を見送れば、間もなく夜叉人峠小屋に到着した。静まりかえった小屋は無人かと思えたが，裏に廻った人に対し
『そこへ入ってはダメだ』と一言あった。表のガラス戸を開いてくれるのかと思えば又寝入ってしまったらしく、期待ははずれた。雨はポツリポツリと降っていて軽い食事をしようとしているのに…と不満をもらしてしまった。温かいお茶は体にしみて一息ついた。小屋を後に少し下り杖立峠まではゆるい登り返し。６時頃にはいっきに明るくなり、雨降りを耐えていたかのように、歓声が上がった。その後雨はすっかり止んで、樹間から稜線が見えてきた。
そして青空さえも…。

日本の庭園を思わせる風景は爽快この上ない。かくして１０月１６日の夜明けを迎えたのである。

誰ともなく歌声となって合い和し、楽しく愉快な歩行となった。樹林帯を苺平へと登り，下ると青い屋根の南御室小屋があった。積めた風が吹きぬけて、汗を冷やし，早々とザックをせおい、今日はじめての急登をがんばりながら，森林限界をぬける。

強く舞い上がる風にもめげず、色づく雄大な山並を望み、大きな岩間をぬって、小さな薬師小屋に12：１０分元気イッパイに到着。

この頃はまだ登山者もまばらで、戸外のテントの内外でゆっくりランチﾀｲﾑを過ごした。あったかいおしる粉と、大きな山並にこころ奪われたから、幾度も席をはずして山坐同定を楽しんだ。満足のいくまで、来年は白根三山からこちらを眺めたいと願った。

小屋の中は、夕食を待って昼寝をする人、ザックを整理する人ありで、いつのまにかお客さんでイッパイとなった。

山でのカレーレイスは格別，定番だ．その後は急いで布団にもぐり皆さん、アッと言う間にスヤスヤと眠った。

翌朝17日元気だ。薬師岳山頂まで10分、周辺には花崗岩が点在し美しい庭を思わせた。三山の最高峰，観音岳まで1時間ほど。

ここの頂に立てば甲斐駒、仙丈、雲上に浮かぶ富士山、遙かに北ア，手が届きそうな南ア北部の山々…言葉にならない。

至福の時であった。

厳しい環境に耐える曲がりくねったカラマツ、ハイマツに力強さを教えられる。

赤抜沢の頭につけば自然の造形とも言う『オベリスク』が私達を魅した。

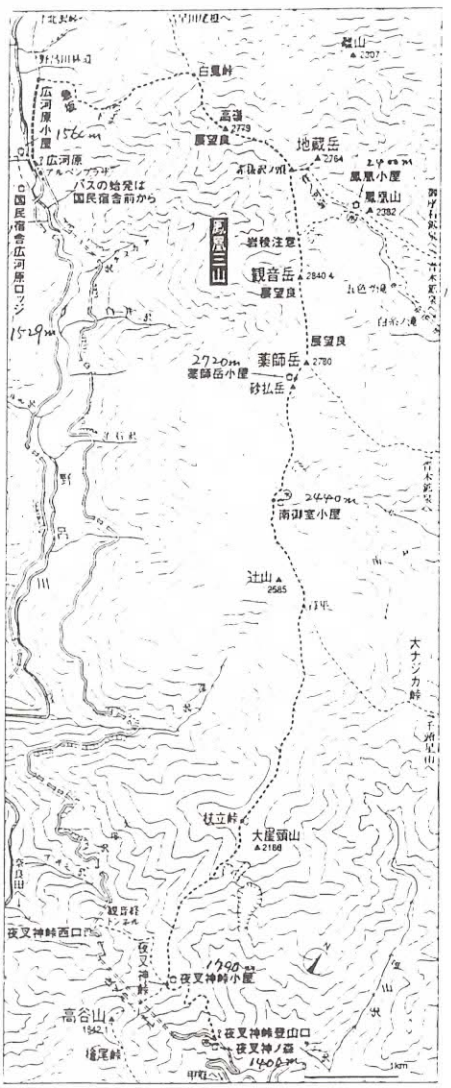
オベリスクとは、古代エジプトで神殿の前に立てた先の尖った石の四角柱のことのようだ。かのウオルター、ウインストンが明治 37 年に単独で初登頂したこの岩塔は地蔵仏岩といわれる。信仰の対象でもあったと読んだことを思い出した。一休みの後、オベリスクの中間部まで登った。風は冷たく、手の感触がなくなるほどであった。

ザックを背負いなおしていよいよ最後の花崗岩砂の斜面をどんどん下りながら晩秋の山中に私は溶け込んでいた。

ドンドコ沢って太鼓を打つ音に合わせてドンドコ、ドンドコドるのかと思えば、長い長い道のりの末え、やっと青木鉱泉に着き一浴。打ち上げとした。

山　名		鳳凰三山	小屋	薬師小屋
期　間		1999 年 10 月 15 日～17 日		
山　域		南アルプス		
目　的		南ア入門、鳳凰三山縦走		
費用		19.000 円／人		
	15 日	我孫子２１；２０／ （夜行）新宿発　２２，３０		
	16 日	甲府２時１５／登山口３、45 夜叉神峠 5,05→南御室小屋→ 薬師小屋 12,10　上欄に続く→		
	17 日	薬師岳 6.20→観音岳 6.45→ オベリスク　8.15→鳳凰小屋→ 9.55 青木鉱泉 15.00 韮崎 17.00→我孫子 21.30		





＜１２６＞

とりかぶとやま
鳥　甲　山
（２，０３８ｍ）

細野　省二

壮絶な岩肌と、ブナの巨木が続く
熊　騒動もあり…

第一日

～長い道のりであった～。

秋山郷まで自家用車で８時間⇒越後石打から信濃川、中津川渓谷、雑魚川、魚野川と上流へと走りようやく山間部の屋敷の集落入る。この山奥から上流に点在する少数の集落が世に言う秋山郷という。人気の温泉も逆巻温泉から屋敷、和山、そして最奥の切明温泉まで続く。

平家落人伝説や、文人、鈴木牧之の『秋山紀行』で語られた当時の山村文化を著述した興味有る地域である。

その山奥がいまや秘湯、秘境ブームで賑わっている！確かに注目の地である！。

その秘湯と紅葉の最盛期に車、車で狭い道路は混雑した。

やっと屋敷部落に到着。小高いにバス道から見る鳥甲山は期待どおりの勇姿でした。屏風のように岩壁と、羽をひろげた蝙蝠のような山だ。左に白グラ、右奥には赤グラと呼ぶ峻険な尾根が深く切れこんでいる。南北に長く伸びる稜線の東側は高さ３００ｍ～４００ｍに及ぶ大岩壁だ。さっそく屋敷登山口を確認に行くがどこが登山口か見つけるのに時間がかかる。（ﾄﾝﾈﾙ）の５０ｍ手前の急峻な傾斜地が登山口だった。

待望のブナの巨木がはるか空に向かって密集している。思わず『すごい！』と唸ってしまう。期待どおりだ。下見をした後、今夜の寝宿、村営のテント場に向かう。たった２張りの先客のであった。

＜今夜は静かな環境で熟睡できるぞー＞と喜んだ…が、この後、意外な展開になった。

荷物をデポし雑魚川に接している切明温泉まで一浴のつもりで…逍遥する。川原を掘ると温泉が出ることで有名な所だ…が…偶然にも**熊に注意の看板**に気がつく。早速、宿の人に確かめた。「一週間前に出没した」との事。一転テント泊りは断念する。恐怖！熊の聖域に踏み込んだ私達は退却するか宿に泊まるか選択するしかない。大きな宿の『のよさの里』も苗場山に登る客と予約客で満室であった。風来坊になった我らは、前述の『熊が…』の一言のため、村内の夜宿が出来そうな建物を捜す羽目になった。努力の甲斐有り最適の宿＝外戸があるバス停留所に目をつけた。最終のバス便はすでに終っている。一坪半の広さに３人が身を寄せあい泊まれそうだ！。熊の心配もない。コンクリートの冷える土間だったが翌朝までしっかり熟睡！。

山登りや山旅は

いつも思うのだがどんなに綿密に計画しても、ハプニングがあるから面白い。

第２日

～いよいよ鳥甲山へ～

早朝、屋敷から鳥甲山をめざす。登山口からいきなりつま先上がりの急登が続き見事なブナの巨木が連続する尾根をグイグイ

登る急傾斜の険しい道だ。途中何回も休憩をとるがこんな急坂では後半には足の痙攣がくるのは目に見えている。ブナ林をゆっくりと登ることにした。

ようやく巨大なブナの森をぬけると平坦な尾根に飛び出す。幾重もの小さいアップダウンを繰り返しながら、左に苗場山の特異地形をした頂上台地を見る。赤クラの肩の登山道は、ゆるんだクサリやロープに登山者が頼るのは危険だ。このあたりの木々をまとった峻険な尾根が深く谷に落ち込む様は恐しい。その赤クラは激しい崩壊がいまでも続いている。鳥甲山頂まで、３つのピークを迎える。最後のきつい登りは標高差５０ｍの急登。

やっと着いた本峰（頂上）は山岳会のグループが１０人ほど休んでいた。

頂上は小さく平坦で樹林が多く北面の展望は良くない。樹木の間から雪をかぶった北アの山々が少々望める程度。反対に南面は岩菅山や焼額山などの奥志賀の山は好展望だ。苗場山からあこがれの佐武流山、白砂山へ続く山並みに目こらす。

登ってみて鳥甲山は秋山郷から見るピラミダムな尖った山頂とはとても思えない。

下りは岩の多いアップダウンで要注意の細い尾根を下る。難所のカミソリの刃と呼ばれる岩稜にフィックスしたハリガネやロープがある。１９００ｍ附近のやせた岩稜は万仏岩まで続く。ここから眼下の魚野川を望む高度感はすばらしい。

疲れた足にブレーキをかけながらの急下降は我慢するが疲労した足に一番つらい。

下界が近づくと豊かなブナの美林の森をくぐるとやっと広い駐車場がある秋山林道にたどり着いた。

だが…今朝の登山口…車を止めた登山口の屋敷までまた歩いて戻る事を考えるドッと疲れが出てきた。

幸い親切な自家用車の人に屋敷温泉まで送ってもらい私達の自動車を回収。感謝！

この季節は谷底の浴槽から眺めた紅葉やブナ林が黄色に燃えて、秘境秋山の郷が豪雪の冬を前にした最も華麗な一刻だろう。

入山も下山口もブナに迎えられ何と豊穣で心安らぐ山行であったのか…。秋風の吹く微かさをじわじわと感じるのです…。

登山コースタイム

平成１２年１０月２３～２４日
第２日目　　参加者：３名、
バス停から
屋敷温泉（15分）…登山口（3時間30分）…赤クラノ頭（１時間）…鳥甲山（５０分）…白クラノ頭（１時間１０分）…
万仏岩（１時間１０分）…和山温泉　着。



↑　白クラのクサリ場を登る　↑

崩壊著しいアカクラを見る。





登路から平らな苗場山を望む



遠く佐武流山方面を望む、冬期以外登頂困難な山

＜１２７＞

県連ふれあいハイク

筑 波 山

リーダー：ﾊｲｷﾝｸﾞ部　齋藤

総務ﾎﾞﾗﾝﾃｲｱｰ係　柴田、長木

日　　時：平成 11 年 10 月 24 日(日)

目　　的：第 9 回ふれあいハイク

（千葉県障害者交流登山）

行動時間：松戸駅～筑波山～松戸駅 10 時間 30 分

費　　用：個人負担 5,000 円、

食材他岳人あびこより

参 加 者：障害者 44 名、家族 10 名、ボラ 13 名、リハ 1 名、山の会 140 名、総数 194 名　内、岳人あびこ 20 名。

コ ー ス：松戸千葉銀行前 8:05～守谷 SA8:35/8:50～9:50 バス下車上坪部落→登山開始 10:10→ユースホステル跡 11:50/11:55→御幸が原 12:45 昼食・14:00 レクレーション 14:20 山頂駅(ｹｰﾌﾞﾙｶｰ) 14:55≡山麓駅 15:05 →鳥居前待機ﾊﾞｽ発 15:50～守谷 S16:45/17:15～松戸千葉銀行前 18:30=我孫子駅 19:00

メ　　モ：

①松戸千葉銀前、岳人あびこのメンバー全員時間厳守。バス後部 20 名陣取る。

②一緒に登頂予定の障害者の方々は別のバスに乗り合せ残念！　車中でのゲーム二問中二問岳人あびこのメンバーが正解を答える。

③バスは予定のユースホステル跡迄行けず、途中上坪部落で下車。狭い路上での変更指示と班編成の役割の確認に手間取る。（県連ハイク本部の情報が各会に伝わって居らず。）

④肢体障害者の歩行困難の方々は自家用車でユースホステル跡へピストン輸送が行われる。

⑤車で先行した肢体障害者と付き添いの仲間は 40～50 分我々の到着を待つ。

⑥御幸ケ原に全員あえぎなら到着するが、誰となく拍手が沸き起こり、そのこだまが鳴り止まず。

⑦原田（君）（食担）さんを中心に女性メンバーの方々による豚汁（30人分）が作り上げられる。200 名の大軍団の昼食が始まった。おいしい、うまいの連発！

⑧アコーデオンの演奏による 200 名の大合唱が御幸ケ原に響き渡る。

⑨目立つグリーンの「岳人あびこ旗」のもと、障害者とあびこのメンバーで記念写真を撮る。

⑩行きは良いよい帰りは怖い。慎重に慎重にﾊﾞｽ待機場所へ　無事完遂！

（齋藤）

参加者の感想

第五班

参加者　秋山恵里（車椅子）、小田剛、酒井重信（以上　肢体障害）

大串(秀)、齋藤、高橋(英)、中村(隆)、飯高、柴田、大串(恵)、小黒、高橋(芳)、(以上　岳人あびこ)、ﾗﾃﾙﾈ山の会(成田)4 名、川嶋優子(ﾎﾞﾗ)

(A) 一台の車椅子を六名の各氏が、交代で、その都度支える場所を換えながら階段を十歩登っては一休みを山頂まで繰り返し、女子は男性のザックを自分のザックの上に担ぎ、又障害者も『一・二・三』と大きな声を出して、お互いに励まし、励まされての共同作業でした。肢体障害者も自立されていて最後まで　私達の手を借りる事もなく、歩行されていました。沢山の会員の参加を得られ　感

謝を申し上げ末永く引き継がれます様に願って止みません。

柴田（総務・ボランティアー係）

①私達一人一人は微力でも、協力し合えば、大きな力となって、実を結び、心地よい疲労といい笑顔となりました。各氏とも、初体験の方が多かったと思われましたが貴重な一日でした。(S.S.)

②秋山さん　疲れた？車椅子は大丈夫だった？来年もまた貴女の笑顔にあいたいネ。(H.O.)

③恵理さん坂道でおんぶ出来なくてごめんね！小田さんコーラス名リードであびこ合唱団は歌を歌いまくりましたよ！　(S.S.)

④秋の良い天気に恵まれ、障害者とのふれあいハイク小生の担当は車椅子の秋山恵理ちゃん、元気と笑顔の明るい子であつた。階段の登りでは、我々と一緒になって声掛け合いながら登った。とても心地よい汗をかき楽しい一日だった。(H.T.)

⑤「1、2、3…8、9、10」、一段と高い恵理ちゃんの声に励ませれ力がはいった。(T.N.)

⑥山頂に到着した時の車椅子の方の笑顔がとても素晴らしかった。(M.I.)

⑦障害者の人達に喜んでもらえ、あの日の青空のようにすがすがしい気持ちになりました。(K.O.)

⑧肢体傷害の方（松葉杖）の補佐として登り始めたが、とても自立心の強い方で最後まで自力で登り、下りは階段で倒れそうになりながらも、手助けを断って居られました。私の方が学習させていただいた一日でした。（それとは対照的に実行委員会の準備が不十分なのか、行動予定が末端までととかず右往左往しました。次回への反省にしていただきたい）　(K.O.)

⑨私がいずれ歩けなくなった時、岳人あびこの皆さん、どうか山頂まで担ぎ上げて下さい。男性陣のたくましさにほれぼれとしました。(Y.T.)

十二班

参加者　小宮昭夫、辻本昌美、永沢信行、松川正則（以上　視覚障害）
庄司、松村（以上　岳人あびこ）、こまくさHC1名、かがりび山の会5名と家族3名

(B)岳人あびこから二名が他の会との混成班となりましたが、無事登頂しました。

⑩ 前向きで生き生きとしている方々とのハイキングで私の方が元気をもらったような気がします。　(Y.S.)

⑪とっても元気で、爽やかなお嬢さんでした。二人で腕を組んで、掛け声と共に登っているうちに、元気をいっぱいもらった思いでした。(M.M.)

十四班

参加者　井出亮太　正子(家族)、齋藤智子　幸子(家族)、清水新子、道子(家族)、(以上　知的障害)、石山伸廣(ボラ)
柴、外崎、長木、中村(美)、蜂谷、原田(君)、飯沼、原、箕輪

(C)当日は天気に恵まれて、これまでの『ふれあいハイキング』の中でも最も穏やかで気温も丁度よく、さわやかな山行日和ということでした。私たちの班は知的障害者の方々中心でした。中には年に何回も山行をしている人もいましたが殆どの人はこの日のような行事がないと山に行く機会のない人で、参加者はみんな生き生きしていました。　柴(班長)

⑫登山道に入ってからリュックを背負ってやったりしましたが、全員自力登山できました。山頂では皆さん豚汁が美味しかったようでオカワリをしていました。次の機会にも是非参加したい。　(I.S.)

⑬ハイクのお伴をさせていただいた若い女性は、歩き出してまもなく生理痛を訴えて道端にうずくまってしまいました。かわるがわる声をかけると、ますま

す固ってしまいました。誰かが『先生のところへ行こう』と言うと、彼女はすぐ立ちあがったのですが、せめて引率の責任者だけにでも、その方の病名や対処の仕方など教えておいてほしいですね。（R.T.）

⑭ボランテイア山行に参加して毎回心が穏やかに静かに広がって行き、体は暖かくホカホカと何事に対しても優しくなれるような気がして来ることです。「人それぞれにけなげに元気を出して頑張る姿をまのあたりにするからでしょう。」（K.T.）

⑮初めての経験で充分にお手伝い出来たか疑問です。障害者の方々の明るさ、前向きの考え方には感動しました。心温まるいい一日でした。（M.N.）

⑯山登り楽しかった？　ギュッと握り返してくる小さな手！言葉にならないぬくもりをありがとう！（Y.H.）

⑰登山口から山頂までの狭くて階段の多い道を、車椅子を持ち上げるのは大変だったとおもいます。車椅子の方々にはコースの選択が適当だったかどうか疑問です。（K.H.）

⑱秋晴れの一日ハンディキャップの方々とのふれあい山行。初めての参加でしたが種々なハンデイーを持ちながらも元気に前向きに歩んでいらっしゃる皆様から数多くの教訓を得ることが出来ました。バスのなかでも楽しく本当に良い企画でした。又参加したいと思います。（T I.）

⑲人に手を貸すことも出来ず何か後ろめたい気持ちで車椅子の横をぬけてきた。（T.H.）

⑳障害者の方々と行動を共には初めての経験でした。岳人あびこの人達の真摯な気持ちが伝わってとてもいい一日でした。（K..M.）

筑　波　山

10月24日（日）　筑波山にて



明るく元気な恵理ちゃんもいっしょに「一、二、三…」



小田さん（中央ハンドマイク）レク進行。
みんな大きな声で歌いました。
（御幸が原）

＜１２８＞

高座山、　杓子山、　鹿留山
１３０４m，１５９７m，１６３２m
松　本　豊

富士山展望と静かな樹林のある山頂

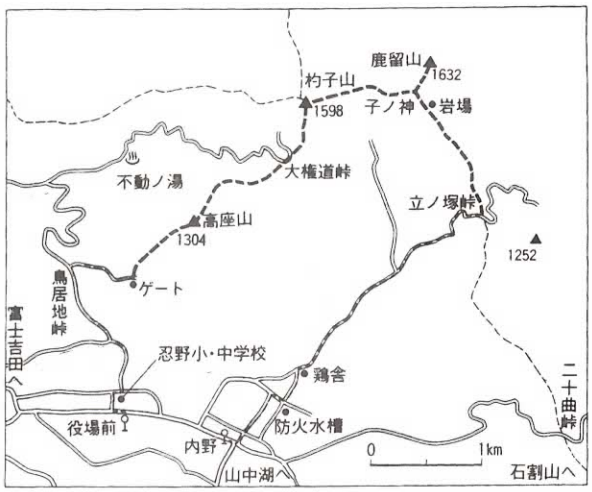
富士山の北東、忍野村の北に位置している山々は期待どおり富士山展望の素晴らしい山行を与えてくれた。

秋の夜明けはおそい。暗い道を駅へ急ぐ。今日の山行は富士が見えなければ価値も半分である。暗い空では天気の善し悪しも判らない。晴れてくれよと祈りながら我孫子発５：３３の電車で一路大月へ。大月より富士急へ乗り換え下吉田駅下車。駅よりタクシーで登山口の鳥居地峠へ。準備体操のあと役割分担。松本見事にやまなみ当選。急に気が重くなる。

鳥居地峠より登り開始。熊に注意の立て看板有り。さすが先輩の細野清子さん、すぐに鈴を出して身につける。道は広く４駆の轍を避けながら歩く。やがてゲートを通過。ゲートの先は一面のカヤトである。ゲートのすぐ左の高座山への道を急登。濡れればてこずりそうな急斜面である。斜面を登りきれば道は右へ折れて平坦となる。右は一面のカヤトであたかも箱根に居るような錯覚に陥る。すぐに平坦な道は終わり先程のような急登が続く。登り切れば高座山の山頂である。山頂の南側は木も無く見晴らしはバツグン。丁度富士山頂の雲も切れ富士の全容が忍野村越しに見える。左に石割山、山中湖、正面に富士の大パノラマを堪能し次ぎなる杓子山へ向かう。高座山山頂の北側より尾根道を大権首（おおざす）峠へ下る。林の中の道は見晴らしも悪くただひたすら足元を見て歩くのみ。高圧送電線をくぐれば峠まではもう一降りである。峠は林道と交差している。杓子山へは左へ林道を見送る。道は林の中へ進み一直線の登りが続く。やがて左へ道はカーブし山腹をトラバース気味に進むとマユミの群生地を通過。一面ピンク色で桃林の中を歩いているようである。杓子山の左側の尾根を一直線に登る。この登り最後であり山頂には飛び出す感じで到着。

この山も展望には恵まれ南側に富士がくっきりと姿を見せる。山頂には小さなほこらが祭られテーブルが二つ設置されている。富士を眺めながら昼食とする。女性軍の手作りの豚汁を戴き体を暖める。素晴らしい展望と美味しい豚汁で時の経つのを忘れる。時を忘れると同時に鹿留山に登ることすら忘れたのである。まさに竜宮城に全員がいたのである。山頂でワインパーテイをしていた他のパーテイが出発し下山路と反対に進むのを見て鹿留山に行くのを思い出し慌てて片付けをして荷物を置いて空身で出発。杓子山山頂より東方向の尾根を下る。鞍部まで下りピークを３つ程登り降りすると子ノ神の分岐となる。立ノ峠への道を右に見送る。分岐よりブナを主とした尾根道となりここで先程見送ったパーテイに追い付き、追い越す。道は緩やかなアップダウンを繰り返しながら鹿留山に到着。山頂はブナの巨木に囲まれ眺望はゼロ、山頂というより道の行き止まりが山頂であったという感じの山であるが何故か魅力ある山である。落ち着いた神秘的な雰囲気が感じられる。ブナの妖精のなせる業か。春になれば緑一色となり一層魅力ある山となるだろう。帰路は往路を杓子山経由で大権首峠まで下る。峠からは高座山への道を左へ見送り林道を不動ノ湯目指し下る。富士をもう一度眺めたい方、曇って富士が見れなかった方は高座山へ登り返し最後のチャンスにかけるのもよかろう。不動ノ湯は鉱泉で

沸かし湯であるが皮膚病に効能があり遠方より来る人が多いとのこと。不動ノ湯で汗を流し今回の山行は終了となる。タクシーで不動ノ湯より大月へ戻り電車で我孫子へ帰る。富士急行の運賃は高いので大月よりタクシーで鳥居地峠、不動ノ湯迄行くのも人数しだいでは良策ともなる。



山名　　高座山、杓子山、鹿留山、（A）

山行形式　　日帰り

期　日　　平成１１年１１月３日（晴れ）

山　域　　富　　士



目　的	富士の展望、温泉		
交通機関	富士急、タクシー		
参加数	8名	リーダー	外崎
日程	鳥居地峠9:15~高座山10:20/10:35~大権道峠11:30~杓子山12:15/13:50~鹿留山14:20/14:25~杓子山14:55/15:05~大権道峠15:25~不動ノ湯16:20/17:00~(タクシー)大月18:00		
参加者	L外崎、SL斎藤、細野清、三浦、大串恵、日下、庄司、松本、		



お腹が膨れたゾー！



＜ 129 ＞

新人研修（山小屋泊）

丹沢山主脈の縦走

原　田　和　昭

ポッカ隊編成し山小屋に奉仕

紅葉真盛り、新人４人を含むメンバー７人が天候に恵まれて丹沢山の急登に挑んだ、途中でハプニングに会いながら良い経験をする山行になりました。

前夜からの雨は上がり、空は青く定刻に大倉に到着、登山準備を整え細野リーダーから厳しい注意を受けて元気に出発する。田園地帯を約２０分歩くと表丹沢県民の森まで続く林道に入る。林道は急斜面の所に建設され幅員は狭く、注意しながら歩き二俣に着く。

二俣から少し行くと、鍋割山荘に持ち上げる満たんにしたペットボトルが多く置いてある。我がパーティーは急遽ポッカ隊に早変わり、各人が２日間の水を確保した上に鍋割山荘までペットボトルを持上げることに決定する。リーダーの細野さん、清家さん、武内さんの３名が４Ｌを、他の４名が２Ｌの水をザックに入れて歩き始めた。

山小屋で使用する営業用の水を背負うのは始めての経験であり、２Ｌの水が想像以上に肩に重く感じた。ミズヒ沢からの道はジグザグの折り返しで２Ｌの水が一段と重く感じながらやっとの思いで後沢乗越に到着する。乗越しは細い稜線で足場は狭いが両側の谷間から吹き上げる風が涼しく、水と軽い食事で一息をつく。

乗越しからは山の稜線に添った急登であるが、足場はしっかりしており危険な場所は無い、身体全体から汗が吹き出る感じで我慢しながら一歩一歩と歩く。私がポッカしている水の２倍を背負っているメンバーの力強い歩行、特に女性メンバーの清家さんに脱帽する。頂上近くになると両足の大腿四頭筋がピリピリと感じるようになった。ポッカする時間約２時間で待望の鍋割山荘に到着する。

全員で持上げた水を小屋の中に持込むと主人から多くのボトルに驚き、感謝の‘ありがとう’の言葉だけである。大量の水を苦労して持参したのに、単なる感謝の言葉だけで、他の方法があってもと思うのは素人の私だけでしょうか、これでポッカ隊は解散し楽しい昼食をする。

キノコ採りで食材の確保

鍋割山から小丸の頂上を過ぎて少し行くと、１人の男性がキノコ（ムキタケ）を採っていたので声をかけたら、偶然にもその人は今夜泊る花立山荘の粕谷さんでした。早速キノコ採りをお願いしたところ、粕谷さんは気持ち良く引き受けて戴き、私達を大丸の西北斜面に案内し、キノコ採りの方法を伝授する、キノコ採りの心構えは、気持ちを落着かせ足元に注意して、ゆっくり、左右、上下に探す、１本見つけると周りに注意しながら大きなキノコだけを採る。

今回採れるキノコはキヌメリガサ（別名コンキダケ）で、色はうすい黄色で笠の大きさが１０円玉位、約４０分間、夢中になって採った結果、夜の宿泊客全員の食材には充分な量が採れて全員

満足する。その他のヌメリホウシダケ、ナラタケ、ブナシメジも教えてもらいながら花立小屋に到着する。

花立小屋は金冷しから１５分位大倉尾根を下った所で、見晴らしは最高、西に富士山から箱根の山々、東は大山から横浜方面、南は秦野市街や小田原方面、その向うに太平洋の海、山全体が暗くなるにつれて市街の電気が、一段と明るく輝きだし百万ドルの夜景を楽しむことが出来る。

夕食は牛肉と鮭の薫せいに豊富な野菜、私達が採ったキノコの入った鉄鍋料理に、キノコの天プラ等を食べながら、朝からの体験した話に花が咲き、山小屋の人々の心暖まるサービスに満喫する。花立山荘は宿泊費も安く、部屋やサービスも満点でおすすめの山小屋です。新木出身の池田さんが病気療養のため会うことが出来なかったのが残念でした。

丹沢山の縦走

第二日目も晴天、日の出と共に赤富士を仰ぎ、朝の空気は冷たく気持ちを引締めさせる。金冷しを過ぎて塔の岳山頂間近になって、降りて来る登山者を見て、先程出発した花立小屋にストックを忘れたことに気付くがそのまま登る。忘れたストックは帰宅後に小屋へ電話して、ご主人である高橋さんのご好意により数日後に無事手元に届き決着する。山を愛する人達の善意に感謝する。

塔の岳山頂はモニュメントと尊仏小屋の調和がとれ、朝日に輝く富士山、その向うに南アルプスの山々が雪に覆われて光り輝いている。言葉では尽くせない絶景である。

頂上から少し下ると質素な小ノ又小屋の横を通る、小屋の中から懐かしい音楽が聞こえて来る。リーダーからコーヒータイムの声が掛かり小屋に入る。内には自然あふれる四季の写真が飾られ、その中に私達の気持ちを的確に表現した、イラストレーターの短文が書いてあった。

“今日の丹沢はいかがでしたか

美味しい珈琲に山の仲間

ひと息いれませんか、あなたの見た丹沢

別の人が見た丹沢、美味しい珈琲を飲みながら、気持をゆっくり話しましょう”

窓から紅葉した丹沢の山々を見ながら色々な話を語らいながらコーヒーをゆっくり楽しんだ。

休憩後は元気はつらつと行者岳，烏尾山を過ぎて、今日のコースーで一番急登である、石とガレ場や鎖場を約３０分登ると三ノ塔に到着する。頂上は広くて多くの登山者で賑わっていた。武内さんのザックは何時も魔法のザックと呼ばれているが、今回は甘酒セットが出てきたので甘酒パーティーを楽しむ。荷物も軽くなり健脚メンバーは一気に二ノ塔、ヤビツ橋までかけ下りヤビツ峠には定刻より早く到着する。

ヤビツ峠からはバスが無いので蓑毛まで歩くことに決定し、春岳沢に沿った山道を快適に降りる、中間地点付近に、全国名水百選、秦野盆地湧水郡湧水地があり、各人入れ物に丹沢名水を入れてバス停まで歩く。以後は予定より早めに我孫子に帰る。

今回は健脚ぞろいのメンバーで人数も少く、歩行時間は標準時間より早く、ヒヤリハットは一切無く、天候にも恵まれ新人としては強く印象に残る山行になりました。

細野さんや清家さんの適切なご指導でより楽

しい登山が出来たことに深く感謝申上げます、ありがとうございました。

概要

山名　：丹沢主稜縦走　形式　山小屋一泊
期日　：平成11年11月13日土～１４日（日）
地形図：　2.5万大山、　５万秦野、
目的　：新人研修、　山小屋の楽しさを知る、
概算費用：9000円、交通機関：電車とバス
歩行時間：１日目　5時間05分
　　２日目　4時間50分
コース：１日目　我孫子5:30=新宿=渋沢
　8.00/8.35バス=大倉8.35~ﾋｽﾞﾐ沢
　~後沢乗越11.05/11.15~鍋割山
　12.35/13.05~小丸13.45~きのこ狩ﾘ
　~大丸14.40~花立山荘15.05
　２日目　花立山荘7.05~金令し~
　塔ノ岳7.45/8.00~木ノ又8.20/8.55 ｺｰﾋﾀｲﾑ~三ノ塔10.25/10.45甘酒ﾀｲﾑ~
　二ノ塔~ﾔﾋﾞﾂ峠　12.12/12.40~名水百選
　13.20～蓑毛　13.40/14.00　ﾊﾞｽ~秦野
　15.36=代々木上原=我孫子18.00



飲み水に苦労している鍋割山荘へ水２０ℓを自発的に荷揚げ。善意の行為に『そこに置いといてください～』のそっけない返事　、ああ！





花立山荘でのストーブ談笑、心温かくなる

＜１３０＞

武甲山

（1,295m）

品田千恵子

変わり行く武甲山が痛々しい

晩秋の朝、暖房の効いたバスから下りると、張り詰めた冷たい空気がほてった体をシャキッとさせてくれる。

武甲山の山すそに広がる林道入口から登り始めると、すぐに水場があって、斎藤さんが、

「１杯飲むと２歳若くなり、２杯飲むと美人になるよ」

と皆に勧め、私も飲んでみた。どこからか、

「欲張って何倍も飲むと美人を通り越して赤ん坊に戻ってしまうぞ」

などとその場を盛り上げる。

とてもいい山行になりそうだ。

植林された杉林はきれいに手入れされ、とても歩きやすい。途中に大きな杉の木（樹齢何百年？全員の年齢を合わせても足りないかなあ）がデーンと構えていて、素通りできないような気がして全員で記念写真を撮る。

大きな木の鳥居をくぐれば山頂の御嶽神社が見え、社殿の裏に鉄柵で囲まれた展望台があり、そこから見下ろすと採石場が広がり、中央にはすり鉢状になった場所がある。そこから採石した石灰石を下まで落とすらしい。何ともはや合理的なんだろう。

昔の武甲山は 1,336mもあったというのに、４０mも削り取られ、無残にも日一日と姿を変えていく。何とも痛々しい。

この日は学生らしい登山者が多く、あちこちで賑やかな声が聞こえてくる。この変わり行く武甲山に登って、何を感じただろうか。そんな若者たちと御嶽神社の境内で昼食をとる。

要所要所に発破時の避難小屋が点在している道を「長者屋敷ノ頭」まで下ると、日陰には霜柱が立っていて、冬の足音が聞こえてきそう。

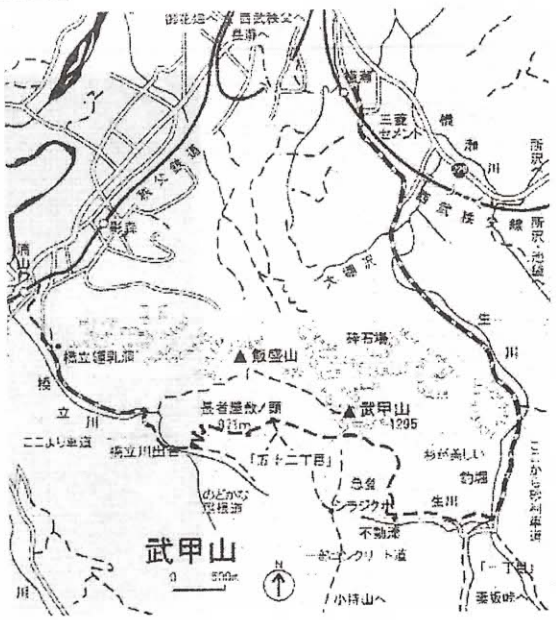
カラマツ林の紅葉を過ぎると沢の音が聞こえてくる。橋立川の丸太橋を渡りきり山を見上げると、中腹あたりは色鮮やかな七済の紅葉、川面にはその落ち葉が思い思いのポーズを取り、ひとつの面となっている。

山行途中によった橋立鍾乳洞は規模は小さいが竪穴状で石筍、石柱などが見られた。

山行後は武甲温泉に立ち寄り、鉱泉にドブーンとつかり疲れをとる。う～ん、極楽極楽。入浴後の山菜そば、おいし～い、満腹、満腹。

３ヶ月ぶりの山行も無事終り、次に予定している秩父御岳山(11／28)、百蔵山（12／5）と３週連続山行を目指そう。

概念図



概　要

山名	武甲山		山行形式	日帰り(A)
期日	平成１１年１１月２１日（日）　晴			
山域	奥武蔵	地形図	秩父 (1/25000)	
目的	痛々しい奥武蔵の盟主に登る		費用	4,000円（貸切バス）
歩行時間			5時間（正味）	
ﾘｰﾀﾞｰ	中村隆泰		参加数	１８名
日程コース	21日	我孫子駅北口 5:30－常磐道－関越道－川越 IC－日高－正丸－横瀬－林道入口 7:55／8:10～妻坂峠分岐 8:40～マス釣場 8:55／9:00～武甲山 10:50(展望)11:20(昼食)12:00～長者屋敷ノ頭 12:35／12:40～林道入口 13:45～橋立鍾乳洞 14:30／14:50－武甲の湯 15:20／16:30－川越 IC－我孫子 20:30 着		





削られる前の武甲山、今の姿と比べてください

秩父事件へのいざない

秩父事件と妻たち

秩父事件研究者
板倉三重

私ははじめ秩父事件に関して、そのとき妻たちはどうしていたかを知りたく事件史を調べた。しかし事件の全体像や中核に女性は出てこない。蜂起者は一万人といわれていて、大方が妻帯者であるのに事件のなかに妻たちはほとんど見えない。

1980年私は秩父に入って年配の女性の方に事件と妻たちのことを尋ねたが答えはかえってこなかった。しかし、事件にかかわった男たちの中には〝いきばて〟といって帰ってこない夫もいた。獄死した人たちも相当の数である。かかわりのある家は家ごと体制に反逆した暴徒の汚名をかぶせられた。

秩父事件は生存権を主張してたたかった男性の事件として歴史に残っているが、その陰で暴徒の妻たちは、残された家族を守るためにどれほど苦闘したことか、このことを見逃がすことはできないと私は思うのである。

▽武甲山

秩父盆地を圧するように雄々しくそびえ立つ武甲山は、秩父の人々の心の山である。秩父の農民は、山の幸をもたらし、農業に必要な水をもたらすこの山を、神として畏敬してきた。

しかし、この山の北面が純度の高い石灰岩によって形成されていることから、セメント会社による採掘が進み、今は山頂は削りとられ、山腹は無残な傷跡をさらしている。武甲山のみに自生する美しいチチブイワザクラも絶滅必至だという。

毎日12時20分過ぎ、秩父盆地に発破の爆発音が鳴り響き、武甲山から白煙が舞いあがる。この武甲山の叫びは、金と引き替えに大事なものを失っていく人間への警鐘というべきだろう。

＜１３１＞

乾　徳　山

２０１６m

松　村　雅　子

３６０度の大パノラマ

行ってみたい山だったので迷わず申し込んだ。当日のメンバーの顔ぶれはみなベテランの人達ばかり。私には少しグレードが高かったかなと不安になった。

塩山駅からタクシーで登山口に向かう。タクシーから見る里の風景はあちこちの軒下にオレンジ色をした見事な吊るし柿がさがっていた。運転手さんによると、市場にだしているという。なんだか妙になつかしい気がする。登山口の周りはカラマツの黄葉一色にそまって見事だ。新緑の頃のカラマツの芽吹きもかわいいけど、秋の紅葉したカラマツは太陽が当ってこがね色に輝いてステキダ。

体操と身支度を済ませ、いよいよというところで、リーダーから一言「今日は行程が長いのでピッチをあげていきます」。

周りの景色に気をとられていた私は、すっかり現実に戻り、朝の不安が益々高まり、これは大変とばかりに２番手にピッタリと張付いた。オソバ沢沿いに登り、銀晶水を過ぎてジグザグの登山道を息を切らしながら登っていると、後ろに富士山が木々の間から見えだした。登るごとに眺めては歓声をあげていると、辛い登りも一瞬忘れてしまう。それでも３０分毎にちょっとした立ち休憩があったし、錦晶水では喉を潤し、一息もつけた。カヤトとシラカバの国師が原の草原に出る頃には、これから登る乾徳山の岩峰が迫って見える。目の前に見えてしまうと、辛いなあなんて思いながら急登を一歩一歩息を吐きながら自分のペースで登る。この頃には富士山がくっきりと姿を見せ、振り返っては、その雄姿に元気を貰いつつ、見晴らしの良い扇平に登り着いた。

ここで昼食。楽しいランチタイムの後は、いよいよ目の前にそびえる岩稜にアタック！　樹林帯の中、鎖や梯子の岩場が続く。これ以上は足があがらないと思うほど大股で登っていると、足が悲鳴をあげて吊りそうだ。そんな最悪の事態も免れて、ホッとしたのも束の間、最後の難関が待っていた。みると目の前に１０mはあるような大きな岩が立ちはだかっている。スリル満点の頂上直下の鎖場だ。最後の一頑張りとばかりに必死に鎖にぶら下がって岩と格闘していると、忍者（くのいち）を連想してしまう。でも私の場合、決して機敏じゃない、太目の忍者だわなんて、思わず苦笑い。



乾徳山　３６０度の大パノラマ

そうして登り詰めた頂上はグルリ３６０度の大パノラマ。幾重にも重なって見える山々は感動そのものだった。変化があって、岩のスリルが十分に味わえた山でした。

山　名	乾徳山（B）	山行形式	日帰り
期　日	平成１１年１１月２３日(祝)　晴れ		
山　域	奥秩父	地形図	川浦 1/25000
目　的	山頂より、奥秩父、南アルプスの紅葉と富士の展望		
交通機関	ＪＲ中央線		
日　程 コース	我孫子 5:33＝塩山駅 8:48＝タクシー 20 分＝乾徳山登山口 9:20---銀晶水 10:00---錦晶水 10:48---扇平(昼食)11:35/12:00---乾徳山 13:15---高原ヒュッテ 14:50---銀晶水水場 15:45---乾徳山登山口 16:10＝塩山駅 16:45/17:52＝我孫子 21:00 頃		

〈１３２〉

秩父御岳山

（1080m）

安田 みづほ

秩父の御岳山は静かな山、
両神山の展望を期待して

秩父のあちこちに御岳神社ってけっこう見かける。普寛上人の故郷であるからに違いない。三峰口駅から歩いて10分で登山口だがいきなりの急登でフウフウ。左側にチョコチョコと秩父市街の展望が得られるがあとは杉林が続き、静かで一人では歩いたらちょっとこわいなと思った。子供の頃、よく杉っ葉を拾ったものだ。「リーダー、ちょっと早いよ、後ろをよく見ないとだめだよ、」と村松さんの声。ゆっくり歩いているつもりでも前を歩くってほんとうにむずかしい。

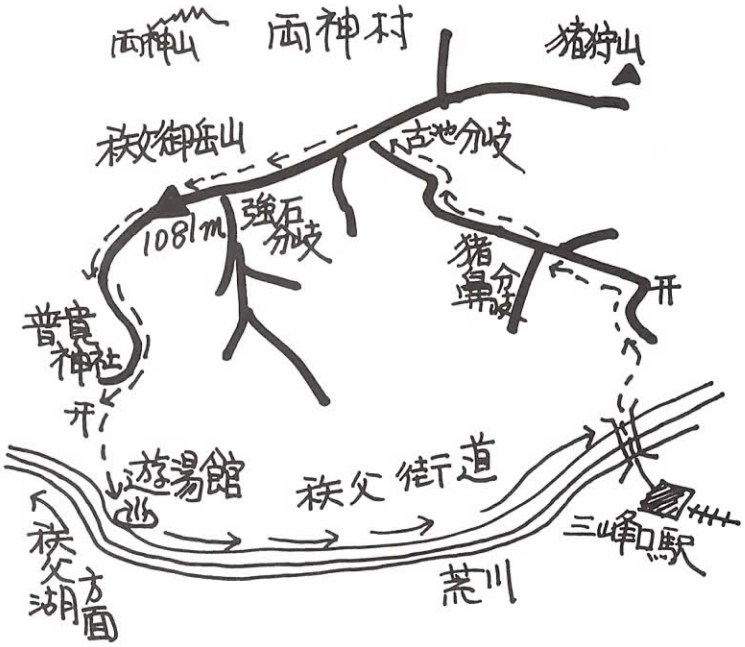
きつい登りが続く。左側が切れていて杉の植林がきれいだ。一汗かいた頃狭い山頂に着いた。山頂にはけっこう人がいて驚く。良い天気でギザギザの特異な両神山や西上州の山々が見えて良かった。

お昼をすませ、いきなりの鎖があり、慎重に下りるが、「こんなの何ともないよー」と、村松さんに笑われる。「大変な所があるって言うからロープも用意してきたんだがこんなとこどうって事ないよー。」って。

そうこうするうちに杉林の中、佐藤さんが青々とした枯れてない杉っ葉をたくさん拾って、クリスマスのリースにするとか。

沢沿いのジグザクの道を、丸太の橋を何度か渡る（雨の日は滑るので危ない。）ともう、登山口に着いた。と、ササーと動く物体！なんとお猿さんの一家のお出迎え。右に左にササササー、ササー。民家の庭を我が物顔に走り回っている姿に一同大笑い。

紅葉も残っていてお天気も晴れてくれて良かった。リーダーになっての初めての山行。心配で娘に付き合ってもらって下見をしました。その時は登山口を間違えて、反対方向にいってしまい途中で引き返したのです。娘はしんどいと言って、でも紅葉が綺麗で駅前の栃もちを買って食べたので登れたと言ってました。ちょっと癖のあるお餅でした。あまり面白みのない山でしたがたくさんの会員の参加を得て、早く、安く、楽しくと勉強する事の多かった、私にとって忘れられない山になりました。



山名	秩父御岳山	山行形式	日帰り
期日	平成11年11月28日（日）晴れ		
山域	秩父	地形図	三峰
目的	静かな山と両神山の展望		
日程及びコース	我孫子5:30=池袋（西武池袋線）急行6:50=西武秩父8:12…御花畑駅8:31=三峰口駅8:53…国道140号…登山口9:30…古池分岐10:40…強石分岐…山頂11:30/12:10…沢沿いの下り…普寛神社13:20…大滝温泉15:30（バス）-三峰口駅15:50/16:12=池袋=我孫子駅19:29着。		

＜１３３＞

忘年山行　　百　蔵　山　（１００３m）

リーダー：高橋　グレード：　A

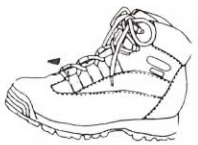
日　　時　：　平成１１年１２月５日（日）　曇り後晴れ

目　　的　：　第３回忘年山行 。親睦を計る

歩行時間　：　約３時間３０分

会　　費　：　４０００円　　**参加者　35名**

(秀)



参 加 者　：　A班　L高橋・SL由布・柴・大桃・小川・日下・長木・原田・安田・大畠・原・松本

B班　L武内・SL榊原・三浦・清家・大串恵・斉藤・中村隆

渡辺・品田・高橋正・　中村ハ・中村

C班　L川下・SL柴田・外崎・大串秀・中村美・中野・原田和

飯高・山西・飯沼・　箕輪

コ ー ス　：　我孫子５：３０－総合グランド７：５０－頂上９：５０－

いこいの森１１：３０－忘年会－大月Ｉｃ－我孫子５：３０頃着

：　総合グランドから分岐まで、A班、B班、C班共に歩く。分岐から左コースはA班、右コースはB班、C班それぞれ登る。途中の山道は石多く、木々は杉の木に覆われている。頂上近くで明るさが見え始め、山頂に着いたら、B班、C班共着いていた。各班で集合写真を撮ってから全員で撮る。後、各班共下山開始。キャンプ場での鍋、忘年会が楽しみ…。自然の中での宴会は最高!!まわりは紅葉があり、山の歌まで飛び出し大いに盛り上がった。 楽しい１日だった。　【 高　橋 】

：　紅葉の残る百蔵山の登山道は落ち葉に覆われ、まるで絨毯の上を歩いているようで心地良かった。しかし、山頂近くの登りは短いながらもかなりの急登で、ここは逆に落ち葉で滑りやすい。逆コースをとっていて、ここを下ることになるA班はやや大変かなーなどと思いながら登って行くと、頂上直ぐ手前にある扇山への分岐に出た。百蔵山の頂上には、三角点（３等）があり広々としており、大きな桜の木が植えられている。木立の間からの展望も良いので、春に花見を兼ねて登るのも良いだろう。ただ、山が小さいので、その時は扇山への縦走も考える必要がある。頂上でA・B・Cの３版が合流したが、本日は忘年山行ということで、記念撮影の後、早々に下山。予報では下り坂とされた天気も、昼頃には薄日が差すほどに回復。風もなく穏やかな日和となった。自然の中での忘年会は鍋料理に舌鼓をうち、山の歌のコーラスも飛び出て大いに盛り上がった。年末迄には、まだ幾つかの山行が計画されており必ずしもこれが本年度最後の山行とは言えないものの、第一回目の１９９９年の締めくくりは盛況裡に終わった。　【 武 内 】

：　百蔵山から下山時、最後尾を歩く私に「これから忘年会ですってね、いいですねー。」とすれ違う登山者に声をかけられたのが十数回。前を歩くB・C班の楽しそうな姿がよーーく伝わりました。　【 川 下 】

久しぶりに見る元気な顔がそこにはあった．それぞれに今日ゆく山の分担が言い渡された．そのあとは,好きずきに得意の話や，山の話で盛りあがり車中は賑わった．

竹内さん　魔法のザックに　お鍋消え　　柴さん 句

川下さん　子づかれながらも　好きな山

そこは落葉が幾重にも重なりあい，まるで羽毛布団の上を歩くような心地よい感触が私のからだに振った．

小春日に　衣服ぬがされ　歩くかな　　清家さん 句

急斜面をあえぎながら頂上に着いた

山つつじ　私も咲きたや　狂い咲き

まもなく下山し，一行はともに「いこいの村キャンプ場」に到着し，空腹で待ちに待った鍋を囲んでの忘年会の始まりでありました．

もみじ葉を　入れて飲む酒　うまい酒

鍋囲み　湯気の向うに　見る笑顔

”” 山よさよならごきげんよろしゅう 又来るときには 笑っておくれ．．．

年の瀬や　山に登って　高笑い

楽しかった宴の余韻をあとにし，また来年の約束を交わし，暮れゆく家路を急いだ

行く年と　来る春に堪え　寒椿

初春を　待ち焦がれつつ　山終い

平成１１年 １１月　日 提出 (記入者 高橋英雄)

山名山域	百 蔵 山 (中央沿線)	山行目的	第３回忘年山行。親睦を計る。
山行種別	①定例山行　２個人山行	ルート	総合グラウンド～百蔵山～いこいの森キャンプ場～総合グラウンド
山行期間	平成１１年１２月 ５日(日)　日帰り (歩行時間 ３時間３０分)		
日程･コース	我孫子⇒ (常磐道⇒首都高速⇒中央道) ⇒猿橋総合グラウンド A班　総合グラウンド→分岐→福泉寺への分岐→百蔵山→扇山への分岐→いこいの森キャンプ場 (忘年会) →総合グラウンド B・C班　総合グラウンド→分岐→いこいの森キャンプ場→扇山への分岐→百蔵山→福泉寺への分岐→分岐→いこいの森キャンプ場 (忘年会) →総合グラウンド 猿橋総合グラウンド⇒ (中央道⇒首都高速⇒常磐道) ⇒我孫子		

駅から登る山


奇人あびこ


塩ノ山553
塩山
棚山
1171
兜山
913
春日居町
勝沼
ぶどう郷
棚横手山
1306
黒岳
1988
雁ヶ腹摺山
1857
麻生山
1268
権現山
1312
生藤山
990
陣馬山
855
景信山
727
中央自動車道
中央本線
八王子
新宿へ
松本へ
石和
古部山
甲斐大和
滝子山
1590
百蔵山
1003
扇山
1138
高尾
高尾山
599
笹子雁ヶ腹摺山
1358
殿平
812
花咲山
四方津
上野原
藤野
相模湖
遠沢山
1358
笹子
大月
猿橋
鳥沢
梁川
高柄山
733
1631
本社ケ丸
鶴ヶ鳥屋山
1374
初狩
高川山
976
富士急行
九鬼山
970
倉岳山990
二十六夜山
972
朝日山
1299
二十六夜山
1297
N



＜１３４＞

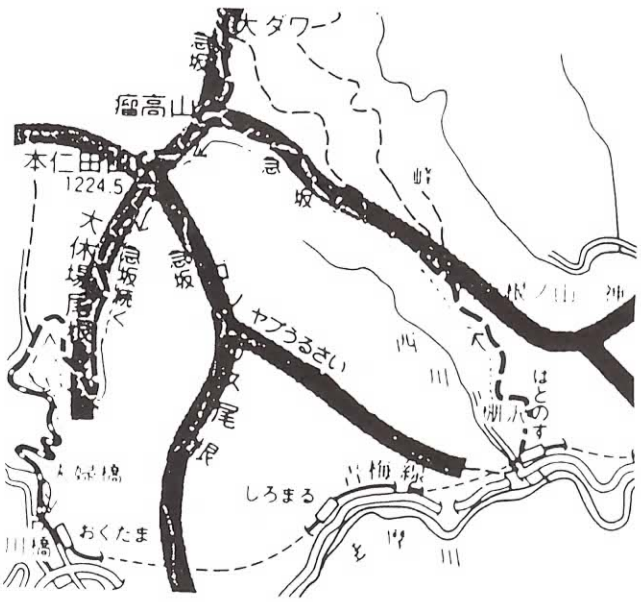
本仁田山

（１２２５ｍ）

日下芳十

登りがいのある山
立派な山容を見せる山

都民の山、都民の水源、その他いろいろの形容で奥多摩の山山は、わたしたちに親しまれている。なかなか立派な山容を持つているこの山を訪ねた。アプローチは奥多摩の山のうちでは一番簡単であり、駅からすぐ登りだすことができる。今日は快晴に恵まれ小春日和の気候で気持ちよい朝だ。鳩ノ巣駅前商店で水や食糧を補給し、急登にそなえ念入りにストレツチ体操を行い出発する。大根ノ山ノ神でうす暗い植林の中の鞍部で傍らに小社に手を合す。かなり急でつらい山道を直登して行くとコブタカ山頂で展望が開け御岳山、川苔山周辺が眺められた。
最後の急坂を越えすぐ本仁田山の頂上三角点にタツチする。長木さん特製のだんこ汁で食事をした後、お汁粉をのみながら各人思いにふける。下山路は氷川の街へ一気にくだる。大休場根上部は相当急でヒザがガクガクするほどの下りだ転落に十分注意しながら無事下山した。



＜概要＞

山　名	本仁田山		山行形式	日帰り
期　日	平成１１年１２月１２日（日）晴			
山　域	奥多摩	地図	武蔵日原、奥多摩湖	
目　的	登りがいのある山		交通機関	ＪＲ線
日程コース	十二月十二日	我孫子駅　５：３３～鳩ノ巣駅　８：１７／８：３０～大根ノ山ノ神　９：２０～コブタカ山　１０：３５～本仁田山　１１：００／１２：１５～大休場尾根～安寺沢　１３：４０～奥多摩駅１４：１０／１５：２５～我孫子駅１８：０５着		
ルート状況	１、水場がないので持参するこ。 ２、雨降り時は滑りやすいので注意いしたい。			



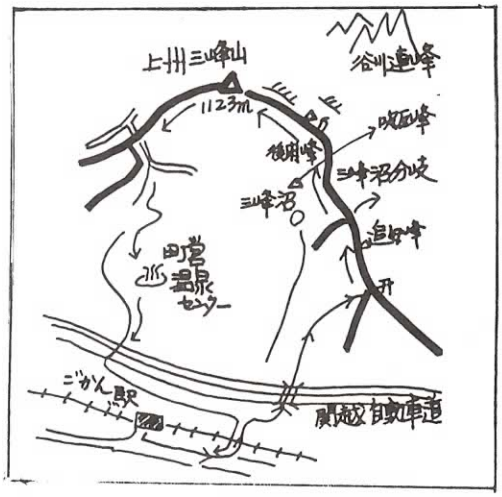
〈135〉

上州三峰山

（1123m）

安田 みづほ

テーブル.マウンテンの山頂は
遠く、たどり着いた目の前には
荒あらしい谷川岳の雄姿!



上越線の車窓から筑波山が美しい。
秩父の三峰山と区別して上州三峰山と呼ばれるその山は後閑駅近くになると、その特異な山容を現す。台形の形のした山。
まさにテーブル.マウンテン。
登山口までは30分ぐらい里道を楽しむ。
落ち葉を踏みしめながらゆっくりと沼田盆地を眺めながら、ジグザクと日だまり山行。
樹林帯に入るとそこは白銀の静寂な世界。
時よ止まれ!雪の精がほら、そこに、、、、、
うさぎだろうか、かわいい足跡がテンテンとあちこちについている。
今日は地図がない。トレースが消えて不安になるが誰かの『こっちに道がある。』の声にホットする。平ながら上り返し、何度もだまされ、右側に白い上州武尊山が望めた。
いつか行けるだろうか、まもなく狭い山頂。山頂は登山口の反対の端にあり、開けた空間の先に厳格な谷川岳がそびえていた。
登山学校でちょっとロープウエーでいったけどここから見える谷川岳は荒あらしく、人を寄せ付けない威厳を感じさせた。
寒くなって来たので記念写真をとってそこそこに山頂をあとにした。下山は南側のため雪は殆どないがヤブやガレてる所があり気をつけて温泉!温泉!と足が早くなる。
なんと、リーダーの思わぬアクシデントに驚くが靴が合わなかったと言う。

上州三峰山は後閑峰、吹返峰、追母峰の総称だそうだが雪の為か確認できなかった。
冬になるとホウの大きな葉っぱがたくさん落ちていて足を止める。一度だけ大きな白い花を見たことがある。山でなく海辺の公園でだがこれがホウの木の花かとじっと見ていた。町営温泉センターではお酒は売っていなくて後閑駅の近くで求めておいた。
山行を終えた後、温泉のあとはやっぱりビールがうまい。(ちゃんと下調べをしてくれていたリーダーに脱帽。)町営温泉センターは地元のおばあちゃんたちが大勢きていてほのぼのとした良い温泉。気持ち良い温泉につかり気分よく後閑駅をあとにした。

山 名	上州三峰山	山行形式	日帰り
期 日	平成11年12月19日(日)晴れ		
山 域	上州沿線	地形図	後閑、沼田
目 的	上越国境の山、谷川連峰、上州武尊山の展望		
日程及びコース	上野6:30=高崎=後閑9:16/9:35…分岐道標10:15…台地状上境界11:40…山頂分岐12:45…三峰山山頂13:45/13:57…道標14:47…林道との分岐道標15:39…町営温泉センター(タクシー)-後閑駅=上野駅20:14我孫子駅　　L、細野（省）		

山頂からは白銀の谷川岳が見えました。



コースの状態

雪は尾根道２０cm位、吹きだまりは膝まで。所々、立ち木に赤ペンキで登山道を示している。それ以外は、道しるべらしきもの皆無。稜線は一本の道で分岐は一箇所だけ注意。

下山道は開発道路が、絶えず横切る。　地形図は古いものは書かれていない。



<136>

奥秩父縦走

(甲武信岳～金峰山)

柴　勇

銀世界が待っていた最高のクリスマス

戸渡尾根は、昨年のクリスマス山行で、雁坂峠から金峰山へ登ったときの下山の時に、利用したルートであるが、その時の、長さにはウンザリしているので、これを登るのかと思うと正直気が重かった。下山時に比べればリュックの重さは、かなり違っていた。全員２０ｋＧを越えていた。おまけに今回は３人なので、荷物の分担も、効率が悪い。とにかく、気合を入れ登りだす。時間をかけてゆっくりゆっくり歩く。３人ともそれぞれ持てる力を出し切っての登りだ。おのずと口数は少ない。それでも中間点の 1869m のピークに到着したときには、ほっと安心するとともに、どうにかこのまま、バテズニ行けそうだと確信できた。幸い次の 2111m のピークのあたりまでは雪が殆ど無かったので、登り易かった。

雁坂峠との分岐がなかなか現れない。やはりこの尾根は長い。甲武信小屋に着いたときには４時近くになり６時間以上かかってしまった。到着すると直ぐにビールで乾杯をしたが、最初の一口はうまかったが、その内に寒さがこたえて、ビールが喉を通らない。避難小屋は我々だけなので、小屋の中にテントを張った。快適だ。暖かい、ランタンの明かりが優しい我々だけのクリスマスが始まった。やはりビールは暖かい部屋に限る。今日の疲れを癒してくれた。清家さんの定番のおつまみがいつもながらおいしい。気分も盛り上がってお酒もかなり飲んだようだ。恒例のプレゼント交換をするころには最高潮に達していた。

それでも、翌日の調理用のものと、行動中のために水を作るつくろうと、雪を集め、コッヘルで雪を溶かす。水つくりは時間がかかるが、下から水を運ぶのはつらいから、雪があるときには、これに限る。作った水はお湯にしてテルモスに保管して、残りの水は凍らないように、シュラフノ中で湯たんぽ代わりに抱いて寝る。

翌日は甲武信岳の山頂に立った。山頂で日の出を見る。山で見る日の出はいつ見てもその荘厳さを感じる。太陽の存在の有りがたさ、大きさを改めて感じる。東には雲取山、北には両神山、西には雪をかぶった八ヶ岳連峰、南にはやはり雪化粧の南アルプスが青空にくっきりと眺望できた。これから辿る国師岳への稜線が延々と続いていて我々に挑戦するかのように見えた。マイナス１℃の世界をただひたすらに、リュックの重さに耐えながら、黙々と歩く。しーんと静まり返った山には、雪に覆われて、冬枯れの木立だけで、小鳥の声も、小動物にも遭えなかった。ただ途中で、単独行の学生に会ったときは、なんとなくうれしくなってお互いに励ましあった。交換しあった飴は格別あまかった。かれは、金峰山から雲取山までの縦走を避難小屋とまりで完登すると言うことだった。

国師岳に着いたときには感慨もひとしおで、３人で、感激の握手をした。我々を祝福するかのように赤く鮮やかに燃えている太陽を背にして富士山が大きく見えた。国師岳から大弛の小屋まで

は無雪期ならば３０分で下山できるのになんと１時間近くかかってしまった。木の階段のなんと、長かったこと。この小屋でも宿泊者は我々だけだったので、中にテントを張った。

３日目、大弛峠を過ぎると、積雪は多くなった。最後の金峰山からの景観はこの縦走のフィナーレを飾るのにふさわしくダイナミックなものだった。３６０度の展望は時を忘れ、苦しみを忘れ、我を忘れていた。三日目の夜は、由緒ある有井館にとまることにした。金峰山の山頂から携帯電話で予約を入れた。我々が瑞牆山荘に着いてから迎えにきてくれるよう電話でお願いした。お上さんは快く迎えにきてくれることになった。その間コーヒーを淹れてもらって今までのことを振り返った。

思い返せばクリスマス山行は多分、８年前の鷹巣山がその始まりだったと思う。シリーズの山行として、村松さんが毎年この時期になると実施した。最初は日帰り山行であったが、テント泊まりでしかも急登が続いた思い出の山行は笙の岩山を経て、ソバツブ山を登り１杯水避難小屋に夕方遅くやっとたどり着いた時だ。たどり着いた充実感と適当な疲れの後は、お決まりのビールでの乾杯。クリスマスプレゼント交換の頃には最高に盛り上がってきた。そこには青春が再び戻っていた。

雲取山の時には、三浦さんと細野さんからクリスマスケーキの差し入れがあり私がそれを大事に担ぎ上げた。崩れ易いので箱の中にうまく入れて大切に運んだ。ケーキで乾杯をしたのは、最初で最後だ。このときはキムチ鍋が辛すぎて捨てることもできず、鍋を空にするのが大変な一仕事だった。

一の瀬から笠取山に登った後、雁峠あたりにテント泊まりの予定だったが、丁度小屋が無人の状態になっていて我々だけだったので、テントを止めて小屋どまりにした。その夜はクリスマスに相応しく雪が深深と降り積もり、尽きない話に時の経つのを忘れた。……

有井館のお上さんが軽自動車で迎えにきてくれた。この時期に泊まる人は我々だけだった。宿泊者の記録帳を見ると特に夏休みには家族連れの宿泊客が数日間利用することが多い。早速お風呂を沸かすことにしてくれた。お風呂の当番はおじいさんで、昔ながらの五右衛門風呂に薪をくべて付きっ切りで沸かしてくれた。ガスならば 30 分で沸くところを２時間近く待った。その間、石油ストーブに火をつけて、野沢菜のお新香と熱いお茶でもてなしてくれた。ストーブも今では珍しい温風の出ない旧式のもの、部屋にはテレビも音の出るものが無く置物も何も無い。それでもコタツは暖かかった。

山名	甲武信岳～金峰山	山行形式	日帰り
期日	平成11年12月23日(木)～26日(日)		
山域	奥秩父		
目的	クリスマス山行、静寂な冬山		
交通機関	JR,タクシー		
日程コース	23日	我孫子5:12～立川6:43～塩山8:10～西沢渓谷入口9:00…登山口9:25…戸渡尾根分岐11:15…甲武信避難小屋15:40(泊まり)	
	24日	甲武信避難小屋6:35…甲武信岳7:10…富士見8:40…東梓10:10…国師のタル11:10…国師岳14:00…大弛避難小屋15:00(泊まり)	
	25日	大弛避難小屋6:25…朝日峠7:10…朝日岳8:05…金峰山9:40…富士見小屋13:40…瑞がき山荘14:15～金山平有井館15:30(泊まり)	



平 成 12 年 1 月 ～ 平 成 12 年 12月

＜１３７＞

定例山行　　水の塔山・黒斑山　　（浅　間）

リーダー：　村松(敏)　グレード：Ａ＋

日　　時　：　平成１２年１月８日～9日

形　　式　：自家用車利用、ホテル１泊

山行目的　：　雪山の美しさと厳しさの体験

歩行時間　：　第一日目、５時間、　第二日目、３時間半、

費用概算　：約 20000 円（宿泊、自家用車使用の費用）

メンバー　：　Ｌ　村松　敏（やまなみ）、斉藤、大串恵(会計)、由布(記録)、

コース　;第１日目、　我孫子駅北口 5:30 発=車=車坂峠　高峰高原ホテル 9；15/9；40～粒ケ平分岐 10；10～高峰温泉 10：32～水の塔山 11：39～(東)篭の塔山 12；35/13：08～池の平公園 13：36～(林道)～高峰温泉 14：24/14；37～粒ケ平分岐 14：58～高峰山 15；15/15；33～粒ケ平分岐 15：47～高峰高原ホテル 16：08

第二日目、

高峰高原ホテル 8；30～（表コース）～トーミの頭 10：17～黒斑山 10；40/11；10～トーミの頭 11：30～高峰高原ホテル 12；52/13；06＝我孫子着 17；30

報　告　暖冬の為、積雪が少なかった。又、浅間山噴火の危険と自然保護地域ということでキャンプが禁止されており、宿泊施設を使っての山行となった。

雪は少なかったが、両日共、ピッケル、ストック、下りはアイゼンを使用し、訓練にはちょうど良い行程だった。

どちらの山も３６０°のパノラマが望まれ、特に黒斑山では眼前にウェディグベールのような雪をまとった浅間山の姿に一同感激。標高２０００ｍまで車で来られるので、夏の高山植物も日帰り山行で見れそうだ。　（由布）



〔138〕

安達太良山

(1700m)



大串秀雄

ほんとの空、青い空

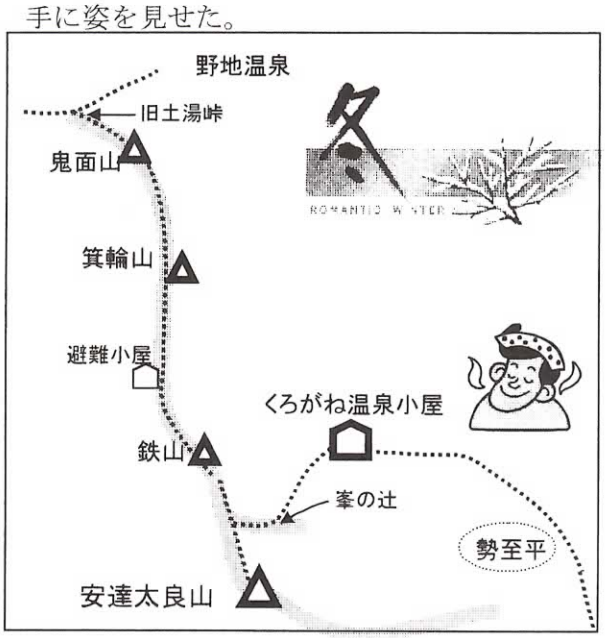
阿多多羅山の山の上に
毎日出てゐる青い空が
智恵子のほんとの空だといふ。
（智恵子抄　あどけない話）

乳首山

車道の終点、奥岳温泉でタクシーを降りる。登山口は一面の銀世界。奥岳スキー場は色とりどりのスキーヤーで賑わっていた。

颯爽とした若者達を尻目に、チュウコウネン５人は今日の宿くろがね温泉小屋に向けて、黙々と歩み始める。登山口からはしっかりした雪道が続く。

１時間半ほどすると、広々とした勢至平に出る。展望が良く、漸く、安達太良山山頂が左手に姿を見せた。



リーダーから、この山は山頂の形から、別名、乳女の姿を彷彿させる「乳首山」との説明に、皆、年甲斐もなく紅潮？？。

ふと、愚妻の顔が目に浮かび、「むかし乳首山、いま勢至平」と、思わず戯れ言を口走り、同行のお姐様方のひんしゅくを買ってしまった。しかもその直後、乳首山を背景に記念撮影をしようとカメラを構えた瞬間、片足を雪の中にすっぽり落とし、不覚にも前のめりに転倒。舌禍事件の直後だけに、女神の前にひざまずいて改悛、屈服したものと見なされ、みんなから嘲笑されてしまった。

しかし、姿だけは女神にひれ伏した形だが、本心としては全くその気のない事は言うまでもない…念のため。（以上は、やまたん山行報告への、ささやかな反論です。）

湯の香の山宿

登山道はよく踏まれ危険な個所はない。くろがね温泉小屋の直前になって、雪道がアイスバーン状に凍てついていたため、アイゼンを装着し、そのまま小屋に着く。

小屋に入ると、大きなヤカンを乗せたダルマ

山名	安達太良山		山行形式	山小屋泊
期日	平成１２年１月１５日(土)～１６日(日)			
山域	安達太良・吾妻連峰		地図	安達太良山
目的	雪山縦走 くろがね温泉小屋泊		交通機関	JR、タクシー、バス
日程・コース	1日目	我孫子 5:30→東京駅 6:30/6:56→(新幹線)→郡山駅 8:20/8:39→二本松駅 9:04/9:08→(タクシー)→奥岳温泉 9:30/9:45→勢至平 11:15/11:20→くろがね温泉小屋 12:00（昼食～泊）		
	2日目	くろがね小屋 7:05→峰の辻分岐 7:40/7:45→牛の背分岐 8:10/8:15→安達太良山 8:35/8:45→牛の背分岐 9:00/9:05→鉄山 9:30/9:35→避難小屋(昼食)9:50/10:35→箕輪山 11:15/11:25→鬼面山 12:35/12:45→旧土湯峠 13:15→野地温泉 13:30/14:20→(タクシー)→土湯温泉(入浴) 14:40/15:57→(バス)→福島駅 16:30/17:07→(新幹線)→上野駅→我孫子 19:30		
状況	1.くろがね温泉小屋までは、しっかりと踏み固められた雪道で、アイゼンはほとんど必要なし。 2.縦走路は、滑落、雪崩などの危険は少ないが、視界の悪いときは迷いやすい。			

ストーブが赤々と燃えていた。
早速、湧き出る雲上の名湯で一風呂浴びる。窓を開けると風花が湯船に舞い込んでくる。山の息吹を感じながら、温泉でゆっくりと一日の疲れを癒す。



湯の香漂う山宿

夕食は手作りの美味しいビーフカレーに満腹。同行女性と常連客が配膳と後片付けを手伝う。夜は名物、ハーモニカの伴奏で安達太良讃歌や懐かしの歌声を楽しむ。湯の香漂う山宿は、素朴な温もりに満ち溢れていた。
偶然にも、福島中央テレビが「ズームイン朝」の番組取材のため同宿。テレビで見覚えのある徳光アナウンサーを囲んで記念撮影。俄かファンのおじさまおばさまに囲まれ、徳光兄やんは照れくさそう。その後で、小生を除く４氏は、部屋でインタビューを受け、カメラの前で安達太良山や温泉小屋の魅力等を取材されていた。（小生は手洗いに行っていたため難を免れた。緊張して汗を流しながらの４氏の受答えを、部屋の隅で気楽に拝聴。なお、安田さんへのインタビューが、１月１９日　７時４０分、日本テレビで放送されました。）

ほんとの空、青い空

翌朝は絶好の登山日和。真横からの強い日差しが、真っ白な雪面に反射し眩しい。
仰ぎ見ると、そこには智恵子が言った「ほんとの空」があった。「阿多多羅山の山の上に毎日出てゐる青い空」があった。黎明のしじまを縫って、紫雲がたなびいていた。一筋の飛行機雲。ヨーロッパに向かう便だろうか、音もなく飛んでいた。
小屋の前の急登に、先ず苦戦。一面の新雪に朝日が反射し、キラキラとまるでダイヤモンドがちりばめられている様に輝いていた。純白の絨毯の道には、風もなく、寒さも全く感じない。
峰の辻分岐で一服。目の前の安達太良山をバックに写真撮影。肌さす風の峰の辻も、今日は快晴無風。稜線の道標には、５０センチ近くもあるエビのシッポ（エビの形をした霧氷）が、風上に向い、大きく手を広げるように伸びていた。この山の強風と厳しい寒さは、さぞかし―。



安達太良山山頂に立つ

遂に、厳冬の安達太良山山頂に立つ。真上には空色よりもっと青い、藍色の空が広がっていた。智恵子が山麓からいつも見ていた、あの空があった。ほんとの空、青い空と、純白の山なみの絶妙なハーモニー。無風静寂。かすかに、木管の奏でる澄みきった調べが聞こえてくるかのようだ。
輝ける氷雪、動かぬ雪山が神々しい。悠久の時の流れと広大な宇宙の広がりを感じさせる、壮大な大自然の造作に声も出ない。時間が止まる。熱きものがこみ上げてくる
すぐ目の前に、二つに裂けて傾く磐梯山が豪快に聳え立ち、その右方向に真っ白な飯豊連

峰が続いていた。さらに、その右に西吾妻山、これから縦走する鉄山と箕輪山、その後方に一切経山。はるか右奥の蔵王連峰も近くにあるようにはっきり見えた。
振り返ると、那須連山が朝日に映えていた。その先には、日光白根山、燧ケ岳、会津駒ヶ岳などの名峰が大きく連なっていた。
山頂では、福島中央テレビが放送用に、白き山々の大展望を撮影中だった。
山頂からの急坂を下り、いよいよ縦走開始。突風の名所、鉄山までの稜線には風もなく、新春の日差しが穏やかに降り注いでいた。
鉄山から避難小屋までの平坦な雪面には、可愛らしい姿の子エビのシッポが強い日に輝いていた。縦走路には登山者の姿はなく、我々５人のアイゼンの爪痕だけが雪面に残っていた。小屋の中での昼食はもったいない。ほんとの空を仰ぎながらの弁当の味は、決して忘れられない。沸かしたてのコーヒーは、ブルースカイ＆ホワイトマウンテン。最高級ブランドのコーヒー、ブルーマウンテンも遠く足元に及ばない美味、風味、山味…皆、大満足。
行く手には、平らな山頂の箕輪山が両手を広げて、我々を招いてくれるかのよう。
新雪の緩斜面を気持ちよく踏みしめ、連峰最高峰の箕輪山山頂に着く。
振り返え見れば、「あれが阿多多羅山」。白く輝く安達太良山の上には、ほんとの空、青い空が澄み渡っていた。
今まで見えなかった北側の視界が大きく開けてきた。直下には、鬼面山が純白無垢の綿帽子をかぶったように、丸い姿で横たわっていた。ここで安達太良山に別れを告げ、処女雪の北斜面を一気に下りる。踏み跡は５人だけ。樹林帯に入ると、白いサンゴのような霧氷の林が、神秘的な迷路のように続く。このまま迷っていたい錯覚に陥る。感動の世界にどっぷりと浸る。時々、潅木や笹の上にかぶった雪の中に、足がすっぽり落ちて苦労したが、雪との戯れに疲れはまったく感じない。



樹氷をバックに（右奥は鬼面山）

ピッケルを頼りに、鬼面山山頂までの雪面を直登。深く軟らかな粉雪に足をとられ、大苦戦。しかし、汗いっぱいのみんなの笑顔は実に清々しい。
山頂から見える真っ白な箕輪山は圧巻。今まで真っ青だったほんとの空は、何時の間にか薄いベールがかかったような明るい白い空に変っていた。上方から良く見通せる旧土湯峠の道標をめざして、雪の斜面を一直線に下山。振り返え見れば、箕輪山が遥かに遠ざかる。
旧土湯峠の道標を右に折れ、ブナ林の中を進む。雪が深い。道なき道を抜け、電柱を頼りに目的地の野地温泉に辿り着く。最後までアイゼンをつけたままだった。
薄曇りの空に、真っ白い鬼面山が…、稜線と雲の境目がはっきりしない。残念ながら、ほんとの空、青い空は山頂で別れたまま。再びまみえることはなかった。いつの日にかの再会を、静かに心に誓った。
幸運にも、年１回あるかないかの好天気に恵まれ、無理かと思っていた縦走ができたのは望外の喜び。山の神様と柴リーダーには心から感謝。
土湯温泉では疲れだけを落とし、思い出はしっかり残して帰途についた。瞼に残るは、ほんとの空、青い空、そして白き安達太良山…。

＜１３９＞
小楢山　（奥秩父）
（１７１３ｍ）

渡辺冨美

初春山行



塩山駅からタクシーに分乗して５０分程で焼山峠に着く、入念なストレッチで体をほぐし、各班ごとに出発、……
登り初めからやや急登、４、５日前に降った残雪が少々あり足元に注意しながら登る。
まもなく、視界が開け南アルプスの鳳凰山々が初春の陽光を浴びてきらめいている。
やがて、一杯水の水場（水は出ていない）を過ぎるとカラマツ林になり登り初めから１時間少しで小楢山の山頂に着く。
屋根だけの鉄製休憩舎があり、錫杖ヶ原とも呼ばれている平頂にでる、周辺を白樺やカラマツノ林がとりまいていた。
富士山の展望と大自然の中でＡＢＣ班ごとに心のこもった暖かい豚汁に舌づつみをうちました。
下山にはアイゼンを付けますとの伝令、私にとっては、初めての装着でした。
小楢峠は、小楢山と大沢ノ頭との鞍部である、大沢ノ頭北側の肩に、巨大な岩塔の幕岩がある。
リーダーから３点各保で登るよう指示あり幕岩の基部を西に廻り込んで、西面側から鎖をつたって登る。
高所恐怖症の私は岩頭から遠く連なるスバラシイ展望　？　どころでは、その先の大沢ノ頭は、あきらめて。
下山は母恋し道へ。
七曲がりのジグザグな林道、そしてゴロゴロ石道で歩きずらい。
登山道の周辺はカラマツにおおわれていて、　春には新緑が……さぞ、メルヘンの世界に連れていってくれる事と想い、又の再会を楽しみに
初春山行に相応しく、入山者も無く静かな充実した一日でした。

下山後塩山駅近くのソバ屋で初春山行反省と疲れを癒すアルコールで今年一年の無事を祈る。

＜１４０＞

大洞山、　大沢山
＜１４０２m＞　＜１４３０m＞

中村　八重子

長い雪山の一日

甲斐大和の駅を降りると前日の積雪で、あたり一面は白銀の世界だった。
タクシーの運転手さんも『雪の状態は行って見ないと通れるか、アイスバーンか判らないとの返事。』　車もだんだん高度は上がるが…、、不安がよぎる。だが幸い工事現場まで除雪されていた。ラッキー！。

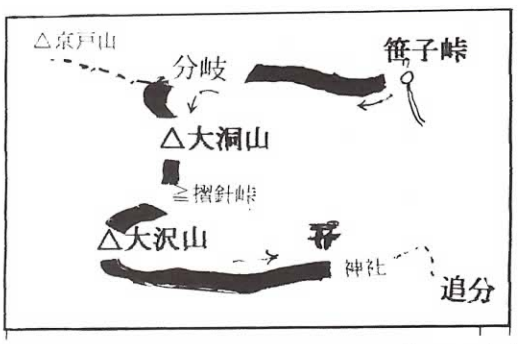
笹子峠ﾄﾝﾈﾙでアイゼンをつける。不慣れなため準備に15分～20分はかかった。ﾄﾝﾈﾙから噴出す風が体に凍みる。

全員装着した頃、リーダー！の第一声、『ここから登るよ！』『エエッ、道がないのに？』『ここから登るのですか？』

イエス！と…、いきなり60度の急登だ、歩き出すとすぐ右足がツリそうになる。雪質はフヤフヤで踏むたびに足場が滑りアイゼンが効かない。悪くなる。

悪戦苦闘の末ようやく稜線に出る。稜線には1週前と思われるかすかな踏み跡がありほぼ間違いないと確信し快晴の雪道を進んだ。雪山の展望と静寂さに充実した足跡を残す。

なだらかな昇り降りを繰り返し、満足な稜線歩きも、途中腹ごしらえに40分ほど天の下で間食と休憩をする。京戸山はまだ奥にあり、時間の都合でカットする。大洞山



附近から悪天候に変わる。下山時間を考え急ぐ。風雪は激しくなり雪が顔を叩く。小休憩して、カッパを着る。フードを着、風を防ぐと、温かさを感じた。このあたりは踏み跡も標識のテープもない。頼りは地図とコンパスのみ。読図の勉強、大なり！
少々不安もあったがハッキリした踏み跡を見つけ、ホットする。その後、雪は本格的に降りだし頬はしびれる。全員寒さとロングな縦走に黙って先を急ぐ。雪は激しくなり、誰しも脚を早め大沢山山頂に着く。もう登りはない！下山だけだ。多い雪の中アイゼンがよく効く。滑るように下山口の神社へひたすら足を出した。この山行は道中、人気なく静かでハードでした。下山後、国道沿いを笹子駅へゆっくり歩く。
充実した雪山の余韻を感じながら幸福さを感じる山行となった。

山名	大洞山、～大沢山	日帰り 天候：曇りのち雪
期日	12年2月23 中央沿線	地図：笹子、河口湖北部
目的	雪山の ﾙｰﾄﾌｧｲﾃﾞﾝｸﾞ	参加9人 L：　細野省二
歩行	8時間、含む休憩、昼食	費用：1人3600円 ﾎﾘﾃﾞｰﾊﾟｽ利用
日程	1月23日	我孫子5；33⇒甲斐大和8；40ﾀｸｼ⇒笹子峠9:20／40…分岐、昼食…大洞山…摺針峠13:15…大沢山1430m／15:25…笹子鉱泉跡16:55…笹子駅17:45⇒我孫子



さあ～
アイゼンを着けるぞー　高ぶる心



天気よし、まずは腹ごしらえダー



摺針峠で雪が降り出す。元気ですヨ～。

＜１４１＞

県連主催
房総ロングハイキング

ﾘｰﾀﾞｰ：ﾊｲｷﾝｸﾞ部　齋藤

日　　時：2000年1月29日～30日
　　天気：両日　晴れ　　ｸﾞﾚｰﾄﾞ：A+
目　　的：千葉の山を知ろう
歩行時間：1日目　1:45　2日目　9:00
費用概算：12,000円
参加者:会員：14名、ｹﾞｽﾄ：5名　　計　19名
コース：

1日目 松戸北口千葉銀前9:00⇒千葉市役所⇒市原SA11:50⇒内浦県民の森センター13:30　せせらぎｺｰｽ　14:30～16:15

2日目　内浦ｾﾝﾀｰ6:20⇒上神社前6:50/7:10～高鶴山8:00/8:10～峰岡苑11:00/12:00～伊予ヶ岳入口13:45/1350～伊予ヶ岳東屋14:30～頂上～富山入口15:15～富山頂上16:00/16:30～岩井中学校15:55/17:10⇒市原SA19:00/19:40⇒松戸北口千葉銀前20:35着

メ　モ：

① ﾊﾞｽにて内浦県民の森センター到着後、内浦山の自然をﾊｲｸ。せせらぎｺｰｽをﾒﾝﾊﾞｰ全員で散策。明日へのｳｵｰﾐﾝｸﾞｱｯﾌﾟ、1時間４５分程の ﾊｲｸ

② 総勢70名余りの大部隊のﾛﾝｸﾞﾊｲｸのスタート。高鶴山入口より水仙一色の登山道を登り始める。房総はもう春です。高鶴山より峰岡公園までの林道、自然道は結構楽しいものでした。道なき道を春の訪れに目取られながら、やっと峰岡公園に到着。

③ 豚汁の美味しそうな香り、今までの疲労感は何処へやら。豚汁のおかげ？伊予ヶ岳、長い林道を脚も軽やか！　短いながら鎖場があり、ﾁｮｯﾄ、ｽﾘﾙがありました。360度のﾊﾉﾗﾏ、千葉県の山々、伊豆半島、大島の眺望も最高。

④ さあ最後の山、富山一気に頂上目指す。此の山は里見八犬士終焉の地。展望台からは東京湾を一望に見渡すことが出来ました（高鶴山326M, 伊予ヶ岳336M. 富山349M登林道をまじえ9時間完歩）　　（飯沼）

房総ﾛﾝｸﾞﾊｲｸに参加しての感想

①喧騒の街から、一気にﾀｲﾑｽﾘｯﾌﾟして、日本昔ばなしの舞台を、大勢の元気印の仲間と共に、水仙浴？を楽しんだ一日でした。（S.S.）

②この寒い時期同じちばけんの南、房総はすでに春でした。あちこちに水仙が咲き乱れ、たわわに実ったみかん畑に、菜の花畑に、花材のｿﾃﾂの葉が輝き、梅も満開です。そんな道を太平洋から東京湾まで、３のﾋﾟｰｸを踏んで横断しました。よくぞ歩きました。（R.T.）

③伊予ヶ岳のちょつとしたｽﾘﾙのある岩登り、頂上のアルペン的風景が最高でした。春の日和に恵まれ、みかん畑のなかには水仙が咲き香り、鑑賞しながら語り合いながらのﾊｲｷﾝｸﾞでした。（K.O.）

④千葉県最高峰の縦走は、ﾐﾆ深山や房総ﾏｯﾀｰﾎﾙﾝの山々に加え、歩行距離 20 数ｷﾛ歩行時間 10 時間以上、思っていた以上に厳しい山行だった。春の息吹を感じながら、我々参加者 19 名全員、見事に完歩。（H.O.）

⑤家族三人の参加でしたがなんとか完歩してﾎｯとしました。たまには房総を歩くのもいいものですね。やぶつばき、水仙、夏みかん、春を感じる一日でした。（Y.O.）

⑥房総での二日間山の仲間達との語らいの楽しさ！多くの人々との出会い山の仲間の広がりに浸ったﾊｲｸでした。（S.S.）

⑦初めて参加して、楽しい一日でした。ｹﾞｽﾄの方々も完歩できて良かったです。(H.T.)

⑧“房総の豊かな自然と懐かしい風景の中へ”に魅せられての参加でしたが、まさにその通りの世界でした。(M.M.)

⑨太平洋の日の出を仰ぎ、東京湾の夕日を眺める。素晴らしい山行になりました。山々に咲くｽｲｾﾝの花、ｿﾃﾂの木、放牧の牛など、心が落ち着く風景に出会えて、房総の山の良さがよくわかりました。(.M.I.)

⑩豚汁担当の茂原の山の会の皆様有り難う御座いました。千葉県の自然の宝庫を再認識させて頂き有り難う御座いました。(T.I.)

⑪千葉には山がないという意識であったが、なんのなんの立派な山である。高さこそないが、自然はまだまだ残されており、後世まで残さなければいけないと思います。(Y.M.)

⑫水仙の里や蜜柑山の続くﾛﾝｸﾞﾊｲｷﾝｸﾞ。最後の富山のゆるやかな登りは、さすがにきつかった。「みかんの花咲く丘」「春がきた」など、思わず口ずさみたくなるような風景に、心和みながら完歩した。このようなかたちで1月30日の自分の誕生日をおくれて嬉しく思う。(K.M.)

⑬房総の外房から内房までの、約20Km　をゆっくり歩こうという房総ﾛﾝｸﾞﾊｲｷﾝｸﾞしかし、低山を3っ含むとなると完歩できるか不安だった。(S.Y)

⑭水仙で始まり水仙で終わった春の山、ﾛﾝｸﾞﾊｲｸ　でした。無事夫とも完歩でき2000年　山行の良いスタートとなりました。(S.Y.)

房総ﾛﾝｸﾞﾊｲｸにｹﾞｽﾄ参加されての感想

1、今回も楽しく参加させて頂きました。山頂から観た景色の素晴らしさ、美味しかった夏みかん、元気回復できた豚汁、野生の鹿、水仙の香り、21Km 完歩の達成感・・・どれも、とても良い想い出になりました。どうもありがとうございました。(小川聡子)

2、爽快な一日でした。完歩できて自分を見直しました。皆様に感謝します。当日の一句　山道の　枯れ葉踏む歩の　柔らかし
(小川誠二郎)

3、初めての房総ﾛﾝｸﾞﾊｲｷﾝｸﾞに参加しました。低山にもかかわらず、鎖場、難所有り実に盛り沢山の山行を楽しむことが出来ました。特に伊予ヶ岳からの展望は素晴らしく感動しました。苦しくても完歩出来たことうれしく思います。岳人あびこの皆様参加させて頂きまして有り難う御座いました。(中山幸子)

4、人はあまりにも速さを競い、利便性を追い求め過ぎたと思う。自らの足で大地を踏み、自然との共生をはからねばならない時代になったと思う。(箕輪完二)

5、数十年来長い距離を歩いておりませんでした。一抹の不安が有りましたが、当日皆様からの暖かい励ましで迎えられたことにより不安も薄らぎ、歩きながら遠近の山々の景色を楽しみながら完歩できました。ｹﾞｽﾄとして参加させて頂き有り難う御座いました。
(山本正敏)



(H.O.)

⑤家族三人の参加でしたがなんとか完歩してﾎｯとしました。たまには房総を歩くのもいいものですね。やぶつばき、水仙、夏みかん、春を感じる一日でした。(Y.O.)

⑥房総での二日間山の仲間達との語らいの楽しさ！多くの人々との出会い山の仲間の広がりに浸ったﾊｲｸでした。(S.S.)

⑦初めて参加して、楽しい一日でした。ｹﾞｽﾄの方々も完歩できて良かったです。(H.T.)

⑧“房総の豊かな自然と懐かしい風景の中へ”に魅せられての参加でしたが、まさにその通りの世界でした。 (M.M.)



房総ﾛﾝｸﾞﾊｲｸにｹﾞｽﾄ参加されての感想

1、今回も楽しく参加させて頂きました。山頂から観た景色の素晴らしさ、美味しかった夏みかん、元気回復できた豚汁、野生の鹿、水仙の香り、21Km 完歩の達成感・・・どれも、とても良い想い出になりました。どうもありがとうございました。（小川聡子）

2、爽快な一日でした。完歩できて自分を見直しました。皆様に感謝します。当日の一句　山道の枯れ葉踏む歩の　柔らかし　（小川誠二郎）

3、初めての房総ﾛﾝｸﾞﾊｲｷﾝｸﾞに参加しました。低山にもかかわらず、鎖場、難所有り実に盛り沢山の山行を楽しむことが出来ました。特に伊予ｹ岳からの展望は素晴らしく感動しました。苦しくても完歩出来たことうれしく思います。岳人あびこの皆様参加させて頂きまして有り難う御座いました。（中山幸子）

4、人はあまりにも速さを競い、利便性を追い求め過ぎたと思う。自らの足で大地を踏み、自然との共生をはからねばならない時代になったと思う。（箕輪完二）

5、数十年来長い距離を歩いておりませんでした。一抹の不安が有りましたが、当日皆様からの暖かい励ましで迎えられたことにより不安も薄らぎ、歩きながら遠近の山々の景色を楽しみながら完歩できました。ｹﾞｽﾄとして参加させて頂き有り難う御座いました。（山本正敏）　以上

＜142＞

幕　山

（６２０m）

原　田　　君　子

梅の花と真鶴半島の展望

２月６日、梅と真鶴半島の展望を求めて,湯河原の幕山に出かける。

天気予報では曇りのち雨。雨の降らないことを祈りながら東海道線に乗り込む。山行というより海の見える車窓はなんとなく小旅行の気分。湯河原に着いた頃には空模様があやしくなってきたのでコースを変更してまず幕山に行くことにした。

バスが梅林近くになると岩場に赤や黄色のヤッケが目に付く。クライマーが岩に挑んでいる。おお……すごい。

梅は３分咲き位かしら。とてもいい香りと、咲き始めたばかりの花は色、形ともみごとです。梅林でゆっくり花を楽しみ、準備運動をして山頂に向かう。

登山口を過ぎると、さっそく急登。「右に見えますのが、真鶴半島でございます。左に見えますのが真鶴半島でございます。」そう、右に左に半島を見ながら南斜面をジグザグに登っていくと、カヤトのきれた広い山頂につく。

雨も心配なさそうなので、山頂で一休みする。山頂は広く見はらしもいい。ここから南郷山にむかう。北斜面の防火帯を２０分下ると林道に出る。ここが自鑑水入口。この林道を横切って少し進むと小さな池（水は有りません）に着く。ここが自鑑水。戦いに敗れた源頼朝が、水面に映る自分の哀れな姿に自害しようとしたのを、家臣に引き止められたと伝わる。

自鑑水から15分も進むと、また林道にでる。林道をすこし進んでハコネダケの茂る細い急登を南郷山に向かう。頂上はカヤトの広場。空模様があやしくなり見晴らしはない。

よく晴れた日はここからの眺めも素晴らしいそうです。ここで昼食。　食事中に雨が降り出し早めに切り上げる。リーダーの作ってくださった甘酒で身も心も温かくなり皆、雨の中を元気に五郎神社に向かって下山。

ゴルフ場脇までは２メートル以上もあるタケの間の細い道を下る。ゴルフ場脇からは、みかん畑に通じる急坂を下り五郎神社に着く。五郎神社からは、迎えのバスでゆとろ嵯峨沢の湯でゆっくり、のんびり。

山　名	幕　　山　（625m）
期　日	平成12年２月６日
目　的	梅と真鶴半島の展望
コース	我孫子５：30＝東京６：32＝湯河原８：45―鍛冶屋バス停８：56～登山口９：30～幕山頂上11：00／11：10～自鑑水分岐11：25～南郷山頂上12：00／12：30～五郎神社13：00（送迎バス）～ゆとろ嵯峨沢の湯13：30／15：20　―　湯河原駅15：44＝我孫子18：20着



＜１４３＞

てる　いし　やま

晃　石　山

（４１９M）

山本　紫津子



陸の松島を展望する山

新大平下駅から準備運動かねて歩き始める。太平第展望台まで一気に向かうと陸の松島と言われる風景が朝日のまばゆい中　眼下に広がる景色を十分に堪能し，隋神門で車道にでる。左に行くと文豪の山本有三の文碑があった。茶店はまだ営業状態になっていない。晃石山へ…向かう。

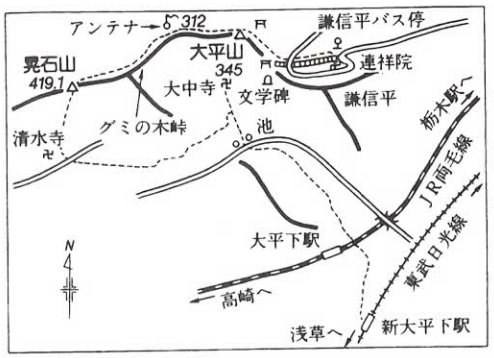
早春の穏やかな陽射しに、『あったかいね、２月とはとても思えないね～』と言葉が出るが、足元には残雪がまだ残り、滑らないように注意しながら山頂に向かう。

桜峠も過ぎて、もう一つ先の馬入不山まで私達の足で、十分に行けるヨ、と～おだてられ、

お昼ご飯を食べても１時には着く、行けると思われる、馬入不山まで足を延ばすことになった。

予定の三角点に早着きするも体力余裕のメンバーからは、古いなつかしのメロデーや、唱歌、混声合唱がでて、早春の山々に爽やかな？！歌声が響いていきました。

充分余裕を持っての岩船に向かう。急下降の路で、滑る人も出た。みんなで荷物持合い、ゆっくり歩くことにした。下山する事、１時間！。田園風景のJR岩船駅に着きのどを潤した。いつの間にか、誰しも疲れたのでしょう車内は寝台車に変わりました。我孫子には早めの帰宅になりました。



山名	ﾃﾙｲｼﾔﾏ 晃石山 ４１９ｍ	形式：日帰り 天候：　晴れ
期日	H12年２月 11日(金)	地形図：　栃木 ２万５千
目的	早春の里山 歩き	東武日光線利用 ﾘｰﾀﾞｰ：　細野清子
歩行	８時間、含む 休憩、昼食	参加者 14名
コース	我孫子 5:30＝北千住＝新大平下 7:35／50 登山口 8:20…大平台展望台 8:55／9:05…大平山 9:45／50、晃石山 10:30／11:30 桜峠 50／55 馬入不山 12：２０／45～ 岩船駅１３：５０／14,21＝ 栃木駅 13:34／4:45 北千住 16:17　　着	

〈１４４〉

追原～元清澄山

柴　勇

身近な自然こそ大切だ

千葉県に住んで３０年以上になるが房総の山はあまり登っていない。県連の自然保護委員となって委員会のう沢さんから、会合の度に、追原や周辺の山の素晴らしさを聞かされて今度山行の計画が有ったら是非参加したいと思っていた。今度の計画は、自然保護委員長のう沢さんが企画し、ふわくハイキングクラブが後援するものである。１日目は多目的ダムの計画の有る７里川と追原の現地を訪ねる山旅。２日目は労山全国連盟女性委員会企画の“１県１山”に推薦された元清澄山と照葉樹の巨木を見るのが目的である。

久留里線は初めてである。木更津駅から終点の上総亀山駅まで単線を１時間かけてヂーゼル車２両がのどかな田園を走る。亀山駅で参加者が合流してそれぞれ自家用車に分乗して目的地に向かう。７里川に着くと早速たき火用の枯木拾いをする。たき火を遠回りに囲んで、お互いに自己紹介を始める。

昼食の後ふわくＨＣの人達の現地案内である。ふわく会員の自然を大切にする気持ちと、自然との係わりあいの深さを感じた。身近な自然にこんなに沢山の素晴らしさが有るのに気づかないで見過ごしてしまった。もっと身近なものを観察し味わう感覚を身につけたい。

地面が掘られて大きい穴があいていた。これは、猪が大好きな山芋やジネンジョを探すために掘ったものだ。枯れ木捜しのときに鹿の骨を見つけ持って来てくれた。７里川はこの時期でも水量が多く適季にはハヤやヤマベが多いという。対岸の崖には、フサザクラやマメザクラが有り、３月下旬には花見が出来ると云う。昼食の最中に、川辺にはセキレイが、大空にはオオワシが２羽悠然と舞っていた。吊り橋を渡って追原に向かう。行くときも帰るときも多くの水鳥や野鳥が飛び交っていた。コゲラ、オナガ、ヤマガラ、ヤマセミ、ジョウビタキ、シジュウカラ。

追原には３０年くらい前まで集落で生活していた人が居たと云う。吊り橋を渡ると大きく揺れる別世界に行くような冒険をするような気持ちになる。入口にはお地蔵様がまつられ、疫病が集落に入って来ないように静に見守って居た。田甫のあぜ道がところどころに残って居て、平らな所が、田甫だったと云う。今は荒れ果て、木やカヤが生えているだけ。集落の中心部に桐が密集している所が有る。これは昔嫁入りのときに娘に桐の箪笥を持たせる為に女の子が生まれると屋敷の周りに植えたものだと云う。

山名	７里川～追原（Ａ）	山行形式	日帰り
期日	００年２月１９日（土）		
山域	房総		
目的	房総の自然とくらし再発見		
交通機関	ＪＲ、自家用車		
日程 コース	１９日（土） 我孫子～新松戸～西船橋～船橋～木更津10:01/10:07～上総亀山11:07/11:23～７里川11:40/13:00…追原…７里川14:20/14:30～亀山温泉ホテル15:00/15:45～上総亀山15:50/15:59～木更津17:03/17:13～我孫子19:17		

更に進とこの山奥に石垣が現れた。石垣でもあったような立派なもので、苔むして年月の長さを感じさせる。正門と裏門が有りわたしたちは、昔なら通れなかった正門を入った。ここには藏が有ったと云う。左手には古井戸もあった。更に石垣が有りそのところには豪邸があったと云う。カエデの巨木が静に力強く見守って居た。



残念ながら、２日目の元清澄山には雨のため参加出来なかったが（冬の雪ならば好きだが、冬の雨だけは頂けない）機会が会ったら是非参加したい。





蓮と清子の ネパール ミニミニトレッキング

千葉県連主催　2000年記念海外トレッキング

B隊
1999年12月28日～
2000年1月5日
参加者　岳人あびこ
外崎　蓮、細野清子

←→

2日目　オーストラリアンキャンプ場にてテント泊
夜はファイヤーを囲んで…
満天の星は手が届きそうでした。
2000年の初日の出、アンナプルナをバックにパチリ、パチリ。





↓どこまでも続く段々畑。民家もあり、生活の匂いのする道をしばらく歩きます。





↑重さ30kg、おかげで私達はデーバッグ一つのラクチン山行。



おまけのマウンティングフライト。白銀のヒマラヤ山脈に向かって飛びます。迫力満点。



←↓登山道のあちこちにはカレンな花。木にはランがやどり木。
シャクナゲにたくさんタクサン蕾がついていて、子供がおはじきがわりに遊んでいました。

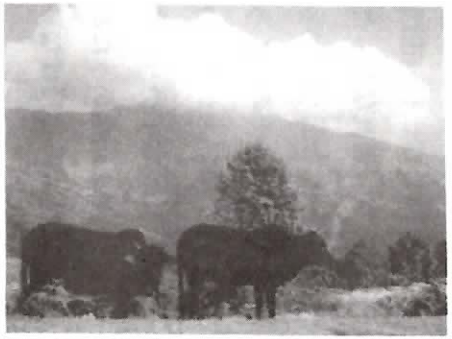




↑1日目　バッテイ泊り。右手指で食べるダルバード初体験。味は非常に唐がらしがきいて「からい」。朝、眼前にアンナプルナ!!　まるで絵を見ているようでした。



←関所です。
外人はビザを拝見。通行料は1000ルピー（約5000ルピーが教師の1年分の給料だそうです）



←登山道を占領。
「モーどいて」なんてことは決していえません。なにしろ牛は「神様」ですから。ちなみに「フン」は乾かして燃料に使われます。

県連登山学校報告

登山学校報告（３）　　参加者：清家、外崎、安田。

日時：平成11年７月１０日（土）、１１日（日）　　於、「千葉県青少年女性会館」

２日間にわたり「山の救急法の講習会」に清家、外崎さんと共に参加。

千葉市消防隊員指導による人工呼吸や心臓マッサージを勉強。息を吹き込むのが意外と難しい。１回ぐらいでは覚えられないので、３年に一度は再度講習を受けなおして身につけておき、いざと言うときに役に立てるようにしたい。

三角巾の使い方や山で起こるさまざまな病気、ケガの予防、対処の仕方も勉強。夏山では熱中症（日射病、熱射病、熱けいれん、熱疲労）や高山病、いろいろな害虫、火傷など気をつけなければならない。

黒いＴシャツや帽子は熱を吸収してしまうので避けたい。山行前の体調をよくチェックして疲労を蓄積して山へは登らない。

天気が悪く予定していた山行が２回流れ、体力劣化気味の私ですが、８月は６～８日と白馬岳テント泊に参加してきます。　　（安田）

登山学校報告（４）　白馬岳（北ア）　　参加者:安田

日時：平成11年８月６日(金）～８日（日）　　２泊４日、ﾃﾝﾄ泊

講習：雪渓の歩き方、天気他

コース：

５日　新宿駅ｱﾙﾌﾟｽ広場集合 11:20／急行ｱﾙﾌﾟｽ85号 11:54 発

６日　白馬駅 5:48－猿倉…白馬尻村営ｷｬﾝﾌﾟ場ﾃﾝﾄ設営、休憩(2時間、昼寝)、講義(雪渓歩き、天気)。夕食:夏野菜ｶﾚｰ(すごくおいしく出来た)、事故発生(歯磨きのため沢(水場)に下り転倒。手指骨折、前額打裂創、直ちに病院へ)。ﾘｰﾀﾞｰ研修を実地に見る。

７日　起床 3:00／出発 5:00…白馬頂上小屋…白馬岳 11:25(ｶﾞｽのため剱岳見えず。小蓮華から朝日岳、雪倉岳、親不知方面の日本海と富山湾眺望。稜線は強風。ﾁﾝｸﾞﾙﾏ、ﾊｸｻﾝｺｻﾞｸﾗの大群落)…白馬大池 15:10 着、ﾃﾝﾄ設営。天気図作成、難しい。

８日　起床 4:30／出発 7:00(小蓮華山を左に気持ちよい下り。雨飾山が見えた。太陽が暑い)…蓮華温泉 9:50 着－南小谷駅ｽｰﾊﾟｰあずさ10号 14:50（南小谷駅始発のため全員座れた）＝新宿

メモ：

・今回の登山学校では計画や山での生活、ﾘｰﾀﾞｰの責任など多くのことを学んだ。

・私個人としてはﾊﾟｯｷﾝｸﾞが遅く共同でやるべき所自分のことにかまっていたり、頭痛が起きたりとﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ不足で反省大。

・すごい山が連なっている。穂高、上高地まで縦走している人もいるという、すごい。

・雪渓では大きな石が転がっていて落石の多いことを実感。登りがきつく休憩の取り方、ペース配分が大切。

・お花畑では監視員がいた。葱平でｼﾛｳﾏｱｻﾂｷも見た。お花の多さは想像以上。

・今回の登山学校では何が起こっても冷静に対処することの大切さを教えられた。

来月は三つ峠でﾛｰﾌﾟ、岩登りの講習です。　　(安田)

登山学校報告(5)　三ッ峠（富士周辺）　　参加者：安田

日　時：９月11日(土）～12日（日）　　１泊２日、山小屋泊

講　習：クライミング

11日　鎌ヶ谷市役所６：30(車５台)－登山口…富士見山荘

富士見山荘に着くと、目の前は富士山の絶好の展望地。美しい裾野。少し下ると圧倒されるすごい岩

が私たちを待っていた。ハーネス、カラビナ、シュリンゲ、ヘルメット等装備のチェックをしてもらいエイトノット(８の字結び)の練習。誰かがすいすいと登っていく。大丈夫だろうか？講師のビレーで三点支持で足場を探しながら登る。ビレーを信頼して！もっと身体を傾けて！鹿沼の岩山でのリーダー研修が生きている。はじめてだったらきっとこわくて足がすくんだに違いない。

エイトノット、インクノット、プルージック等のロープの結び方やビレーのやり方を勉強。

やみ鍋(何でも入れちゃう)の夕食。富士山の頂上に明かりが。

12日、晴天

今日は懸垂下降。私はエイト環を使ったが、ATC を使う人もいた。下降チェックをしてザイルを緩めながらゆっくり降りる。ザックを背負ってやってみる。だんだん慣れてきたところで次は肩絡み懸垂下降。ザイルを股から肩にまわして道具を使わないで降りる。これが基本とのこと。今までの練習のせいかさほど怖さを感じなかった。しかし、摩擦のせいで足が少し痛い。首のまわりは襟のあるものを着ないとザイルで摺れて大変。

場所をかえて奥のゲレンデへ行くとたくさんのクライマーが岩に挑んでいる。先程の所より傾斜がきつい。トップロープ方式で挑戦。足場がない。ロープに助けられながら何とかクリア。ボディビレーを一人一人やる。ザイルってすごく伸びる。人の命がかかっているので真剣だ。

私が行くような山ではロープなど使わないと思うが、緊張の中にも楽しい岩登りの体験が出来たことは嬉しかった。

10月は沢登り（桧枝岐川水系の硫黄沢）にチャレンジします。　(安田)

登山学校報告(6)　沢登り講習　　参加者：安田

日　時：10月９日(土）～11日（日）　　２泊３日、テント泊
講　習：沢登り
場　所：福島県桧枝岐川水系硫黄沢　　地形図：燧ヶ岳　　標高差：４５０m
１日目：５台の車(講師運転)にて檜枝岐村七入(留三郎小屋キャンプ場)で机上講習。テント泊
２日目：４時起床。６時２０分身支度を整え(雨具を上下着て岩のときと同じようにハーネスをつけ、渓流シューズ、指なし手袋、ヘルメットをかぶり)１０分歩きいよいよ沢に入る。

天候に恵まれ水は思ったほど冷たくない。石やゴロゴロした砂利に神経がピリピリ。疲れる。渓流シューズをはいていてもすべるのでは？と不安でならない。あたりの景色を見る余裕がなく水や下ばかり見て「滑るまい」と必死。「代わる代わる先頭を行ってもらいます」と講師。遡行図を見て先を読み取りどう行くか考えながら行く。「どうですか沢は楽しいでしょう？沢ははじめて？ほんと？楽しさを知ったら完全にはまっちゃうよ！」

流れを歩いて渡ることを渡渉(水深のない流れの緩やかな所を渡る)、岸をへつっていったり、滝や釜があり直登できないときは巻いていきます。高巻きという。藪こぎになる場合もある。３回高巻きした。小さい滝は三点確保で慎重に登る。２、３個所へつりがあった。１箇所はかなり危ないところでザックを先に確保してもらい身軽になってへつった。又、高巻きも出来ない岸壁にぶつかり安全のためにザイルで確保しながら登った。

２０数人の人数なので時間がかかった。上部に来るにつれて木々が黄色味を増している。午後２時半ごろ幕営地に到着。私たちが沢を独占している。誰かが見つけたなめこ、ブナ茸がいっぱい。なめこ汁はおいしかったがブナ茸はガムみたい。たき火、歌あり、少しの酒にみんなの気持ちが一つに。（テントはこれがあるから素晴らしい！）（沢の水の音が子守歌になって心地よい）

※２級(中級者向き)

３日目：５時起床。今日は２時間もかからない。途中燧ヶ岳が見え隠れする。雲一つない快晴、沢の楽しさを感じたころ沼山峠からの林道にぶつかり、遡行終了。七入行きのバスに乗り、駐車場～温泉に入り 12 時帰途へ。塩原の温泉郷が混んでいたが後はスムーズに流れ、松戸 17 時１０分ごろ到着。

来年の夏が又楽しみである。良い経験をさせてもらい本当の有難うございました。（１１月は初冬の八ヶ岳に行きます)　　(安田)

県連登山学校報告(7)　　参加者：安田

日 時：　平成 11 年 12 月 11 日(土)～12 日(日)

目 的：　雪山訓練、　場　所：谷川岳　　山行形式：　山小屋

メ　　モ：

土合山の家に 12:00 頃到着。みぞれ混じりの雪がちらついて来た。林講師による雪山のいろいろな経験や体験の講義に続き、河野講師の低体温症の講義、そして石川講師による雪と雪崩についてと雪崩ビーコンについての机上講習があった。

雪崩による遭難者を発見したら、低体温症を疑った方がよい。直ぐ温めてあげようと急激な加温やマッサージは厳禁。手足をマッサージすると、冷たくなった血液が心臓に流れ込み、ショックで心臓が停止するとのことです。シュラフに入れてあげたり、側にいてあげる、銀マットをかけてあげるなど、それから湯を入れた水筒やホカロンで加温する。むずかしいですね。

積雪には「新雪、こしまり雪、しまり雪、ざらめ雪、こしもざらめ雪、しもざらめ雪」とあり雪崩を知るためにはこれをよく覚えないと、と言われましたが難しくて覚えられませんでした。砂糖と塩を交互に乗せて角度が何度ぐらいだと雪崩になるのかの実験もしました。

ロープウエイで天神平へ（どんどん高度を上げて行き下を見ると怖いぐらい上がります)。そこは積雪 1m 以上ありこの雪は新雪、こしまり雪なのでしょうか、歩きづらい。交替でラッセルしながら尾根をめざしました。手袋についた雪の結晶に「うわー、綺麗！」。

天神尾根にて雪を掘りしまり雪やざらめ雪について勉強をする。ツェルトの中で飲む温かいレモンティーが美味しい。吹雪いてきたので下に撤退する。途中でビーコンを使って遭難者を発見する訓練をする。ビーコンやゾンデというものをはじめて見て、使ったわけですが、ゾンデは結構大変な作業でした。ザックを雪の中にいれて感触を知る。あと、雪を踏み固めてアイゼンを着けて歩き方の練習などをしました。他の山のグループも雪山の訓練に来ていました。

毎回、新鮮な感動をもらい、多くの仲間を知り、山の事を知れば知るほど謙虚になりました。他の会の様子なども少し分かりました。

楽しかった思い出を抱いて１月 23 日、いよいよ閉校式です。(安田)

第一回登山学校を終了して

閉校式　平成１２年１月２３日　　於、千葉県青少年女性会館

平成１２年１月２３日、最後の講義（地図の見方とコンパスの使い方、運動生理学）を終え、約１年間にわたる初級登山学校は終りました。学校なんて私には重たくて困ったな、と思いましたが、自分のためと思い参加させてもらいました。

講師達は千葉労山に所属する各会のリーダーで、第一回ということで模索の中での開校だったようですが、生徒の熱心さに、必ず成功させたいと力を一つにして頑張られたと聞きました。

筑波山のウォーキングから始まって、谷川岳の雪山訓練まで楽しさだけが心に残っています。内容が多すぎて、果たして私の頭にどれだけのことがたたきこまれたか疑問ですが、これからの山行に少しでも活かせたらと思っています。

沢や岩は未知の世界でした。岳人あびこでは沢、岩の計画は限られていますが、この方面を多く計画することに会の未来が意外と開けるのでは？と思ったのですが……。それから〈テント〉ですね。経験のない方は一度チャレンジしてみてください。山の楽しさが二倍、三倍と広がり、自分の自信にもつながりますよ！登山学校では二回テントをしましたが、講師も生徒も垣根を越えて、心は一つに素晴らしい一時を過ごすことができました。

終ってみて今は感謝の気持ちでいっぱいです。みなさん、貴重な経験を差せて頂きましてありがとうございました。　　(安田)

歴代　会長　紹介

独　断

プロフィール　　：編　集　部

No　1



初代会長　　**三浦　七郎** さん　（1996年10月～1999年3月）

一騎当千の創立メンバー8人を全面的に信頼し、耳を傾けた。
酔えば郷里、東北の民謡を何曲でも唄い続ける人でもある！
現在、　　長野県諏訪市に在住



2　代：　**柴　　勇** さん　（1999年4月～2000年2月）

会創立メンバーの一人。
『 しなやかで強靭な翼を皆さんと共に創りあげる』. ことをモットーに、後輩を鼓舞し、労山の理念を浸透させる事に努力した。



3　代：　**大串　秀雄**　さん（2000年3月～2001年2月）

1997年入会　『 創立5周年を迎え、基礎固めをしたい…！』と情熱を傾け、山歴の少ない人に、旺盛な山行を奨励している。

歴代　会長　紹介

独断

プロフィール　　No 2　　：編　集　部



4　代　　**外崎　　蓮** さん　　(2001年3月～　　)

今年は当会の五周年記念行事が組まれている重要な年。山行にも行事にも女性会長の強さときめの細かさを発揮している。
自然保護運動にも一家言を持つ人。山行はなぜか雨が多いのだ！



資　料

山行一覧表　その1

No.	山　名	山　域	期　日	山行形式	G	ﾘｰﾀﾞｰ	参　加　者 名前の下線はﾘｰﾀﾞｰ又はｻﾌﾞﾘｰﾀﾞｰを示す。	人数

平成11年（1999年）

83	鐘撞堂山 (新年鍋山行)	奥武蔵	1月10日	日帰り	A	細野清	中村隆、柴、清家、細野省、外崎、小川、大串恵、大串秀、斎藤、高橋寿、日下、安田、庄司、高橋芳、飯合、川下、中村八、松村	19
84	南大菩薩小金沢連峰	奥秩父	1月15-16日	山小屋泊	B+	柴	大串秀、清家、大串恵、小黒、外崎、川下、北川、斎藤、有賀(柴さんの友人)	10
85	高山	奥日光	1月24日	日帰り	A	外崎、村松敏	細野省、安田、大高、佐藤、高橋芳、松村、飯合	9
86	房総ﾛﾝｸﾞﾊｲｷﾝｸﾞ	房総	1月30-31日	ログハウス	A+	県連	柴田、中村隆、総数114名	2
87	大岱山	甲州	2月7日	日帰り	A++	細野省	斎藤、柴、村松敏、細野清、大串秀、外崎、大串恵、武内(ｹﾞｽﾄ)	9
88	日和田山～物見山	奥武蔵	2月14日	日帰り	A	高橋英	大串恵、大串秀、日下、斎藤、高橋寿、長木、中村隆、原田、安田	10
89	官ノ倉山	奥武蔵	2月21日	日帰り	A	日下	斎藤、大串恵、大桃、高橋英、長木、中村隆、中村美、渡辺、安田	10
90	難台山～吾国山(卒業山行)	茨城	3月7日	日帰り	A	萩野	高橋正、中村八、松村、吉岡、北川、佐藤、品田、高橋芳、飯合、庄司、外崎、原田	13
91	鍋割山	丹沢	3月20日	日帰り	A	三浦	柴田、小黒、増田、松村	5
92	八ヶ岳(赤岳)	八ヶ岳	3月20-21日	山小屋泊	C	村松敏	柴、清家、村松峯、外崎、大串恵、大串秀、斎藤、高橋英、北川	10
93	高水三山	奥多摩	3月28日	日帰り	A	日下	原田君、柴田、大串恵、大串秀、小黒、高橋寿、高橋英、中村隆、中村美、渡辺、高橋芳、中村八、	13
94	茶臼岳	栃木	4月10-11日	山小屋泊	C	柴	村松敏、外崎、大串恵、大串秀、小黒、高橋英	7
95	大鹿山 (新人歓迎山行)	中央沿線	4月18日	日帰り	A	CL細野省、 L清家	細野清、外崎、大桃、小川、高橋寿、長木、中野、原田君、渡辺、品田、高橋正、松村、飯合、石田、大畠、武内、原田和、松本、箕輪、山本、由布、原	24
96	笹子雁ヶ腹摺山(新人歓迎山行)	中央沿線	4月18日	日帰り	A+	斎藤	榊原、三浦、柴、村松敏、柴田、宮坂、大串恵、大串秀、菊地、安田、萩野	12
97	天城連山	伊豆	4月24-25日	民宿泊	B+	細野清	萩野、細野省、宮坂、外崎、大串恵、大串秀、中村隆、中村美、榊原、小川、高橋芳、佐藤、吉岡	14
98	ハマイバ丸 (山菜取り山	丹波	4月29日	日帰り	B	柴	柴田、大串恵、大串秀、榊原、中村八、飯高、その他1	8
99	朝日連峰 (ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｨｰｸ合宿)	東北	5月1-4日	避難小屋	D	村松敏	川下、柴、清家、村松峯、安田、北川	7
100	川乗山	奥多摩	5月2日	日帰り	A+	高橋英	高橋寿、大串恵、大串秀、小黒、斎藤、長木、蜂谷、増田、飯高、高橋芳、松村、山西	13
101	大峰山～大台ケ原山	台高山脈	5月1-3日	テント泊	C	細野省	細野清、外崎、佐々木	4
102	久慈男体山	奥久慈	5月9日	日帰り	A+	中村隆	A:中野、大串恵、日下、榊原、原田君、高橋正、原、松本、山本 B:大串秀、中村八、大桃、斎藤、高橋英、中村美、渡辺、原田和、箕輪	19

山行一覧表　その2

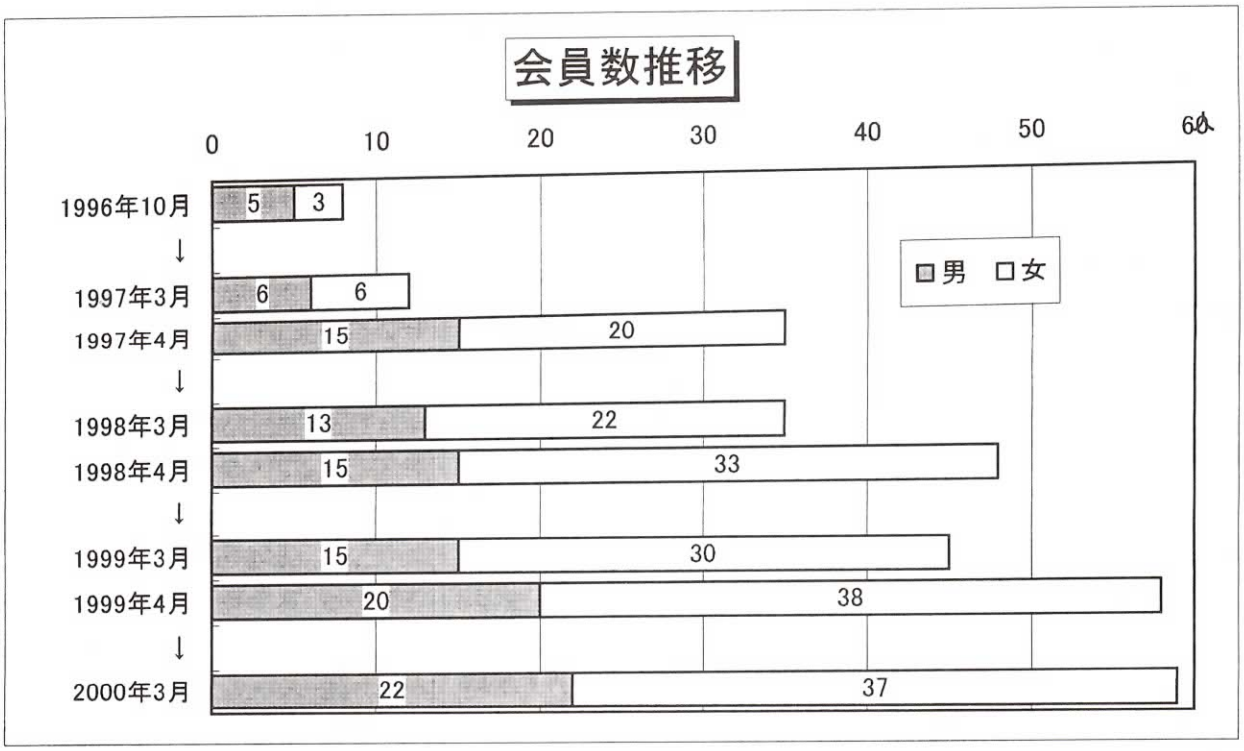
No.	山　名	山　域	期　日	山行形式	G	ﾘｰﾀﾞｰ	参　加　者 名前の下線はﾘｰﾀﾞｰ又はｻﾌﾞﾘｰﾀﾞｰを示す。	人数
103	丹沢三ッ峰	丹沢	5月15-16日	山小屋泊	B	清家	細野清、柴田、高橋寿、榊原、中村隆、原田君、長木、増田、小黒、中野、安田、佐藤、松村、飯合、石田、由布	17
104	鳴虫山	日光	5月22日	日帰り	A	原田君	斎藤、大串恵、長木、中村美、渡辺、庄司、松本、原田和	9
105	岩山 (ﾘｰﾀﾞｰ研修)	新鹿沼	5月30日	日帰り	B	村松敏	柴、清家、細野清、細野省、外崎、大串秀、日下、斎藤、高橋英、中村隆、原田君、安田	13
106	両神山 (公開登山)	奥秩父	6月5-6日	山小屋/テント	B	CL 村松敏	A:斎藤、宮坂、大串恵、小川洋、原田君、飯高、一般4名　計11名 B:清家、大串秀、柴田、菊地、中村隆、高橋芳、武内、一般3名　計10名 C:柴、高橋英、三浦、中村美、原田和、山西、一般6名、　計12名 合計33名、会員20名、一般13名、小屋22名、テント11名	33
107	高畑山、倉岳山(新人研修)	中央沿線	6月13日	日帰り	A	清家	長木、加藤、大桃、斎藤、渡辺、中村八、中村和、原田和、松本、山西、原、飯沼	13
108	本社ヶ丸、鶴ヶ鳥屋山(新人研修)	中央沿線	6月13日	日帰り	B	細野省	高橋英、細野清、外崎、日下、榊原、中村美、石田、由布	9
109	湯の丸山、四阿山	上州	6月19-20日	民宿泊り	B	外崎	斎藤、大串恵、大串秀、小黒、榊原、中村美、中村隆、佐藤、吉岡	10
110	会津駒ヶ岳	会津	6月26-27日	民宿泊り	B	大串秀	大桃、日下、斎藤、榊原、長木、中野、原田君、渡辺、大串恵、品田、川下、原田和、由布	14
111	夜叉神峠・高谷山	南アルプス	7月4日	日帰り	A	大串秀	A:高橋英、菊地、榊原、中村美、庄司、箕輪、高橋正、原田和 B:斎藤、日下、大串恵、高橋寿、原田君、原、飯沼、松本、中村和	18
112	朝日岳・白毛門	谷川連峰	7月24-25日	避難小屋	B+	外崎	大串秀、大串恵、斎藤、高橋英、飯高	6
113	庚申山、皇海山	両毛国境	7月24-25日	避難小屋	B+	細野省	萩野、武内、細野清、柴田	5
114	妙高山、火打山	頚城	7月31日-8月1日	テント/小屋	B	柴	A:北川、中村美、小黒、外崎、渡辺、吉岡、高橋芳、佐藤 B:大串秀、中村隆、大串恵、榊原、高橋寿、長木、武内、松本、山西	18
115	烏帽子岳～穂高岳縦走	北アルプス	8月6-12日	山小屋泊	C+	細野省	細野清、佐々木	3
116	蕎麦粒山	奥多摩	8月8日	日帰り	A	斎藤	A:高橋英、清家、中野、中村八、原田和、箕輪、B:大串秀、柴田、日下、中村美、原田君、萩野、原	14
117	剱岳、立山縦走	北アルプス	8月12-14日	テント／小屋	C	柴	大串秀、柴田、日下、斎藤、高橋英、中村隆、大串恵、北川　ﾃﾝﾄ6/小屋3	9
118	白峰三山	南アルプス	8月20-22日	山小屋泊	C	外崎	斎藤、吉岡、佐藤、竹内	5
119	燕岳～槍ヶ岳	北アルプス	8月26-29日	山小屋泊	B	大串秀	大串恵、菊地、斎藤、榊原、長木、中村隆、中村美	8
120	葛葉川本谷	丹沢	9月5日	日帰り	B	村松敏	柴、細野清、細野省、村松峯、外崎、大串恵、大串秀、中村隆、中村美	10
121	荒川三山・赤石岳	南アルプス	9月12-15日	山小屋泊	C	大串秀	斎藤、柴田、大串恵、由布	5
122	茅ヶ岳	中央沿線	9月19日	日帰り	A	清家	A:榊原、斎藤、中野、安田、萩野、松村、原田和、由布、蜂谷、武内 B:原田君、高橋芳、柴、小黒、高橋英、中村隆、品田、吉岡、飯高、飯沼、山西	22

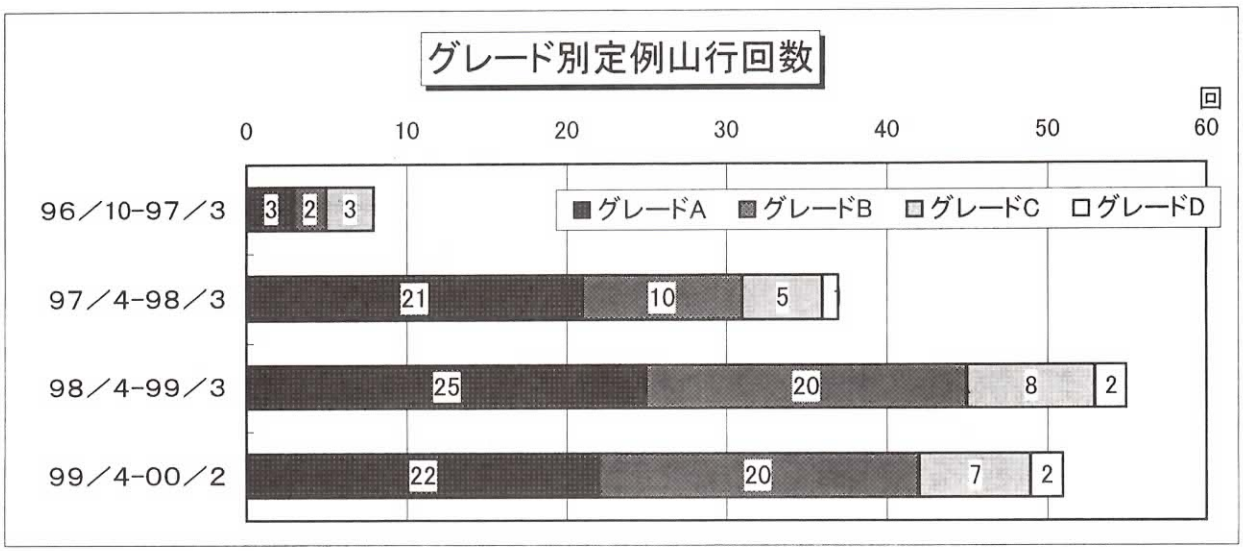
山行一覧表　その3

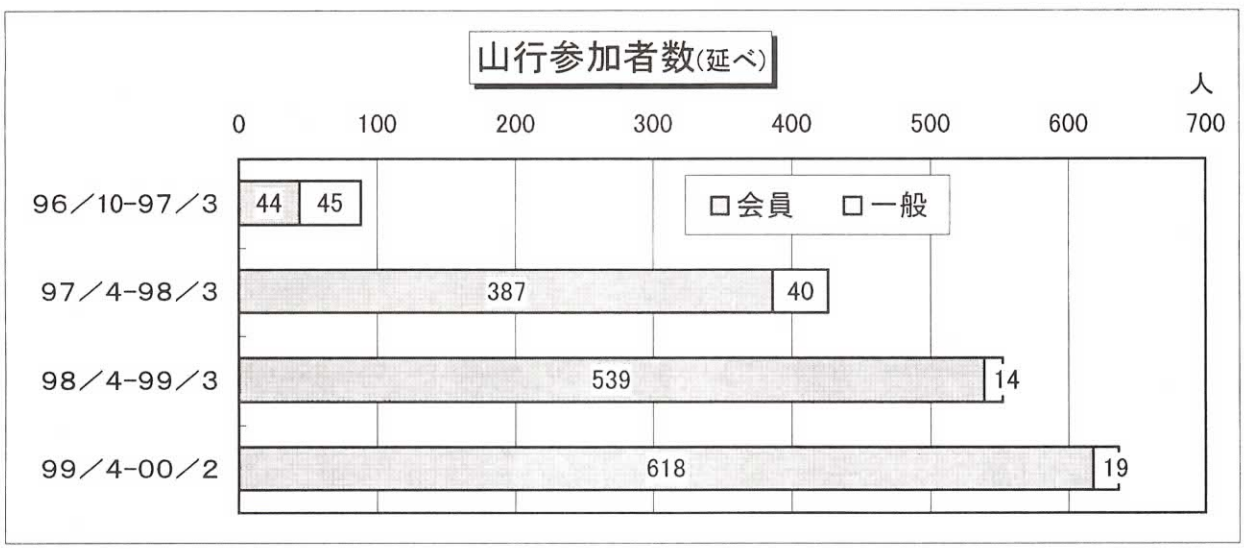
No.	山　名	山　域	期　日	山行形式	G	ﾘｰﾀﾞｰ	参　加　者 名前の下線はﾘｰﾀﾞｰ又はｻﾌﾞﾘｰﾀﾞｰを示す。	人数
123	金時山～明神ヶ岳	箱根	9月26日	日帰り	A	斎藤	A:原田君、柴田、大串恵、榊原、高橋寿、中村美、原田君、品田、中村八、飯高、原、松本、山本 B:大串秀、中村隆、宮坂、小黒、渡辺、庄司、高橋芳、松村、飯合、中村和、原田和、箕輪	25
124	白神岳・藤里駒ヶ岳	東北	10月9-11日	テント泊	B+	村松敏	清家、外崎、柴田、村松峯、大串秀、大串恵、斎藤、榊原、長木、佐藤、吉岡、飯高、由布	14
125	鳳凰三山	南アルプス	10月16-17日	山小屋泊	B	清家	A:武内、大串恵、中村隆、榊原、高橋芳、山西 B:大串秀、中村美、柴田、斎藤、原田君、原田和、由布	14
126	秋山郷～鳥甲山	上越	10月23-24日	(テント)	B+	細野省	細野清、武内	3
127	筑波山(ふれあいハイク)	常磐	10月24日	日帰り	A	県連	障害者44名、家族10名、ボランティア13名、リハ1名、山の会140名、総勢194名(うち岳人あびこ20名) 柴、柴田、外崎、大串恵、大串秀、小黒、斎藤、高橋英、長木、中村隆、中村美、蜂谷、原田君、庄司、高橋芳、松村、飯高、飯沼、原、箕輪	20
128	杓子山、鹿留山	富士	11月3日	日帰り	A	外崎	斎藤、細野省、三浦、大串恵、日下、庄司、松本	8
129	丹沢主脈縦走(新人研修)	丹沢	11月13-14日	山小屋泊	A++	細野省	清家、外崎、武内、原田和、松本、由布	7
130	武甲山	奥武蔵	11月21日	日帰り	A	中村隆	A:中村八、大串恵、斎藤、高橋寿、渡辺、大畠、原、山西 B:高橋英、庄司、大串秀、菊地、榊原、原田君、品田、飯沼、中村和	18
131	乾徳山	奥秩父	11月23日	日帰り	B	三浦	斎藤、柴田、村松峯、小黒、榊原、中村隆、松村	8
132	秩父御岳山	奥武蔵	11月28日	日帰り	A	安田	A:日下、村松敏、大串秀、高橋寿、中野、佐藤、品田、松本、由布 B:高橋英、榊原、三浦、大串恵、斎藤、中村美、飯合、吉岡、飯高、原田	20
133	百蔵山(忘年山行)	中央沿線	12月5日	日帰り	A	CL 高橋英	A:由布、柴、大桃、小川、日下、長木、原田君、安田、大畠、原、松本 B:L武内、榊原、三浦、清家、大串恵、斎藤、中村隆、渡辺、品田、高橋正、中村八、中村和 C:L川下、柴田、外崎、大串秀、中村美、中野、飯高、飯沼、原田和、箕輪、山西	35
134	本仁田山	奥多摩	12月12日	日帰り	A	日下	原田君、大串恵、斎藤、榊原、高橋寿、高橋英、長木、中野、中村隆、佐藤、飯合、原田和、松本	14
135	上州三峰山	西上州	12月19日	日帰り	A+	細野省	日下、細野清、柴田、外崎、大串恵、斎藤、榊原、高橋英、中村隆、安田、松村、武内、由布	14
136	甲武信岳～金峰山(ｸﾘｽﾏｽ山行)	奥秩父	12月23-25日	テント、避難小屋	D	村松敏	柴、清家	3
							1999年　参加者延べ人数	662

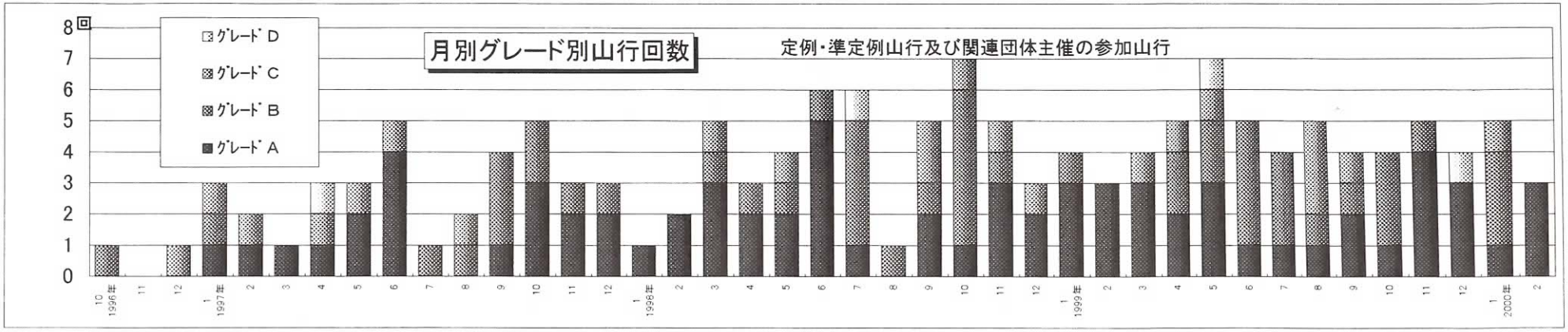
山行一覧表　その4

No.	山　名	山　域	期　日	山行形式	G	ﾘｰﾀﾞｰ	参　加　者 名前の下線はﾘｰﾀﾞｰ又はｻﾌﾞﾘｰﾀﾞｰを示す。	人数
平成12年（2000年）								
137	水の塔山、黒斑山	浅間	1月8-9日	ホテル泊	B	村松敏	斎藤、大串恵、由布	4
138	安達太良山	福島	1月15-16日	山小屋泊	C	柴	大串秀、外崎、大串恵、安田	5
139	小楢山	奥秩父	1月16日	日帰り	B	CL 村松敏	A班、日下、武内、中村美、渡辺、松村、松本　B班、斎藤、原田君、細野省、品田、飯合、原、山西　C班、中村隆、高橋正、小川、原田和、長木、	20
140	大洞山～大沢山	中央沿線	1月23日	日帰り	B+	細野省	大串秀、中村隆、斎藤、中村八、榊原、武内、大串恵、飯高	9
141	房総ﾛﾝｸﾞﾊｲｸ	房総	1月29-30日	ログハウス前泊	A+	県連主催 CL斎藤	A班、柴田、高橋英、大串恵、小黒、飯高、小川洋、松本、山西、小川総子(ｹﾞｽﾄ)、箕輪完二(ｹﾞｽﾄ)、山本正敏(ｹﾞｽﾄ) B班、外崎、大串秀、松村、飯沼、箕輪、山本、小川誠一郎(ｹﾞｽﾄ)、中山(ｹﾞ	19
142	幕山	湯河原	2月6日	日帰り	A	安田	A班、庄司、大桃、大畠、原、飯沼 B班、大串恵、松本、中野、原田君、高橋正、由布	12
143	晃石山(ﾃﾙｲｼ)	東武日光沿線	2月11日	日帰り	A	細野清	武内、細野省、清家、外崎、大串恵、大串秀、日下、安田、高橋正、原田和、山西、山本、その他1名	14
144	七里川-追原-元清澄山	房総	2月19-20日	日帰り	A	県連自然保護委員会	柴、原田和、外崎	3
							2000年1～2月　参加者延べ人数	86

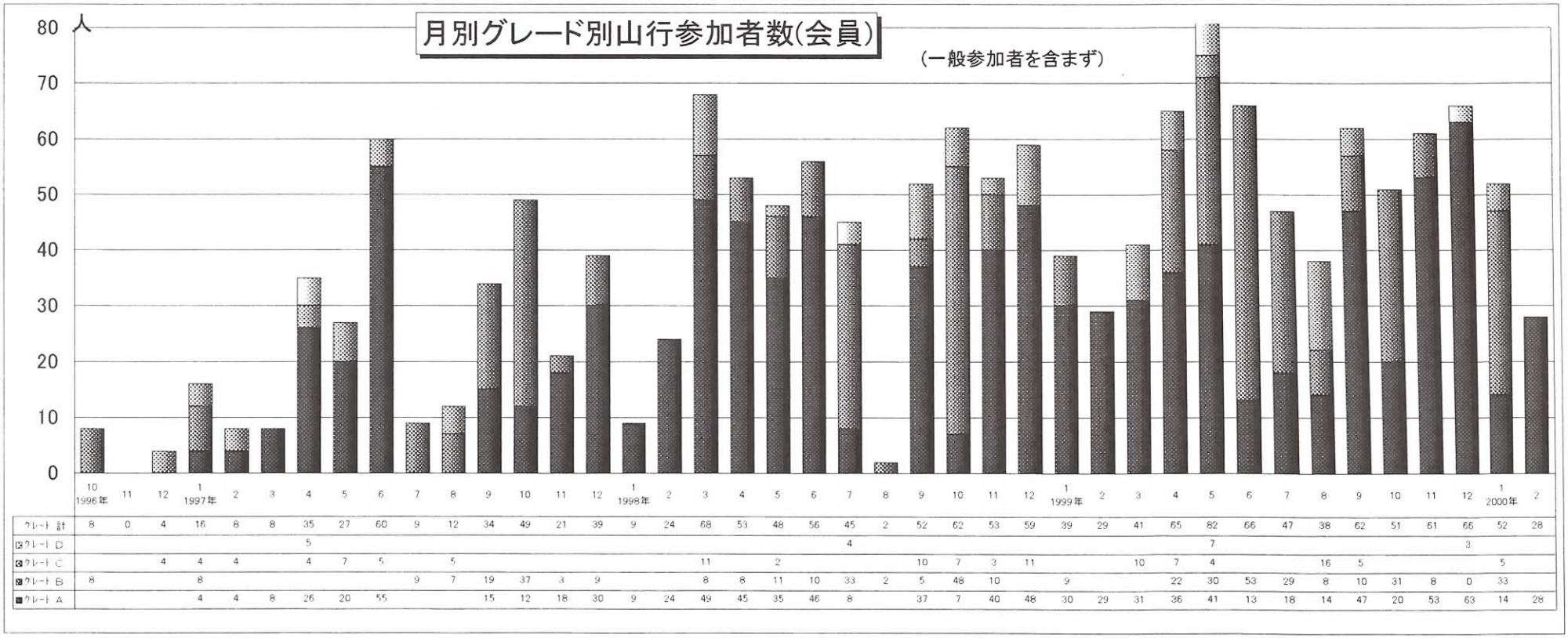

会員数推移
0
10
20
30
40
50
60
1996年10月
↓
1997年3月
1997年4月
↓
1998年3月
1998年4月
↓
1999年3月
1999年4月
↓
2000年3月
5
3
6
6
15
20
13
22
15
33
15
30
20
38
22
37
男
女


グレード別定例山行回数
回
0
10
20
30
40
50
60
96／10-97／3
97／4-98／3
98／4-99／3
99／4-00／2
3
2
3
21
10
5
1
25
20
8
2
22
20
7
2
グレードA
グレードB
グレードC
グレードD


山行参加者数(延べ)
人
0
100
200
300
400
500
600
700
96／10-97／3
97／4-98／3
98／4-99／3
99／4-00／2
44
45
387
40
539
14
618
19
会員
一般



平成8年度(1996年)	平成9年度(1997年)	平成10年度(1998年)	平成11年度(1999年)



	10 1996年	11	12	1 1997年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 1998年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 1999年	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1 2000年	2
グレード計	8	0	4	16	8	8	35	27	60	9	12	34	49	21	39	9	24	68	53	48	56	45	2	52	62	53	59	39	29	41	65	82	66	47	38	62	51	61	66	52	28
グレード D							5															4									7								3		
グレード C			4	4	4		4	7	5		5							11		2				10	7	3	11			10	7	4				16	5			5	
グレード B	8			8						9	7	19	37	3	9			8	8	11	10	33	2	5	48	10		9			22	30	53	29	8	10	31	8	0	33	
グレード A				4	4	8	26	20	55			15	12	18	30	9	24	49	45	35	46	8		37	7	40	48	30	29	31	36	41	13	18	14	47	20	53	63	14	28

2001/6/20

活動の記録

年	月	日	行　　事	場　所	備　　考
1996年	10	2	定例集会	市民プラザ	会則の立案他
平成8年	10	12－13	創立記念山行	会津朝日岳	テント泊、自家用車利用
	10	17	県連理事会	千葉弁天会館	県連加盟の承認
	11	5	定例集会	市民プラザ	役割分担他
	11	12	定例集会	市民プラザ	山行計画、報告書式検討
	12	19	定例運営委員会	柴宅	今後のスケジュール他

年	月	定例集会		運営委員会		備　　考
1997年	1	7日	市民プラザ	21日	市民プラザ	
平成9年	2	12	市民プラザ	25	市民プラザ	
	3	11	市民プラザ	25	市民プラザ	
	4	6	市民プラザ	22	市民プラザ	
	5	7	市民プラザ	27	市民プラザ	
	6	14	市民プラザ	24	市民プラザ	
	7	5	市民会館	22	市民プラザ	
	8	9	市民プラザ	26	市民プラザ	
	9	6	市民プラザ	6、19	市民プラザ	
	10	4	寿市民センター、	21	市民プラザ	
	11	8	市民プラザ	28	市民プラザ	
	12	13	市民プラザ	16	市民プラザ	

年	月	日	行　　事	場　所	内　　容
1997年	1	11-13	雪崩講習会	谷川岳	県連(川名、清家、坪井参加
平成9年	1	15	岩トレ	天覧山	
	2	15	公開市民登山発表		我孫子市広報掲載
	3	2	公開ハイキング及び会員募集説明会	市民プラザ	
	3	16	公開ハイキング	石老山	一般40名参加
	3	26	新入会員決定通知		23名入会
	4	1	臨時運営委員会	市民プラザ	予算作成、総会準備
	4	6	第2回総会、定例集会	市民プラザ	
	4	13	新人装備購入ツアー	カモシカ	6名参加
	4	20	新入会員歓迎山行	大楠山	歓迎と親睦
	6	1	千葉県清掃ハイキング	養老渓谷	県連
	6	14	新人研修会	市民プラザ	山のマナー
	6	21－22	救助隊救出訓練	船橋	県連
	6	28－29	登山交流集会	船橋	県連
	7	5	新人研修会	市民会館	歩き方
	7	5	納涼祭	五本松公園	テント講習
	10	1	秋の公開登山参加者募集	市民広報掲載	
	10	4	新人研修会	市民プラザ	地図の見方、折り方
	10	10－11	1周年記念山行	尾瀬集中登山	3コース
	10	18	公開登山説明会		
	10	25－26	公開登山	丹沢	丹沢主脈縦走
	11	4	雪崩机上講習会		県連
	12	7	忘年山行		
	12	20－21	クリスマス山行	笠取山	

活動の記録

年	月	定例集会		運営委員会		備考
1998年	1	10日	市民プラザ	20日	市民プラザ	
平成10年	2	11	市民プラザ	17	市民プラザ	
	3	14	市民プラザ	17	市民プラザ	
	4	5	市民プラザ	21	市民プラザ	
	5	9	市民会館	26	市民プラザ	
	6	13	市民会館	23	市民プラザ	
	7	11	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	21	市民プラザ	
	8	8	市民プラザ	19	市民プラザ	
	9	5	市民会館	18	市民プラザ	
	10	3	湖北近隣センター	20	市民プラザ	
	11	7	湖北近隣センター	24	久寺家通り会館	
	12	12	市民会館	22	市民プラザ	

年	月	日	行事	場所	内容
1998年	1	10	臨時運営委員会	市民プラザ	長期展望他
平成10年	1	18	新年山行	鐘撞堂山	
	2	1	公開登山市民広報掲載		
	2	10	臨時運営委員会	市民プラザ	
	2	18	拡大運営委員会	市民プラザ	
	2	22	公開登山説明会	市民プラザ	
	3	8	公開登山	扇山	
	4	5	第3回総会	市民会館	
	4	5	新人研修	市民会館	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、日帰り装備
	4	26	新人歓迎山行	棒ノ折山	
	5	2－5	ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｲｰｸ合宿	蝶ヶ岳、常念岳	
	5	24	リーダー研修	岩山(鹿沼)	
	6	7	新人研修	伊豆ヶ岳	ﾛｰﾌﾟﾜｰｸ、三点確保
	6	9	救急法机上講習会	県連	
	7	11	岳人祭	湖北台中央公園	
	7	11	新人研修	湖北台	救急法、テント
	8	8	臨時運営委員会	市民プラザ	ﾊｲｷﾝｸﾞ部、ﾗﾝｷﾝｸﾞ制
	9	5	新人研修	市民会館	地図の読み方
	9	23	公開登山説明会	市民プラザ	
	9	27	ふれあいハイキング	神峰山	東葛地区
	10	10－11	公開登山、創立記念山行	八ヶ岳	
	11	8	機関紙発行者交流集会	柏	県連主催(中村出席)
	12	6	忘年山行	裏筑波山	
	12	19－20	クリスマス山行	甲武信岳	

活動の記録

年	月	定例集会		運営委員会		備考
1999年	1	9日	市民プラザ	9, 26日	市民プラザ	
平成11年	2	13	市民プラザ	23	市民プラザ	
	3	13	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	17, 27	市民プラザ	
	4	4	市民会館	20	市民プラザ	
	5	8	市民プラザ	25	市民プラザ	
	6	12	湖北台近隣ｾﾝﾀｰ	22	市民プラザ	
	7	10	五本松公園	21	市民プラザ	
	8	7	市民プラザ	24	市民プラザ	
	9	11	湖北近隣センター	17	市民プラザ	
	10	2	湖北近隣センター	22	市民プラザ	
	11	6	湖北近隣センター	24	市民プラザ	
	12	11	市民会館	21	市民プラザ	
2000年	1	11	市民プラザ	21	市民プラザ	
平成12年	2	5	市民プラザ	18, 26	市民プラザ	

年	月	日	行事	場所	内容
1999年	1	10	新年山行	鐘撞堂山	
平成11年	1	30－31	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報	
	3	7	入会希望者説明会	市民プラザ	
	3	13	公開登山実行委員会	湖北台近隣センター	
	4	4	第4回総会	市民会館	
	4	5	新人研修	市民会館	ｶﾞｲﾀﾞﾝｽ、日帰り装備
	4	18	新人歓迎山行	大鹿山、笹子雁ヶ腹摺山	
	5	1－4	ｺﾞｰﾙﾃﾞﾝｳｲｰｸ合宿		雪山
	5	22	公開登山説明会	市民プラザ	”両神山”
	5	23	登山学校開校式		県連主催（安田）
	5	30	リーダー研修	岩山（鹿沼）	
	6	5－6	公開登山実施	両神山	一般13名、会員20名
	6	13	新人研修	本社ヶ丸-鶴ヶ鳥屋山、高畑山	
	7	～2000／6	誌上「岳人あびこ登山教室」12回	《やまたん》	講師：村松敏彦（ﾘｰﾀﾞｰ部長）
	7	10－11	岳人祭	五本松公園	ｸﾘｰﾝ作戦、ﾃﾝﾄ講習、宴会、ﾃﾝﾄ泊
	7	10	新人研修	五本松公園	テント講習他
	7	21	山行文集「やまなみ」創刊号発行		96／10～98／12
	10	2	「ブナの山旅」講演会（公開）	湖北台近隣センター	講師:坪田和人氏
	10	3	岡発戸・都部の谷津を探勝	我孫子市内	
	10	24	第9回ふれあいハイク	筑波山	千葉県障害者交流登山
	11	13－14	新人研修山行	丹沢主脈縦走	
	12	5	忘年山行	百蔵山	
	12	23－25	クリスマス山行	甲武信岳一金峰山	
	12／28－2000／1／5		海外トレッキング（県連主催）	ネパール	外崎、細野清参加
2000年	1	16	会員募集広報掲載	我孫子市広報	
平成12年	1	23	第1回県連登山学校閉校式	千葉県青少年女性会館	修了者：安田みづほ
	1	29－30	房総ロングハイキング	房総	県連主催
	2	6	入会希望者説明会	湖北台近隣センター	

『　編集後記　』

ようやく、『やまなみ』２号が発刊をみた。すべてが～みんなの力～の賜物です！
原稿未着の方も多く、お待たせも『愛嬌』でしょう。そんな余裕ができました。
でも山行を綴った会員は、一日でも早く第２号を待っているはずです。
どんな反応があるやら…。
次回は
①にスピード提出。②に山の情緒を引き出す紀行文を…願えたらいいな～。
山の詩（うた）はいつもロマンに満ちみちている。
モーツアルトや宗教曲というジャンルの音楽は、山と同じくらい至福の境地にいざなってくれます。人間の悲しみや哀しさを通り越し、突きぬけるような透明な響きで…。

憧れは深く果なく
まなかいの山の傾（なだり）を雲流れいく

加齢を得るたびに、山旅の一歩を確かめつつ　　３号をめざして　　細野省二

やまなみ　第２号
平成13年８月10日
発行者　大串秀雄
編集者　細野省二
データー　中村隆泰
発行所　千葉県勤労者山岳連盟加盟
岳人あびこ
我孫子市つくし野７－21－18
大串 秀雄 方　〒270-1164
印刷所　　㈱常陸紙工印刷社